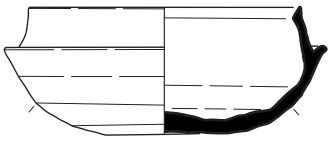
新発田市埋蔵文化財調査報告 第35

蚤取橋遺跡・神明裏遺跡 発掘調査報告書

県営ほ場整備事業(三悠乙見江地区)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



２００８

新発田市教育委員会

新発田市埋蔵文化財調査報告 第35

蚤取橋遺跡・神明裏遺跡 発掘調査報告書

県営ほ場整備事業(三悠乙見江地区)
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

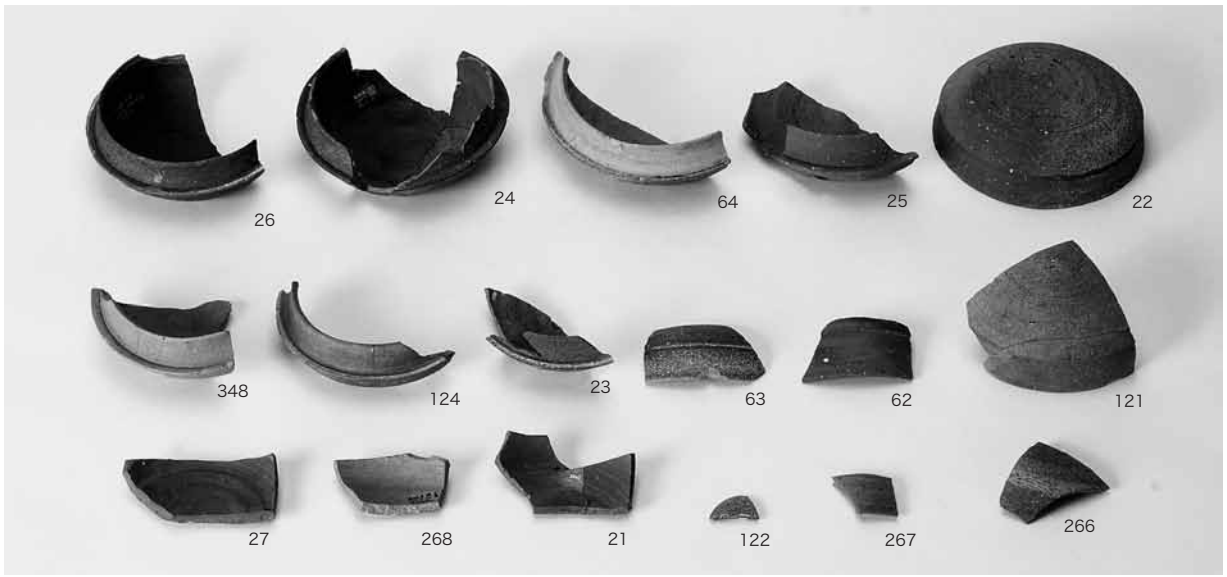
２００８

新発田市教育委員会

遺跡遠景（西から）

遺跡全景（上空から）

巻頭図版２



蚤取橋遺跡出土須恵器

神明裏遺跡出土須恵器

神明裏遺跡土坑８出土須恵器

202

175

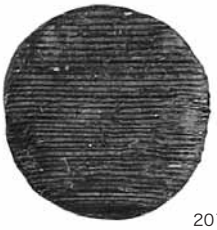
204

205

206

207

7

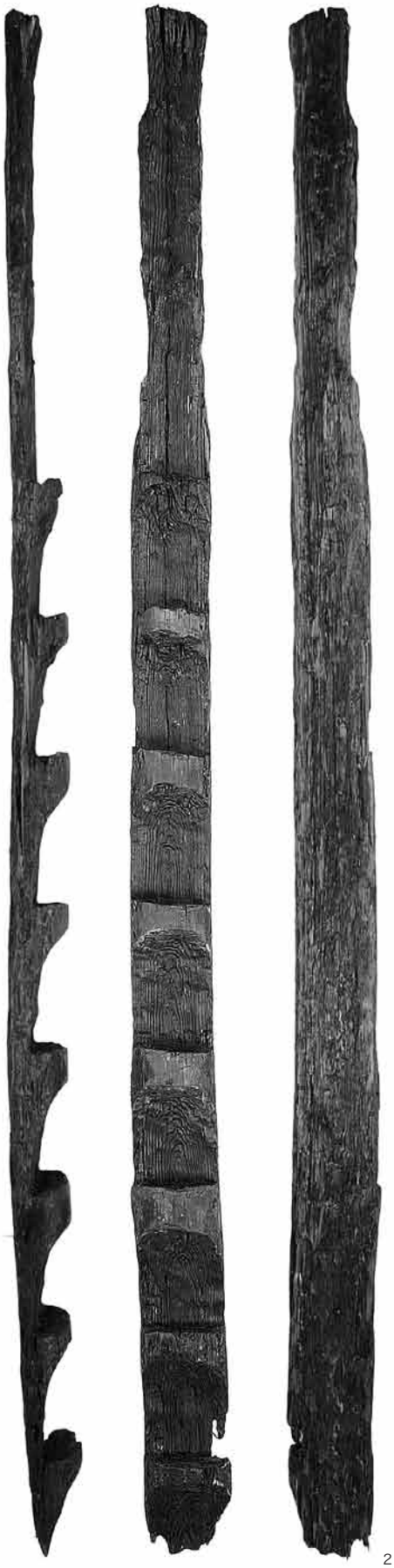

201

189

188

蚕取橋遺跡出土木製品・確認調査出土勾玉

巻頭図版４



211

229

蚤取橋遺跡出土木製品

例　言

1．本報告書は，次の２遺跡の発掘調査の記録である。

・蚤取橋（のみとりばし）遺跡　　新潟県新発田市竹ヶ花字菱川谷地451・452番地ほか

・神明裏（しんめいうら）遺跡　　新潟県新発田市竹ヶ花字菱川谷地400・450・451番地ほか

2．発掘調査は，県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）に伴う本発掘調査である。現地調査は平成18年８月３日から12月21日まで実施した。基礎的な整理作業を現場期間中から平成19年３月15日まで行い，本格的な報告書作成に伴う整理作業を平成19年６月６日から10月18日まで実施した。整理作業は加藤建設㈱新潟支店および同社府中第一整理事務所にて行った。

3．本発掘調査は，新発田市教育委員会が調査主体となり，加藤建設㈱新潟支店に業務を委託した。なお，作業は新発田市埋蔵文化財発掘調査業務委託標準仕様書に基づき実施した。

4．本発掘調査に要した経費は，新潟県新発田地域振興局農村整備部が負担し，直接的農家負担分にあたる総額の10％については，国庫及び新潟県からの補助金交付を受けた。

5．遺物・図面・写真・デジタルデータなどの記録類は，新発田市教育委員会が一括保管している。

6．遺構の実測は，担当者：吉田好孝，調査員：内田仁・佐々木正治の指示の下，トータルステーションによる測量を堀内隆人・井戸川勝昭，CADによる作図を阪井淳司，分布図作成を冨田倫子（以上，加藤建設㈱）が行った。遺物の実測は，確認調査の遺物を西澤正和（新発田市教育委員会），本調査の遺物を担当者・調査員の指示のもと同社の作業員が行った。なお，遺物トレースの一部は㈱セットアップに委託した。

7．木製品の樹種同定・年代測定をパリノ・サーヴェイ㈱，土器の胎土分析を㈱第四紀地質研究所に委託した。

8．現場写真は各調査員，空中写真をJT空撮が撮影した。遺物写真は小池雄利亜（加藤建設㈱），勾玉は新発田市教育委員会が撮影した。木製品の顕微鏡写真はパリノ・サーヴェイ㈱，胎土分析資料は㈱第四紀地質研究所が撮影した。

9．本報告書の編集は，鶴巻康志（新発田市教育委員会）指導・監督の下，吉田を中心に行った。執筆は第Ⅰ章はじめに・1・2を鶴巻，第Ⅳ章遺構を内田，第Ⅴ章遺構を佐々木，第Ⅰ章３・第Ⅱ章・第Ⅲ章・第Ⅳ～Ⅴ章遺物・第Ⅶ章を吉田が行った。また，第Ⅵ章１を辻本崇夫（パリノ・サーヴェイ㈱），第Ⅵ章２を井上巖（㈱第四紀地質研究所）が執筆した。

10．引用・参考文献は，第Ⅵ章自然科学分析については文末に，それ以外は巻末に一括して掲載した。

11．発掘調査から本報告書の作成にあたり，次の諸氏・諸機関から多くのご教示・ご協力・ご支援を賜った。ここに感謝の意を表する次第である。（五十音順・敬称略）

相田泰臣　甘粕　健　阿部朝衛　石川日出志　磯部保衛　伊東　崇　春日真実　小林　弘　篠原裕一　椙山林継　鈴木俊成　関　雅之　高野裕子　高橋春栄　橋本博文　久田正弘　本間信昭　水澤幸一　望月精司　山田昌久　小松市教育委員会　新潟県教育庁文化行政課　㈱吉田建設

凡　例

1．本報告書に用いた方位は全て真北を表している。

2．図面は全体図1/600，遺構配置図1/400・1/200，川跡（平面図）1/200・1/100（断面図）1/60・1/40，遺構図は1/40を基本とし，レイアウトの都合で，これに当てはまらない場合は適宜縮尺を変更した。

3．遺物は，遺構内のものは遺構ごとに極力座標値・層位を記録して取り上げた。小片については，層位ごとに小グリッドで取り上げた。また，蚤取橋遺跡の川跡5は北地区・南地区を合わせ通し番号とした。

4．土層の観察は『新版標準土色帖2002年版』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修) を参考にした。

5．遺物の掲載は，遺構単位を基本とした。番号は，遺物実測図・拓影，写真図版とも遺跡ごとに同じ通し番号を用いた。

6．遺物実測図・拓影の縮尺は，土器は1/3を基本としたが，大形の甕などは1/4とした。木製品は1/4を基本とし，祭祀関係遺物は1/3，大形の遺物については適宜縮尺を変更した。

7．土器の断面図は，土師器・陶器は白抜きし，須恵器は黒塗りとした。調整過程の接合痕が確認できるものは断面に破線で示した。土器の拓影は，断面図に対して外面を左，内面を右に配した。須恵器の回転ヘラケズリの範囲は図上に線を入れ示した。土器の口径を復元により求めたものは，中軸線に稜線をつけずに表現した。実測図は最も良く遺存している部分を実測した。部分的に欠損している場合は，近くの良好に遺存している部分で補い，図上復元を行った。なお，図上復元の部分は線を本体部分から1㎜離して表現した。また，本報告書で用いる手捏土器は，古墳時代の祭祀に用いられたと考えられる小形の土器を示し（椙山2002），ヘラなどの工具による調整痕を残すものを含んでいる。

　木製品は，人為的な痕跡の確認できる木材を製品とした。平面・側面図には年輪は極力入れずに，断面図に示した。年輪は基本的には1㎝内の本数を数えたが，縮尺よっては図示しきれないため，適宜木取りがわかるように図示した。横断面は平面図下に配置したが，複数ある場合は，平面図横に配置した。

8．甕は体部から頸部にかけ括れている器形で，頸部の径が口径および体部の最大径の2/3以内のものを壺と称した。また，体部高が10㎝以内で頸部が括れ，口縁部が長い器形を小形壺と呼称した。

9．遺物の説明において上・下，左・右と表現している場合は掲載図の表面を中心に記述したものである。表裏を実測した場合は左側を表面とした。側面図は右側面を基本としたが，側面の加工状態により，適宜表現したため，統一されていない。

10．川跡から出土した遺物は，層群ごとに遺物を掲載した。異なる層群で接合した場合は，出土状態を考慮して掲載する層群を決定した。

11．挿図中におけるスクリーントーン・遺物分布図の記号は次の通りである。なお，土師器は古墳時代・古代以降を区別していない。

地山　有機物を多量に含む層

黒色処理　赤彩　炭化　漆（文様のみ）

漆による補修　墨痕　墨書

○土師器坏・高坏　◎土師器坏（内面黒色処理）　△土師器甕・大形壺・鍋　▽土師器小形壺・甑・鉢

◇須恵器坏・蓋・瓶（古墳時代）　● 須恵器坏・蓋・高台付坏（古代）　▼須恵器壺・甕（古代）　◆土製品

◑石製品　★木製品（祭祀関係）　☆木製品（その他）　※手捏土器　×中世陶器

目　次

第Ⅰ章　調査の概要
はじめに……1
1．発掘調査にいたる経過……1
（1）確認調査の概要 ……1
（2）本発掘調査の対象範囲 ……2
（3）調査業務の委託 ……3
2．調査組織……4
3．発掘調査と整理作業の経過……5
（1）発掘調査 ……5
（2）整理作業 ……5

第Ⅱ章　遺跡の環境
1．遺跡の位置と立地……6
2．周辺の遺跡……7

第Ⅲ章　発掘調査
1．調査区の設定……10
2．基本層序……10
3．遺構の確認と遺構・遺物の表記……10

第Ⅳ章　蚤取橋遺跡
1．概要……13
2．近世以降の遺構と遺物……13
3．古代・中世の遺構と遺物……16
（1）川跡 ……16
（2）溝 ……21
4．古墳時代の遺構と遺物……22
（1）川跡 ……22
（2）溝・井戸・土坑・ピット ……76
（3）遺構外出土遺物 ……86

第Ⅴ章　神明裏遺跡
1．概要……88
2．古代・中世の遺構と遺物……88
（1）掘立柱建物跡 ……88
（2）川跡 ……92
（3）土坑 ……95
3．古墳時代の遺構と遺物……97
（1）川跡 ……97
（2）溝・土坑・ピット ……108
（3）遺構外出土遺物 ……120

第Ⅵ章　自然科学分析
1．木製品の樹種同定および年代測定……140
2．須恵器の胎土分析……145

第Ⅶ章　まとめ ……152

挿　図　目　次

第 1 図　遺跡の位置 …… 1
第 2 図　確認トレンチの位置と遺跡の範囲 …… 2
第 3 図　土層柱状図 …… 2
第 4 図　確認調査出土遺物 …… 3
第 5 図　遺跡周辺の地形（1/30,000）…… 6
第 6 図　遺跡周辺の地形と調査区位置図（1/5,000）…… 7
第 7 図　周辺の主要遺跡（1/100,000）…… 8
第 8 図　基本土層図（En4－3）…… 10
第 9 図　蚤取橋遺跡・神明裏遺跡全体図（完掘状態）… 11
第10図　土器の器形と部位名称 …… 12
第11図　蚤取橋遺跡古代・中世・近世の遺構配置図 … 14
第12図　北地区土坑９平面・断面・遺物分布図・
　出土遺物 …… 15
第13図　北地区土坑10平面・断面図…… 15
第14図　南地区川跡１～３平面・遺物分布図 …… 17
第15図　南地区川跡１～３断面図・出土遺物 …… 18
第16図　北地区川跡１～３平面・断面図 …… 20
第17図　北地区川跡１・２出土遺物…… 21
第18図　南地区溝４平面・断面図 …… 21
第19図　蚤取橋遺跡古墳時代の遺構配置図（第５面）… 23
第20図　南地区川跡５平面図（第２面）…… 25
第21図　南地区川跡５平面図（第５面）…… 26
第22図　南地区川跡５断面図１…… 27
第23図　南地区川跡５断面図２…… 28
第24図　南地区川跡５遺物分布図１（第１層群）…… 29
第25図　南地区川跡５遺物分布図２
　（第２層群土師器坏類・小形壺・甑）…… 30
第26図　南地区川跡５遺物分布図３
　（第２層群土師器甕・壺）…… 31
第27図　南地区川跡５遺物分布図４
　（第３層群土師器坏類・小形壺・甑）…… 32
第28図　南地区川跡５遺物分布図５
　（第３層群土師器甕・壺）…… 33
第29図　南地区川跡５遺物分布図６
　（第４層群土師器坏類・小形壺・甑）…… 34
第30図　南地区川跡５遺物分布図７
　（第４層群甕・壺）…… 35
第31図　南地区川跡５遺物分布図８（第５層群）…… 36
第32図　南地区川跡５遺物分布図９
　（須恵器・土製品・祭祀関係遺物）…… 37
第33図　南地区川跡５遺物分布図10（第１～５層群）… 38
第34図　南地区川跡５第４・５層群の木製品
　出土状態 ……（折り込み38－39）
第35図　南地区川跡５杭微細図 …… 39
第36図　南地区川跡５出土遺物１（第１層群）…… 39
第37図　南地区川跡５出土遺物２（第２層群）…… 41
第38図　南地区川跡５出土遺物３（第２層群）…… 42
第39図　南地区川跡５出土遺物４（第２層群）…… 43
第40図　南地区川跡５出土遺物５
　（第２層群東側張り出し）…… 44
第41図　南地区川跡５出土遺物６
　（第２層群東側張り出し）…… 45
第42図　南地区川跡５出土遺物７
　（第２層群東側張り出し）…… 46
第43図　南地区川跡５出土遺物８（第３層群）…… 47
第44図　南地区川跡５出土遺物９（第３層群）…… 48
第45図　南地区川跡５出土遺物10（第３層群）…… 49
第46図　南地区川跡５出土遺物11（第４層群）…… 50
第47図　南地区川跡５出土遺物12（第４層群）…… 51
第48図　南地区川跡５出土遺物13（第４層群）…… 52
第49図　南地区川跡５出土遺物14（第４層群）…… 53
第50図　南地区川跡５出土遺物15（第５層群）…… 53
第51図　南地区川跡５木製品１…… 55
第52図　南地区川跡５木製品２…… 56
第53図　南地区川跡５木製品３…… 58
第54図　南地区川跡５木製品４…… 59
第55図　南地区川跡５木製品５…… 60
第56図　南地区川跡５木製品６…… 62
第57図　南地区川跡５木製品７…… 64
第58図　南地区川跡５木製品８…… 65

第59図　南地区川跡5木製品9…… 66
第60図　北地区川跡5平面図 …… 67
第61図　北地区川跡5断面図 …… 68
第62図　北地区川跡5遺物分布図1…… 69
第63図　北地区川跡5遺物分布図2…… 70
第64図　北地区川跡5遺物分布図3…… 71
第65図　北地区川跡5出土遺物1（第1層群） …… 72
第66図　北地区川跡5出土遺物2（第1層群） …… 73
第67図　北地区川跡5出土遺物3（第2・3層群）…… 74
第68図　北地区川跡5出土遺物4（第3層群） …… 75
第69図　南地区溝8平面・断面図 …… 76
第70図　南地区溝11平面・断面図・出土遺物…… 77
第71図　北地区井戸13平面・断面図…… 78
第72図　北地区井戸13遺物分布図・出土遺物…… 79
第73図　南地区土坑6平面・断面・遺物分布図 …… 80
第74図　南地区土坑6出土遺物 …… 81
第75図　南地区土坑7平面・断面図 …… 81
第76図　北地区土坑12平面・断面・遺物分布図・
出土遺物 …… 82
第77図　南地区土坑14平面・断面・遺物分布図・
出土遺物 …… 83
第78図　南地区土坑15平面・断面・遺物分布図・
出土遺物 …… 83
第79図　南地区土坑16平面・断面図・遺物分布図…… 84
第80図　南地区土坑16遺物分布図・出土遺物…… 85
第81図　南地区ピット1・ピット2平面・断面図 …… 86
第82図　南地区遺構外出土遺物分布図 …… 87
第83図　遺構外出土遺物 …… 87
第84図　神明裏遺跡古代以降の遺構配置図 …… 89
第85図　掘立柱建物跡16平面・断面図1 …… 90
第86図　掘立柱建物跡16平面・断面図2 …… 91
第87図　掘立柱建物跡16出土遺物…… 92
第88図　川跡1～3平面・遺物分布図 …… 92
第89図　川跡1～3断面・遺物分布図 …… 93
第90図　川跡1・2出土遺物…… 94
第91図　土坑9平面・断面・遺物分布図・出土遺物 … 95
第92図　土坑10平面・断面・遺物分布図・出土遺物　96
第93図　神明裏遺跡古墳時代の遺構配置図 …… 98
第94図　川跡5平面（第2面）・断面図…… 99
第95図　川跡5遺物分布図……100
第96図　川跡5出土遺物1（第1層群）……101
第97図　川跡5出土遺物2（第2層群）……102
第98図　川跡5出土遺物3（第3層群）……103
第99図　川跡5出土遺物4（確認トレンチ） ……104
第100図　川跡13平面・断面図 ……105
第101図　川跡13遺物分布図 ……106
第102図　川跡13出土遺物（第2・3層群） ……107
第103図　溝12平面・断面図 ……108
第104図　土坑4平面・断面図……108
第105図　土坑6・7平面・断面図 ……109
第106図　土坑8平面・断面図……110
第107図　土坑8遺物分布図1（1層）……111
第108図　土坑8遺物分布図2（2層）……111
第109図　土坑8遺物分布図3（2層）……112
第110図　土坑8出土遺物1 ……113
第111図　土坑8出土遺物2 ……114
第112図　土坑11平面・断面図 ……114
第113図　土坑14・15平面・断面図 ……115
第114図　土坑17～20平面・断面・遺物分布図・
出土遺物 ……116
第115図　埋設遺構7平面・断面図・出土遺物 ……117
第116図　ピット1・4～6平面・断面図……118
第117図　ピット8平面・断面・遺物分布図・
出土遺物 ……119
第118図　遺構外出土遺物 ……120
第119図　胎土分析を行った須恵器 ……150
第120図　三角ダイヤグラム位置分類図 ……150
第121図　菱形ダイヤグラム位置分類図 ……150
第122図　Qt－Pl図 ……151
第123図　SiO_2－Al_2O_3図 ……151
第124図　Fe_2O_3－TiO_2図 ……151
第125図　K_2O－CaO図……151

表 目 次

表１　確認調査出土遺物観察表……３
表２　蚕取橋遺跡土器・陶器・漆器観察表……121
表３　蚕取橋遺跡土製品・石製品観察表……131
表４　蚕取橋遺跡木製品観察表……131
表５　神明裏遺跡土器・陶器観察表……133
表６　神明裏遺跡土製品観察表……137
表７　神明裏遺跡柱根観察表……138
表８　蚕取橋遺跡土器・陶器集計表……138
表９　蚕取橋遺跡川跡５木製品グリッド別集計表……139
表10　木製品（小形切削片）小グリッド別集計表……139
表11　神明裏遺跡土器・陶器集計表……139
表12　蚕取橋遺跡の放射性炭素年代測定結果……141
表13　暦年較正結果……141
表14　樹種同定結果……142
表15　胎土性状表……148
表16　化学分析表……149
表17　タイプ分類表……149
表18　組成分類表……149

写 真 図 版 目 次

図版 1　蚕取橋遺跡の発掘調査（1）
図版 2　蚕取橋遺跡の発掘調査（2）
図版 3　蚕取橋遺跡の発掘調査（3）
図版 4　蚕取橋遺跡の発掘調査（4）
図版 5　蚕取橋遺跡の発掘調査（5）
図版 6　蚕取橋遺跡の発掘調査（6）
図版 7　蚕取橋遺跡の発掘調査（7）
図版 8　蚕取橋遺跡の発掘調査（8）
図版 9　蚕取橋遺跡の発掘調査（9）
図版10　神明裏遺跡の発掘調査（1）
図版11　神明裏遺跡の発掘調査（2）
図版12　神明裏遺跡の発掘調査（3）
図版13　神明裏遺跡の発掘調査（4）
図版14　神明裏遺跡の発掘調査（5）
図版15　神明裏遺跡の発掘調査（6）
図版16　神明裏遺跡の発掘調査（7）
図版17　蚕取橋遺跡の出土遺物（1）
図版18　蚕取橋遺跡の出土遺物（2）
図版19　蚕取橋遺跡の出土遺物（3）
図版20　蚕取橋遺跡の出土遺物（4）
図版21　蚕取橋遺跡の出土遺物（5）
図版22　蚕取橋遺跡の出土遺物（6）
図版23　蚕取橋遺跡の出土遺物（7）
図版24　蚕取橋遺跡の出土遺物（8）
図版25　蚕取橋遺跡の出土遺物（9）
図版26　蚕取橋遺跡の出土遺物（10）
図版27　蚕取橋遺跡の出土遺物（11）
図版28　蚕取橋遺跡の出土遺物（12）
図版29　蚕取橋遺跡の出土遺物（13）
図版30　蚕取橋遺跡の出土遺物（14）
図版31　蚕取橋遺跡の出土遺物（15）
図版32　神明裏遺跡の出土遺物（1）
図版33　神明裏遺跡の出土遺物（2）
図版34　神明裏遺跡の出土遺物（3）
図版35　自然科学分析

第Ⅰ章　調査の概要

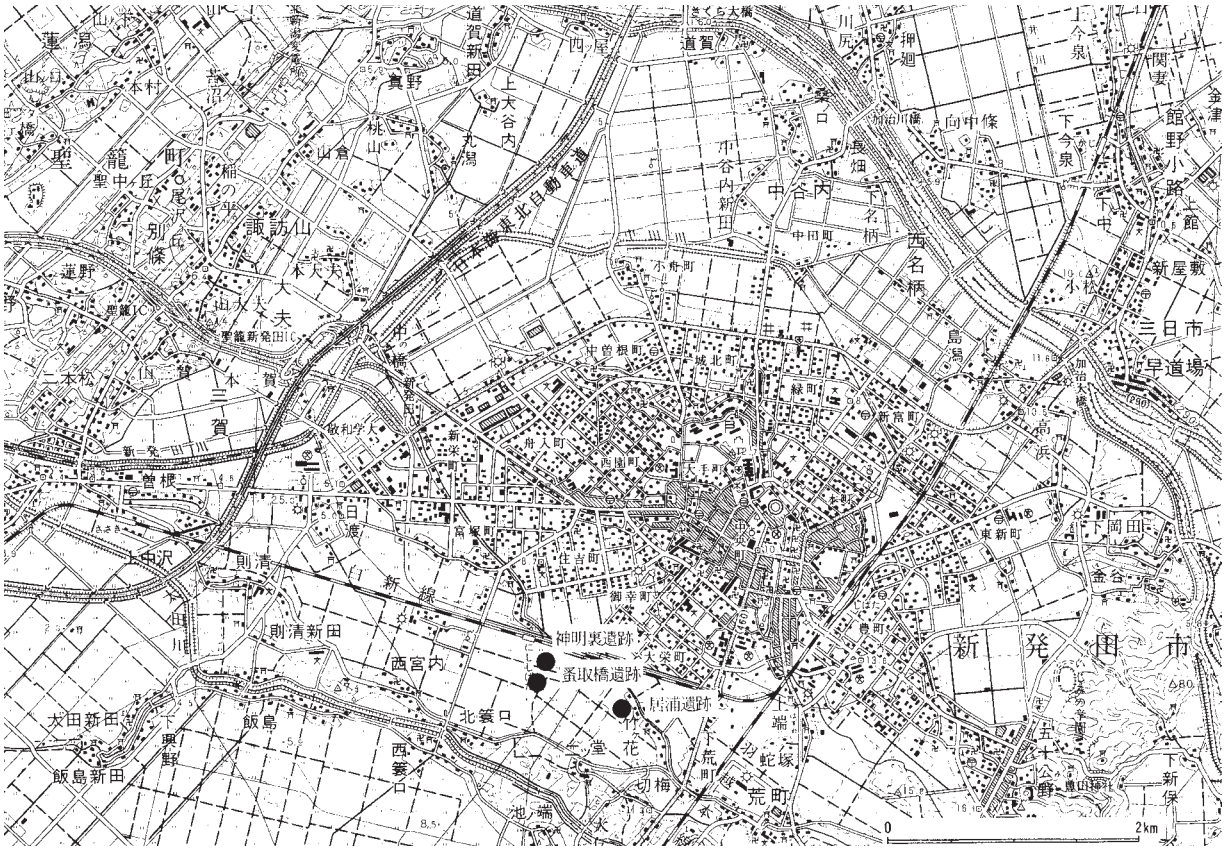
はじめに

新潟県新発田市は，新潟市の東方約26㎞に位置し，県北部下越地方の中核都市である。平成15年7月に，南側に隣接する北蒲原郡豊浦町，平成17年5月1日には，北側に隣接する北蒲原郡紫雲寺町・加治川村と合併し，現在の人口は10万4千人余り，総面積は532.82㎢である。市域の約7割を櫛形山脈，飯豊連峰，二王子山塊，五頭山塊の山間部が占めている。平野部は水田地帯，近世新発田藩の城下町である市街地部分，海岸砂丘部によって構成される。櫛形山脈や真木山丘陵西方の平野部は，紫雲寺潟・福島潟をはじめとする潟湖が広がっていたが，近世以降に干拓され，水田地帯へと変貌している。現在，市内の水田は9,300haにおよび「食料供給都市」の実現に向けて，ほ場整備事業が進められている。

1．発掘調査にいたる経過

（1）確認調査の概要

県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）は，市南東部の佐々木川･太田川水系の小河川を用水源とする223haの農地を対象に平成11年度に採択された。この事業地内における埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて，合併前の豊浦町教育委員会と新潟県新発田農地事務所との間で協議が開始され，平成12年度から試掘・確認調査を開始した。平成17年3月に当該遺跡部分周辺の工事が計画され，合併により業務を引き継いだ新発田市教育委員会



第1図　遺跡の位置

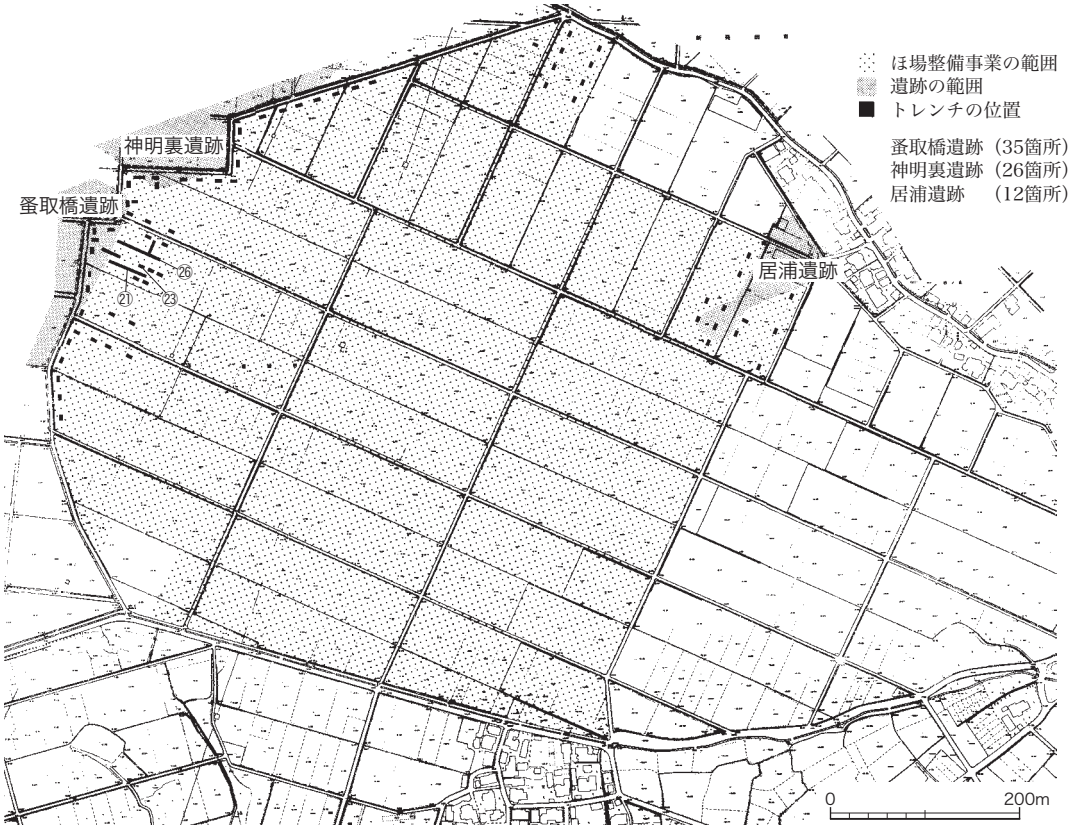
と新潟県新発田地域振興局農村整備部（以下，事業者）が協議を進めたところ，対象地の一部で補足的に確認調査を実施する必要のある箇所が認められ，17年度中にその確認調査を実施することで合意した。

新発田市教育委員会は，平成17年10月26日～11月25日に確認調査を実施し，蚤取橋遺跡・神明裏遺跡・居浦遺跡の工事予定地内における遺跡の範囲を明らかにした（第２図）。なお，蚤取橋遺跡の東方でも耕土中に遺物の散布が認められ，古墳時代後期の土器片，滑石製の勾玉などが出土した。このため確認調査トレンチの数を増やして検討したものの，遺物包含層は認められず，確実に遺構と認定できたのはピット１基のみだった。

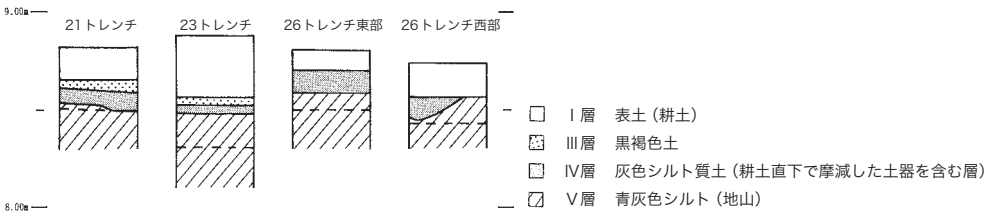
確認調査で本調査対象範囲以外のトレンチから出土した遺物を第４図に掲載した。いずれも蚤取橋遺跡出土であり，１は，23トレンチ，６は26トレンチ，７は21トレンチの耕土直下から出土した。２～５は26トレンチの東端で検出したピットの覆土中からの出土である。１は須恵器坏身，２～４は土師器坏，５・６は土師器甕である。７は滑石製の勾玉である。いずれも古墳時代後期に比定される。

（２）本発掘調査の対象範囲

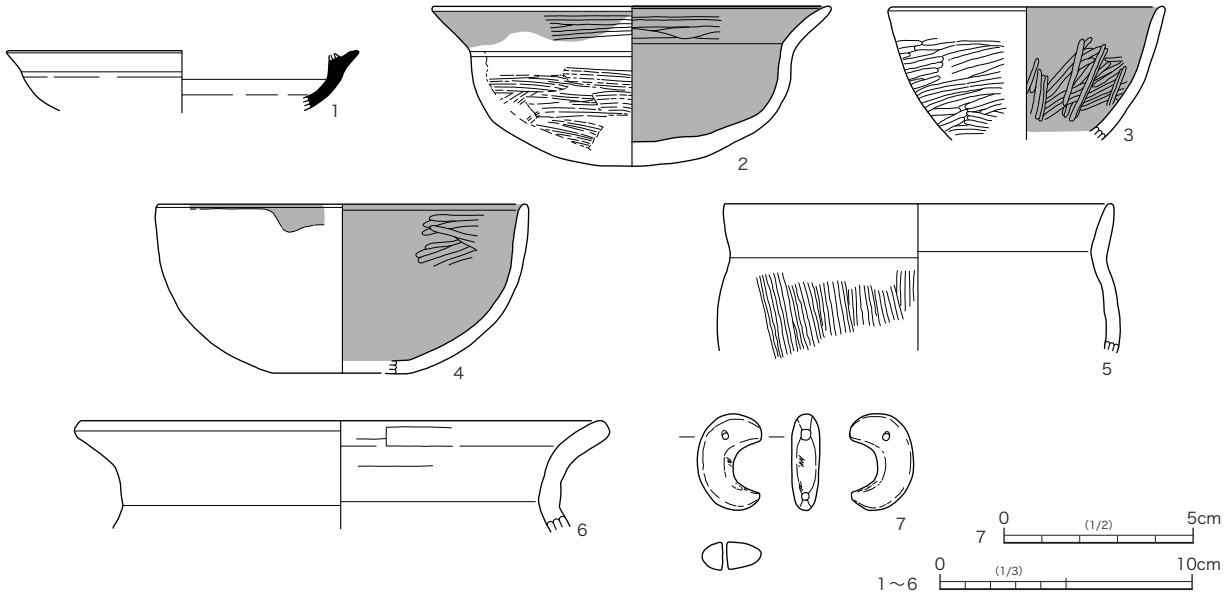
確認調査の結果を基に事業者と協議し，水路予定地および面工事での削平予定地のうち，発掘調査が必要とされる範囲を決定した。居浦遺跡は，盛土保存での施行が可能で，遺跡内に水路も予定されていないため発掘調査



第２図　確認トレンチの位置と遺跡の範囲



第３図　土層柱状図



第４図　確認調査出土遺物

表１　確認調査出土遺物観察表

遺物番号	トレンチ名	遺構名	種別	器形	法量(cm)			重量(g)	遺存度	成形手法	色調	胎土（石材）	特徴	備考	挿図	図版
					口径	器高	底径									
1	23		須恵器	坏身				14.8	5%以下	(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	(内)5Y5/1,灰色 (外)5Y5/1,灰色	砂極小		受部径14.0㎝, Ⅴb層より出土	4	
2	26	P－1	土師器	坏	15.8	6.4		100.6	40%	(内)ヘラミガキ (外)口縁ヨコナデ, 体部ハケメ	(内)N1.5/0,黒 (外)7.5YR7/6,橙色	黒色粒子, 透明粒子, 白色粒子	内面黒色処理	椀形、口縁部の 一部黒色	4	
3	26	P－1	土師器	坏	10.8			132.5	60%	(内)ヘラミガキ (外)ヘラミガキ	(内)N2/0,黒 (外)10YR8/3,浅黄橙色	白色粒子, 透明粒子	内面黒色処理	鉢形、口縁部の 一部が黒色	4	
4	26	P－1	土師器	坏	14.6	6.7	5.4	57.0	20%	(内)ヘラミガキ (外)不明	(内)N2/0,黒 (外)5YR5/6,明赤褐色	黒色粒子	内面黒色処理	鉢形	4	
5	26	P－1	土師器	甕	15.6			211.5	口縁部の 20%	(内)ナデか (外)口縁ヨコナデ, 体部ハケメ	(内)10YR4/3,にぶい黄褐色 (外)10YR4/3,にぶい黄褐色	白色粒子, 砂多		外面スス付着	4	
6	26	P－1	土師器	甕	20.6			40.9	口縁部の 10%	(内)ヘラナデ (外)口縁ヨコナデ, 体部ハケメ	(内)10YR4/2,灰黄褐色 (外)10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒子, 砂		外面スス付着	4	
7	21		石製品	勾玉	縦 3.8	横 2.5	厚 1.1	12.1	完形	－	灰緑色	滑石	片側穿孔	Ⅴb層より出土	4	巻頭3

の対象からは除外し，一方，蚤取橋遺跡・神明裏遺跡は水路予定地を含み，工法上，削平を免れない範囲があるため，この部分を本発掘調査の対象とした。２遺跡は隣接し，工事も同年度に実施する計画のため，２遺跡分の発掘調査を同じ期間内に実施することで合意した。また，調査対象範囲の規模，市の発掘調査全体計画，ほ場整備工事の計画を勘案した結果，事業者の承諾を得て業務は新発田市が民間調査機関へ委託することとなった。

（３）調査業務の委託

発掘業者の選定にあたり，調査水準の確保のため，公募型プロポーザル方式による審査で受託業者を選定した。審査は市が委嘱した審査委員（阿部朝衛：帝京大学文学部助教授，本間信昭：元(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団調査課長）がおこなった。

業者選定は，市が指定した調査票を参加希望業者に提出させ，平成18年6月16日に１次審査を実施して，審査委員と協議して作成した採点基準を基に提出書類を審査した。この結果，10者中上位４者を選定し１次審査通過者とした。２次審査は平成18年７月１日に実施した。１次審査の通過者に対象遺跡の調査方法等について提案（プロポーザル）をさせ，提案内容のすぐれた上位１者を選定した。審査で第１位となった加藤建設㈱新潟支店に業務を委託した。受託業者は新発田市埋蔵文化財業務委託標準仕様書にしたがって業務を遂行した。

新発田市と新潟県新発田地域振興局は平成18年５月11日付けで発掘調査の費用負担契約を締結し，新発田市は加藤建設㈱新潟支店へ発掘調査業務・報告書原稿作成業務を委託した。調査が進むうち，遺物が集中する部分

は確認調査で想定した落ち込みではなく，川跡が南北方向に延びることが明らかになった。川跡には東西の両岸から遺物が投げ込まれており，当初の予想を上回る量が出土し，18年度中に報告書原稿の作成が見込めなくなったため，現場作業終了時に業務の進め方について事業者と協議した。この結果，平成18年度は現場発掘調査と基礎整理作業を行ない，平成19年度に本格整理作業と報告書作成作業を行なうこととした。この結果を受けて，平成19年２月13日付けで事業者と変更負担契約を締結し，19年度事業に整理報告書原稿作成作業を行なうための予算を計上した。平成19年５月７日付けで整理報告書作成作業のための費用負担契約を締結し，業務が18年度のプロポーザル審査対象の延長であるため，新発田市は加藤建設㈱新潟支店と随意契約を締結し報告書原稿作成作業を委託した。

整理・報告書原稿作業は，加藤建設㈱本社・府中第一整理事務所および同社新潟支店で，平成19年６月６日から10月18日までの間に実施した。

２．調査組織

平成17度（確認調査）

調 査 主 体　新発田市教育委員会
（教育長　大滝　昇）
総　　括　築井　信幸（教育部長）
監　　理　土田　雅穂（生涯学習課長）
田中　耕作（生涯学習課副参事）
調査担当者　鶴巻　康志（生涯学習課主任）
調　査　員　渡辺美穂子（生涯学習課文化財技師）
庶　　務　佐藤　桂子（生涯学習課主事）

平成18度（本発掘調査・基礎整理作業）

調 査 主 体　新発田市教育委員会
（教育長　大滝　昇）
総　　括　築井　信幸（教育部長）
監　　理　土田　雅穂（生涯学習課長）
田中　耕作（生涯学習課参事）
監 督 員　鶴巻　康志
（生涯学習課埋蔵文化財係長）
庶　　務　六井　浩子（生涯学習課主事）
受 託 業 者　加藤建設株式会社新潟支店
（新潟支店長　寿盛友則）
調査担当者　吉田　好孝
（加藤建設株式会社主任調査員）
調　査　員　内田　仁・佐々木正治
（加藤建設株式会社調査員）
調査補助員　堀内　隆人・井戸川勝昭
（加藤建設株式会社測量員）
土木作業管理者　寿盛　友則
（加藤建設株式会社新潟支店長）

平成19度（本格整理作業・報告書作成）

調 査 主 体　新発田市教育委員会
（教育長　大滝　昇）
総　　括　高沢誠太郎（教育部長）
監　　理　土田　雅穂（生涯学習課長：～５月）
杉本　茂樹（生涯学習課長：６月～）
田中　耕作（生涯学習課参事）
監 督 員　鶴巻　康志
（生涯学習課埋蔵文化財係長）
庶　　務　六井　浩子（生涯学習課主事）
受 託 業 者　加藤建設株式会社新潟支店
（新潟支店長　寿盛友則）
調査担当者　吉田　好孝
（加藤建設株式会社主任調査員）
調　査　員　内田　仁・佐々木正治
（加藤建設株式会社調査員）

３．発掘調査と整理作業の経過

（１）発掘調査

平成18年8月3日より現場事務所・駐車場の設営を開始し，調査位置をロープで囲う作業を行った。新発田市教育委員会（以下，市教委）の確認の後，8月7日から表土除去を蚤取橋遺跡南地区，北地区，神明裏遺跡の順に行い，調査区全体に10m間隔のグリッドを設定した。なお，表土除去に先立ち，蚤取橋遺跡南地区北側の調査区際に幅3mのトレンチを重機で掘削し，灰褐色の覆土を持つ溝状の落ち込みを確認した。南地区全面の表土除去を行ったところ，この溝状の落ち込みは南側の調査区外まで続いていることが判明した。

8月9日に蚤取橋遺跡南地区，9月4日に神明裏遺跡，9月26日に蚤取橋遺跡北地区の遺構確認作業を開始し，調査は3箇所で並行し実施した。蚤取橋遺跡南地区では，まず調査区北側のトレンチをさらに掘削し，溝状の落ち込みの状態確認を行った。その結果，灰褐色土層の上面で溝が3条確認でき，これを「溝1～3」とし，灰褐色の覆土を持つ落ち込みを「溝5」とした。なお，このトレンチでは「溝5」よりも下位の遺物包含層の有無を地表面から約2mまで調査した。その結果，遺物包含層はないことを確認した。また，それよりも下位は多量の湧水のため，砂層が崩落する危険があり，安全を考慮して遺物包含層の確認作業は実施していない。

蚤取橋遺跡北地区・神明裏遺跡でも同様の溝を確認した。この溝は立地・覆土・出土遺物の時期などのから同一の溝と認識し，地点・遺跡は異なるが，「溝1～3・5」と共通の呼称とした。

発掘調査を進めていく中で，「溝5」の最深部は150㎝と著しく深くなり，覆土からは10,000点を超える量の遺物が出土した。これは確認調査の結果から想定された「遺物包含層あるいは，深さ30～70㎝の窪地」での作業量を超える業務が必要となることが明らかとなったため，市教委と計画変更の協議をした上で新たに確認した下層の調査を続行した。その後，蚤取橋遺跡南地区の「溝5」の最下層から多量の木製品が出土した。12月10日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。悪天候・降雪などにより調査は難航したが，残務整理，図面などの点検などを行い12月21日に全ての現地調査を終了し撤収した。この撤収作業にあたり，蚤取橋遺跡南地区の「溝5」の深い部分は埋め戻しを行い，市教委に引き渡した。

なお，発掘調査段階の「溝1～3・5」は，調査終了後に市教委との協議の結果，「川跡1～3・5」と認識し呼称することとなった。したがって本報告書では「川跡1～3・5」と呼称する。

（２）整理作業

平成18年度は，遺物の水洗い・注記，土器片の計量などの基礎整理作業を行った。なお，遺物が多量に出土しているため，作業の一部は現場作業と並行して行った。

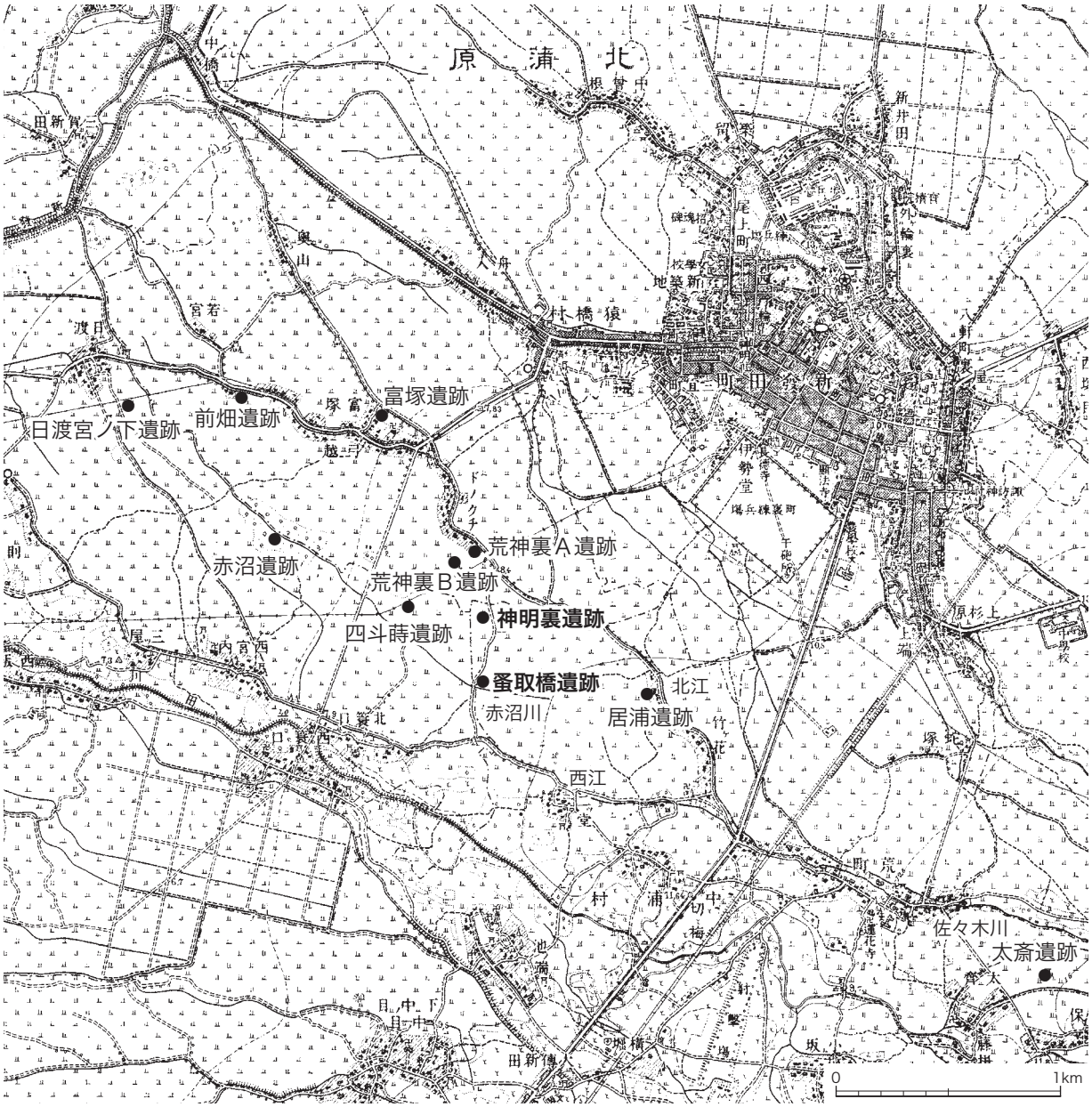
平成19年度は，本格整理作業を行った。遺構については平面図・土層図などの整合・点検をした。遺物については出土位置や器種によって分類を行なった。土器は同一個体の抽出・接合を行い，出来る限り器形の復元し，実測・写真撮影を行った。特に川跡5からの出土遺物は，層位間の接合関係を全ての土器について行った。整理作業はその後，遺構と遺物のデジタルトレース，原稿執筆を行い，報告書を編集し，市教委に納めた。

また，木製品の樹種同定および年代測定・土器の胎土分析を業者委託により実施した。

第Ⅱ章　遺跡の環境

1．遺跡の位置と立地

新発田市南東部の本遺跡周辺は，加治川により形成された扇状地に立地する（第５図）。加治川は現在，市街地北方を北進し日本海に注いでいるが，明治時代までは砂丘列に阻まれ，砂丘列にぶつかるところで西に折れ阿賀野川の河口付近で合流していた。本遺跡周辺は五十公野丘陵と真木山丘陵との間を流れる中小河川が数多く存在する。これらのうち佐々木川は本遺跡南東の市内竹ヶ花で北江と西江に分流し，本遺跡はその中間に位置する。



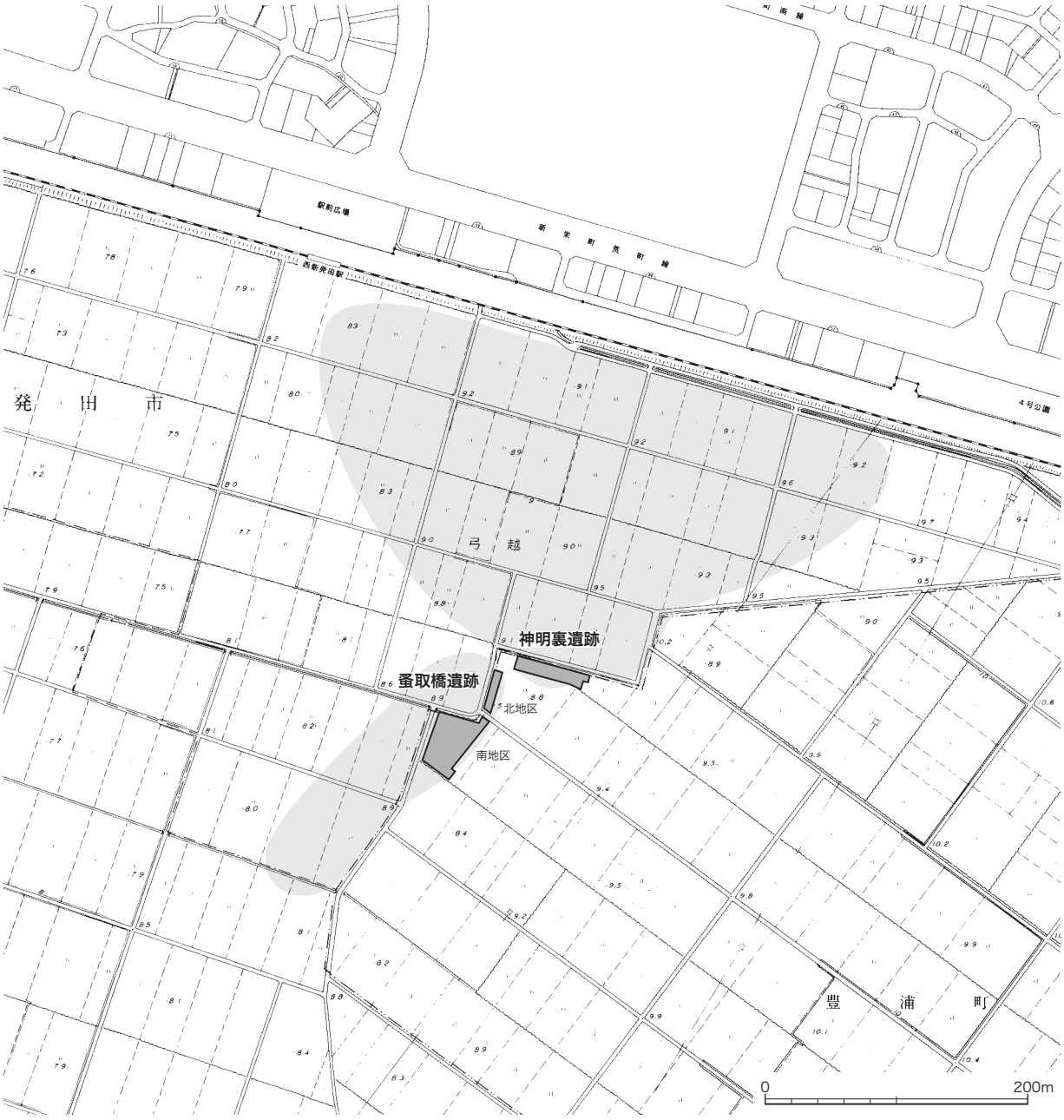
（大日本帝國陸地測量部　明治44年　２万５千分の１地形図を基に作成）

第５図　遺跡周辺の地形（1/30,000）

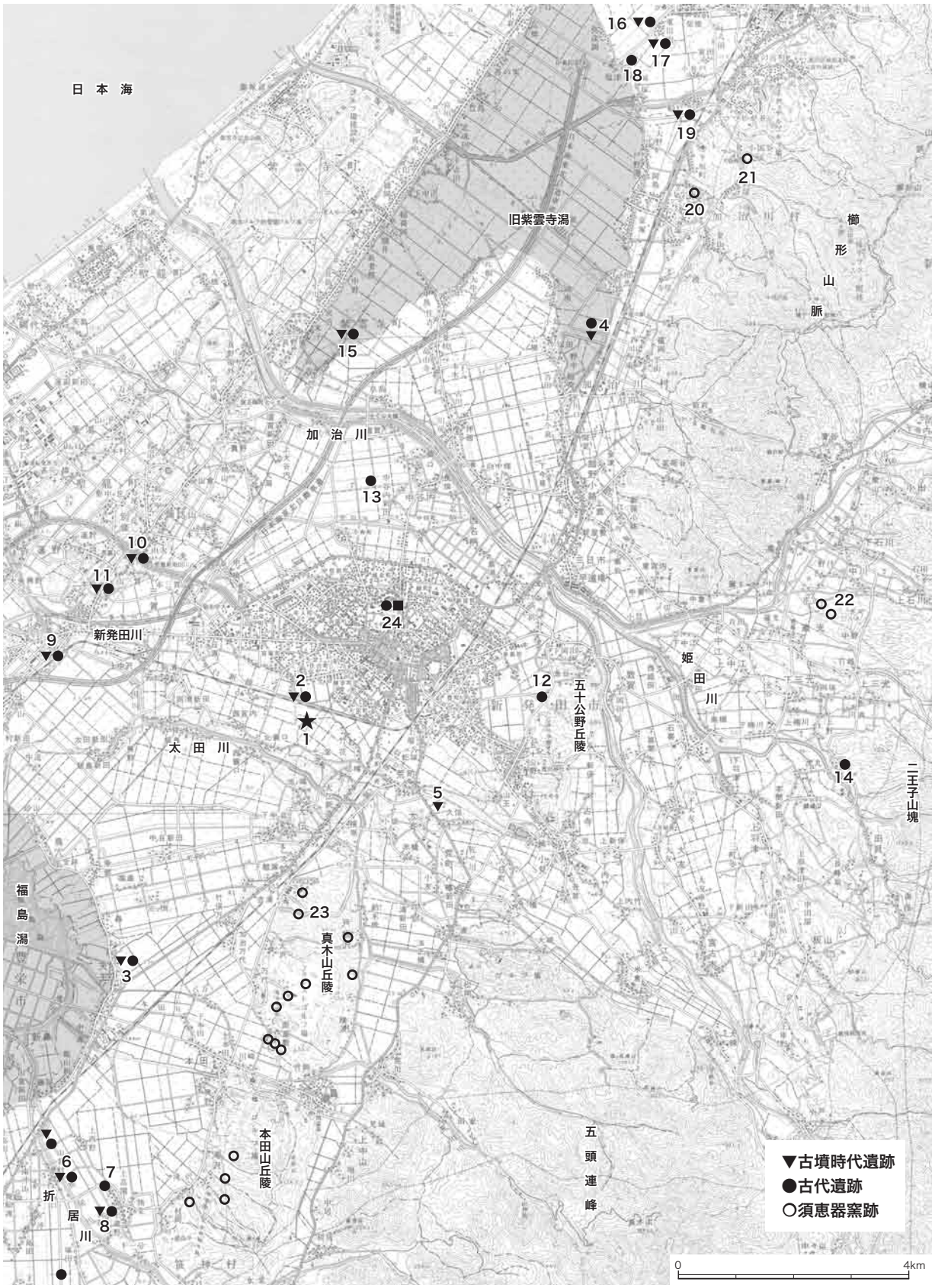
このように本遺跡周辺は中小河川による豊富な水があり，調査区内も多量の湧水が認められた。また蚤取橋遺跡の南には赤沼川が流れ，調査区はその北岸に位置し，北に神明裏遺跡と接している。神明裏遺跡は北江の南岸付近に立地するが，今回の調査区はその南端に位置し，南に蚤取橋遺跡と接している。蚤取橋遺跡，神明裏遺跡はその範囲が今回の調査により，拡大することが明らかとなる一方，互いの範囲が接することによって（第6図），その境界は不明確となりつつある。したがって，同一の遺跡となる可能性も踏まえ，今後の調査の進展で今回の調査で充分に解明できなかった，各遺跡の性格を把握する必要がある。

2．周辺の遺跡

新発田市周辺には旧石器時代から近世に至るまでの数多くの遺跡が存在する（第７図）。本報告書では，これらのうち本遺跡と関連する古墳時代後期および古代の遺跡について述べる。



第６図　遺跡周辺の地形と調査区位置図（1/5,000）



1 蚤取橋遺跡・神明裏遺跡　2 荒神裏A遺跡　3 曽根遺跡　4 野中土手付遺跡　5 太斎遺跡　6 腰廻遺跡
7 上高関遺跡　8 前田遺跡　9 馬見坂遺跡　10 山三賀Ⅱ遺跡　11 二本松東山遺跡　12 松橋遺跡
13 桑ノ口遺跡　14 坂ノ沢C遺跡　15 王子山遺跡　16 大塚遺跡・城の山遺跡　17 屋敷遺跡　18 城の山古墳
19 船戸桜田遺跡　20 下小中山窯跡　21 貝屋窯跡　22 ホーロク沢窯跡　23 志村山窯跡　24 新発田城跡

第7図　周辺の主要遺跡（1/100,000）

古墳時代後期の遺跡は沖積地の微高地上と砂丘列上に多い。本遺跡周辺では，まず荒神裏Ａ遺跡（2）があげられる。本遺跡北側の北江の自然堤防上に立地し，古墳時代後期の土坑が調査されている（鶴巻・永井ほか2005）。

折居川右岸の沖積地上に位置する腰廻遺跡（6）では，平成10年から平成12年にかけて，4次にわたり調査が行われている。第4次調査では7本の川跡が確認されている。古墳時代後期～中世にわたる多様の遺物が出土し，多くの古式須恵器，子持勾玉，手捏土器，木製品などの報告は特筆される（川上ほか2002）。また，本遺跡と同様に川跡から多数の遺物が出土している。

腰廻遺跡の東側に所在する上高関遺跡（7）も川跡から古墳時代の遺物が出土している（中山ほか2001）。その北側に所在する前田遺跡（8）からも古墳時代後期の遺物が出土している（川上1999a）。

福島潟の東岸では，曽根遺跡（3）で3次にわたる調査が行われ，古墳時代前期から平安時代の遺物が出土し，古墳時代後期の遺物も出土している（家田ほか1981・1982，川上1997）。

砂丘列上では，馬見坂遺跡（9）が所在し，新砂丘Ⅰ群2列目に立地している。過去の工事の際に出土したものを表面採集した資料が，関雅之氏によってまとめられ，土師器は7世紀第2四半期の年代が与えられている（関2001）。

旧紫雲寺潟（塩津潟）周辺には野中土手付遺跡（4）があり，古墳時代後期の遺物が出土している（嶋田2005，佐藤2006）。北側の胎内市域では船戸桜田遺跡（19）（水澤・吉村1999）や，屋敷遺跡（17）（水澤・吉村2004）などが調査されており，主に古墳時代後期の遺構・遺物の調査例が多く，合せて古式須恵器も出土している。

以上のように周辺の古墳時代後期の遺跡を概観してきたが，総体的に遺跡数は少なく，古墳に至っては前期古墳である胎内市の城の山古墳（18）（水澤・三ツ井2006）が確認されているにすぎない。なお，当該期の集落は馬見坂遺跡を除きいずれも沖積地に分布している。ただし，その実態は水田地帯であることなどから調査事例が少なく，明確ではない。このように，沖積地における集落遺跡の展開状況は，今後の調査による資料の増加に伴い，より具体的になるものと期待される。

古代の遺跡は市内各所に展開し，沖積地のほか砂丘列や丘陵上にも多くが確認されている。前述した曽根遺跡（3）や荒神裏Ａ遺跡（2）なども断続的に集落が営まれているほか，砂丘列上では山三賀Ⅱ遺跡（10）が調査されている。同遺跡では古代に属する遺構は竪穴住居跡90軒・掘立柱建物跡27棟などが発見されており，8世紀初頭から9世紀後半に営まれた集落とされる（坂井ほか1989）。加治川左岸沖積地では桑ノ口遺跡（13）が調査され，掘立柱建物跡5棟が発見されている。同遺跡の存続時期は9世紀後半から10世紀前半とされる（鶴巻ほか2003）。五十公野丘陵西側の微高地に立地する松橋遺跡（12）では8世紀から9世紀前半の土坑と竪穴住居跡が調査されている（鶴巻1998）。加治川支流の姫田川右岸の段丘上では坂ノ沢Ｃ遺跡（14）が調査されている。竪穴住居跡2軒と掘立柱建物跡12棟が発見され，9世紀中葉～10世紀前半の遺物が出土している（渡邊ほか2001）。

丘陵部には須恵器窯跡や製鉄遺跡などが確認されている。櫛形山脈の西麓には8世紀初頭とされる下小中山窯跡（20），その北1.1㎞には9世紀前半とされる貝屋窯跡（21）（川上1982），二王子山塊西麓にはホーロク沢窯跡（22）（鶴巻2001）がある。真木山・本田山丘陵には笹神・真木山古窯跡群と呼ばれる大窯跡群がある。志村山窯跡（23）が8世紀前半（川上1999b），狼沢窯跡群は9世紀中葉（中川ほか1972），その他にも多数の窯跡が確認されている（新潟古代土器研究会編2004）。また，製鉄関連遺跡も多く分布している（関・本間ほか1981）。

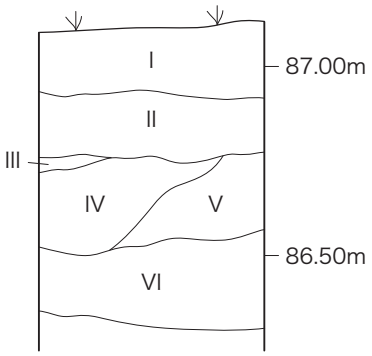
第Ⅲ章　発掘調査

1．調査区の設定

調査区は確認調査の結果を基本に，排水路工事部分と面工事の影響を受ける部分を中心に，市教委の指示に基づき設定した。グリッドは，現地を東西に走る農道を基準とし，調査区全体が収まるよう原点を北西隅に置き，1辺10mの大グリッドを設定した。東西軸をアルファベットの大文字，南北軸をアルファベットの小文字とし，東西と南北を組み合わせて表した。さらに小グリッドを大グリッドの北西隅を原点に1辺2mで設定した。東西軸・南北軸とも1～5とし，東西−（ハイフォン）南北で表し，大グリッドの後ろに付け「Bn1－1」のように表した。

2．基本層序

Ⅰ層は耕土。Ⅱ層は黄灰色土層。Ⅲ層は黒褐色土層で，主に古代の遺物を包含する。この層は確認調査時は川跡の覆土と断定できなかったが，本調査の結果川跡1～3の覆土であることが判明した。Ⅳ層は灰色のシルト層で炭化物粒を含み，主に古墳時代の遺物を包含する。古墳時代の川跡・土坑などの覆土上層にはⅣ層が入り込んでいた。Ⅴ層は粘質の強い青灰色シルト層で，有機物，灰色砂がそれぞれ混入する部分がある。Ⅵ層は有機物を含む青灰色土層で，粘質土，シルト，砂がそれぞれ混入する部分がある。なお，今回の調査においてはⅤ層以下には遺物を包含しないため，断ち割り調査部分を除き調査は実施していない。



第8図　基本土層図（En4－3）

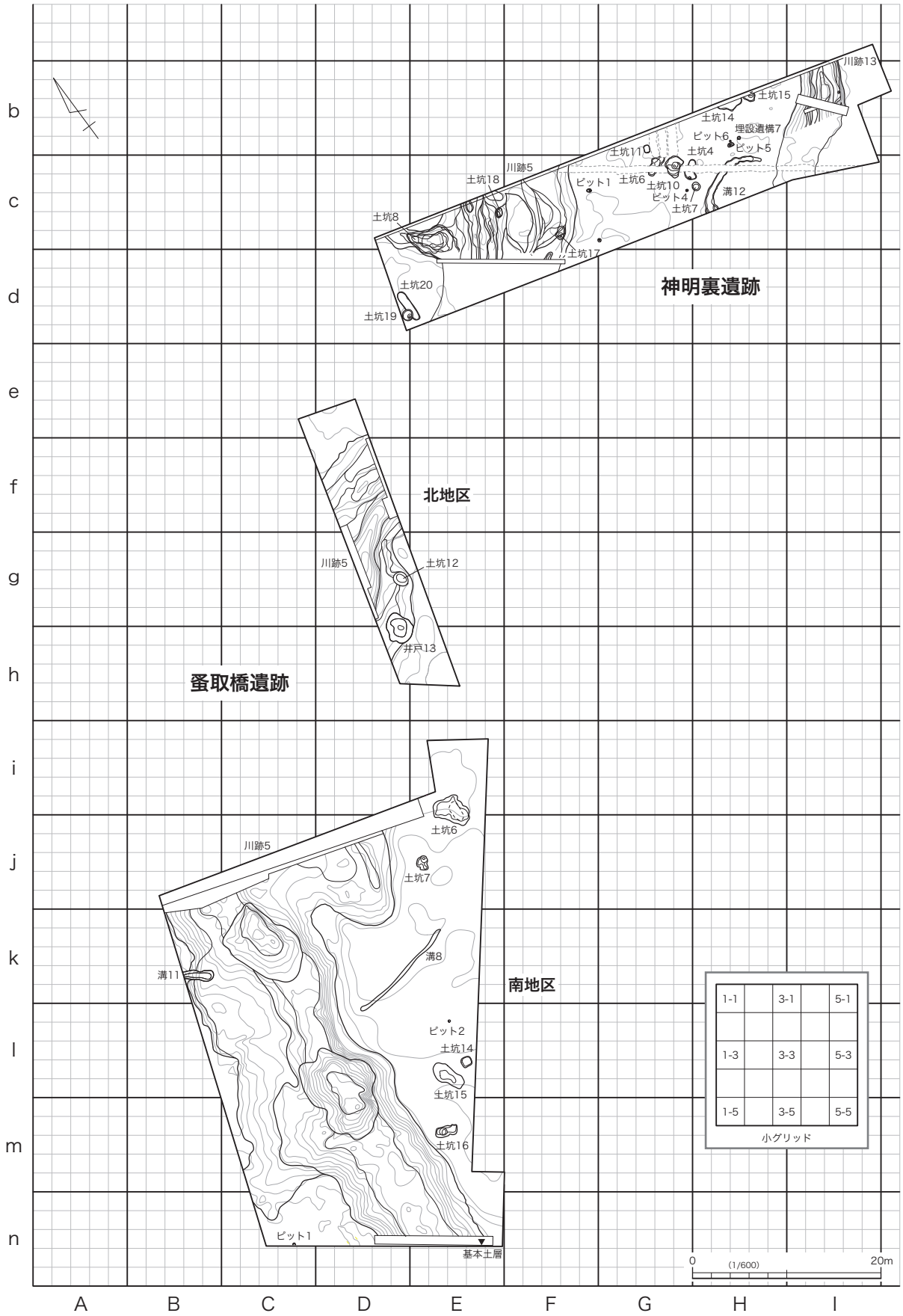
3．遺構の確認と遺構・遺物の表記

遺構の確認　今回の調査では，過去の耕地整理や水田耕作によりⅤ層上面まで削平されていたため，遺構の多くはこの面で確認した。各遺構の立ち上がりは，沖積地で地山が明瞭に判別できないため，場合により断ち割り調査によって確認した。

調査範囲は工事影響範囲としたが，遺構が調査区外にのびる場合は，一部拡張調査を実施した。ただし，神明裏遺跡の川跡5・13は，深さが1mにも及ぶため排水路工事部分のみ調査を行った。その他の部分は平面形の確認のみにとどめた。

遺構の表記　遺構の番号は遺跡ごとに種別にかかわらず通し番号を発見順に付し，番号の前に遺構種別を付した。ただし，ピットについては便宜上他の遺構と区別して番号を付けた。なお，神明裏遺跡のピットの一部は，番号を付した後に，埋設遺構・掘立柱建物跡を構成する遺構と確認したため，欠番が生じた。埋設遺構の番号はピットとして付した番号のままである。掘立柱建物跡の柱穴番号については，北西隅を原点に東西1～4，南北1～3の番号の組み合わせで東西 −（ハイフォン）南北の組み合わせで表し，個々の柱穴が建物のどの位置か分かるよう表記した。

今回の調査で検出した遺構（川跡を含む）・遺物の年代は，古墳時代後期から古代・中世・近世に比定される。



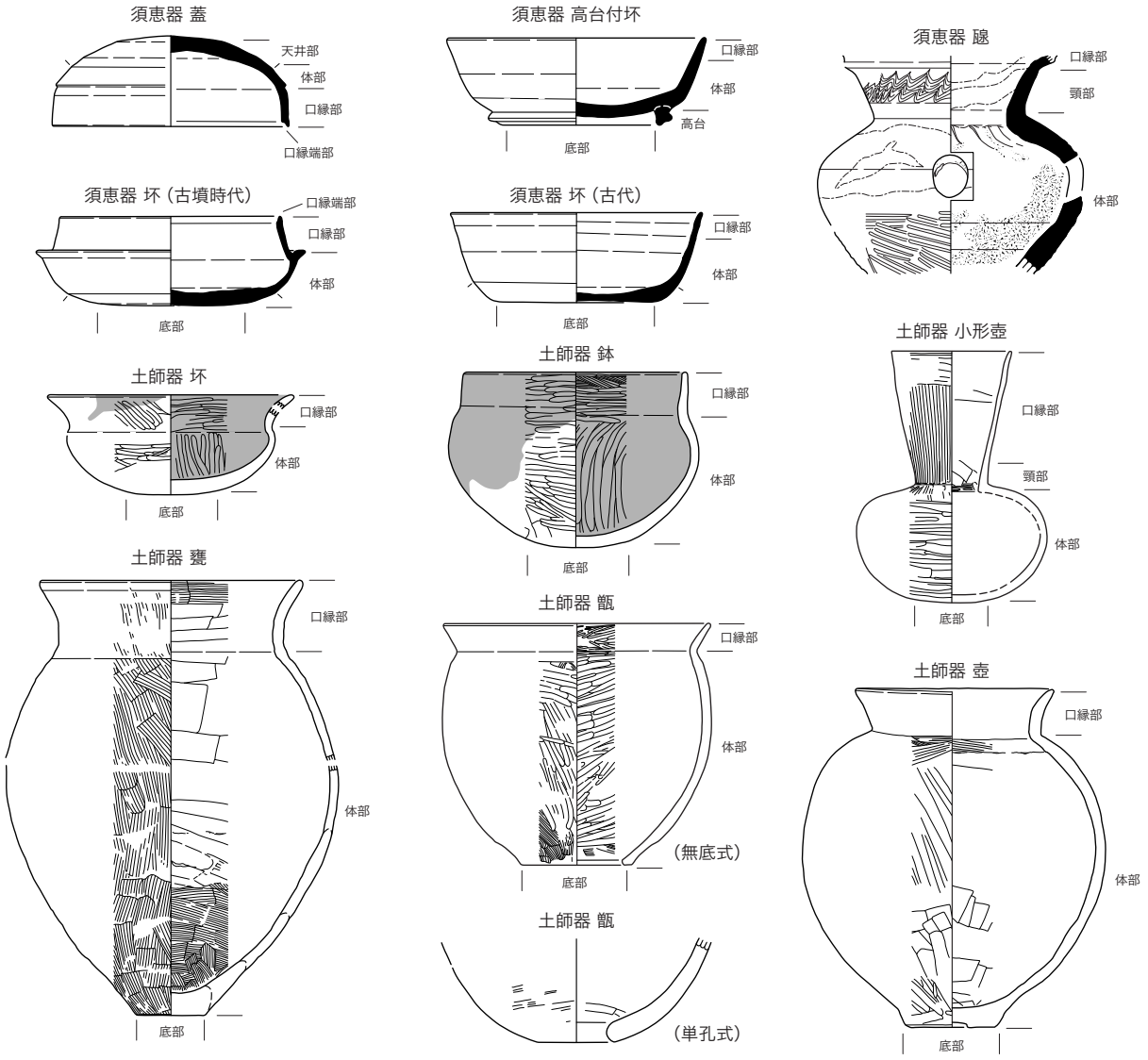
第９図　蚤取橋遺跡・神明裏遺跡 全体図（完掘状態）

この中で主体を占めるのは古墳時代後期であり，特に重複する川跡１～３・５は，最上層の古代・中世の遺物を含む川跡１～３と下層の川跡５の覆土中で層位的に遺物を包含する傾向が認められた。最も遺物量が多い川跡５にいたっては同じ遺構の中でも上層と下層では古墳時代から古代までの年代差を持っていた。このため，遺構・遺物を説明する際，通常の報告書のように年代の古い順から記述するよりも，上層の文化層から時期的に新しい順に記述したほうが記載内容がわかりやすいと判断したため，他の遺構も含め年代の新しい順から記述した。

遺構の時期を決定するにあたっては土層の特徴と出土遺物の年代を重視した。川跡１～3，溝４は覆土がⅢ層に類似し，その他の遺構覆土はⅣ層に類似している。このⅣ層は古墳時代からに古代かけて形成された層である。このため古代の遺物が出土している遺構については古代とし，それ以外は古墳時代に掲載した。ただし，ピットは遺物の出土しているものが少ないため，まとめて古墳時代の文末に掲載した。なお，全体図には他の遺構との関連を考慮して，古代・古墳時代の両方に図示した。

遺物の表記　川跡５・13の出土遺物は各層群（22頁参照）に分類したが，主体となる層群の上下の層群から出土したものが接合した土器もある。このため遺物によっては断面分布図に掲載と異なる層群に記号が表れているものがある。

遺物の器形・部位の名称などは本文・遺物観察表には下記の様に呼称した。



第10図　土器の器形と部位名称

第Ⅳ章　蚤取橋遺跡

1．概 要

本遺跡は神明裏遺跡の南側に位置し，調査区はほぼ平坦であるが，わずかに南に傾斜している。調査区の中央部付近を東西に農道が通る。今回の調査では，この農道を境に北地区・南地区と便宜上呼称した。なお，蚤取橋遺跡北地区と神明裏遺跡の調査区は8mほどしか離れていない。調査区の現況は水田であった。遺構はⅤ層上面で確認できたが，この面は水田耕作土の下数㎝であったため，多数の耕作痕などを確認しており，この面まで攪乱がおよんでいる。なお，出土遺物・覆土から時期を比定したが，ほとんどは古墳時代の遺構であった。

確認した遺構は以下のとおりである。

近世以降（第11図）	土坑	2基
古代・中世（第11図）	川跡	3条
	溝	1条
古墳時代（第19図）	川跡	1条
	溝	1条
	井戸跡	1基
	土坑	6基
	ピット	2基
時期不明	溝	1条

2．近世以降の遺構と遺物

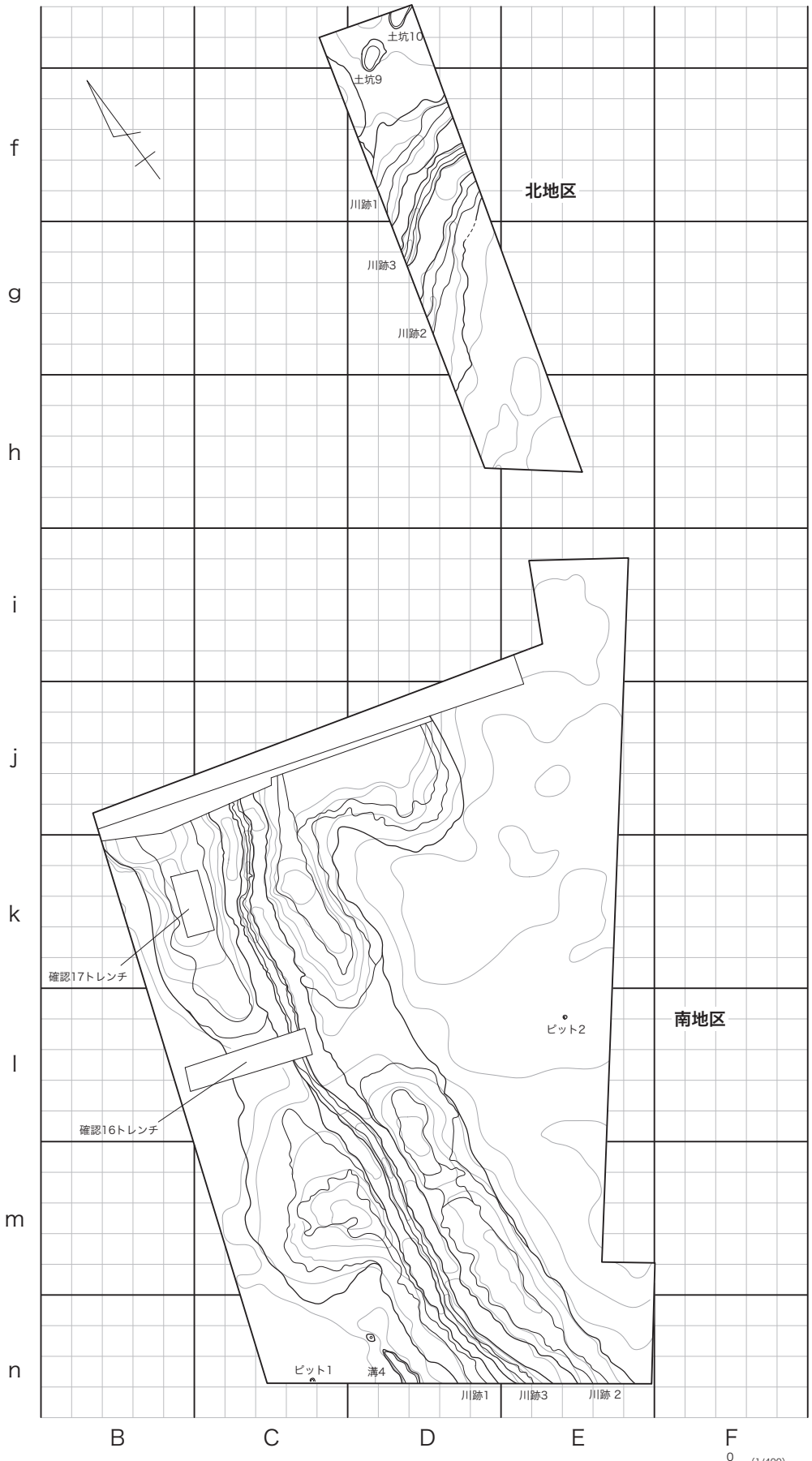
土坑9（第11・12図8，図版1・24）

De1－5・De2－5・Df1－1区に位置する。確認面はⅤ層上面である。規模は長軸213㎝，短軸139㎝，深さ24～35㎝（平均28㎝）である。平面形は楕円形で，主軸方位はN－55°－Eである。断面形は逆台形状を呈し，底面はほぼ平坦である。壁面は北側が緩やかに外傾するが，南側はほぼ直立する。覆土は4層に分けられ，黒褐色土層を主体とし，灰白色砂を含む。遺物は2層から近世所産の漆器が1点出土した。

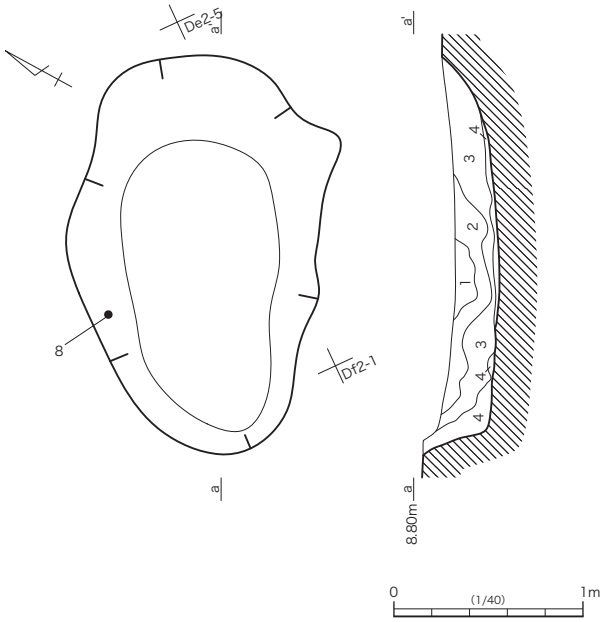
8は漆器の椀で高台が付く。内面は赤漆，外面は黒漆で体部外面に家紋（「丸に蔦」か）が黄漆で描かれている。

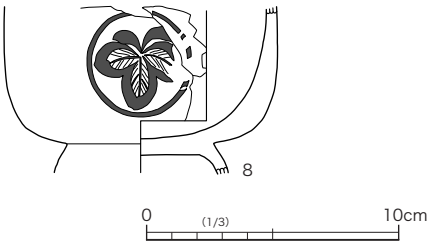
土坑10（第11・13図，図版9）

De2－4区に位置する。本遺構の北東部分は調査区外に延びているため，全体像は不明である。掘り込み面はⅡ層上面である。このため構築時期は近世以降と判断した。規模は確認した部分で長さ143㎝，幅101㎝，深さは48～50㎝である。平面形は楕円形を呈する。断面形は箱状を呈し，壁面はほぼ平坦な底面から直立し，一部オーバーハングしている。覆土は4層に分けられ，黒褐色土層を主体とする。遺物は出土しなかった。



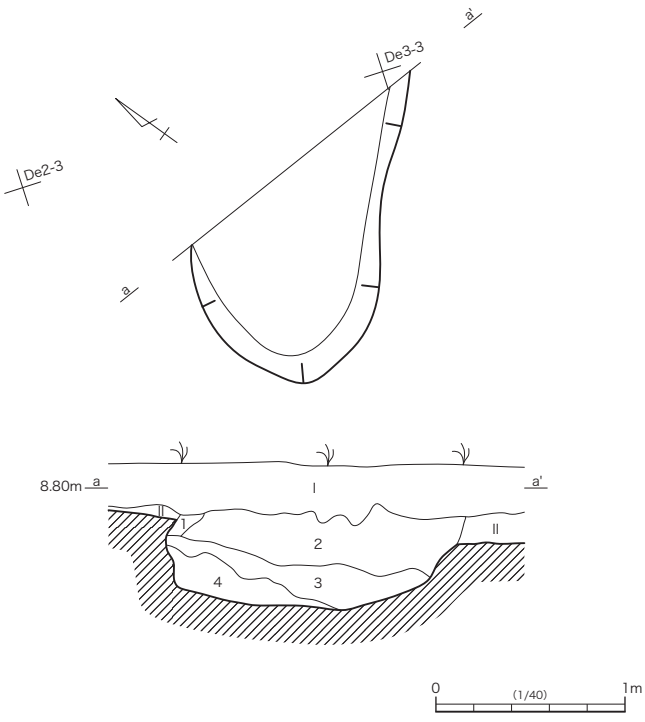
第11図　蚤取橋遺跡 古代・中世・近世の遺構配置図





土坑９
1　10YR3/1　黒褐色土　粘性弱，締まりやや弱。灰白色砂（細砂）を斑状に少量含む。
2　7.5YR3/1　黒褐色土　粘性やや強，締まりやや弱。灰白色砂（細砂）を微量含む。１層と比べやや赤味が強い。
3　7.5YR3/1　黒褐色土　粘性弱，締まりやや弱。灰白色砂（細砂）を帯状に含む。
4　10YR3/1　黒褐色砂　粘性なし，締まりなし。灰白色砂（細砂）を帯状に含む。

第12図　北地区 土坑９平面・断面・遺物分布図・出土遺物



土坑 10
1　10Y8/1　灰白色砂　粘性なし，締まり弱。暗褐色土が斑状に少量混入。
2　10YR3/1　黒褐色土　粘性弱，締まり弱。灰白色砂が縞状に少量混入する。
3　10YR2/1　黒色土　粘性やや強，締まり弱。灰白色砂を微量含む。
4　10Y8/1　灰白色砂　粘性なし，締まりなし。暗褐色土を縞状に少量含む。

第13図　北地区 土坑10平面・断面図

3．古代・中世の遺構と遺物

（1）川 跡

川跡1～3は南地区の調査開始時に掘削した調査区北側のトレンチにより，その存在を断面で確認した。平面は南地区・北地区ともにV層上面で確認したが，各川跡の境界は明瞭ではなく，全体で1つの川跡に包括されるものと思われる。完掘したところ，この3条の川跡は重複せず並行することを確認した。また，川跡1～3の下位には古墳時代の遺構とした川跡5が存在する。覆土は各川跡で共通し，南地区では黒褐色土（1・2層），北地区では黒色土（1層）を主体とし，南地区では褐灰色土（3層）・暗灰黄色土（4層），北地区では黒褐色土（2層）・オリーブ黒色土（3層）・灰黄褐色土（4層）が底面付近の一部で認められた。なお，1層は川跡の間や外側にも僅かに広がっている。この1層が最終的に埋没させている土層であると判断し，この部分から出土した遺物も川跡の遺物に含めている。

南地区 川跡1（第14・15図9～11，図版1・17・24）

Bj・Bk・Bl・Cj・Ck・Cl・Cm・Cn・Dm・Dn区に位置する。規模は確認した部分で長さ約43m，幅3.2～8.5m，深さは45㎝である。幅は部分的にばらつきがあるが，調査区中央やや南よりの部分では，西側に張り出しており，この部分は深さ約50㎝と深くなっている。北側の幅は5～6mほどで，南側は3mほどと狭くなる。また，調査区のほぼ中央Cl区付近は極端に浅くなっており，ほとんど落ち込みが確認できなかった。この部分の深さは約10㎝である。主軸方位は川幅が広がるCm区以北でN－13°－E，Dm区以南ではN－2°－Wである。断面形は概ね弧状を呈した底面から緩やかに立ち上がる。遺物は須恵器の坏・甕，土師器の坏・甕，木製品などの小片が出土したが，図示しえたのは5点である。

9は須恵器の坏で，Dk区の川跡2の東部分から出土の7点と，Cl3－4区の川跡1の覆土から出土した1点が接合した。胎土は細かく焼成は良好であるが，大粒の石英粒を含む。底部はヘラ切りが施される。

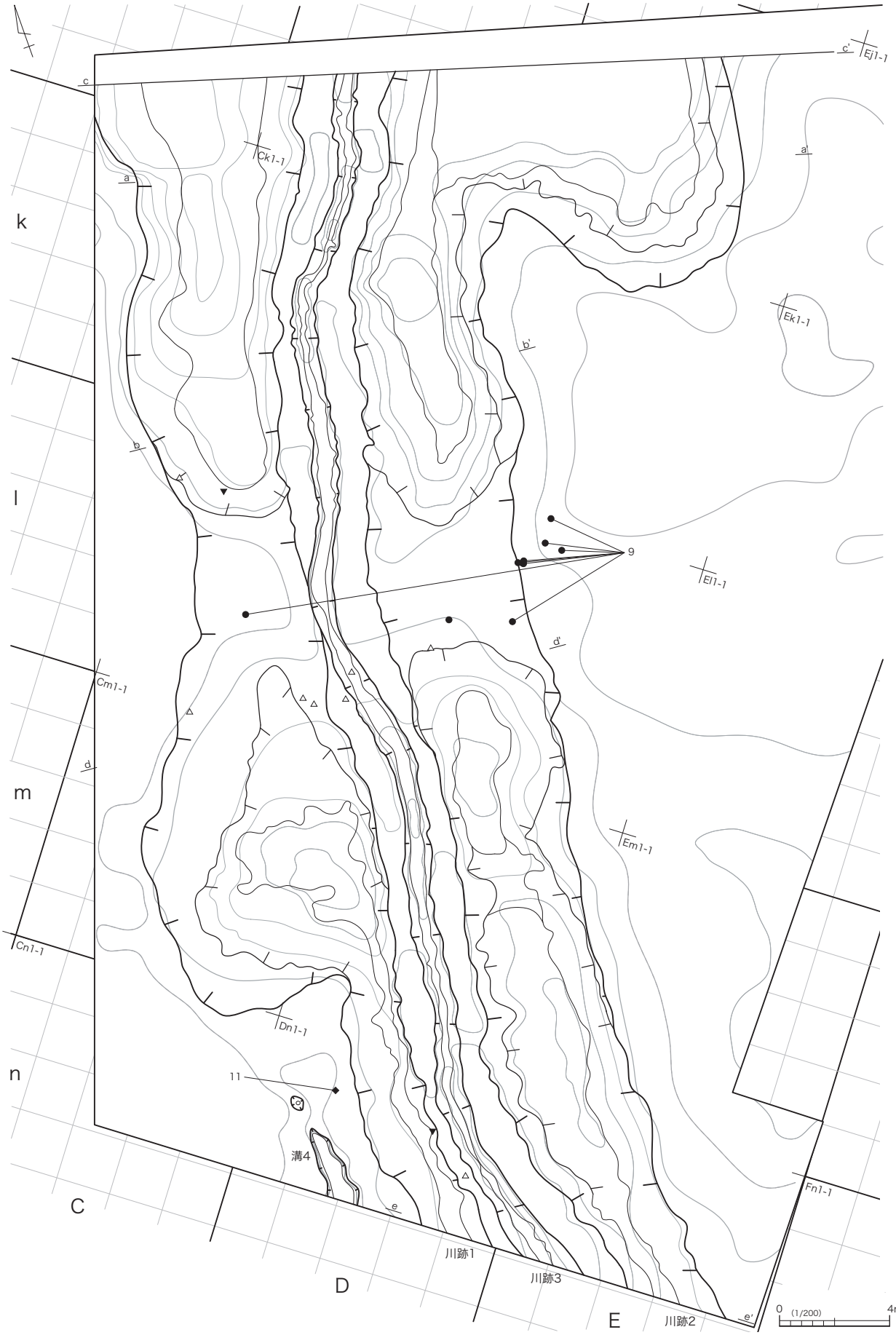
10は坩堝ないし取鍋と考えられ，底部は砲弾形に尖っている。被熱し，須恵器質に還元している。胎土は白色粒・砂粒を含み脆い。外面にのみ鉄滓状および，緑青状の滓が融着している。

11は支脚で上部および半面を欠くが，ほぼ円柱状で下部が僅かに太くなる。胎土は砂粒を多く含んでおり脆く，表面には指頭圧痕が認められる。

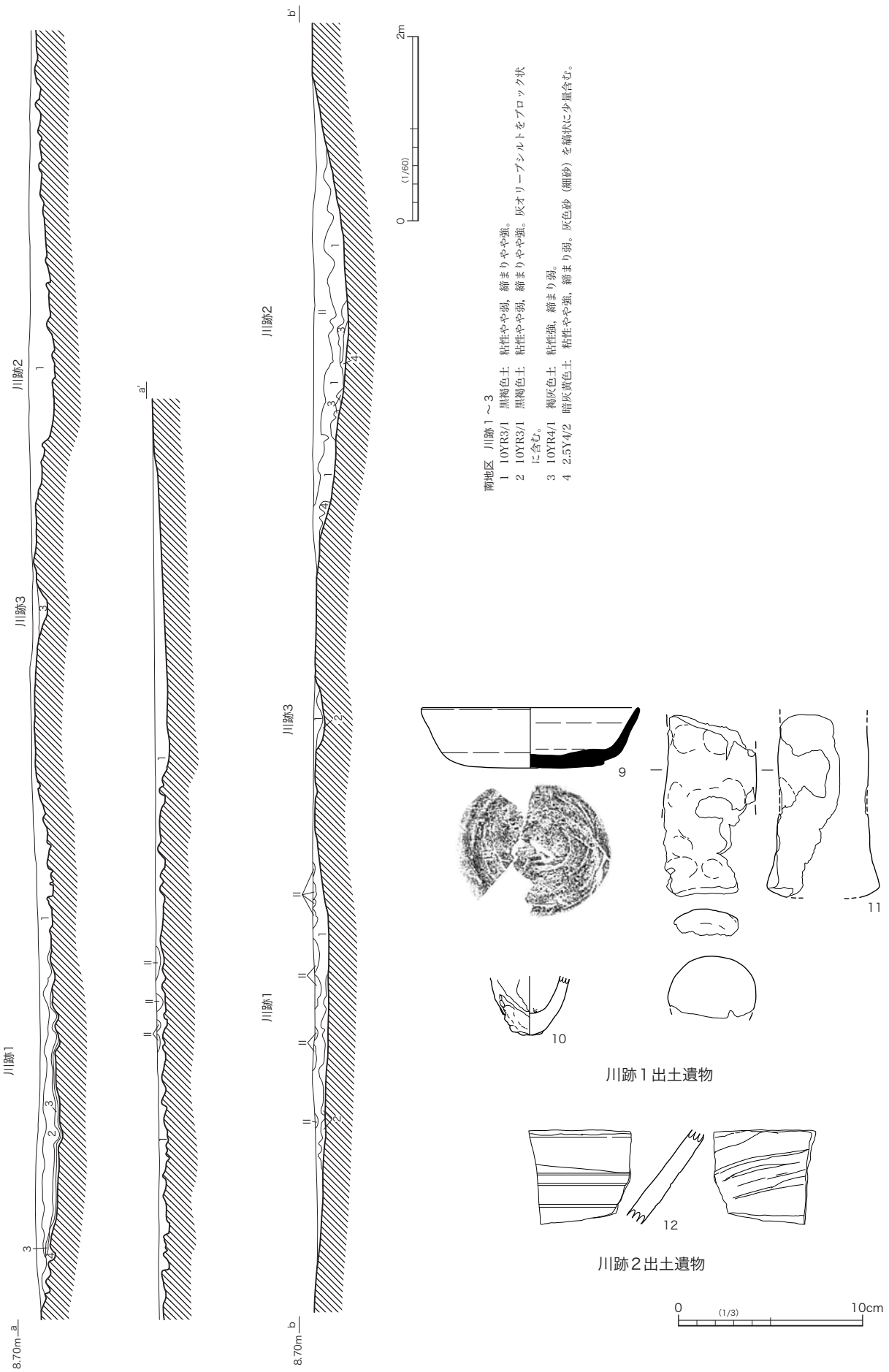
南地区 川跡2（第14・15図12，図版1・2・24）

Cj・Ck・Cl・Dj・Dk・Dl・Dm・Dn・Em・En区に位置する。規模は確認した部分で長さ約46m，幅2.5～6m，深さは最も深い部分で45㎝である。幅は部分的にばらつきがあるが，概ね4～5mで，南側では徐々に幅が狭くなる。深さはCl区以北で40～45㎝，Cm・Dm区以南で10～16㎝である。調査区の中央部のCl，Dl区では極端に浅くなる。これは川跡1の浅い部分とほぼ同じ場所にあたる。主軸方位はCk区の中央より北側がN－36°－E，Ck区中央より南側からDm区がN－11°－E，Em区以南ではN－8°－Wとなり，南側にいくに従い少しずつ東に屈曲する傾向を示す。断面形は弧状を呈し，壁面はやや起伏のある底面から緩やかに立ち上がる。遺物は須恵器の坏，土師器の坏・甕，陶器などが出土したが，図示しえたのは1点のみである。

12は古瀬戸の折縁深皿の破片で，内面全体と外面上半に施釉されている。En区の川跡2の1層より出土し，底面より約10㎝浮いていた。



第14図　南地区 川跡1～3平面・遺物分布図



第15図　南地区 川跡1～3断面図・出土遺物

南地区 川跡３（第14・15図，図版1・2）

Cj・Ck・Cl・Dl・Dm・Dn・En区に位置する。規模は確認した部分で長さ約43.5m，幅0.7～1.4m，深さ7～10㎝である。平面形は緩く蛇行し，主軸方位はN－15°－Eである。川幅・深さ共に大きな変化は無い。底面は弧状を呈し，岸部分は丸みを帯びた底面から緩やかに外傾して立ち上がる。遺物は土師器の甕・壺が少量出土したが，図示しえなかった。

北地区 川跡１（第16・17図13～15，図版2・17・24）

Df・Dg区に位置する。規模は確認した部分で長さ約7.1m，幅2.2～3.9m，深さ12㎝である。調査区内では，幅は一定ではなく，流路は東から南に向きを変えている。その方位はDf2－4区を境として異なり，Df2－4区の東側がN－72°－Eで，その後南に約26°屈曲し，N－46°－Eとなる。断面形は弧状を呈する。なお，調査区西壁際では，黒褐色土層が北へと続き窪地状になっており，北側にも川跡が広がる可能性がある。遺物は須恵器の坏・鉢・壺，土師器の甕が北岸から出土し，3点を図示した。

13は須恵器の鉢としたが，鉄鉢形土器の可能性もあり全容は不明である。口縁端部の内面には沈線状の段があり，上方へつまみ上げる。胎土は大粒の石英を含み，外面下部に自然釉が認められる。川跡2から出土した破片と接合した。

14は古墳時代の須恵器坏の底部である。胎土は雲母を多く含み，底部は回転ヘラケズリである。

15は壺の底部と思われるが，底部にまで自然釉が認められる。胎土は白色粒を多く含む。底部には焼成前のヘラ書き「×」が認められる。

北地区 川跡２（第16・17図16・17，図版2・24）

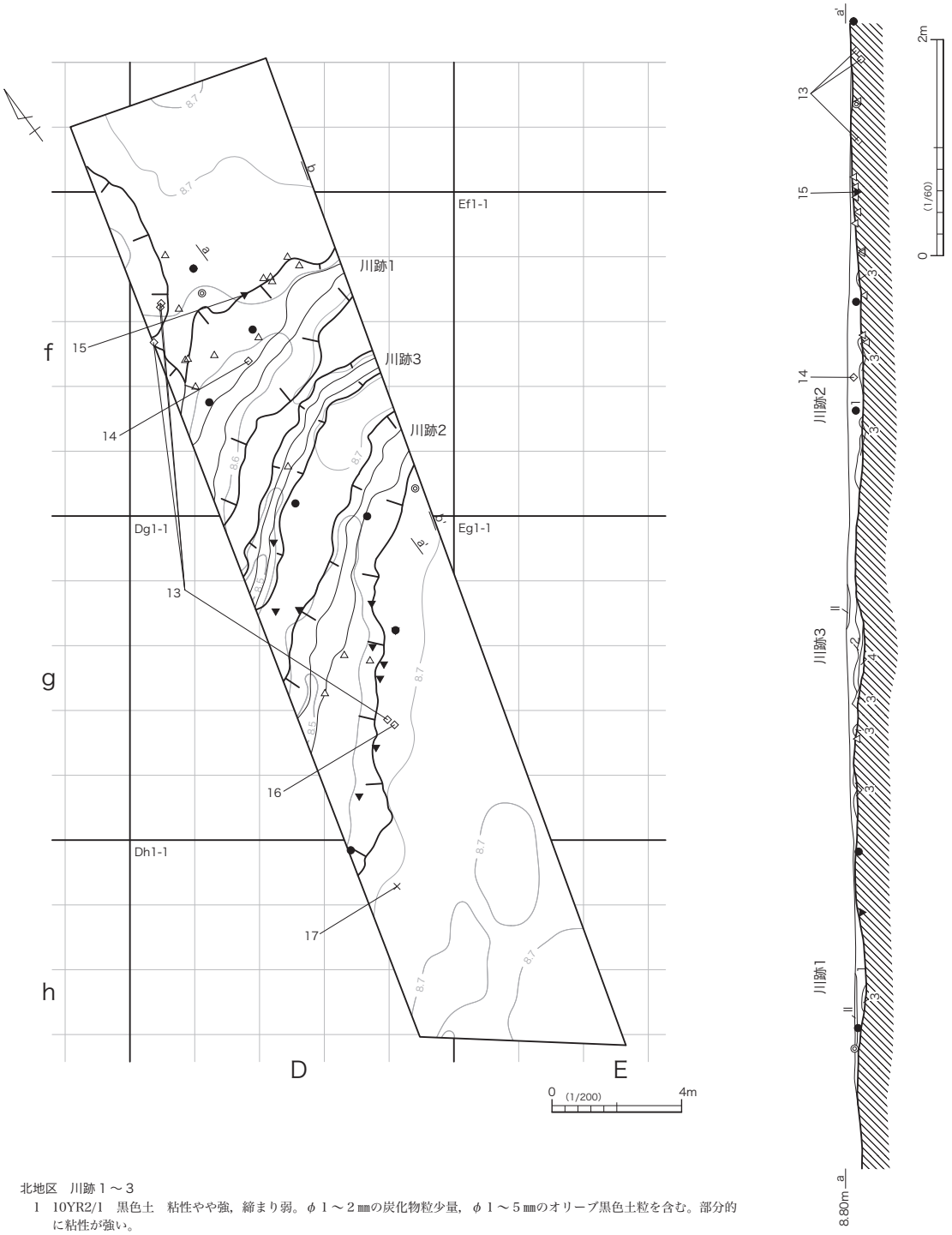
Df・Dg区に位置する。規模は確認した部分で長さ約9.5m，幅1.45～2.9m，深さ8㎝である。幅は一定ではなく，南に向かって徐々に東西に広がる。流路の方向はDg4－1区を境に，東側がN－52°－E，その後南に13°屈曲し，N－39°－Eとなる。断面形は弧状を呈する。遺物は覆土中から須恵器の坏・甕・鉢・瓶，土師器の甕が散漫的に出土し，そのうち2点を図示した。

16は須恵器瓶の口縁部で，口縁端部には沈線状の窪みがあり，頸部には細かな波状文を施す。胎土は精製され，緻密である。本資料は井戸13から出土遺物と接合した。

17は珠洲焼の片口鉢の口縁部と考えられ，口縁端部に平坦面を有する。胎土は雲母を多量に含んでいる。

北地区 川跡３（第16・17図，図版2）

Df・Dg区に位置する。規模は確認した部分で長さ約8.3m，幅0.7～0.9m，深さ約7㎝である。幅は川跡1・2と比べ一定している。流路はDf4－4付近で，南に41°屈曲し，N－97°－EからN－56°－Eへと急に変化する。断面形は弧状を呈する。遺物は須恵器2点，土師器1点が出土したが，いずれも小片のため図示しえるものはなかった。



北地区　川跡１～３

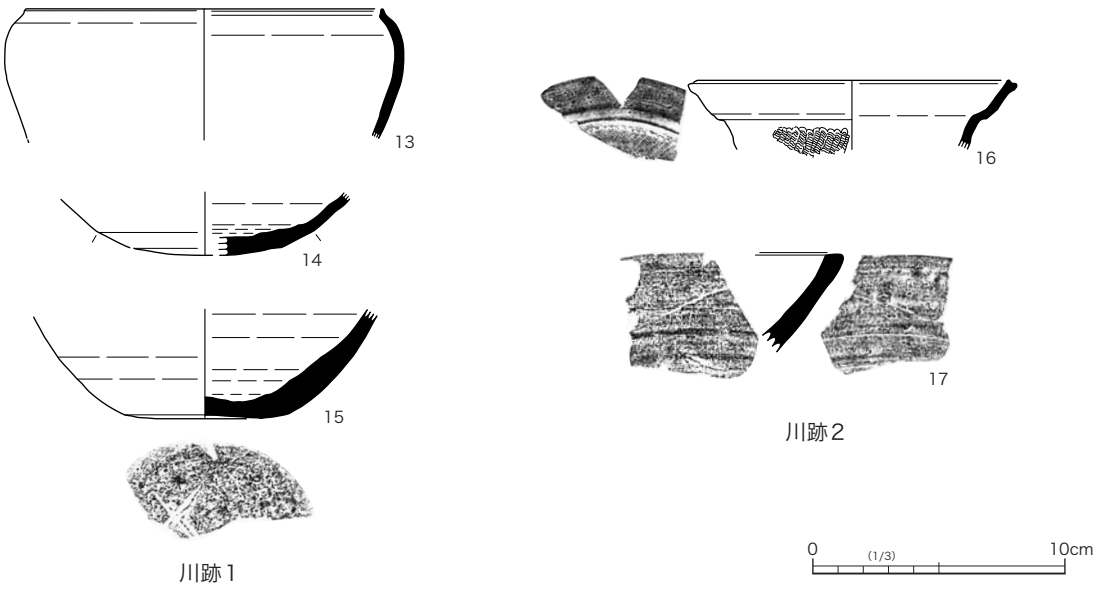
1　10YR2/1　黒色土　粘性やや強，締まり弱。φ１～２㎜の炭化物粒少量，φ１～５㎜のオリーブ黒色土粒を含む。部分的に粘性が強い。

2　10YR2/2　黒褐色土　粘性やや弱，締まりやや強。灰白色砂を含む。

3　7.5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性弱，締まり弱。φ10～20㎜の黒色土ブロック多量，φ１～２㎜の炭化物を粒少量含む。

4　10YR4/2　灰黄褐色土　粘性やや弱，締まりやや弱。φ１～５㎜の炭化物・黒褐色土を縞状に少量，根，繊維などの有機物・灰白色砂をブロック状に微量含む。

第16図　北地区 川跡1～3平面・断面図

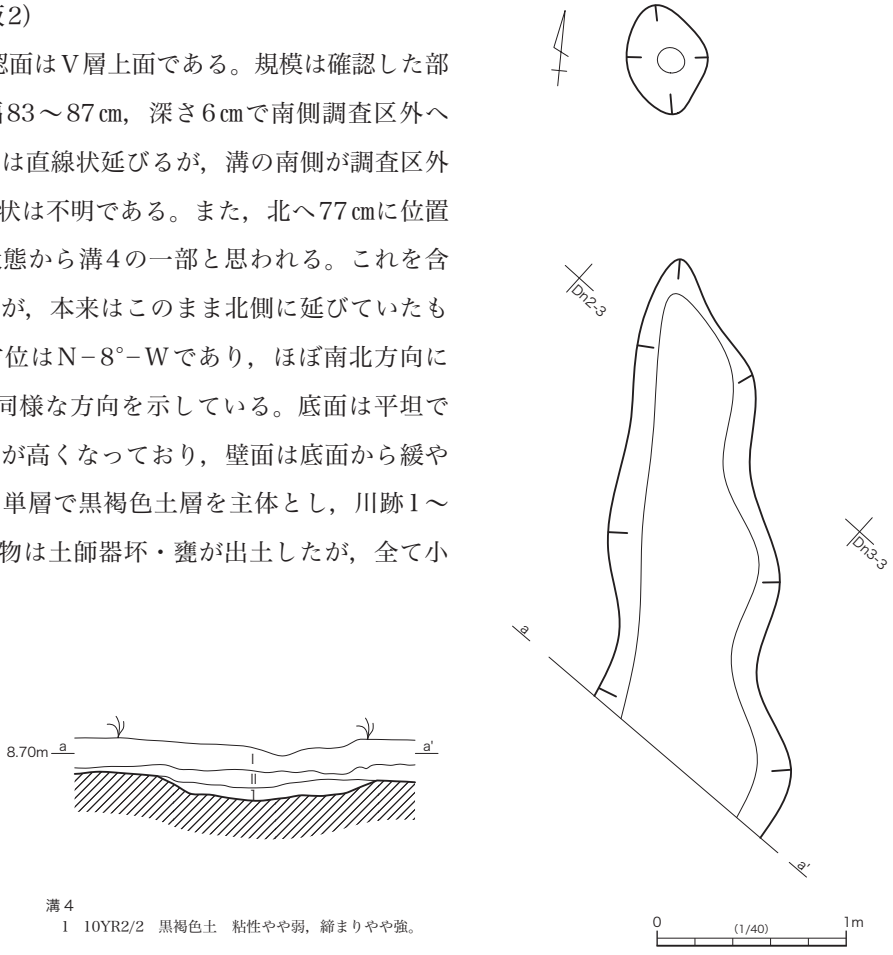


第17図　北地区 川跡1・2出土遺物

（2）溝

溝4（第11・18図，図版2）

Dn区に位置する。確認面はV層上面である。規模は確認した部分で長さ長さ305㎝，幅83～87㎝，深さ6㎝で南側調査区外へと延びる。調査範囲内では直線状延びるが，溝の南側が調査区外へ延びているため全体形状は不明である。また，北へ77㎝に位置する落ち込みも覆土の状態から溝4の一部と思われる。これを含めた長さは420㎝であるが，本来はこのまま北側に延びていたものと考えられる。主軸方位はN－8°－Wであり，ほぼ南北方向に向き，川跡1～3とほぼ同様な方向を示している。底面は平坦であるが部分的には中央部が高くなっており，壁面は底面から緩やかに立ち上がる。覆土は単層で黒褐色土層を主体とし，川跡1～3の1層に類似する。遺物は土師器坏・甕が出土したが，全て小片で図示しえなかった。



第18図　南地区 溝4平面・断面図

４．古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は川跡１条，井戸跡１基，土坑６基，溝２条，ピット２基であった（第19図）。南地区では川跡が調査区西側のほとんどを占めており，東側では土坑が２箇所に分かれ検出された。北地区では川跡の覆土上で，井戸跡，土坑を検出した。

（１）川 跡

南地区 川跡５（第20～59図，図版２～７）

Bj・Bk・Bl・Cj・Ck・Cl・Cm・Cn・Dj・Dk・Dl・Dm・Dn・Em・En区に位置する。確認面はⅤ層上面である。本川跡は上位に位置する川跡１～３の範囲とほぼ重なる。規模は確認した部分で長さ約44.2m，幅10～25.2m。調査開始時に調査区の北端・南端と中央付近の３箇所にトレンチを設定し，事前に層位堆積状態の把握を行った。その結果，木などの腐食物を多量に含む粘質の層が２群検出され，この２群を境に５つの時間差が確認できると判明した。これらの区分された層のまとまりを層群と呼称した。調査は各層群ごとに行い，遺物は各層ごとに取り上げた。層群は上位より第１～第５層群，各群の下面を第１～第５面とした。平面図は第２面（18層下面）と第５面（31層下面）を第20・21図に示した。なお，南地区では川跡の形状が複雑なため，特徴的な部分に対して，第２面では「東側張り出し」・「中洲状の高まり」，第５面では「落ち込み１」・「落ち込み２」・「南側平坦面」と名称を付し説明をした。

第２面の平面形は，東側ではDj・Dk区で大きく蛇行して東に広がり（東側張り出し），Dl区でわずかに東に膨らみ，南に向かいほぼ直線状になる。西側ではBk区からCm区で小さく湾曲するが，全体的にほぼ直線状で，Bl区を中心に浅くなっている。Cn区では東側に大きく曲がり，この部分から南では川幅は11～12mと狭くなる。中央部には砂層（20層）が堆積している。特にDm区の南側では約30㎝と厚くなり（中洲状の高まり），両川岸付近は細い溝状になる。Ck区，Dm区北側では全体に高くなっているが，これは第４面の地形の影響を受けたものであろう。岸部分の傾斜は，全体的にみると西側はなだらかで，東側は急であった。Dl区では他に比べ急な立ち上がりを呈する。

第５面の平面形は，基本的には第２面と大きな変化はないが，Ck区とDl・Dm区で落ち込み（落ち込み１・２）２箇所が認められ，確認面からの深さは，Ck区「落ち込み１」は110㎝，Dm区「落ち込み２」では150㎝である。南側では２面の「中洲状の高まり」部分が平坦になる（南側平坦面）。

以下，各層群ごとに概要，遺物の出土状態を述べ，その後，出土遺物の説明についても各層群ごと記述する。なお，土層番号は調査区北側の土層図c－c'（第22図）を基本としたが，対応しない場合は，新規に番号を付した。

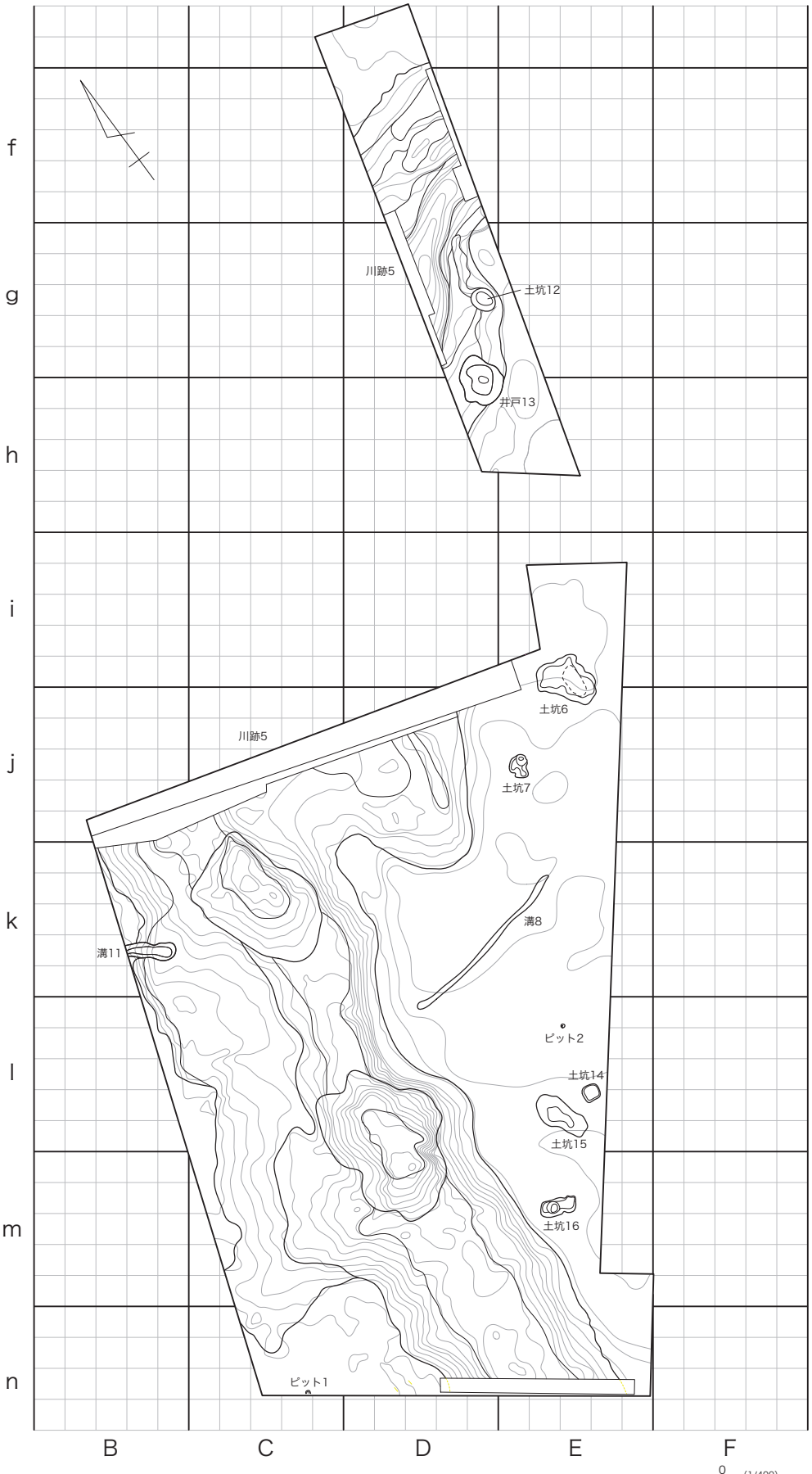
a. 各層群の概要と遺物分布

第１層群（第20・22～24・33図）

灰色シルト層の５～10層を第１層群とした。層群の厚さは北側で５㎝，中央部で30㎝，南側で20㎝ほどである。10層下面にあたる第１面は平坦であるが，南側では第３層群の砂層が高くなっているため，その結果高低差が生じ川岸付近が深くなっている。遺物は少なくDl・El区を中心に分布している。

第２層群（第20・22・23・25・26・32・33図）

有機物を含む粘質土層の11～18層を第２層群とした。層群の厚さは北側では５～10㎝，中央部で15～30㎝，南側の中央付近では30㎝であった。この層群は川跡５の全体に広がっており，Dj区の「東側張り出し」では本



第19図　蚤取橋遺跡 古墳時代の遺構配置図（第5面）

層群が最下層となる。Cl区では第1層群下に地山の砂層（V層）が露出し，本層群の広がりは認められない。遺物は，ほぼ全体に分布しているが，分布の偏りは大きく，特に「東側張り出し」に集中している。また，川岸にも集中しており，概して岸の急な部分に少なく，なだらかな部分に集中する傾向がある。

第3層群（第21～23・27・28・32・33図）

砂層と灰色シルト層の19～26層を第3層群とした。層群の厚さは，15～17㎝である。遺物は，砂層（20層）では少なく岸の斜面部分からの出土が多い。大まかな分布の傾向は上層の第2面と同様であるが北側およびBl区では少ない。また，東岸斜面部からは完形・半完形品が多い。

第4層群（第21～23・29・30・32・33図）

有機物を含む粘質土層の27層を第4層群とした。この層群は岸付近には認められず，流路の中央部にのみ認められる。層の厚さは北側で8㎝，中央部で6㎝，南側で10～15㎝である。第2層群と第4層群は一部が近接しているため，遺物が混入している可能性もある。Ck区に「落ち込み1」，Dl・Dm区に「落ち込み2」が認められた。「落ち込み2」の東端部には自然木を多量に含む部分があり，梯子（第55図211）が踏段部を下面に向け，川の流れとほぼ平行に出土した。全体的に本層群下部から第5層群にかけて木製品が多量に出土している。遺物の分布は，南側に多く，特に幅が狭くなった部分から南側に集中する。この部分は第2層群でも集中する傾向が確認された。北側では本層群は薄いため遺物は少なく，中央部分の幅4mほどの範囲に集中する傾向がある。なお，全体的に土器類は少なく木製品が多い。

第5層群（第21～23・31・33図）

砂層の28～30層を第5層群とした。この層群は流路の中央部でのみ認められる。オリーブ灰色の砂層（28層）が主体である。遺物の分布は「落ち込み2」と調査区北壁際にやや集中する。南側トレンチ掘削時には位置は記録せず小グリッドで取り上げたが，砂層（29層）から土器片が数点出土している。

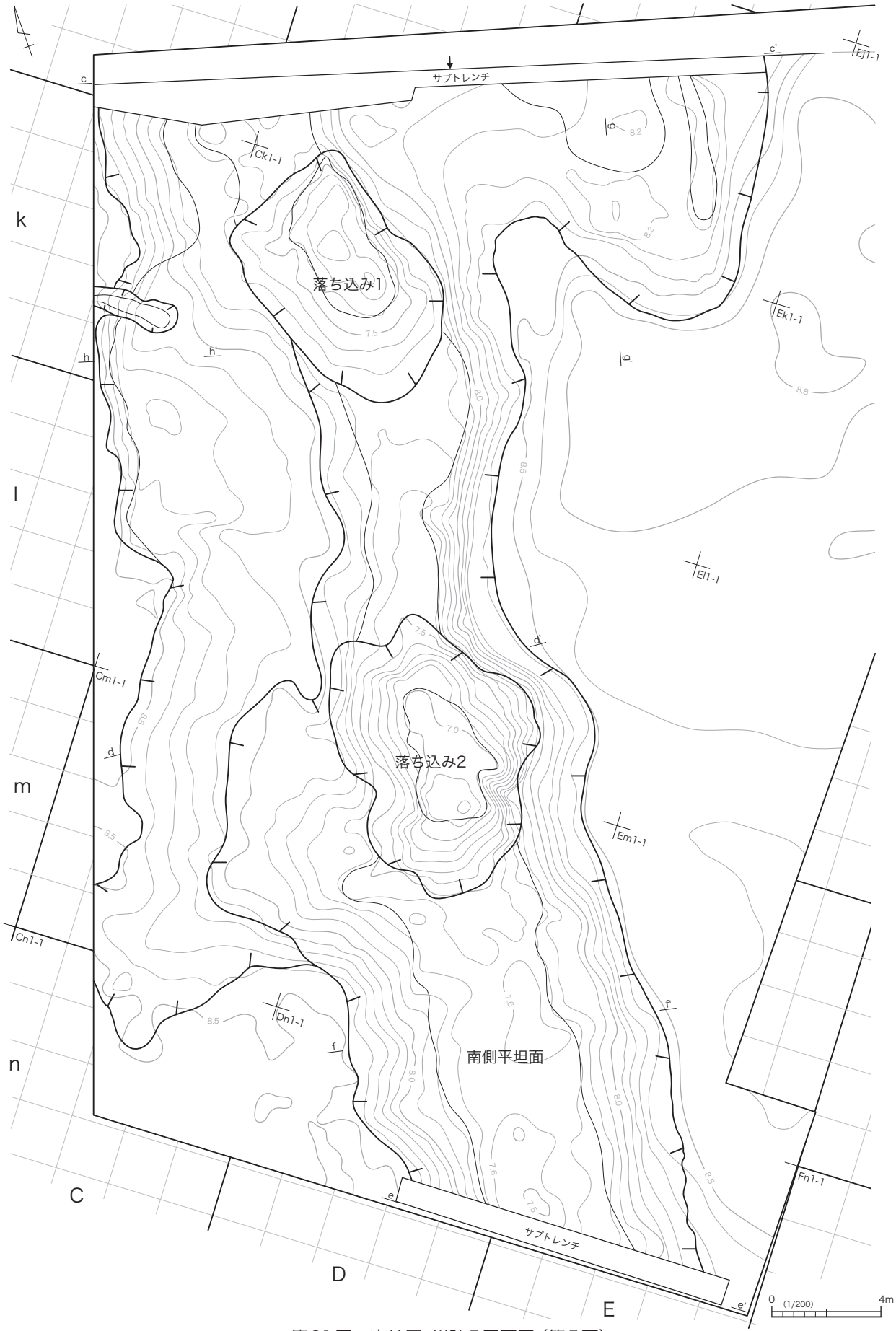
木製品の出土状態（第34図，図版6）

木製品は第4～5層群を主体に出土した。同層群からは自然木も多数確認でき，中には地山に食い込んでいるものもあった。第34図は第4～5層群の木製品の出土状態で，自然木も含めて図示した。木製品は出土位置を記録したもの251点，小グリッドごとに取り上げたものが237点で，計488点が出土した。分布状態は，本川跡の西側の浅い部分等にはほとんど認められず，流路の中央部から出土し「落ち込み1」・「落ち込み2」・「南側平坦面」に集中する。

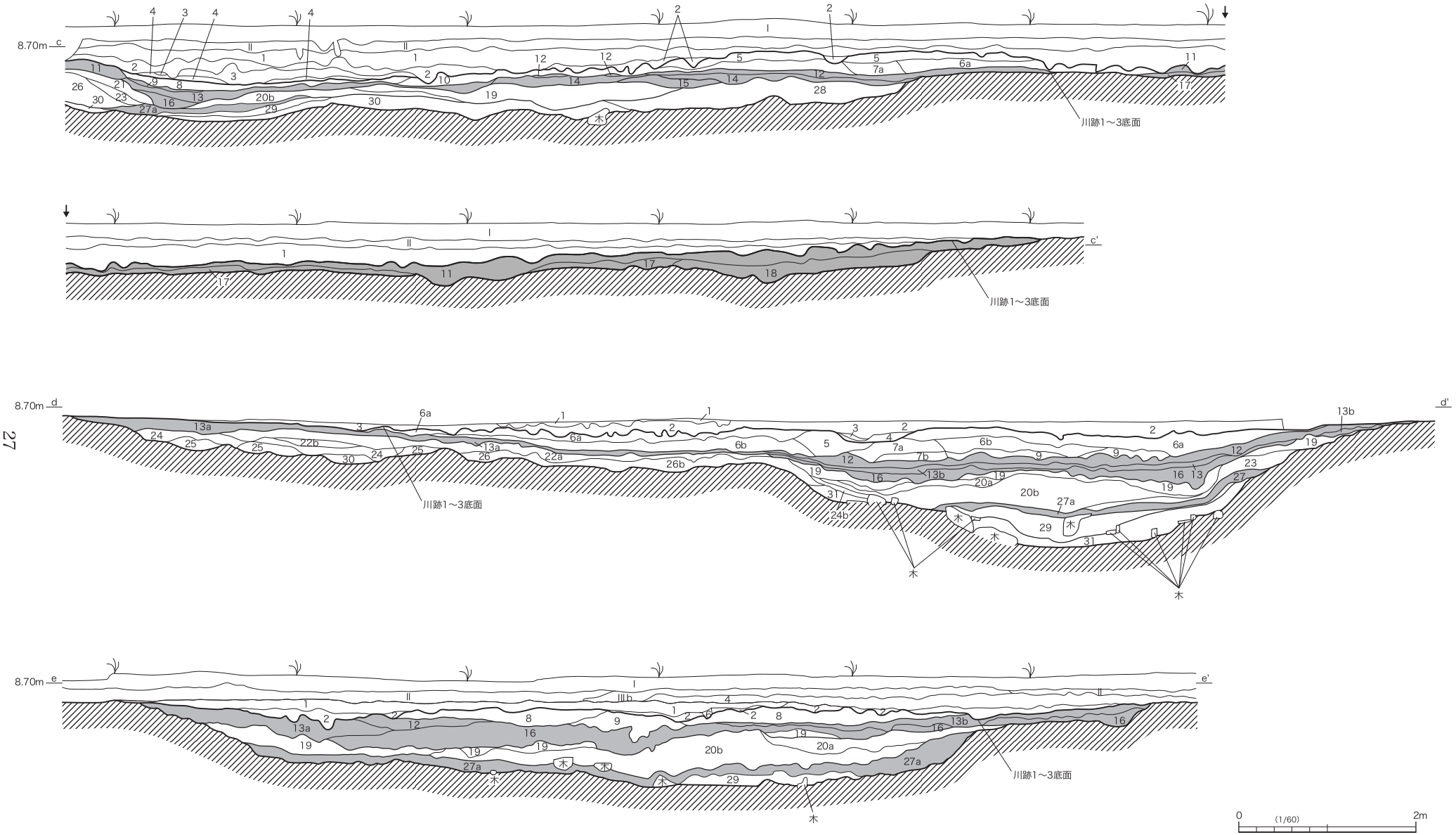
杭跡（第34・35図，図版7）

Cl区で杭を4本を確認した。杭1～3は東西方向に並び，杭3から南へ50㎝ほどに杭4がある。杭1・3はほぼ直立し，杭2・4は斜めである。これが当初から斜めであったかは不明である。いずれも頭部分は欠損しており，自然木の樹皮を残し小口を鋭利に尖らせている。出土地点は「落ち込み1」と「落ち込み2」に挟まれた浅い部分にあたり，砂層（V層）が露出して全体に高くなっており，この東側が流路と考えられる。また，この部分は第4層群の粘質土層の確認が不明瞭な部分にあたる。杭がどの面から打ち込まれたのかは確定できないが，第2層群調査時には確認できなかったため，第3層群の堆積以前と思われる。杭跡の性格として柵列の可能性もあるが何を目的とした杭跡なのかは不明である。

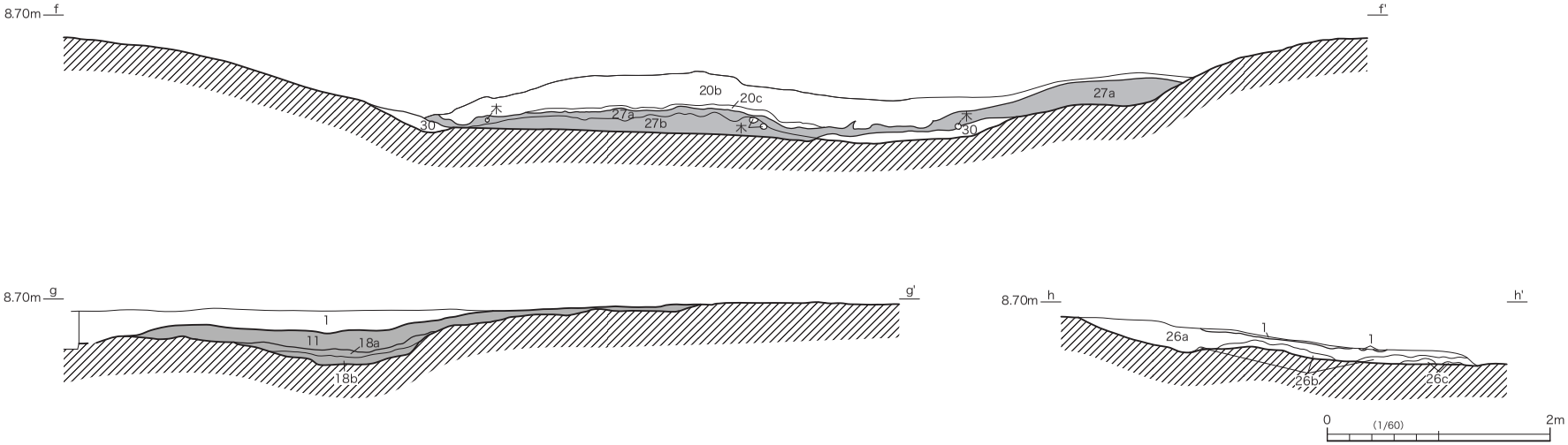
第20図　南地区 川跡5平面図（第2面）



第21図　南地区 川跡５平面図（第５面）



第22図　南地区 川跡5 断面図1



南地区　川跡１～３

1　10YR3/1　黒褐色土　粘性やや弱，締まりやや強。
2　10YR3/1　黒褐色土　粘性やや弱，締まりやや強。灰オリーブシルトをブロック状ないし縞状に含む。
3　10YR4/1　褐灰色シルト　粘性強，締まり弱。
4　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　粘性やや強，締まり弱。灰色砂（細砂）を縞状に少量含む。

南地区　川跡５

第１層群

5　5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性弱，締まり強。黒褐色（1・2層）を縞状に少量，細砂をブロック状に少量含む。
6a 7.5Y6/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰白色砂をブロック状に少量含む。
6b 7.5Y6/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。粗砂（黄褐色）を帯状に少量，木片，根，繊維などの有機物を微量含む。
7a 5Y8/2　灰白色砂　粘性なし，締まり弱。
7b 10G6/1　緑灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。褐色粘質土を縞状に多量含む。
8　2.5Y4/1　黄灰色シルト　粘性やや強，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を含む。
9　10YR6/1　褐灰色シルト　粘性強，締まり弱。灰白色砂（細砂）を層上部において，帯状に少量，褐色粘質土を斑状に含む。
10　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや強，締まりやや弱。黒褐色土を縞状に微量含む。

第２層群

11　10YR4/2　灰黄褐色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ１～５㎜の炭化物を少量，黒褐色土を縞状に少量，根，繊維などの有機物を微量，灰白色砂をブロック状に微量含む。（確認調査Ⅳ層と対応）
12　7.5YR5/1　褐灰色土　粘性強，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を多量含む。
13a 5YR4/1　褐灰色土　粘性強，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を多量含む。
13b 7.5Y5/2　灰オリーブ色土　粘性やや弱，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を少量含む。
14　2.5Y5/1　黄灰色砂　粘性なし，締まり弱。細砂が多量，木片，根，繊維などの有機物を少量含む。
15　2.5GY6/1　オリーブ灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を少量，φ１～２㎜の炭化物を微量含む。
16　7.5YR4/1　褐灰色土　粘性強，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を多量，φ１～10㎜の炭化物を少量含む。
17　2.5Y4/1　暗オリーブ灰色土　粘性やや弱，締まりやや弱。φ１～10㎜の炭化物，木片，根，繊維などの有機物・φ１～２㎜の炭化物を微量含む。
18a 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。φ１～５㎜の炭化物を少量木片，根，繊維などの有機物を含む。
18b 7.5YR3/1　黒褐色土　粘性やや強，締まりやや弱。φ１～６㎜の炭化物を少量，砂粒を多量，木片，根，繊維などの有機物を含む。

第３層群

19　2.5Y4/3　オリーブ褐色砂　粘性なし，締まり弱。灰色シルトをブロック状ないし帯状に少量，木片，根，繊維などの有機物を微量含む。
20a 7.5YR4/1　褐灰色土　粘性やや弱，締まりやや強。灰黄褐色土を縞状に少量，φ１～３㎜の炭化物・木片，根，繊維などの有機物を微量含む。
20b 10YR5/1　褐色砂　粘性なし，締まりなし。木片，根，繊維などの有機物を少量，φ２～５㎜の炭化物を微量，褐色シルトを斑状に含む。
20c 2.5Y4/3　暗オリーブ灰色土　粘性やや弱，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を少量含む。
21　7.5YR3/1　黒褐色砂　粘性なし，締まりなし。φ１～５㎜の炭化物を少量，木片，根，繊維などの有機物を含む。
22a 7.5YR4/1　灰褐色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を含む。
22b 5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり強。木片，根，繊維などの有機物を少量含む。
23　5Y5/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ１～25㎜の炭化物を多量，木片，根，繊維などの有機物を微量含む。
24　7.5YR4/1　褐灰色土　粘性やや強，締まりやや弱。φ１～10mmの炭化物を少量，木片，根，繊維などの有機物を含む。
25　5Y6/2　灰オリーブ色土　粘性やや弱，締まり弱。φ１～10mmの炭化物を少量，木片，根，繊維などの有機物を含む。
26a 10Y6/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ１～６㎜の炭化物を少量，木片，根，繊維などの有機物を微量，褐色粘質土を斑状に少量含む。
26b 7.5YR4/1　褐灰色土　粘性やや弱，締まり弱。
26c 7.5YR6/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まりなし。褐色砂を混入。

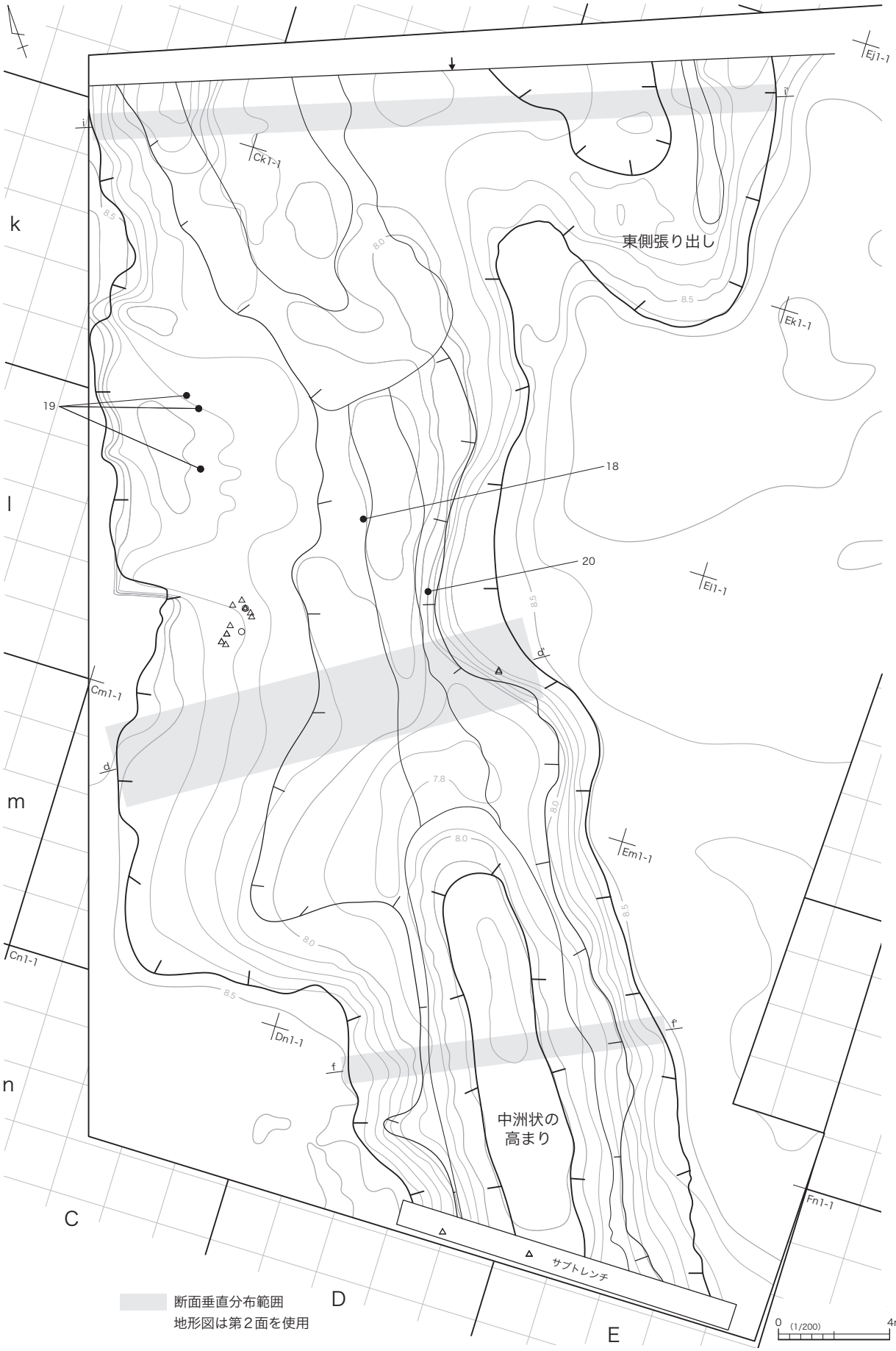
第４層群

27a 5YR4/1　褐灰色土　粘性強，締まりやや弱。木片，根などの有機物を多量に含む。
27b 10YR6/1　褐色土　粘性強，締まりやや強。木片，根などの有機物を小量に含む。

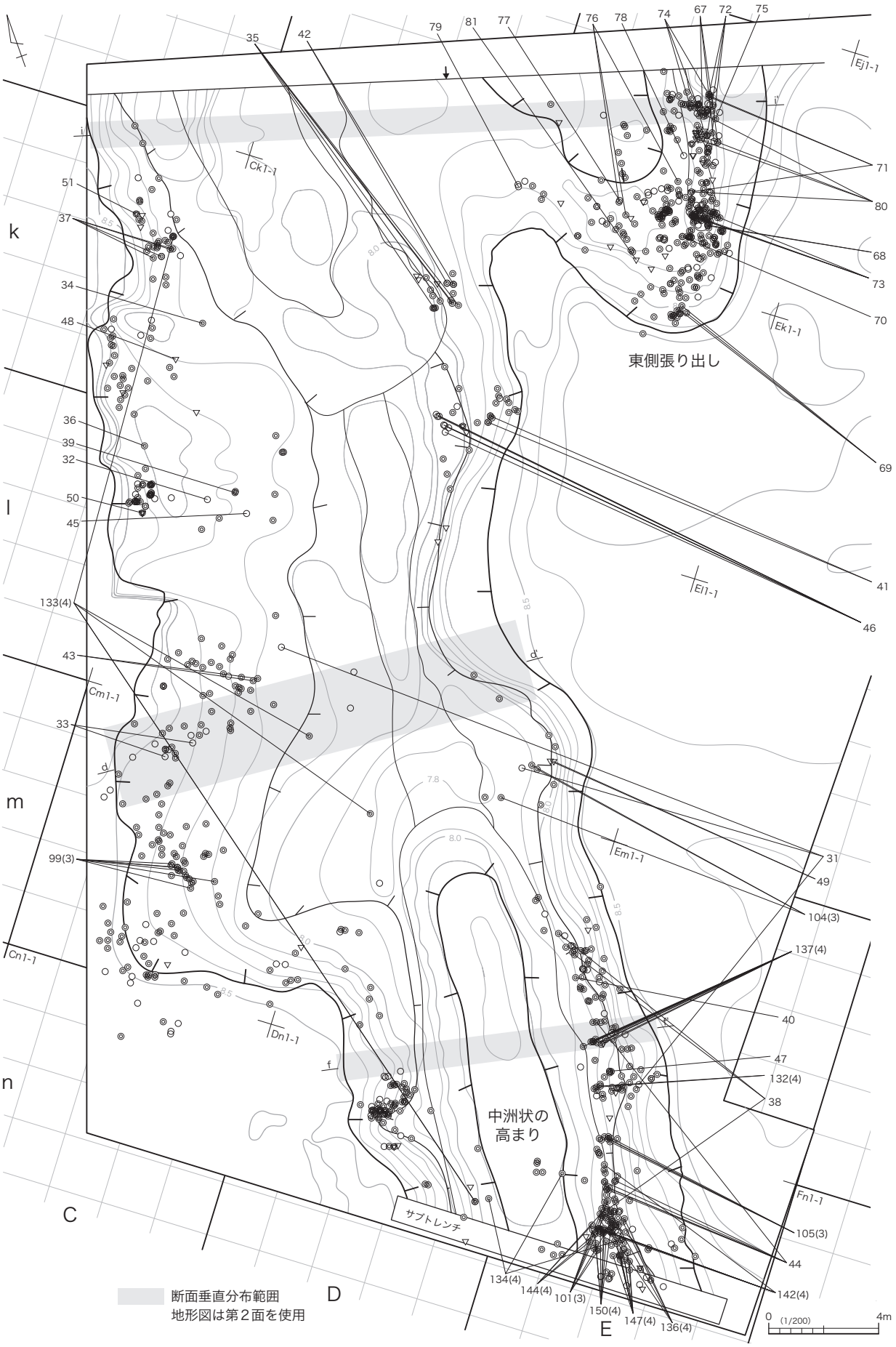
第５層群

28　2.5GY6/1　オリーブ灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰白色砂が帯状に多量混入し，オリーブ灰色シルトと互層をなす。φ1.5mmの炭化物，木片，根，繊維などの有機物を微量含む。
29　10YR5/6　黄褐色砂　粘性なし，締まりなし。
30　5GY5/1　オリーブ灰色砂　粘性なし，締まり弱。黄褐色砂を部分的に帯状に少量，木片，根，繊維などの有機物を微量含む。
31　7.5YR2/2　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。木片，根，繊維などの有機物を多量含む。

第23図　南地区 川跡5 断面図2



第24図　南地区 川跡5遺物分布図1（第1層群）

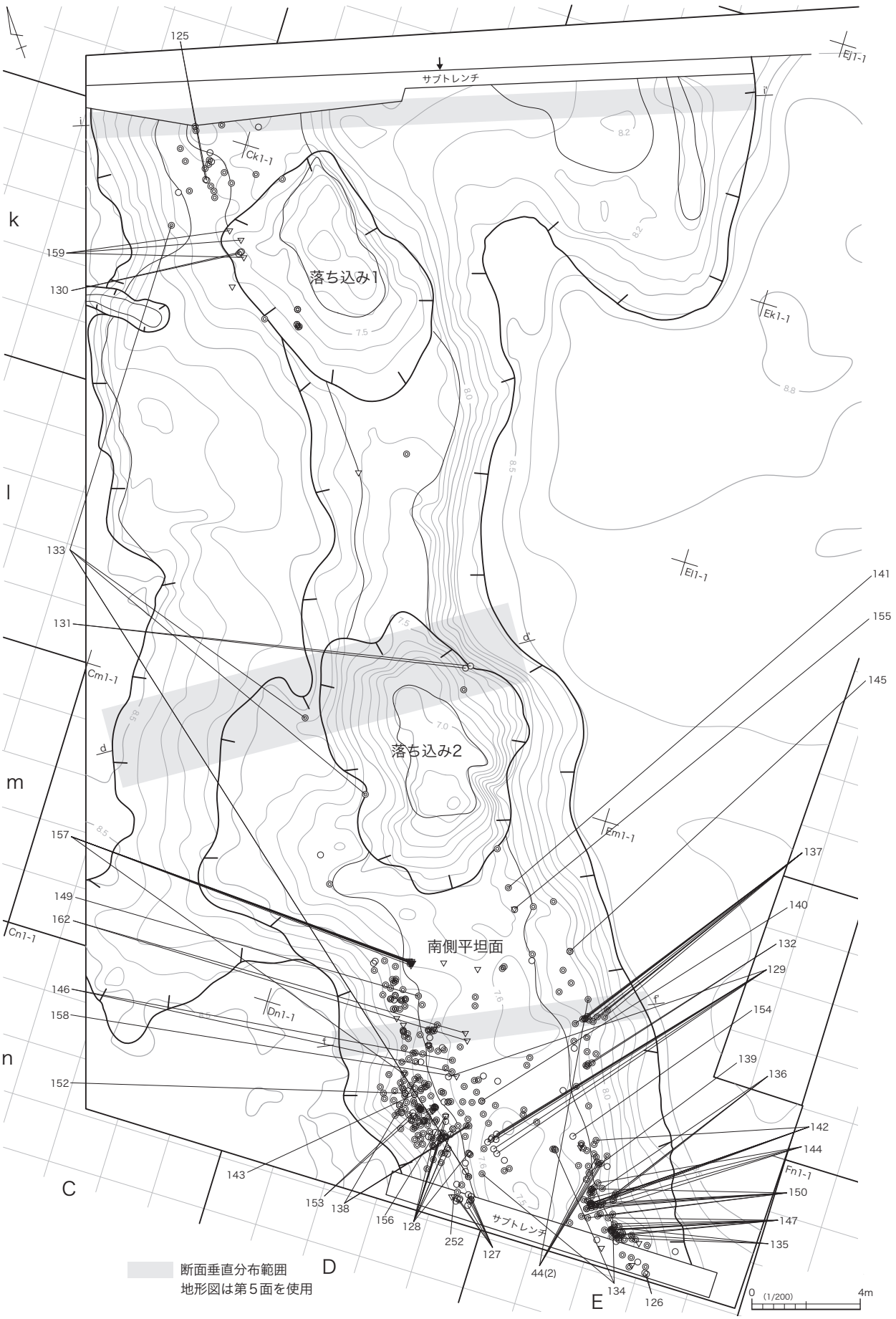


第25図　南地区 川跡５遺物分布図２（第２層群 土師器坏類・小形壺・甑）

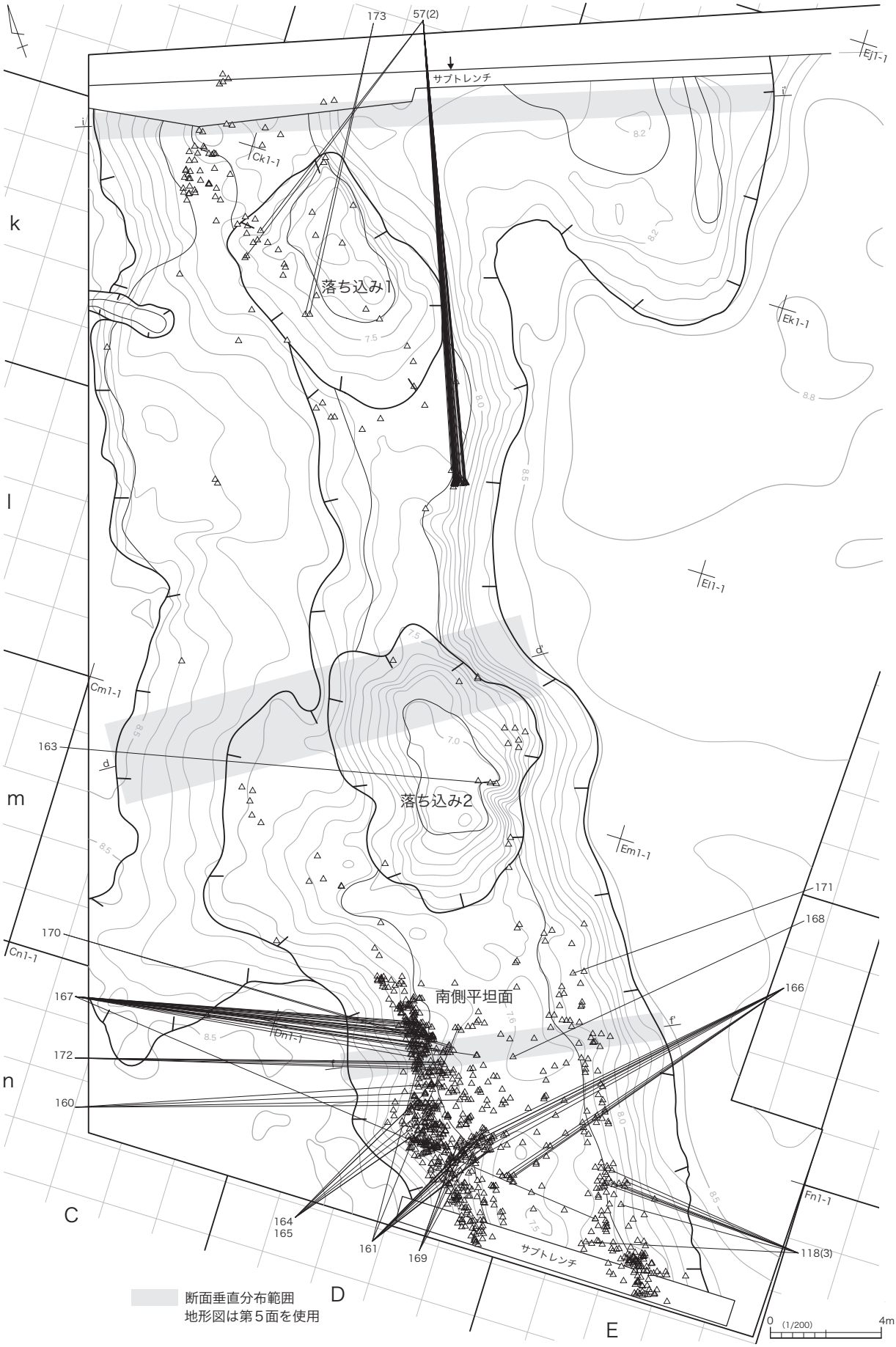
第26図　南地区 川跡5遺物分布図3（第2層群 土師器甕・壺）

第27図　南地区 川跡5遺物分布図4（第3層群 土師器坏類・小形壺・甑）

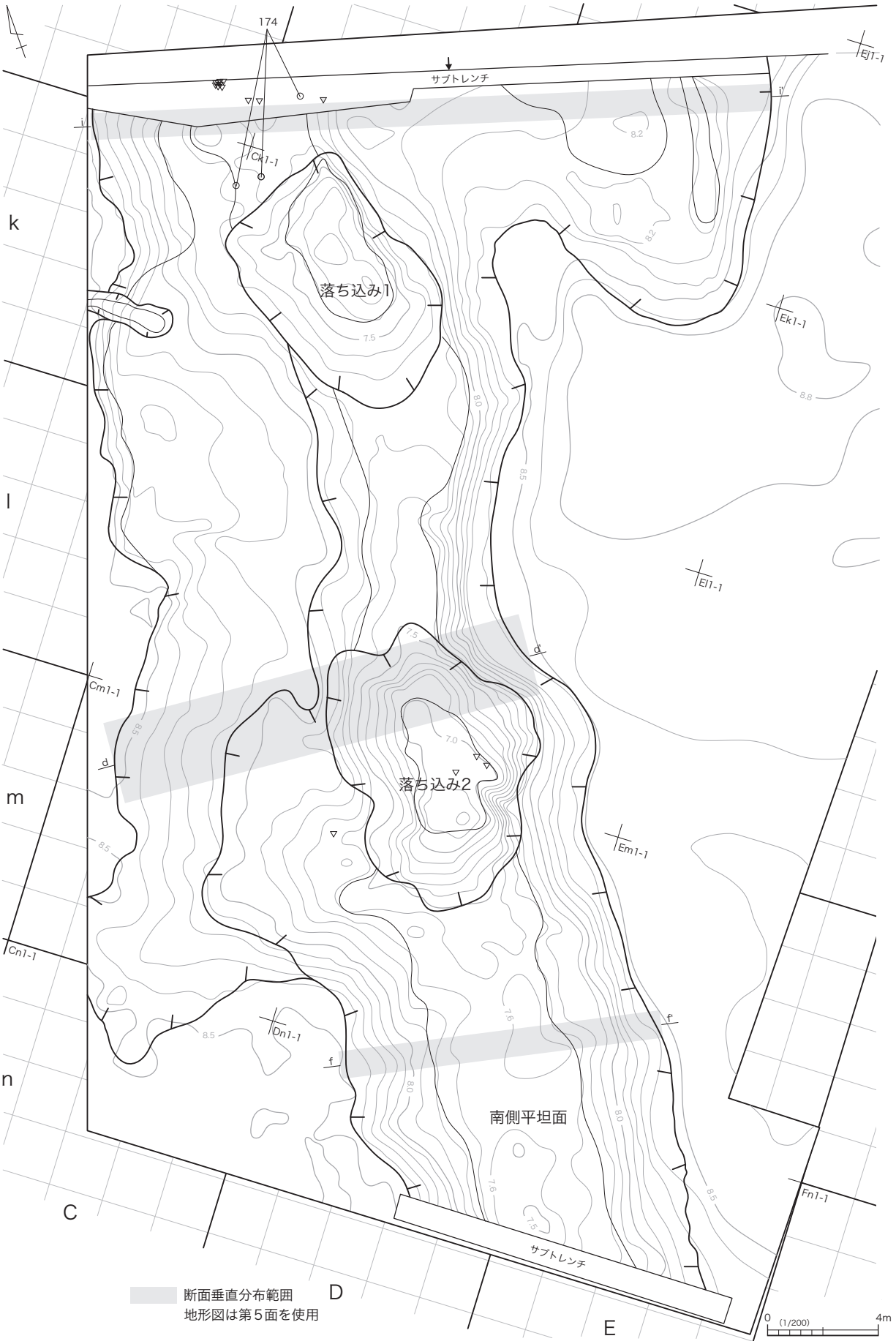
第28図　南地区 川跡5遺物分布図5（第3層群 土師器甕・壺）



第29図　南地区 川跡5遺物分布図6（第4層群 土師器坏類・小形壺・甑）

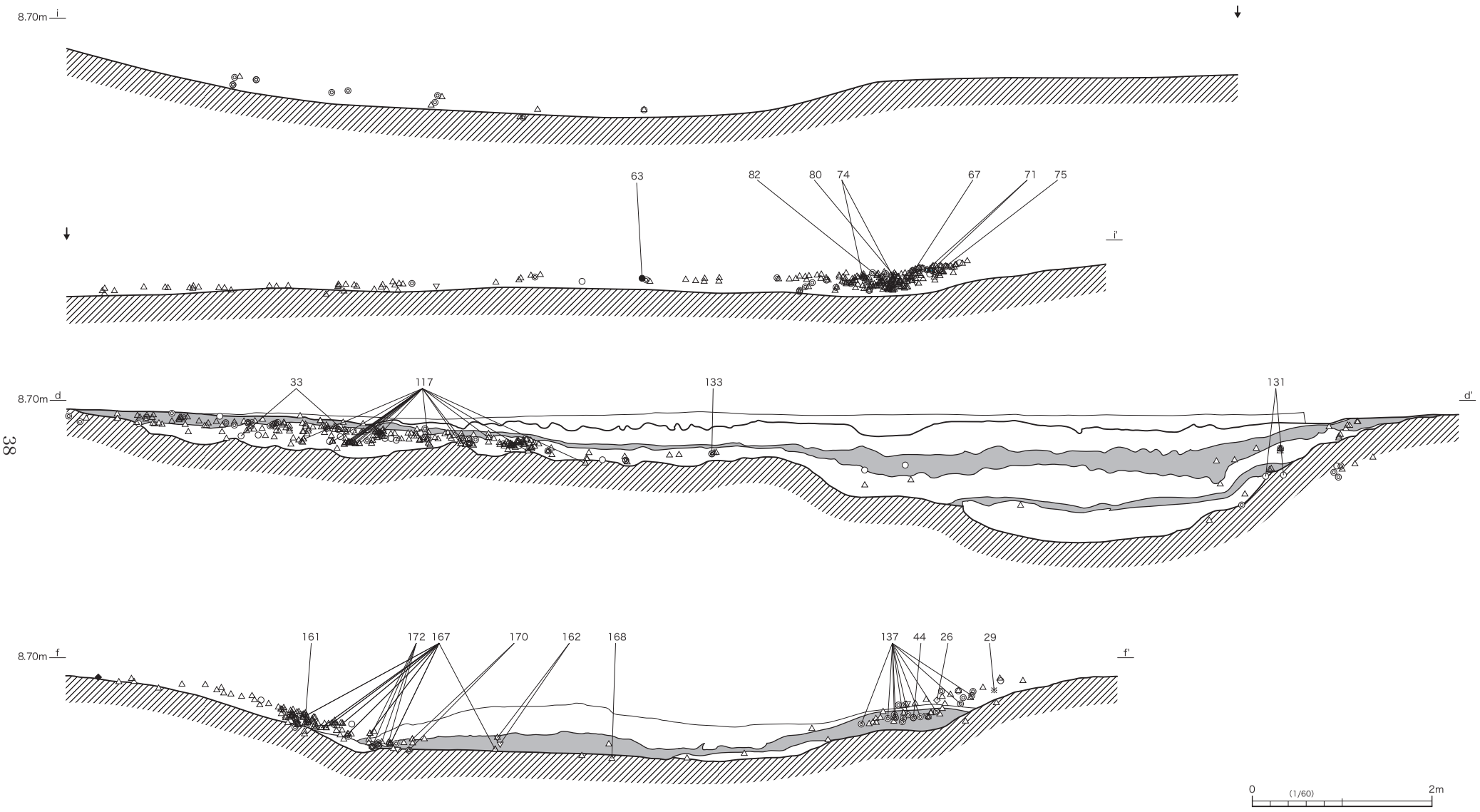


第30図　南地区 川跡5遺物分布図7（第4層群 甕・壺）

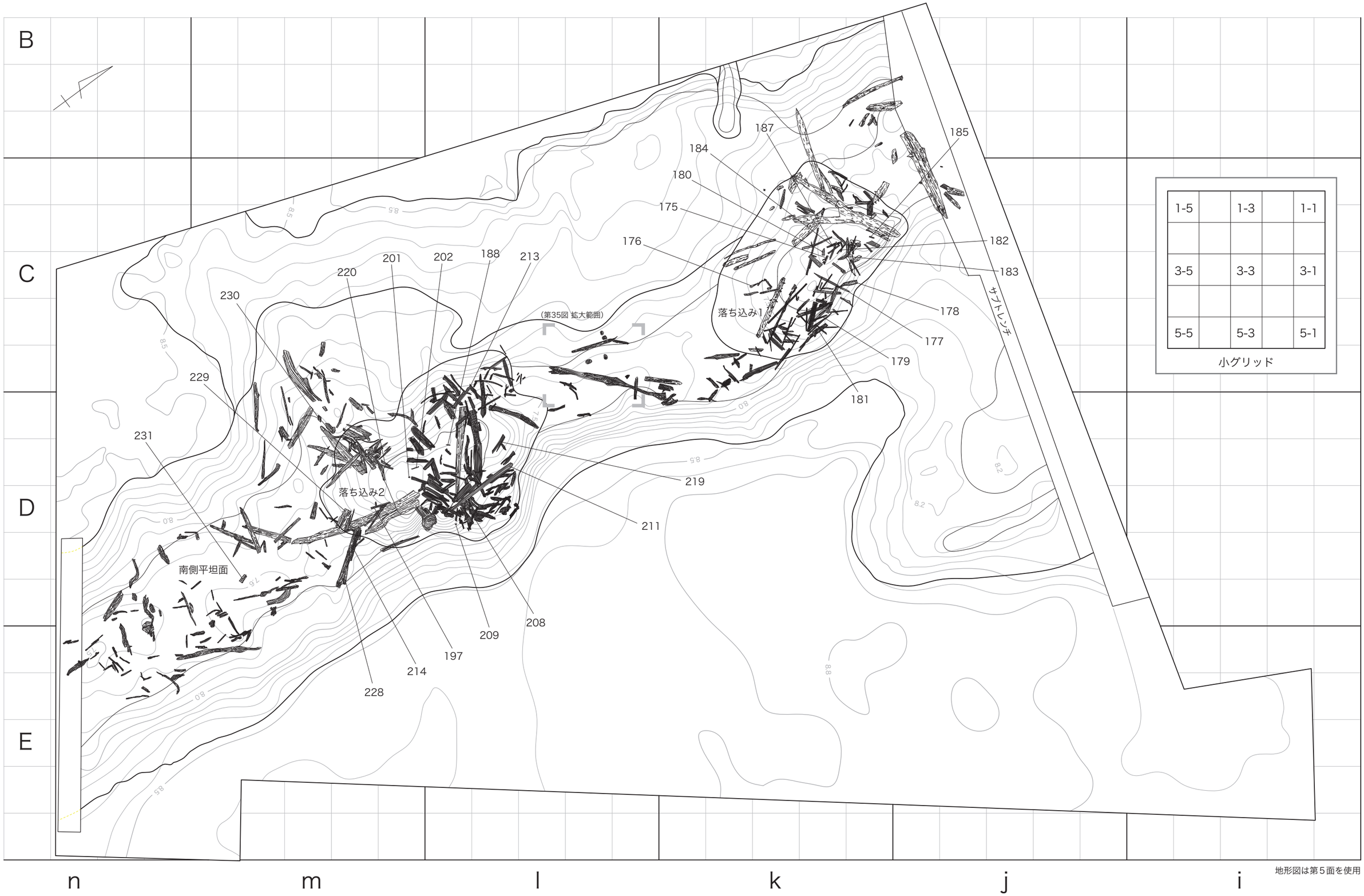


第31図　南地区 川跡5遺物分布図8（第5層群）

第32図　南地区 川跡5遺物分布図9（須恵器・土製品・祭祀関係遺物）

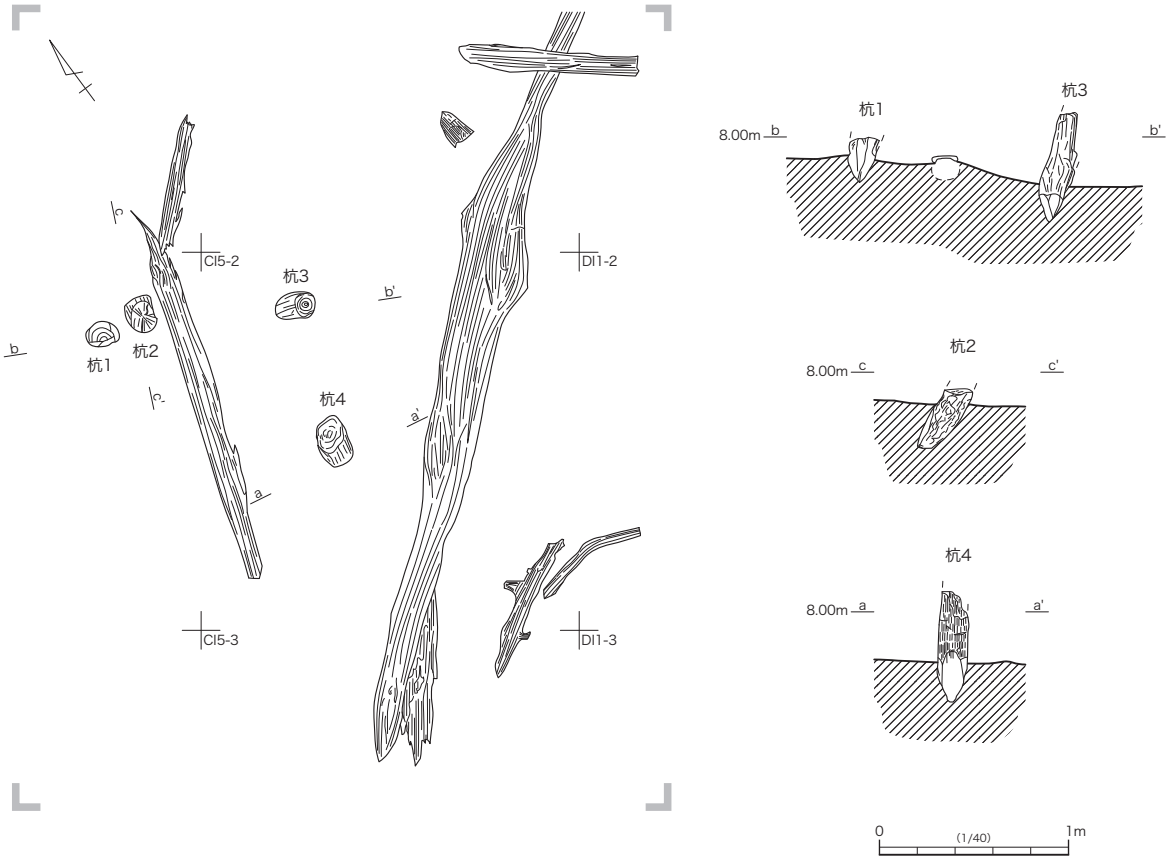


第33図　南地区 川跡5遺物分布図10（第1～5層群）

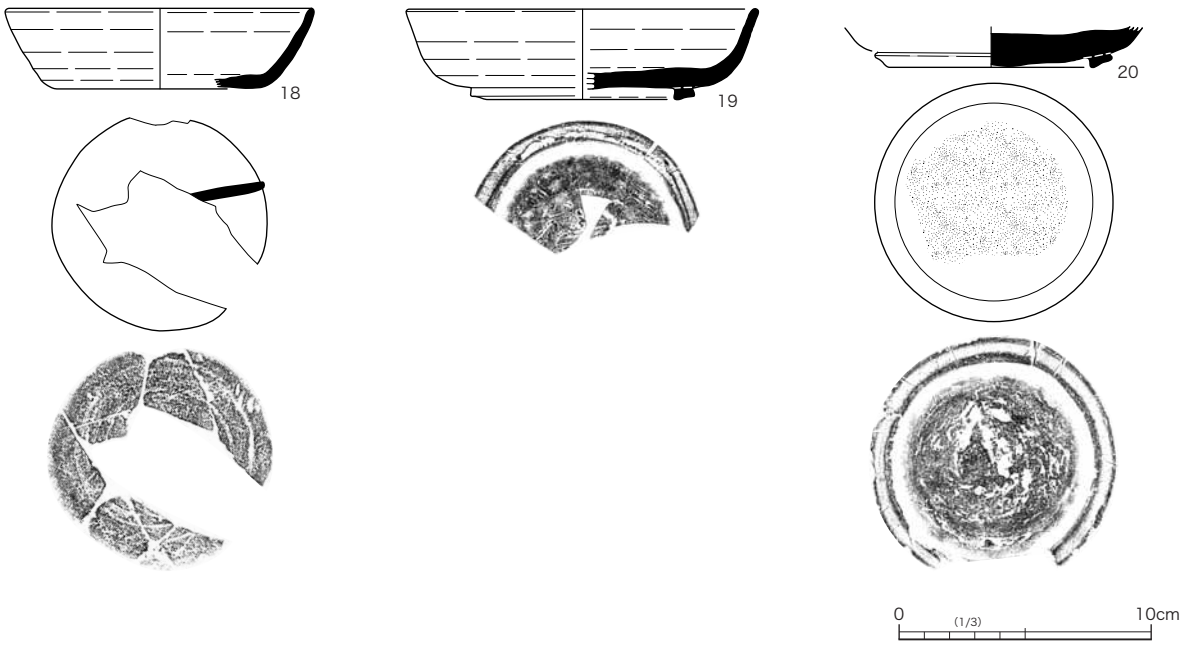


地形図は第５面を使用

第34図　南地区 川跡５第４・５層群の木製品出土状態



第35図　南地区 川跡５杭微細図



第36図　南地区 川跡５出土遺物１（第１層群）

b. 川跡５出土土器

第１層群（第24・33・36図18～20，図版17・24）

遺物は須恵器の坏・高台付坏，土師器の坏・甕が出土したが，多くは小片のため，図示したのは3点のみであった。18は古代の須恵器の坏で，胎土に白色粒を多く含み，底部はヘラ切りである。また，底部外面に墨書が認められるが，中央部が欠損するため文字の判読はできない。19・20は古代の須恵器の高台付坏である。19の胎土は緻密で堅く焼成されている。20は胎土に金雲母を多く含んでいる。ともに貼り付け高台で底部はヘラ切りである。なお，20は底部外面は中央部が磨滅しており，墨痕が僅かに認められることから転用硯と思われる。

第２層群（第25・26・32・33・37～39図21～61，図版17・18・24・25）

遺物は須恵器の坏・蓋，土師器の坏・高坏・鉢・壺・甑・甕，手捏土器，支脚，羽口が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少ないため，形状などが確認できるものを中心に図示した。

21・22は古墳時代の須恵器の蓋で，南側底面から出土した。21は外面に沈線状の段が僅かにある。22は口縁部を一部欠くが，ほぼ完形品である。

23～27は古墳時代の須恵器の坏で，23・26は南側東岸，24は北側東岸，27は南側底面から出土した。25は南側東岸と「東側張り出し」から出土した遺物が接合した。27以外はいずれも口縁端部が僅かに凹み，26は沈線状なる。

28は古代の須恵器の蓋で，Cl1－2区の粗砂層より出土し，神明裏遺跡の川跡2から出土した破片と接合した。天井部はほぼ平坦で口縁端部が僅かに下方に突出する。天井部は回転ヘラケズリで中央付近にツマミのとれた痕跡が僅かに残る。外面は自然釉が厚くかかる。内面は中央部が磨れており，微かに墨痕があることから，転用硯と考えられる。

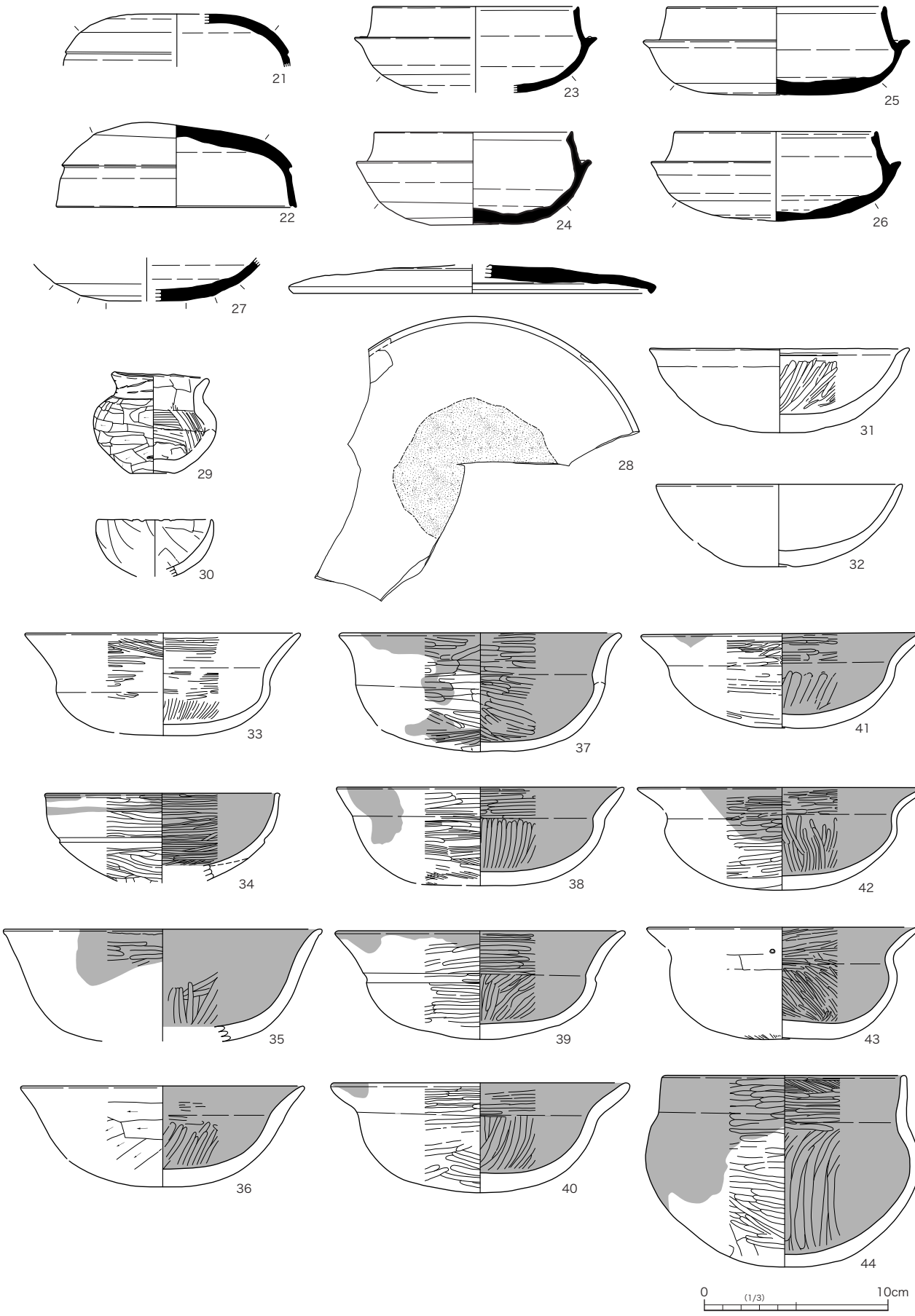
29・30は土師器の手捏土器で，ともに東岸から出土した。29は壺型で口縁部はナデ，体部はヘラケズリを施す。胎土は緻密である。30は坏形である。

31～33は土師器の坏で，31は南側東岸と西岸付近出土の破片が接合した。32は西岸付近からの出土である。33は西岸付近で，2層群と3層群からわかれて出土している。31は口縁部が僅かに外傾し内面はヘラミガキである。32は全体が磨滅しており調整は不明で，形は半球状で底部外面の中央部が窪んでいる。胎土は白色針状物質を含む。33は体部中位で括れ，大きく外反する。内外面にヘラミガキを施す。

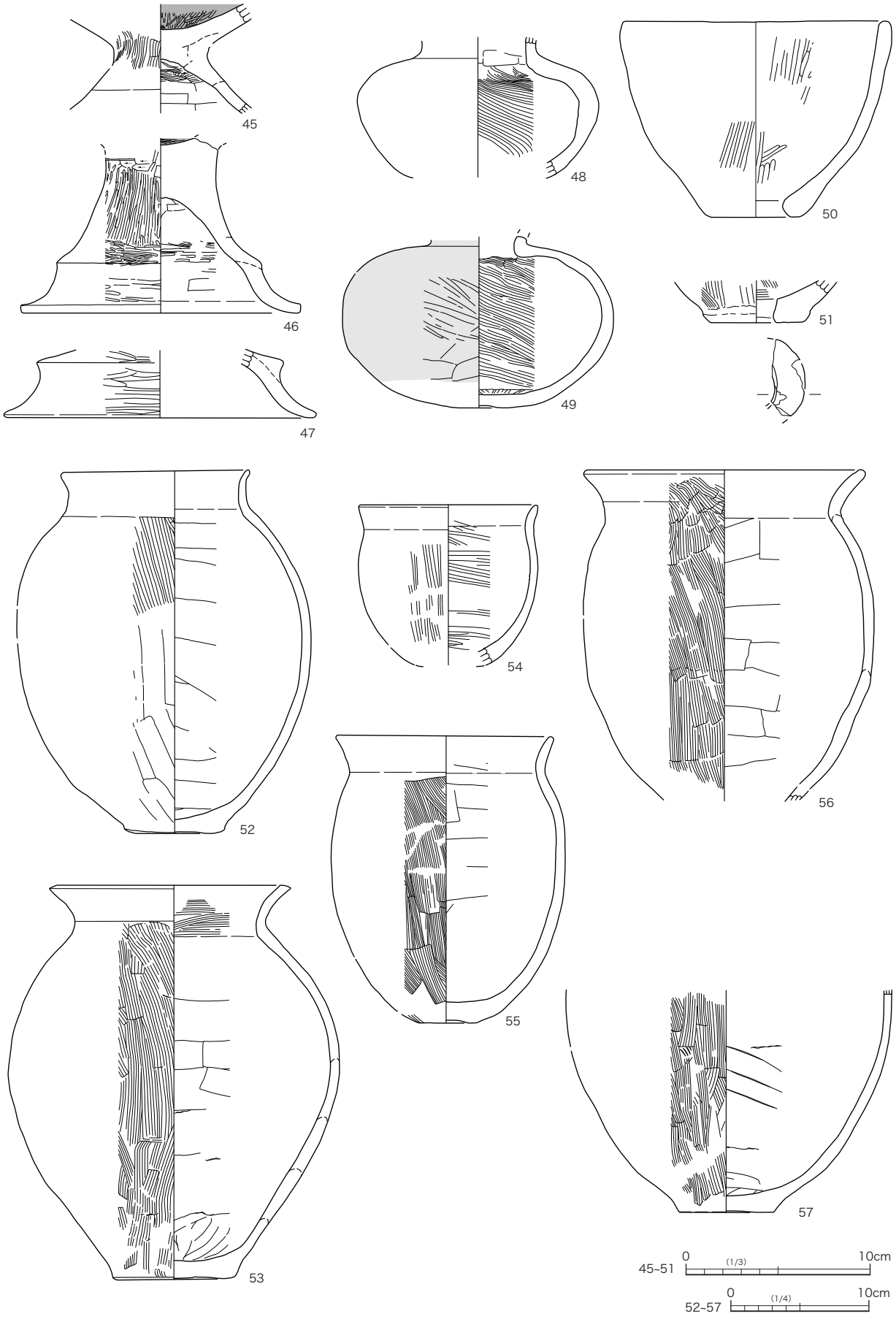
34～43は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，35・42は北側東岸，36・37・39・43は西岸付近，38・40は東岸南側から出土した。34は体部に沈線状の段があり，上半はほぼ直立する。口縁部は僅かに平坦面があり，一見すると蓋のようである。内外面とも横位に丁寧にヘラミガキが施され体部下半は僅かに厚くなり，この部分に縦位にヘラケズリを施しており，高坏の可能性も考えられる。35の底部は半球状で口縁部は緩やかに外傾する。36は口縁端部が緩やかに外反し，内面には稜線が認められる。37の底部は半球状で口縁部は外反する。38～43の底部は半球状で体部は僅かに括れ，口縁部が大きく外傾する。外傾の度合いは38や42のように様々である。43の底部は平底になり中央部が僅かに凹む。体部の括れは大きい。

44は土師器の鉢で，南側東岸の2層群から出土した破片と北に約6m離れた4層群から出土した破片が接合した。体部は球状を呈し，口縁部はほぼ直立する。内面全面と外面の多くの部分に黒色処理を施す。

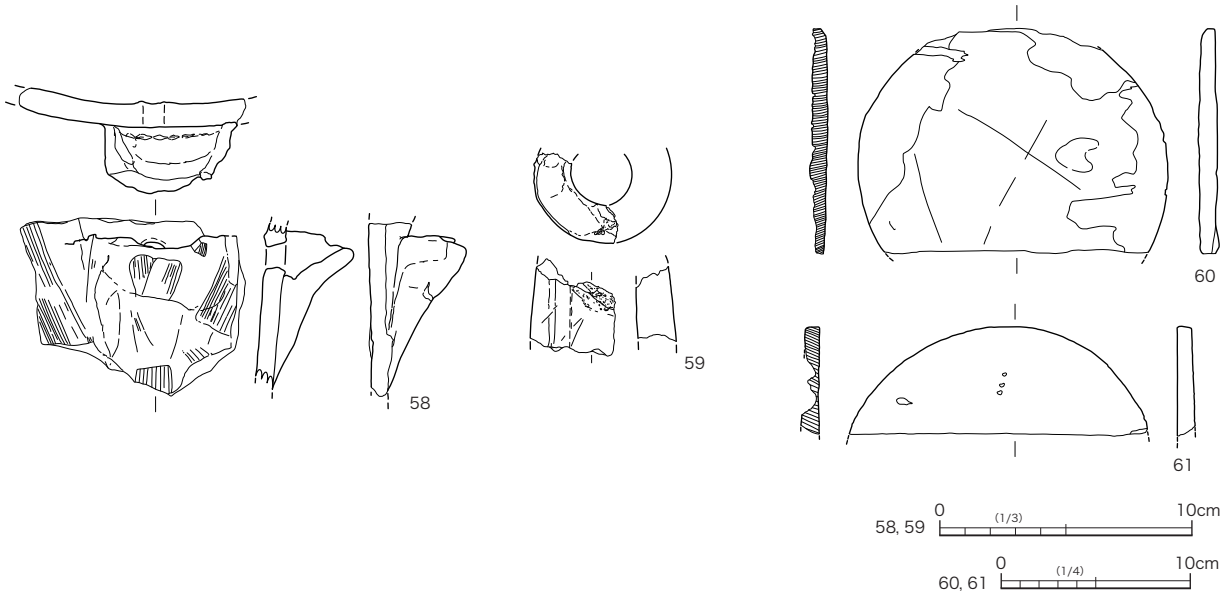
45～47は土師器の高坏で，45は中央北寄りの西岸，46は中央北寄りの東岸，47は南側東岸から出土した。45は脚部が大きく開く。46・47は脚部に段状の稜を持ち，外面は丁寧にヘラミガキが施される。45・46の坏部は内面に黒色処理を施す。



第37図　南地区 川跡5出土遺物2（第2層群）



第38図　南地区 川跡5出土遺物3（第2層群）



第39図　南地区 川跡5出土遺物4（第2層群）

48・49は土師器の小形の壺で，48は西岸，49は東岸直下の底面から出土した。どちらも口縁部は遺存しない。内面はハケメを明瞭に残す。49は外面に赤彩を施し，胎土は白色針状物質を含む。

50・51は土師器の甑で，いずれも西岸から出土し，いずれも底部は平底で，単孔式である。50は内外面ともにヘラミガキを施す。51は内外面ともにハケメを残す。

52・53は土師器の壺である。52は東岸北側，53は西岸から出土した。52は口縁部がほぼ直立し口縁端部で僅かに外反する。体部外面の上半をハケメ，下半はヘラナデとしたが，おそらく工具の調整角度によって器壁への木目部分の表れ方の違いと考えられ，肉眼で明確にハケメと見える部分のみハケメとした。53は口縁部が「く」の字状に外傾し，口縁部にナデ，体部は内面にヘラナデ，外面はハケメを施す。

54～57は土師器の甕である。54・55は東岸北側，56は西岸から出土した。57は東岸と西岸から出土した破片が接合した。54は口縁部が外傾し，口縁部はナデ，体部は内外面にハケメを残す。55・56は口縁部が「く」の字状に外傾し，口縁部にナデ，体部は内面にヘラナデ，外面はハケメを施す。55の底部は中心部が凹む。

58は土師器の形状不明土器である。体部に穿孔があり，その外側に受け口状に粘土を貼り付ける。外面には煤が付着する。全容は不明である。阿賀野市腰廻遺跡で類似例が出土している。

59は羽口の破片で，先端に近い部分と考えられる。上部の割れ口にガラス質滓が付着している。

60・61は曲物容器の底板と考えられる。側面に釘跡などは認められない。表面は平らであるが，裏面は腐食が激しい。60の表面には「×」と見える刻みが看取される。なお，60の材質は樹種同定の結果スギと同定された。61も肉眼で見る限り同種と考えられる。

第2層群「東側張り出し」（第25・26・32・33・40～42図62～94，図版18～20・25）

遺物は須恵器の坏・蓋，土師器の坏・高坏・鉢・壺・甑・甕・形状不明土器，支脚，羽口，砥石，木製品が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少ないため，形状などが確認できるものを中心に図示した。

Dj区の「東側張り出し」から多量の土器が出土しているため，この部分を分けて報告する。遺物は「東側張り出し」全体に分布しているが，岸付近に多く，特に東岸下の深くなった部分に集中している。

62・63は須恵器の蓋で，ともに天井部外面に回転ヘラケズリを施し，口縁端部には僅かに段がある。なお，

62の口径は復元値であるが，他に比べかなり小さく，現存部が歪んでいる可能性がある。

64・65は須恵器の坏で，64は口縁端部に沈線状の段があり，底部は回転ヘラケズリを施す。65は形状から蓋の可能性もあるが，磨滅しているため判別できない。

66は土師器の手捏土器で，円筒形で全体的にナデを施す。

67・68は土師器の坏で，67は口縁部はナデ，体部は内外面にハケメ後ナデである。体部下端と底部は手持ちヘラケズリを施し，平底である。68は口縁部が内傾する。内外面ともにナデを施す。

69～76は内面に黒色処理を施す土師器の坏である。69は半球状の底部で，口縁部は肥厚し直立する。内面はヘラミガキ，外面はナデを施す。70は口縁部が直立し，ナデ調整され器幅は薄くなる。内外面にヘラミガキを施す。71～76は半球状の底部で，体部が括れ，口縁部は外傾する。75は体部の括れが弱い。76の底部外面には焼成前のヘラ書き「𠂉」が認められる。

77・78は土師器の高坏脚部で，77は内面にはハケメ，外面にはヘラミガキを施し，胎土は脆い。78は棒状で外面は縦位に丁寧にヘラミガキされ，坏部は内面に黒色処理を施す。

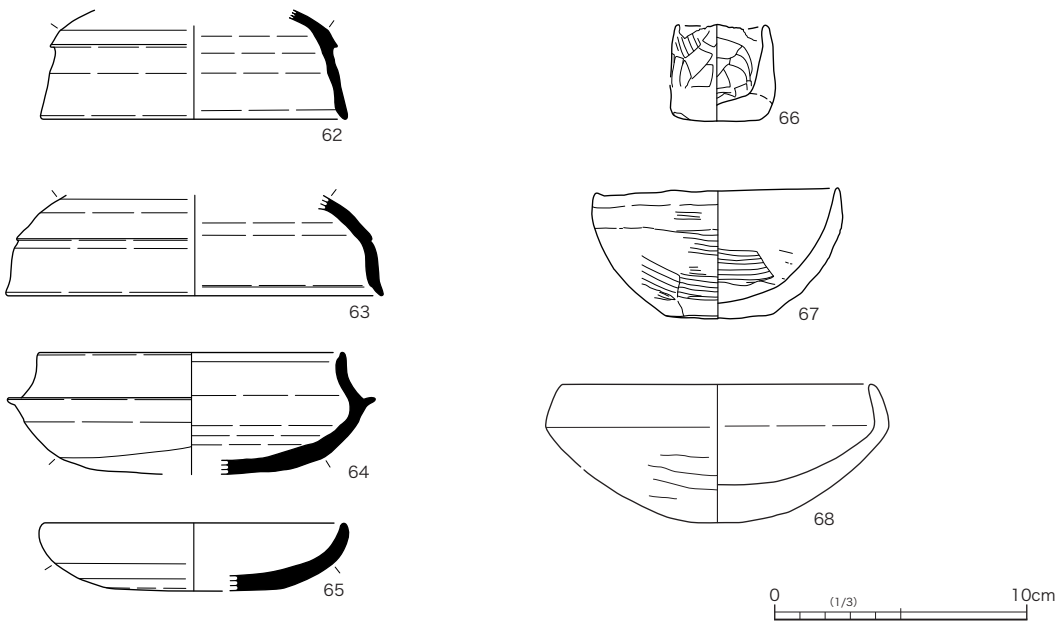
79は鉢とした。体部は内外面に雑なヘラミガキが施される。

80・81は小形の壺で，80は頸部と体部は接合しないが，胎土・色調・調整などから同一個体と考え復元実測をした。口縁部は僅かに外傾する。内面は黒色処理，外面はヘラミガキが施される。胎土は粗く，大粒の石英粒を含む。81は体部のみが残存する。内面は頸部に指頭調整，体部はナデを施す。外面は頸部に縦位，体部は横位のヘラミガキ，下端はハケメを施す。

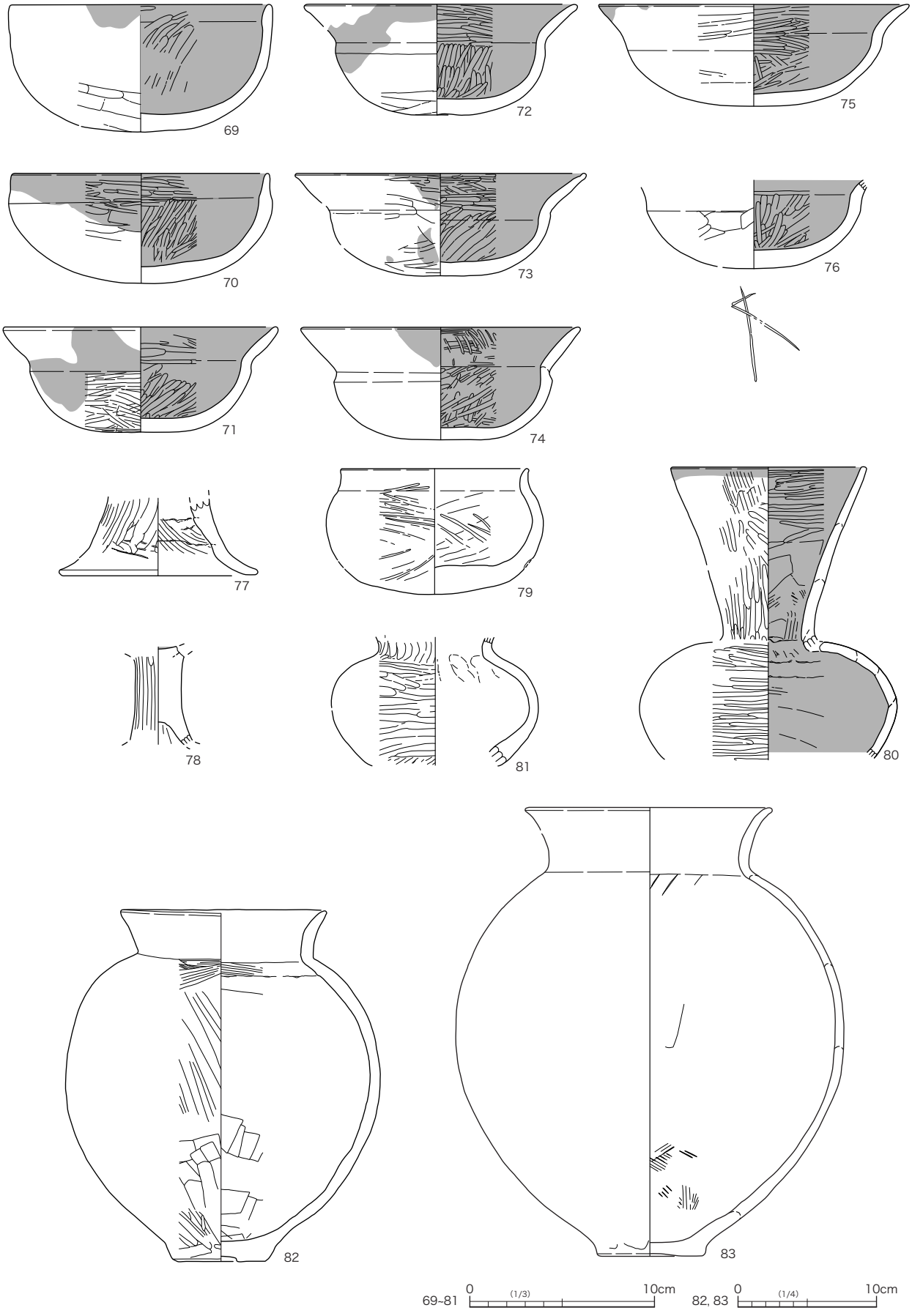
82・83は土師器の大形壺で，82は体部外面にヘラミガキを施し，底部は中央部が凹む。83は磨滅しており調整は明瞭ではないが，ヘラナデを施し，底部は僅かに凹む。

84～93は土師器の甕で，多くは口縁部にナデ，内面はヘラナデを施し，体部外面はハケメを残す。88・91は内外面にハケメを残し，88は体部外面の下端にヘラケズリを施す。

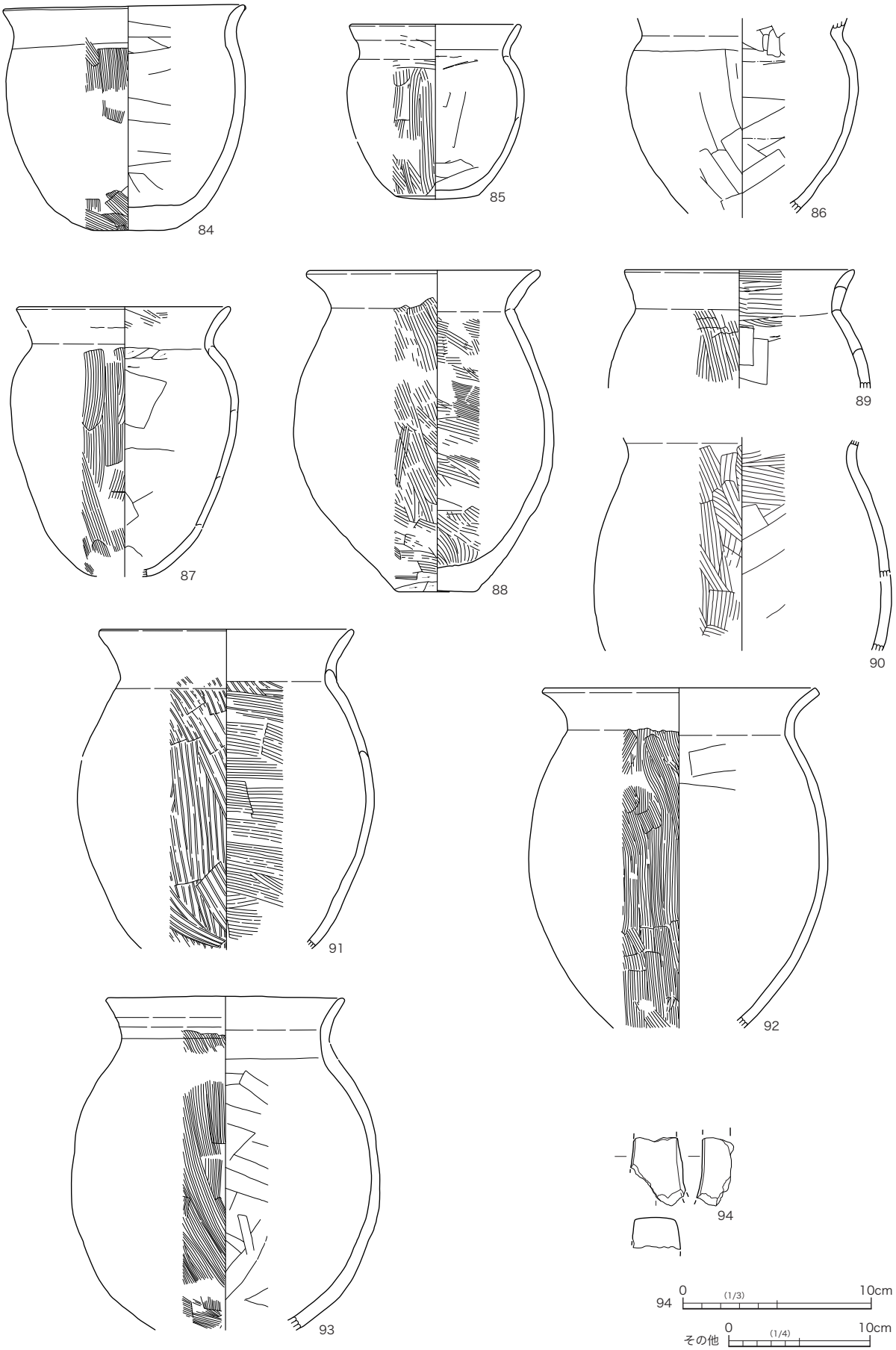
94は砥石で，使用による磨滅が窺えるが，小片のため全容は不明である。



第40図　南地区 川跡5出土遺物5（第2層群東側張り出し）



第41図　南地区 川跡5出土遺物6（第2層群東側張り出し）



第42図　南地区 川跡5出土遺物7（第2層群東側張り出し）

第３層群（第27・28・32・33・43～45図95～120，図版20・21・25）

遺物は土師器の坏・高坏・鉢・壺・甑・甕，手捏土器，支脚が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少ないため，形状などが確認できるものを中心に図示した。土師器の器形は第２層群とほぼ変わりなく，須恵器は出土しなかった。

95・96は土師器の手捏土器で，ほぼ完形出土である。95は底面，96は東岸から出土した。95は底部が台状になり，不整形である。96は体部が半球状で，脆く一部が欠損している。

97～105は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，98・100・101・103は南側の東岸斜面から底面にかけて，99・102は中央南寄りの西側に張り出した部分の斜面，97は北側の西岸のなだらかな斜面から出土した。97は全体が半球状を呈し，体部中位に沈線状の段がある。その他はいずれも半球状の底部で体部には括れがあり，口縁部は外傾する。調整は磨滅して不明瞭なものも多く，基本的には内外面ともにヘラミガキである。103はクシ状工具によるナデが施される。焼成前のヘラ書きが，101の外面・102の内面に「艹」，105の底部外面に「−」が認められる。

106は脚部はないが，土師器の高坏と思われる。南側の西岸より出土した。内外面ともにヘラミガキ，内面に黒色処理を施す。

107・108は土師器の鉢で，107は南側の西岸，108は北側の底面より出土した。107は口縁部がほぼ直立している。口縁部はナデ，体部は粗くナデを施す。108は体部が内湾気味に立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。体部外面は不明瞭であるがヘラミガキを施し，煤が付着する。

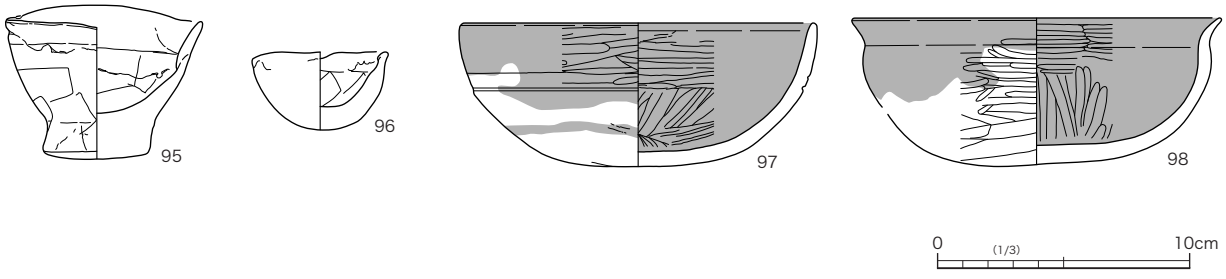
109は小形の壺で，南側の中洲状部分の東側砂層から出土した。内面はヘラナデ，外面はヘラミガキを施す。胎土は白色針状物質を含む。110は壺の体部下半で，南側の東岸から出土した。内面はヘラナデ，外面はヘラミガキを施す。胎土は大粒の石英・金雲母を含んでいる。

111は土師器の甑で，南側の西岸から出土した。鉢状を呈し，内面はヘラナデ，外面はハケメを施し，単孔式である。

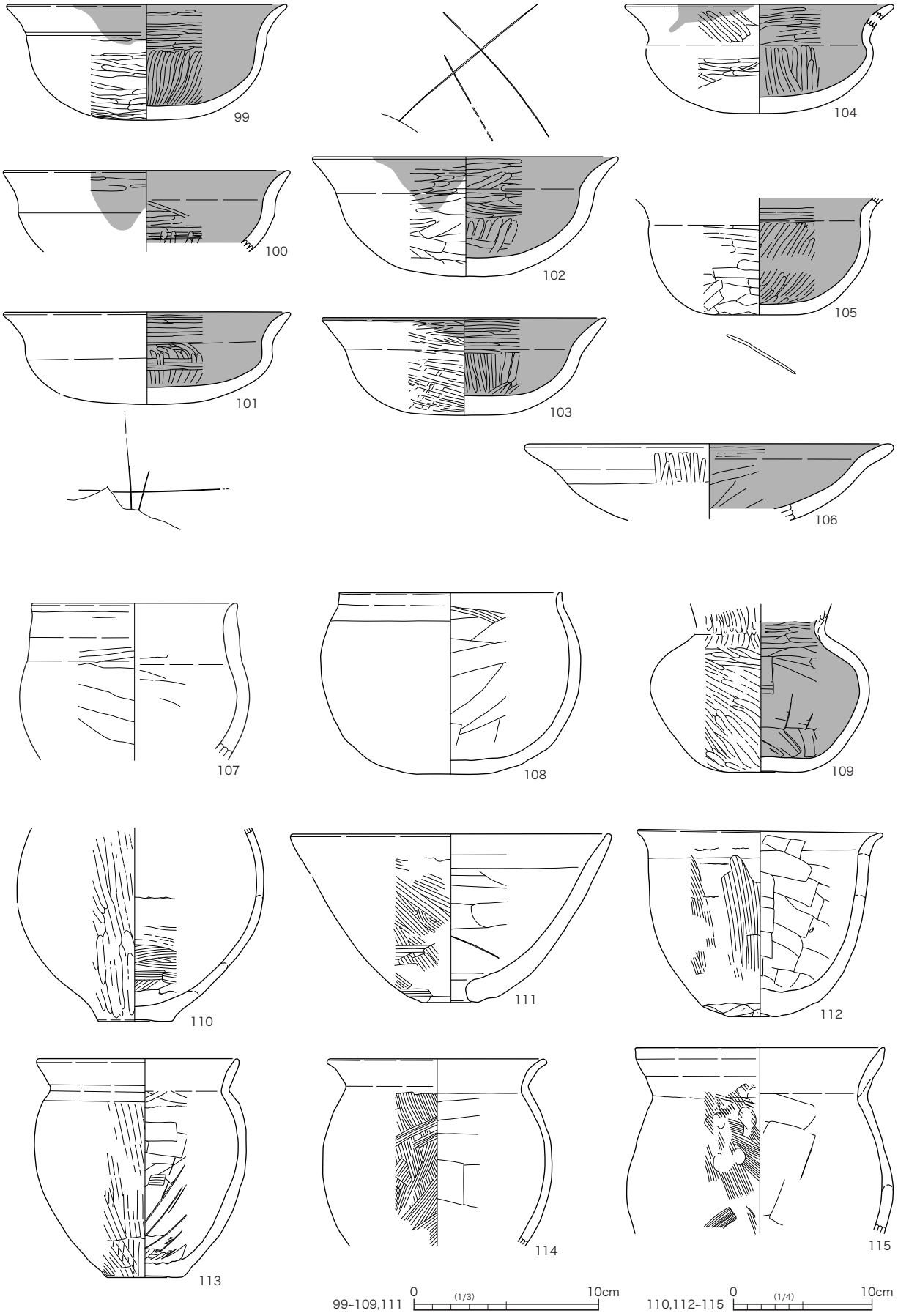
112～118は土師器の甕で，112は中央南寄り西側に張り出した部分，113・116は北側の底面，114・117は中央の西岸，115は南側の中洲状部分の西側から出土した。112の体部は括れず，口縁部は外反する。体部内面はヘラナデを施す。体部外面はハケメを残し，下端にヘラケズリを施す。113～118は内面はヘラナデを施し，外面にハケメを残す。117・118は内面の一部にハケメを残す。115の口縁部は「く」の字状に外傾する。

119は土師器の形状不明土器で，58と同様に体部外面に受け口状の貼り付けを施す。全体の形状は不明で，受け口の内側の体部は割れており，おそらく体部に穿孔されていたであろう。外面に煤が付着する。

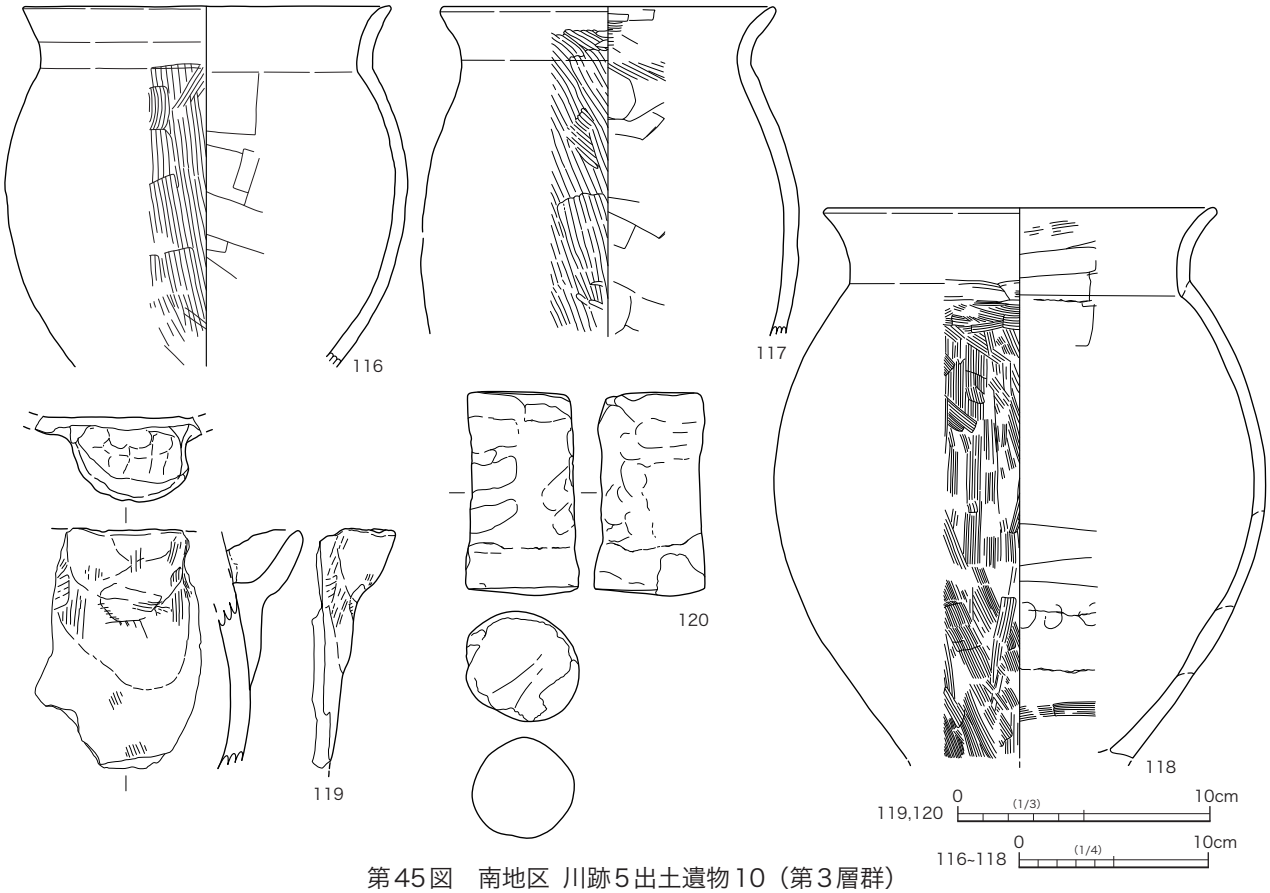
120は支脚である。円筒状で上下の幅に変化は乏しいが，僅かに太い方を下部とした。ナデを施し，指頭痕が残る。



第43図　南地区 川跡５出土遺物８（第３層群）



第44図　南地区 川跡5出土遺物9（第3層群）



第45図　南地区 川跡5出土遺物10（第3層群）

第4層群（第29・30・32・33・46～49図121～173，図版21～23・25）

遺物は須恵器の坏・蓋，土師器の坏・高坏・鉢・壺・甑・甕，支脚が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少ないため，形状などが確認できるものを中心に図示した。なお，須恵器は全て古墳時代と考えられる。

121・122は須恵器の蓋で，ともに南側の東岸から出土し，口縁端部に沈線状の段がある。

123・124は須恵器の坏で，ともに南側の底面から出土し，口縁端部に沈線状の段がある。

125～131は土師器の坏で，125・130は北側の西岸，126は南側の東岸，127～129は南側の西岸，131は「落ち込み2」東側から出土した。125は口縁部が僅かに外傾し，内面にはヘラミガキを施す。126は半球状を呈し口縁端部は僅かに内湾し，内外面ともにナデを施す。127～130は口縁部が外反し，内外面はヘラミガキを施す。131は内外面ともヘラミガキを施し，内面全面と口縁部外面に赤彩が認められる。

132～150は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，多くは南側に集中し132・135～137・139～141・142・144・145・147・150が東岸，138・143・146・149が西岸，148は北側の西岸から出土した。133は西岸の広い範囲で2～4層群に分かれて出土した破片が接合した。134は東岸と西岸の破片が接合した。いずれも調整は基本的に内外面ともにヘラミガキを施す。132は平底で，口縁部はほぼ直立する。体部外面に籾の圧痕がある。133は体部外面の段から内湾気味に口縁部がほぼ直立する。134～136は半球状の体部から内湾して延びる。137は平らな底部から緩やかに外傾し，内面には稜線状の段がある。138は平らな底部から体部で僅かに括れ，口縁部が外傾する。139は外面の段から外反気味に口縁部が僅かに外傾する。140・141は括れず外面に稜線をもつ。142～150は体部で括れ，口縁部が外反する。147～150は体部で括れ，口縁部が大きく外傾する。138は体部外面の下半にクシ状工具によるナデが認められる。140・141・143・145は体部外面の下半にヘラケズリを施す。140・149は外面にハケメが僅かに残る。焼成前のヘラ書きが，133の内面に「卄」，142の底部外面に「×」

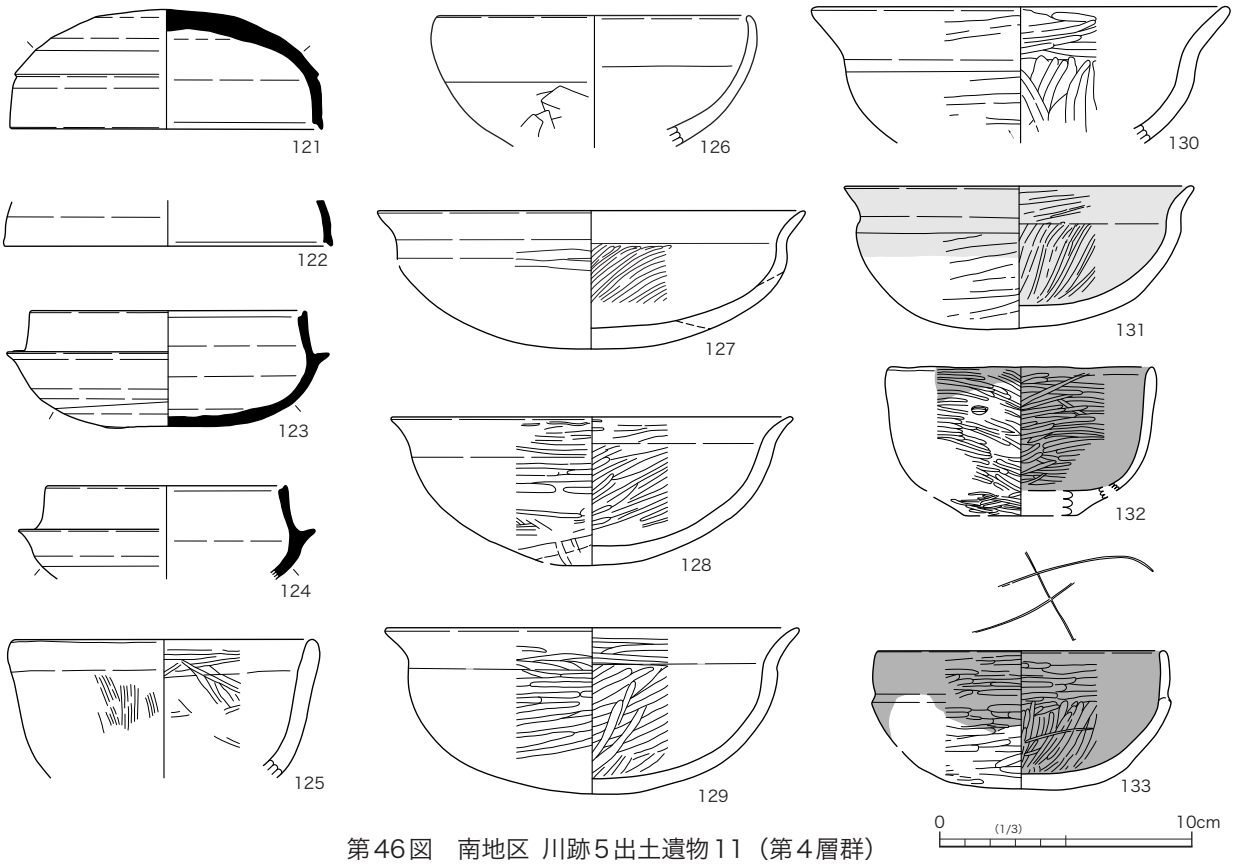
が認められる。

151～154は土師器の高坏で，151を除き坏部内面に黒色処理を施す。151～153は南側の西岸，154は南側の東岸から出土した。いずれも坏部は内外面はヘラミガキ，脚部内面はハケメを残し，外面はヘラミガキを施す。152は外面に貼り付けによる突帯が認められる。151の外面には沈線が認められる。153は坏部をほとんど欠損し，剥離痕の凹んだ部分に漆による接合の痕跡が認められる。脚部は大きく「ハ」の字状に開く。

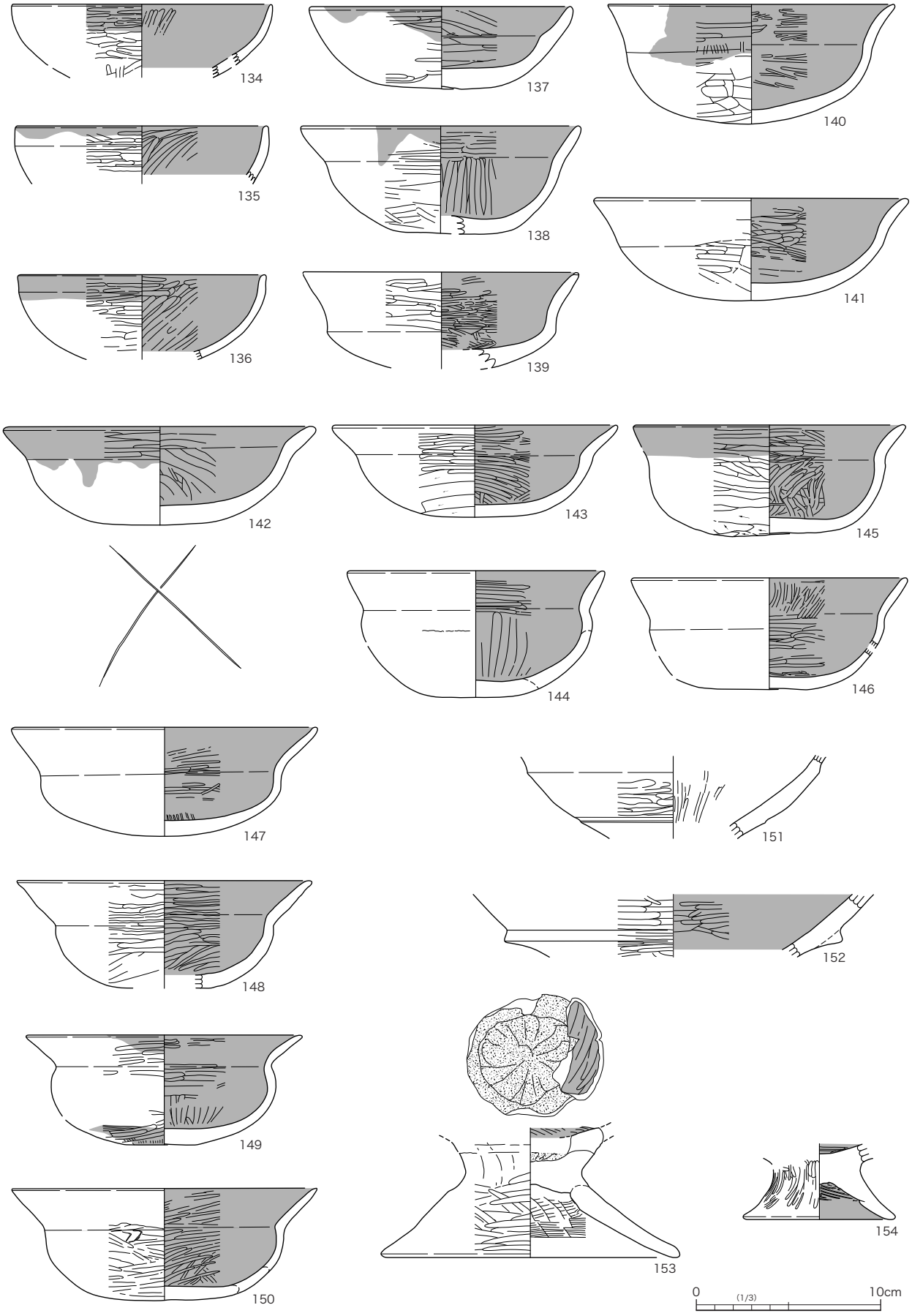
155～161は壺で，155は「南側平坦面」東岸，156～158・160・161は「南側平坦面」西岸，159は「落ち込み1」西端部から出土した。155～158は小形で，155～157は体部以下を欠損し，158はほぼ完形である。いずれも口縁部は僅かに外傾する。口縁部の内外面は丁寧にヘラミガキを施し，頸部内面に僅かにハケメを残す。156・158の胎土に白色針状物質を含んでいる。158の口縁部には破砕痕が認められた（図版22）。159は口縁部で内外面はヘラミガキ，体部内面にヘラナデを施す。胎土は赤褐色を呈し細かく，白色針状物質が極少量混入する。外面には煤が付着している。160は体部下半で，内外面はヘラミガキ，底部内面にハケメを残す。胎土は細砂粒を少量含む。161は大形で，体部外面に粗いヘラミガキ，内面にヘラナデを施し，底部付近にはハケメを残す。底部と口縁部を除き煤が付着する。

162は土師器の甑で，無底式である。形状は甕型で口縁部は「く」の字状である。内外面ともに上半はヘラミガキを施し，下半はハケメを残す。

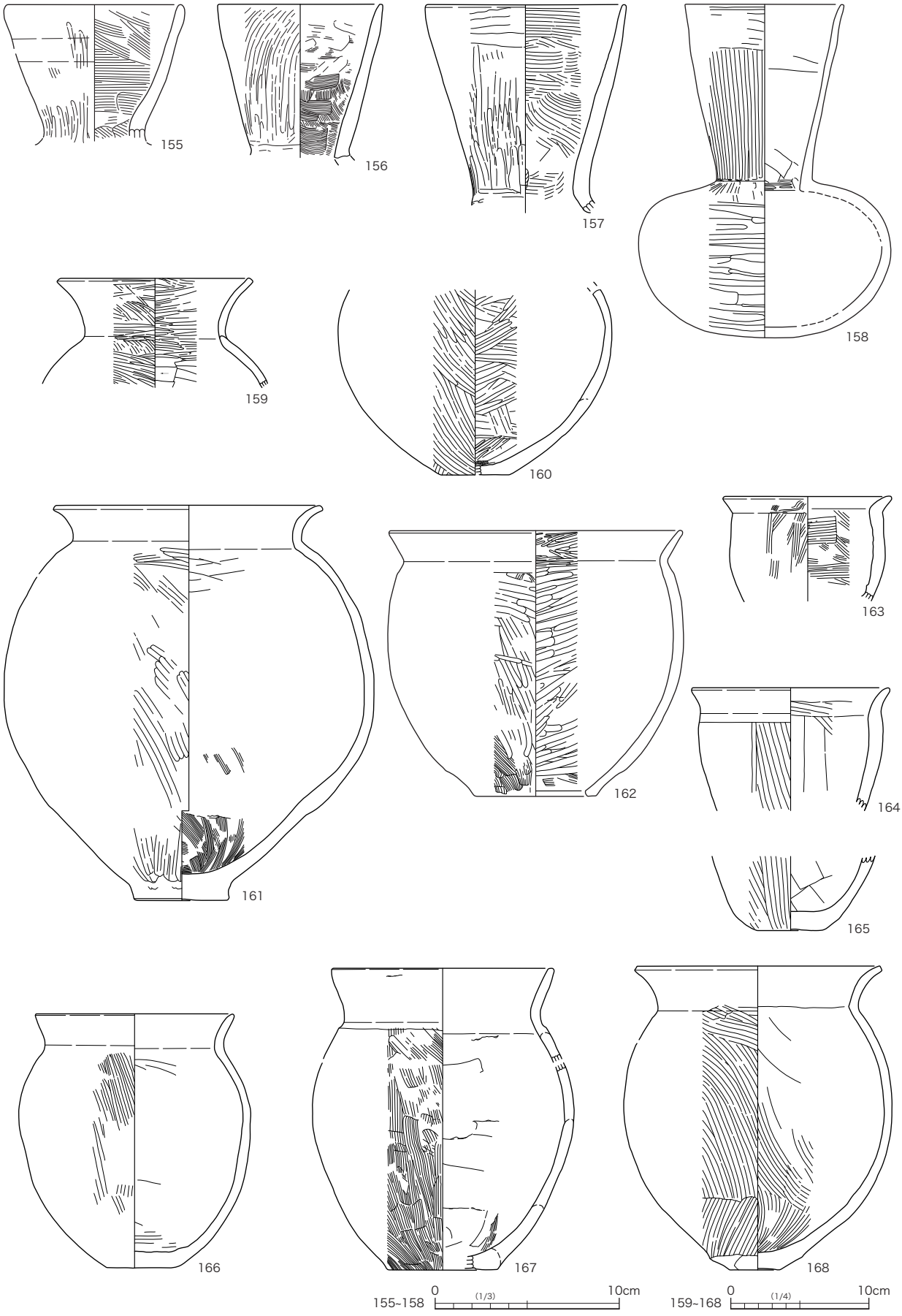
163～173は土師器の甕で，口縁部はナデ，体部内面はヘラナデ，外面はハケメを基本とするが，163・169は内外面にハケメを施す。168は体部内外面の下半はハケメであるが，単位は不明瞭である。体部外面の下端は幅広のヘラケズリを施す。172は内面の底部と接合部にヘラナデを施す。底部外面は中央部が僅かに凹む。173は外面にハケメを施すが，単位は不明瞭である。また，164・165は出土位置・調整・胎土などから同一個体の可能性がある。



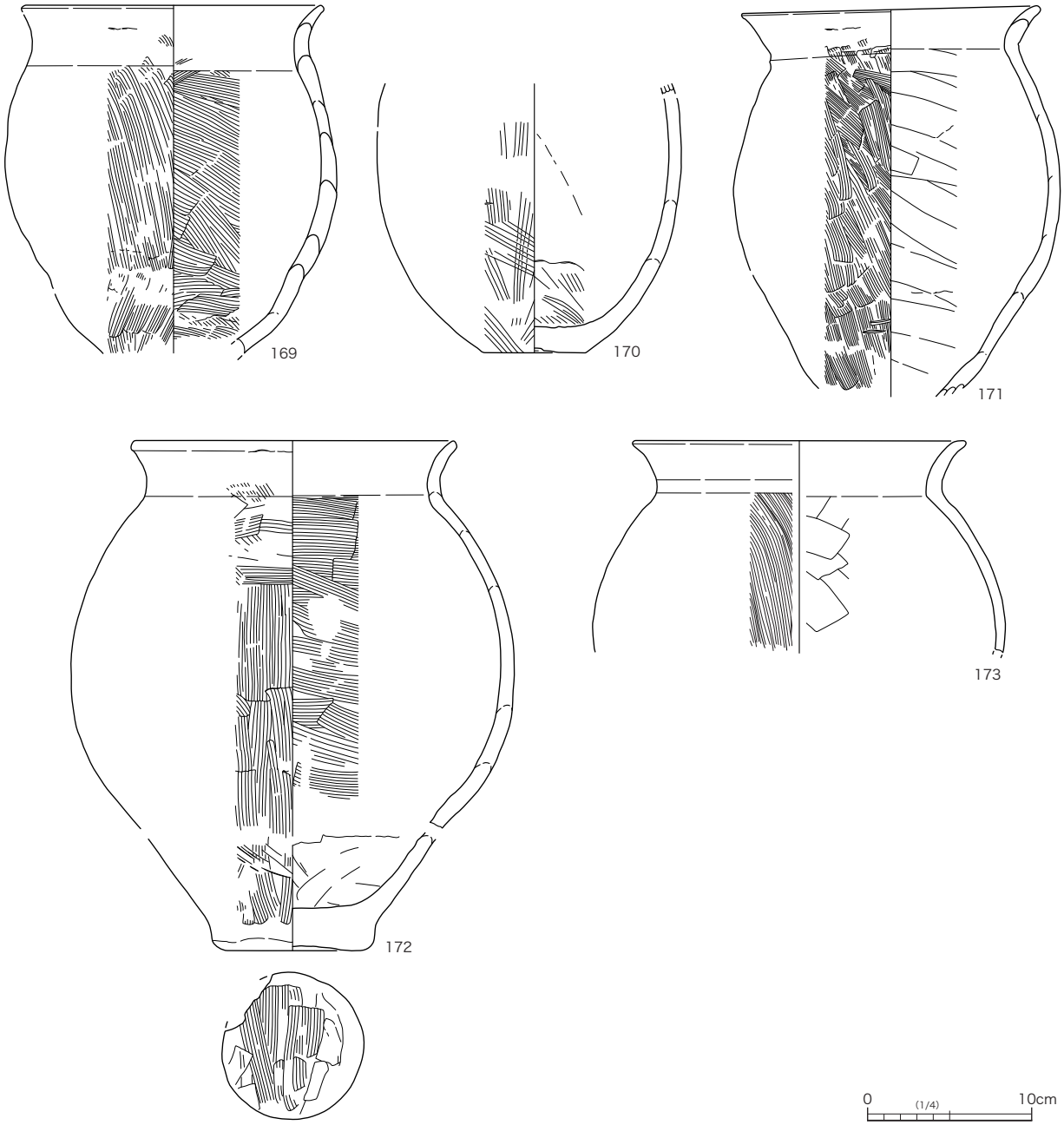
第46図　南地区 川跡5出土遺物11（第4層群）



第47図　南地区 川跡5出土遺物12（第4層群）



第48図　南地区 川跡5出土遺物13（第4層群）

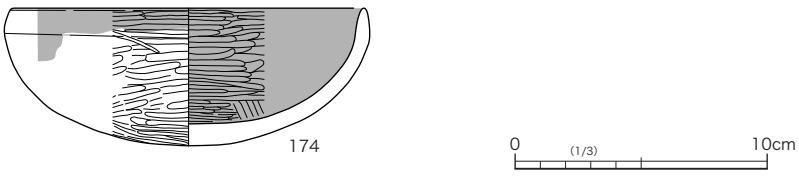


第49図　南地区 川跡5出土遺物14（第4層群）

第5層群（第31・33・50図174）

遺物は数少なく図示しえたのは1点のみであった。

174は内面に黒色処理を施す土師器の坏である。調査区北壁付近から出土した。底部は半球状で，そのまま上方に伸び，口縁部外面には稜線が認められる。内外面ともに丁寧なヘラミガキを施す。胎土は細かく精選されている。



第50図　南地区 川跡5出土遺物15（第5層群）

c. 川跡５出土の木製品（第32・34・51～59図，図版25～31）

木製品は第４層群の流れの中心から多量に出土しているが，用途を特定できる製品は数が少ないため全て図示し，切断痕や削痕だけのものは，遺存状態の良好なもの選別し図示した。出土位置は川跡の形状から「落ち込み1」・「落ち込み2」・「南側平坦面」に大別でき，「落ち込み2」については分布の傾向から，中央部，東端部，東端部以外の外周部に細分し記述した。また，小形木製品は第４層群底面と砂層（29層）が混じる層から出土しており，水の流れによる攪乱された可能性があるために，これらが集中して出土する「落ち込み2」については，他の木製品とは分けて説明する。

「落ち込み1」（第32・34・51・52図175～187，図版25・26）

ここでは「落ち込み1」から出土したものをとりあげる。この部分から出土した土器類は，周辺部より土師器の坏130，壺159，甕173であるが，中央部からは出土しなかった。

175は剣形木製品で，樹種はスギと同定された。柾目取りされ，ほぼ完形である。剣身は切先に向かい徐々に尖らせ，厚く作出しており，鎬は表していない。柄頭は概ね方形に作出し，柄部との段（関）は左右非対称である。

176は末端が太く，徐々に細くなっていく。また，切断面を半球状に加工していることから竪杵と判断した。樹種はコナラ節と同定された。

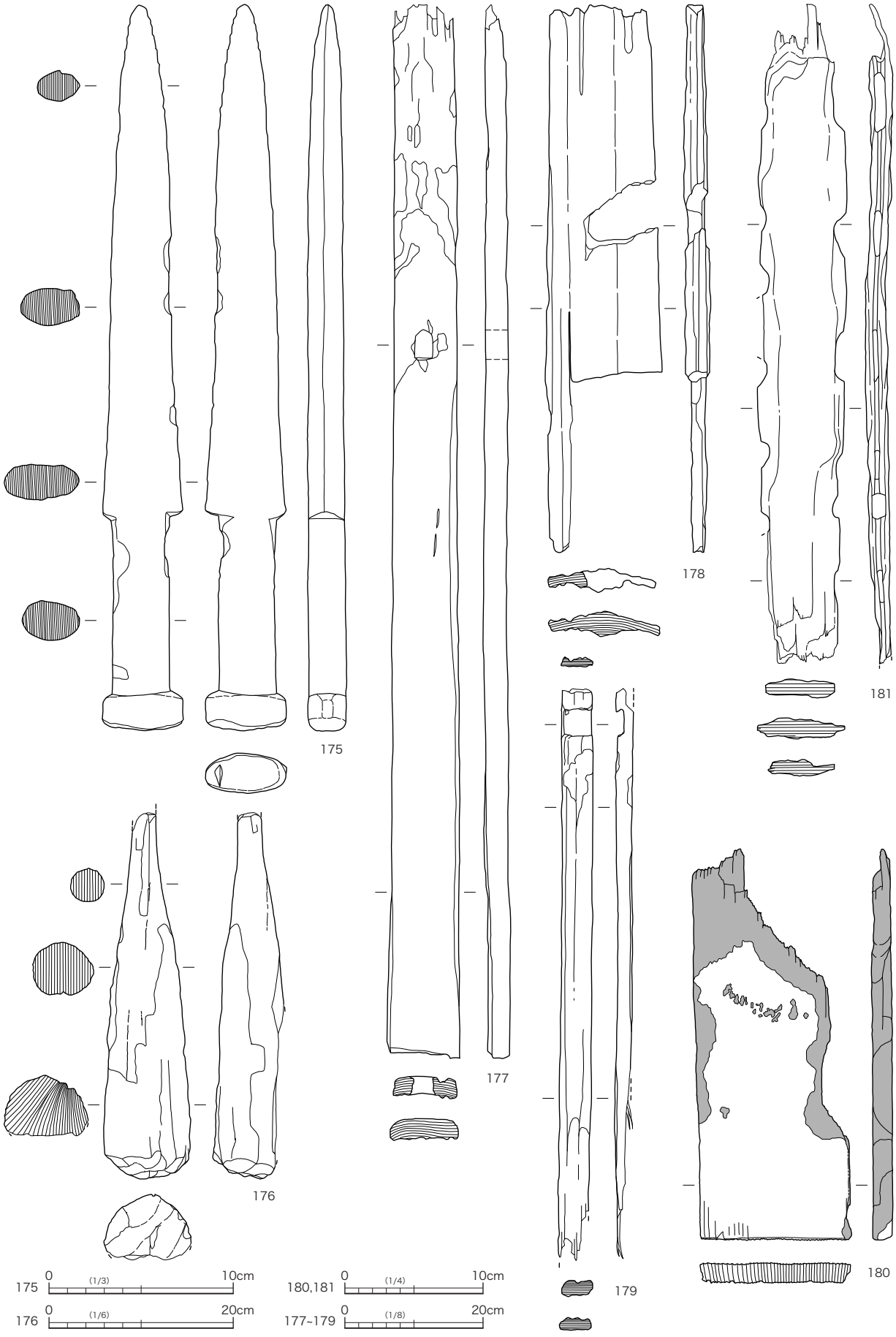
177～187は建築部材と思われる。177は板材で，確認できる法量は長さ152.4㎝，幅10.4㎝，厚さ3.2㎝である。板目取りされ，上から45㎝の位置にほぼ長方形の枘穴がある。横断面は台形である。178は板材で，確認できる法量は長さ78.8㎝，幅17.2㎝，厚さ3.6㎝である。板目取りされ上から25.5㎝の位置の右側面に切れ込みがある。下部にも切れ込みがあるが端部は欠損する。179は桁材と考えられ，確認できる法量は長さ82.4㎝，幅4.6㎝，厚さ2.4㎝である。板目取りされ上部に枘が切られている。下部を欠損し，細身のため部位は不明である。180は長方形の板材で，確認できる法量は長さ28.3㎝，幅10.9㎝，厚さ1.4㎝である。柾目取りされ表裏面ともに平坦に加工される。下部は直角に切断される。上部は被熱を受け炭化している。181は板目取りされた板材で，上下の端部を欠損する。両側縁部を３～５㎝間隔で半円形ないし，隅丸台形状の切り込みを有する。平面は平坦で，側縁部は台形状に薄くなっている。182は棒状で，樹種はスギと同定された。上部は丸く削られ，上方は６面，下方は７面に面取りされ，下部を欠損する。183は柾目取された薄い板状で，上部中央を長さ４㎝，幅２㎝の長方形に加工し，その下方は側縁に向かい斜めに欠損している。184は柾目取りの板状で，下部は幅が広がり，側縁に向かい薄くなっている。185～187はいずれも樹種はスギと同定され，板目取りされる。端部は，186の上部が斜めに，他は直角に切断（欠損）している。185は幅５㎝の板状で上部は炭化している。186・187は断面方形の棒状に加工している。

「落ち込み2」の中央部（第32・34・52・53図188～203，図版26・27）

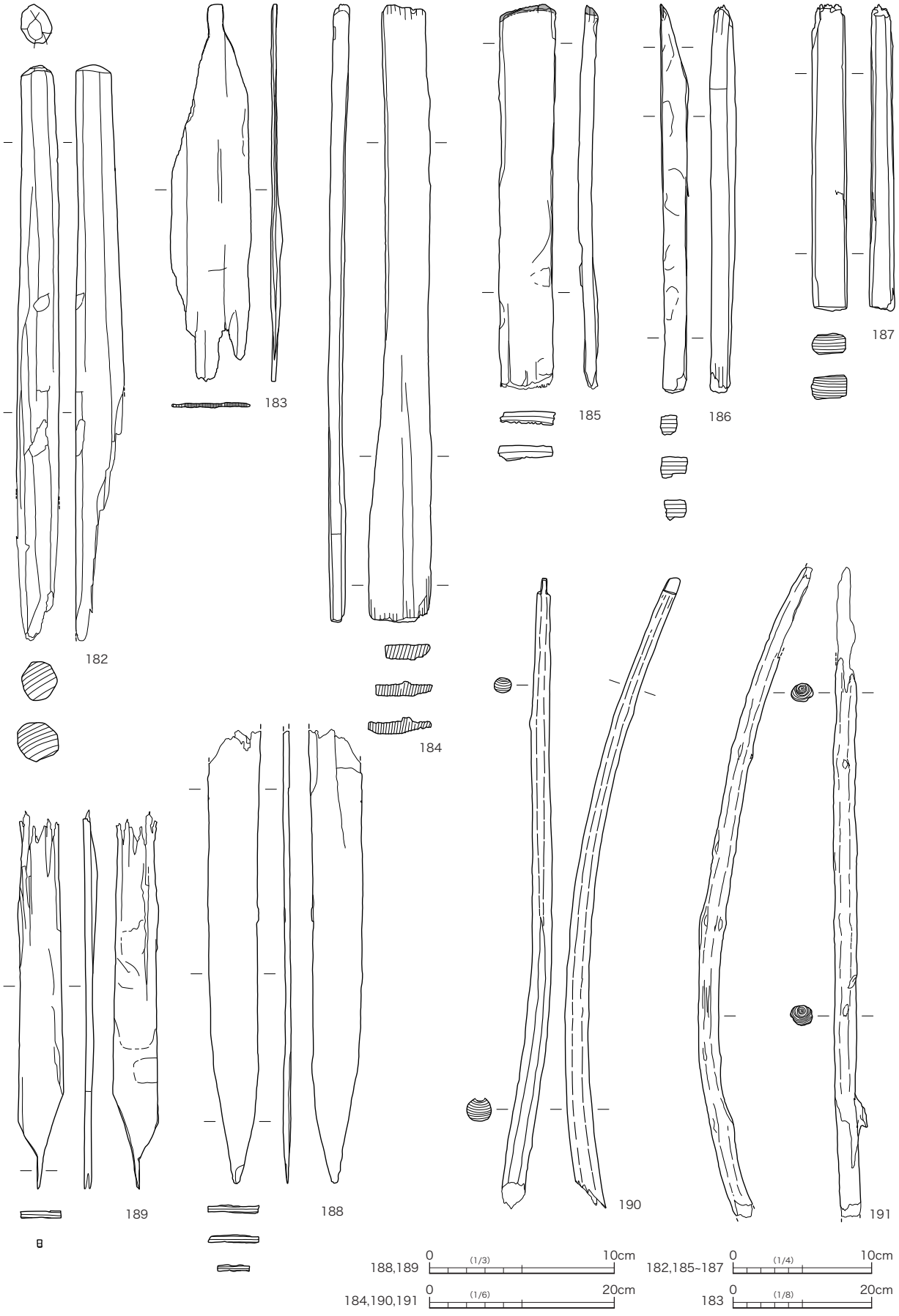
ここでは「落ち込み2」中央部の底面から出土したものをここでとりあげる。この部分から出土した土器類は，小片が数点あるが，図示しえるものはなかった。

188・189は斎串で，樹種はスギと同定された。いずれも薄い板を加工したもので，上部は欠損している。188はやや大形で下端は緩やかな尖頭状となり，板目取りされる。189の下端部の削りは右側はなだらかで，左はやや急である。先端部は串状に尖っている。

190・191は丸木弓で，樹種はイヌガヤと同定された。ともに下半部を欠損している。190は弓幹は大きく芯まで削り込んで丸く作り出し，弓弭に向かい徐々に細くなる。また幅１㎝，深さ0.3㎝の背溝がある。弓弭は両側から削り込み，側面部に段を作り，先端は圭頭状に丸くなる。塗りなどの痕跡は認められない。191は先端部が腐



第51図　南地区 川跡5木製品1



第52図　南地区 川跡５木製品２

食し，弓弭は不明である。芯持ちで，表面を僅かに整形したのみで，表面には凹凸がある。

192は建築部材と思われるが，端部のみ遺存のため全容は不明である。端部を丸く削り出し，上部を斜めに丸みをもって削り，中央部は幅が狭くなる。端部から3.7㎝のほぼ中央部に方形の穿孔部がある。断面は側縁部に向かい丸みをもって薄くなる。

193～195は用途不明製品で，193は完形である，表面を細かく削り出して整形している。方形の穿孔部が認められ，うち1つは貫通している。194は細い棒状で，樹種はスギと同定された。幅・厚みに大きな変化はなく，上下部分は欠損し，断面は6面に面取りされる。195は断面台形状に面取りされており，幅・厚みに大きな変化はない。

196は杭の先端部と考えられ，断面三角形状で先端は尖り，全面が炭化している。

197～199は加工痕のあるもの。197の表面は表皮下の部分で，樹種はスギと同定された。上部は斜めに，左側縁部の上部は浅い波形状に4連削っている。大形建築部材の削片の可能性が考えられる。198は断面半円形の棒状品で，先端が尖っている。199は断面が円形の製品を1/4に分割したと考えられ，表面は平滑となる。

200～203は「落ち込み2」中央付近の底面砂層中から出土した。200は上下が斜めに切断される。201は用途不明の円板で，樹種はスギと同定された。柾目取りされ側面は綺麗に円形に削り出される。202は両端が刀状の用途不明製品で，樹種はスギと同定された。柾目取りされ両端部に切先を削り出している，切先は丸みを帯び，背部は僅かに丸くなっている。類似の形態に機織り具の刀杼があるが，刀杼では長辺側の側縁を尖らせており，それに対し202は短辺側を尖らせているため，横断面形が逆である。また，両端部は刀の先端に類似するが，刀形木製品に同様の類例は看取しえず，用途不明品とした。203は用途不明で，断面が円形の棒状で，芯はない。完形で幅・厚さともに大きな変化はない。両端を丸く削り出している。

「落ち込み2」の東端部（第34・53・54図204～211，図版27・28）

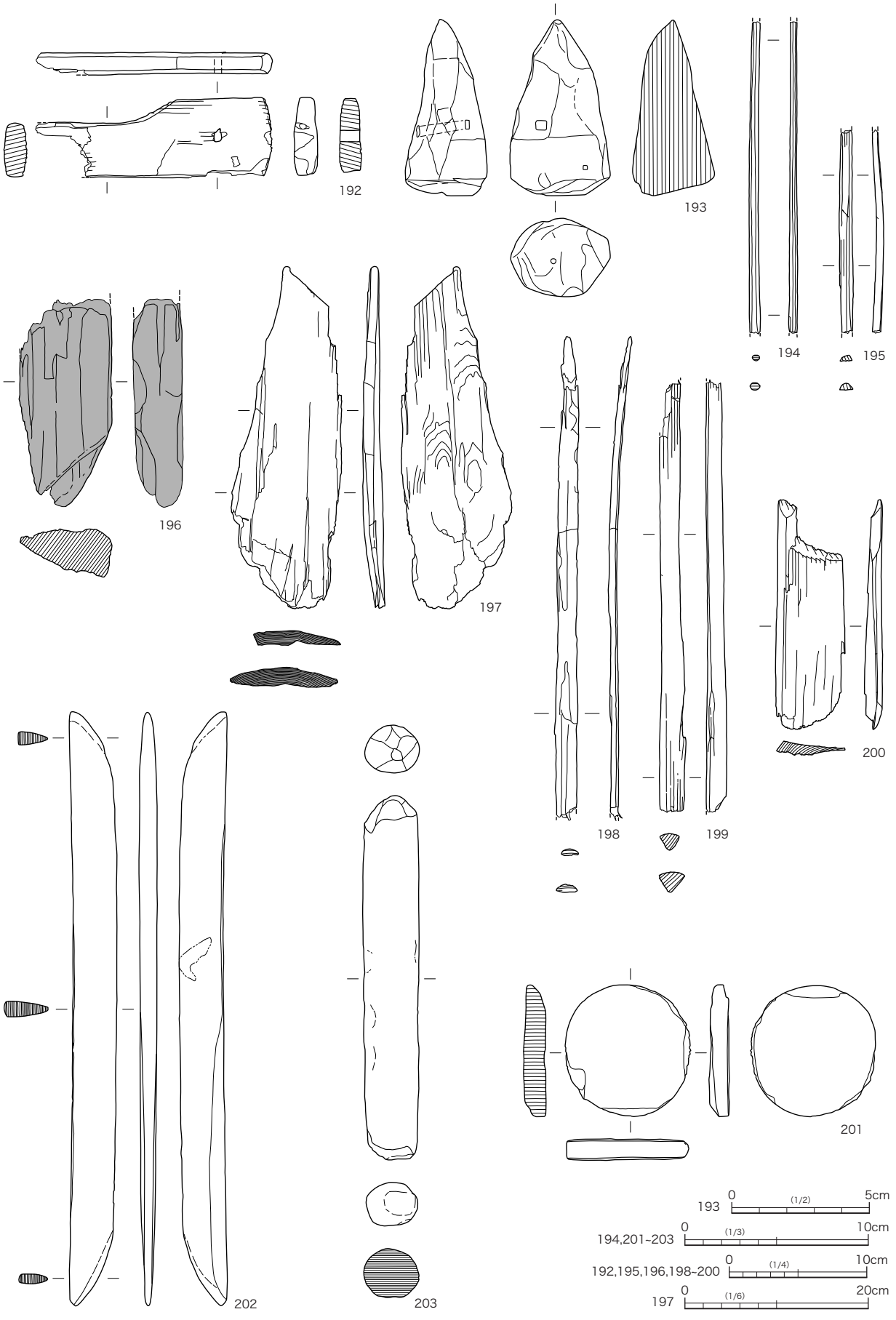
ここでは「落ち込み2」の東端部で川跡5の東岸の落ち際付近で出土したものをとりあげる。この部分から出土した土器類は，土師器の坏131がほぼ完形で伴出し，他は土師器の坏，甕の小片であった。

204～207は斎串で，205の樹種はスギと同定された。Dl2－4区の粘質土中から出土し，いずれも板目取りされ，形状・大きさが類似する。同一側縁の上部を上斜めに，下部を下斜めに切断し，台形状にしている。表裏面ともに平坦で，端部に面取りはない。

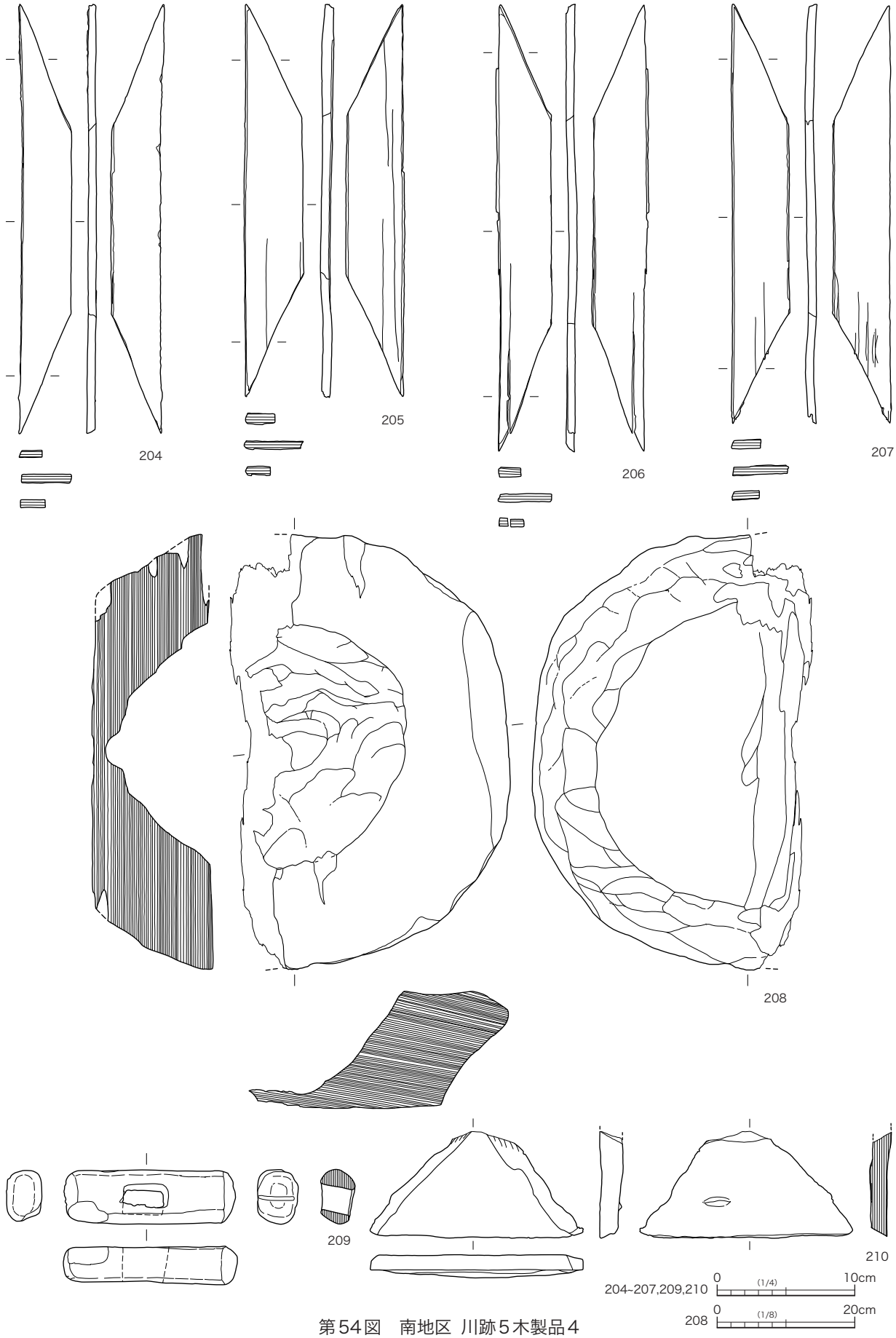
208は槽で，樹種はスギと同定された。板目材が横木取りされ，口縁側が外皮，底面側が芯である。一見すると臼のようであるが，底が3㎝と薄いため槽とした。平面はほぼ円形で，全体の約1/2が遺存している。上面および底部は平坦で，上面での厚さは15㎝ほどと厚い。内面は半円形に刳り抜かれ，内外面ともに工具痕が残る。

209は建築部材の留め具一部と考えられ，完形である。板目取りされ上面はほぼ平坦で，中央部に長方形の枘穴がある，両端部・側縁部は丸く削られている。210は上部を欠損している。板目取りの平らな板の両側端を斜めに切断し山形に作出している。

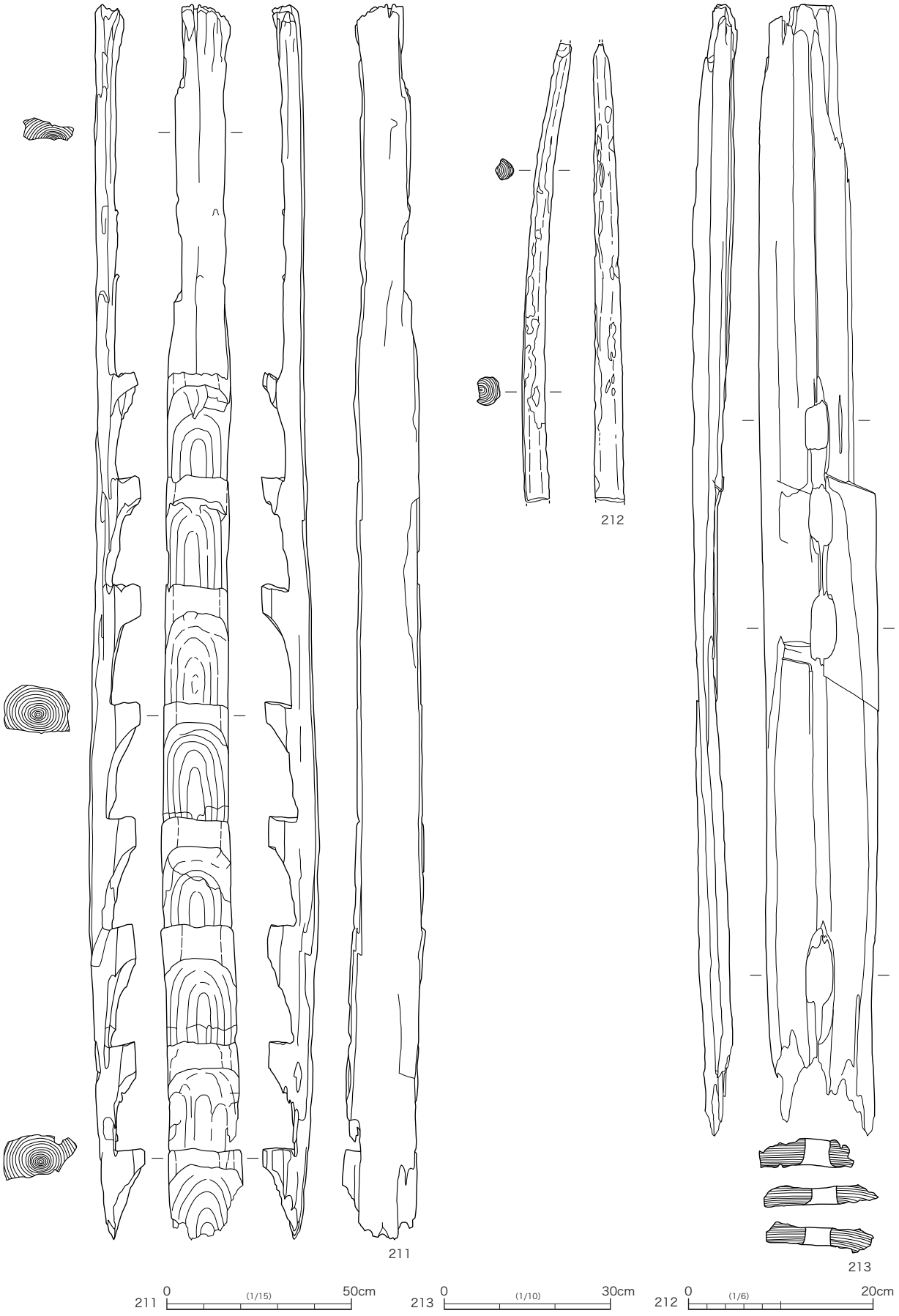
211は梯子で，樹種はスギと同定された。「落ち込み2」の東端部の斜面部分に，川の流れに平行するように自然木の上から出土した。丸太材を利用した踏み段を8段もつ刻梯子である。現存長335㎝，上端から最上段までは100㎝，各段の間26～34㎝，段間の平均30.1㎝，最下段から端部までは24.5㎝である。下端部は腐食し欠損しているが，現存部分の厚さから下位に段がある可能性は低く，ほぼ完形と考えられる。踏段部の断面形はほぼ半円形である。踏段部分の加工は芯付近まで丸みをもって三角形状に削り取られる。踏段の表面には樹皮直下の部分が残る。幅は下部で20㎝，最上部の踏段で17㎝，その上部ではより狭くなり，残存状態が良好な部分で14㎝である。側面も削られ，底寄り部分では平坦となっている。側面形は僅かであるが「く」の字状に曲がって



第53図　南地区 川跡５木製品３



第54図　南地区 川跡5木製品4



第55図　南地区 川跡５木製品５

いる。これは，裏面の削り方を年輪から観察すると，下から3段目をもっとも少なく削り，この部分から上下に離れるに従って徐々に多く削っているためであると思われる。

「落ち込み2」の外周部（第34・54～57図212～227，図版28～30）

「落ち込み2」の外周部のうち東端部以外から出土したものをここにまとめた。この部分から出土した土器類は，土師器の坏・甕の小片が伴出した。このうち1片が土師器坏（133）と接合した。

212は丸木弓で，下部を欠損している。先端部の両側縁を削り弓弭を作っている。この部分は僅かに欠損する。芯持ちで，表面を削り整形し，弓弭に向かい細く削り出す。側面は僅かに湾曲する。

213は高床建物の建築部材と考えられる。長さ204㎝，幅20㎝，厚さ3～4㎝の板材で上部が細くなり，下部は欠損している。上部から71㎝のほぼ中央部に長さ8～11㎝，幅4～4.5㎝の楕円形の枘穴が3口あり，上から7㎝，9㎝の間隔で並んでいる。下部の枘穴は欠損のため詳細は不明だが，上部の枘穴との間隔は50㎝である。

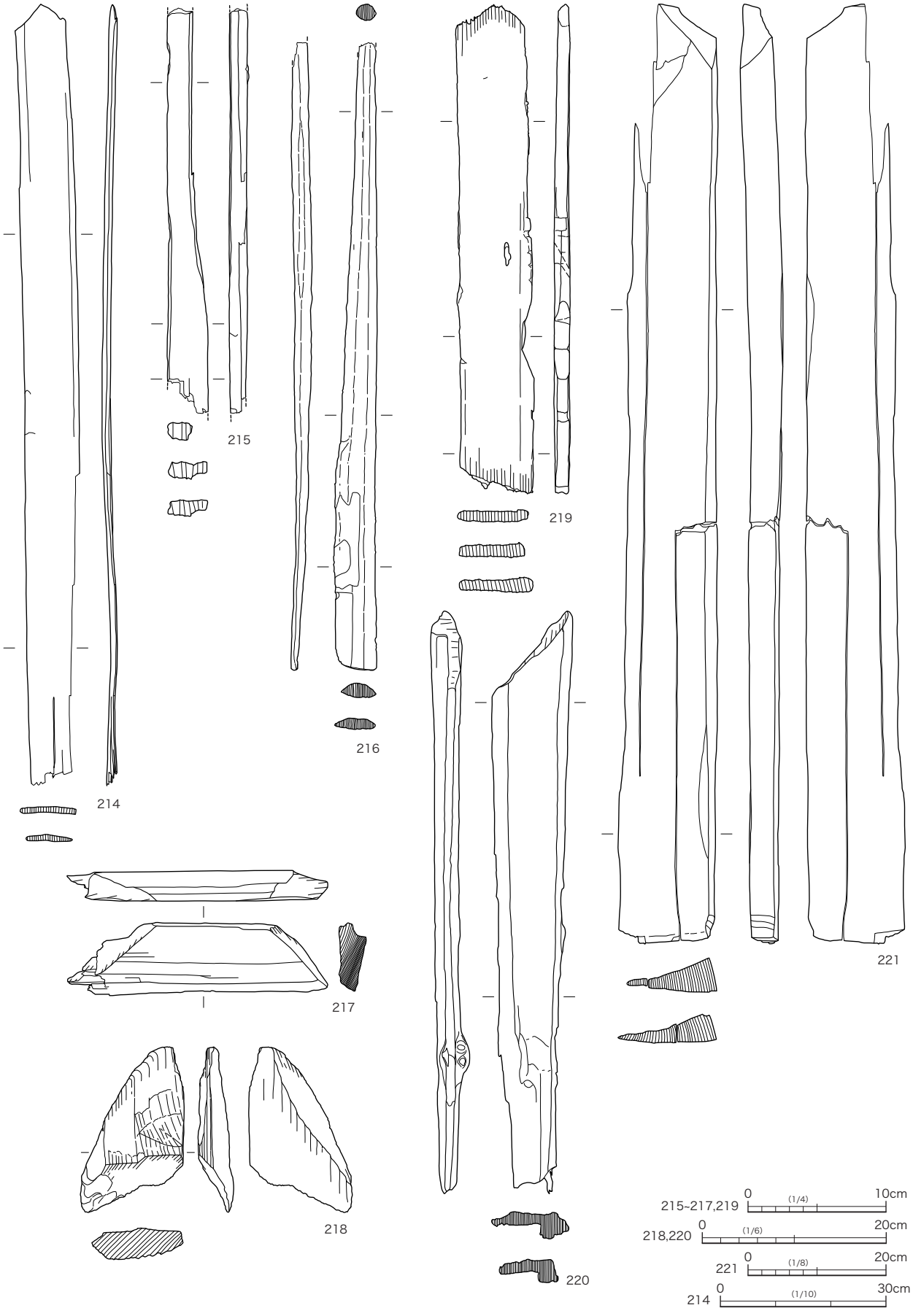
214～220は直角の切断痕以外の加工痕が看取される。214・217・218の樹種はスギと同定された。214は長さ141.8㎝，幅10㎝，厚さ0.8㎝の柾目取りされた薄い板材の上部を山形に作り出し，下部は欠損して不明である。215は薄い板状で，柾目取りされ幅3㎝の板の側縁を斜めに削り，幅1.8㎝で平行となる。建築部材の可能性がある。216は柾目取りされ上部は丸い棒状で徐々に幅が広がり，厚みは薄くなり，下部では断面半円形となる。217は幅5㎝，厚さ2㎝の柾目取りされた板材の両端部を台形状に斜めに削る。端部は表面に対しても斜めとなっており211に類似する。用途は不明である。218は柾目取りされ上下を斜めに切断しいるため，削片の可能性もある。219は柾目取りされた板材の両端部を僅かに斜めに切断している。右側縁1箇所を幅5.6㎝，厚さ0.9㎝に逆台形状に切れ込みを入れている。その僅か上には斜めに楕円形の穿孔部が認められる。220は柾目取りされ上部を斜めに切断している。断面はL字状であるが，表面に加工痕はない。221は上部を斜めに，下部を直線に切断し右角を削り落としている。右側縁は表皮直下の部分である。横断面形は三角形で，芯を中心に分割切断したようである。樹種はスギと同定された。^{14}C年代測定をした資料である。222～227は切断痕が看取される。222～224は柾目取りされ上下を直角に切断するが，上部はいずれも表面に対し斜めに切断している。222は横断面L字状に左側が高くなるが整形によるものでない。225は柾目取りされ両端部とも表面に対し同一方向に切断している。226・227は板目取りされた薄い棒状品で，226は両端部とも欠損し，上半部は断面が三角形状になる。227は下部にのみ切断面が残り，上部は欠損している。以上の木製品も板材などの建築部材であったと考えている。

「南側平坦面」（第34・57・58図228～241，図版30）

ここでは「南側平坦面」から出土したものをとりあげる。この部分で出土した土器類には，須恵器坏123・124，土師器坏141，土師器甕168などがあり，このほか土師器の坏，甕の小片が出土した。

228は長さ144.5㎝，幅13㎝，厚さ3.5㎝の板目取りされた板材で，5箇所の枘穴が開いており，高床建物の建築部材と考えられる。枘穴は5.9～11.2㎝×2.9～3.5㎝の大きさの現状では楕円形だが，残りのよいものは5.9×2.9㎝の長方形を呈しており，これが本来の形状であろう。これらの枘穴は右側縁から2.2㎝の位置に4口が側縁と平行に並ぶ。上端は右側縁から6.4㎝の位置に枘穴があり，この枘穴は上部が開口している。形状から桁材ないし台輪とも考えられるが，全容が不明なため断定はできない。川跡5の東岸から下がって，底面から流路に沿う方向に長軸を向けて出土した。

229は2片に割れ出土したものが接合し，樹種はスギと同定された。長さ87㎝，幅33.9㎝，厚さ3.2㎝の方形の板目取りされた板材に4口の穿孔部が認められる。このうち3口は3.6～4×4㎝の方形で側端から4㎝離れた位置に側縁に平行して並んでいる。右側縁部から6㎝，上部から21.8㎝には6.6×5㎝の方形の穿孔部が認め



第56図　南地区 川跡5木製品6

られる。これらの穿孔部の周囲は角を削られている。このほかに径0.6～3㎝の楕円形穿孔部が表面に2口，裏面に1口認められる。また，小さな穿孔部が認められるが，人為的な穿孔かは不明である。表面は全体的に風化しているが，表面右下には整形痕が認められる。大きな板状品であり，形状から扉材の可能性が考えられるが，軸部が確認できないため断定はできない。230は現状では長さ92.8㎝，幅19.2㎝，厚さ7.6㎝の板目取りされた細い板状で，左側は欠損し当初の幅は不明である。右側縁部から1.2㎝内側に3.6×1.6㎝の方形の穿孔部が認められる。上方42㎝にも同様の穿孔部の痕跡が認めらるが，下部は欠損し穿孔部の存在は不明である。軸部はないが，229と同様扉材の可能性が考えられる。231は幅15.5㎝，長さ38.5㎝，厚さ1.7㎝のほぼ方形の柾目取りされた板材で，右側縁は上部に向かい僅かに湾曲し，上部は表面に対し斜めに切断される。右側縁に1.0×2.4㎝の穿孔部が側片に対してほぼ平行して2口認められる。232は腐食のため全体の形状は不明であるが，柾目取りされている。上部の方形部分と，そのすぐ下部の斜めの部分は人為的に加工された可能性があるため図示した。233は用途不明製品で，柾目取りされ方形に側縁を加工し，台形状である。厚さは上部が僅かに薄くなり，表面に穿孔部は認められない。234は断面半円形の棒状を呈し，上下は欠損している。235・236は断面楕円形で棒状を呈し，両端部を欠損している。

237～241は切断痕のある木片である。237・239・240の樹種はスギと同定された。237・238は上部を斜めに切断される。239は柾目取りされ，表面に削痕が認められる。240は板状で，板目取りされ下部は直角に切断される。241は断面方形の棒状で，板目取され上部は被熱を受け炭化している。

「落ち込み2」の小形木製品（第59図242～246，図版31）

小形木製品は本川跡全体から出土しているが，「落ち込み２」底面からは集中して出土しため，まとめて報告する。このうち遺存状態のよいもの，切断痕が明瞭なものを選別し242～246を図示した。また，大きさなどの傾向を表すため，「落ち込み２」の全小形木製品をａ～ｄの形状で分類し，グリッド別の集計点数を表10に示した。

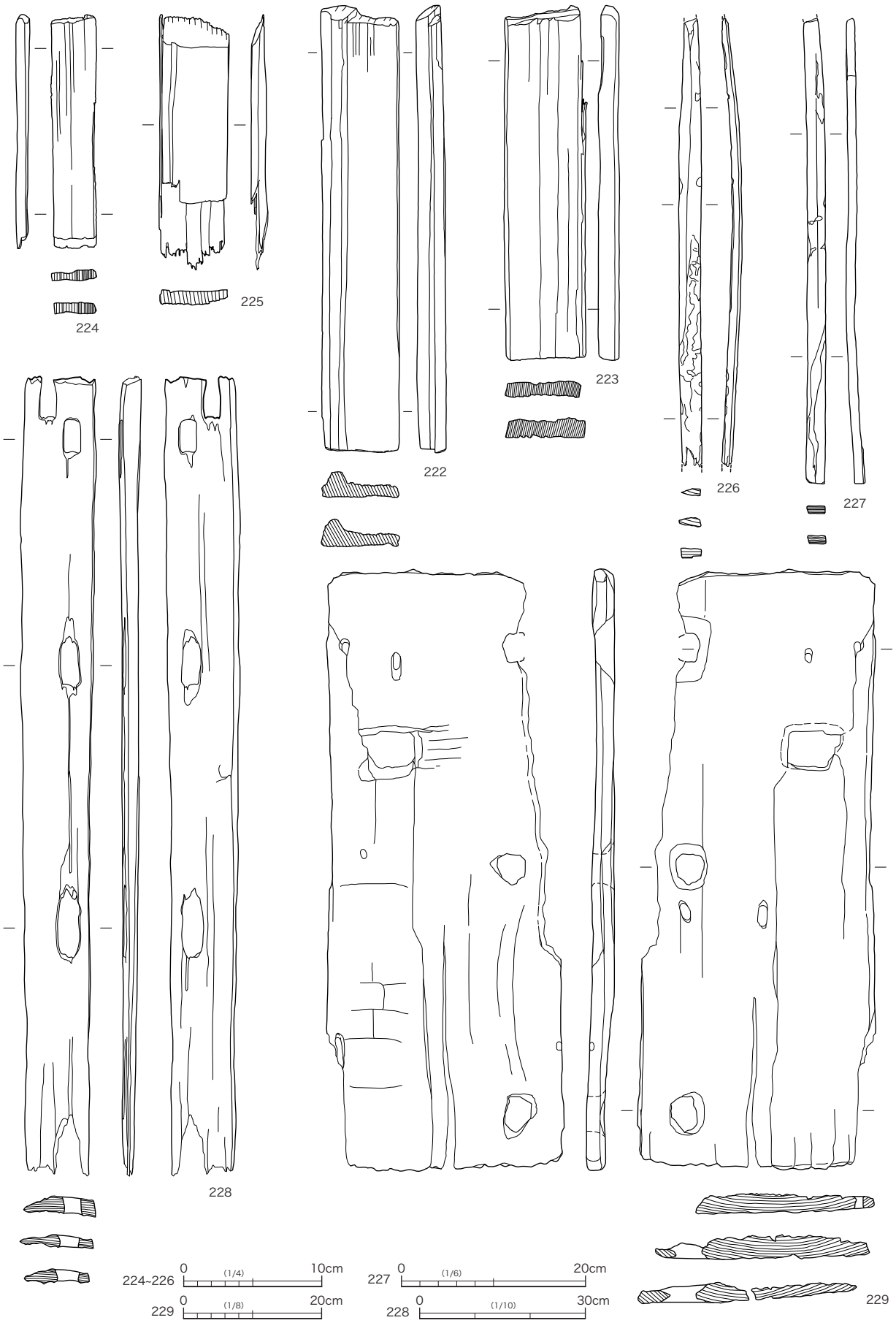
ａ：幅3～5㎝以上の板状（242～246）

ｂ：幅2㎝ほどの板状（247～253）

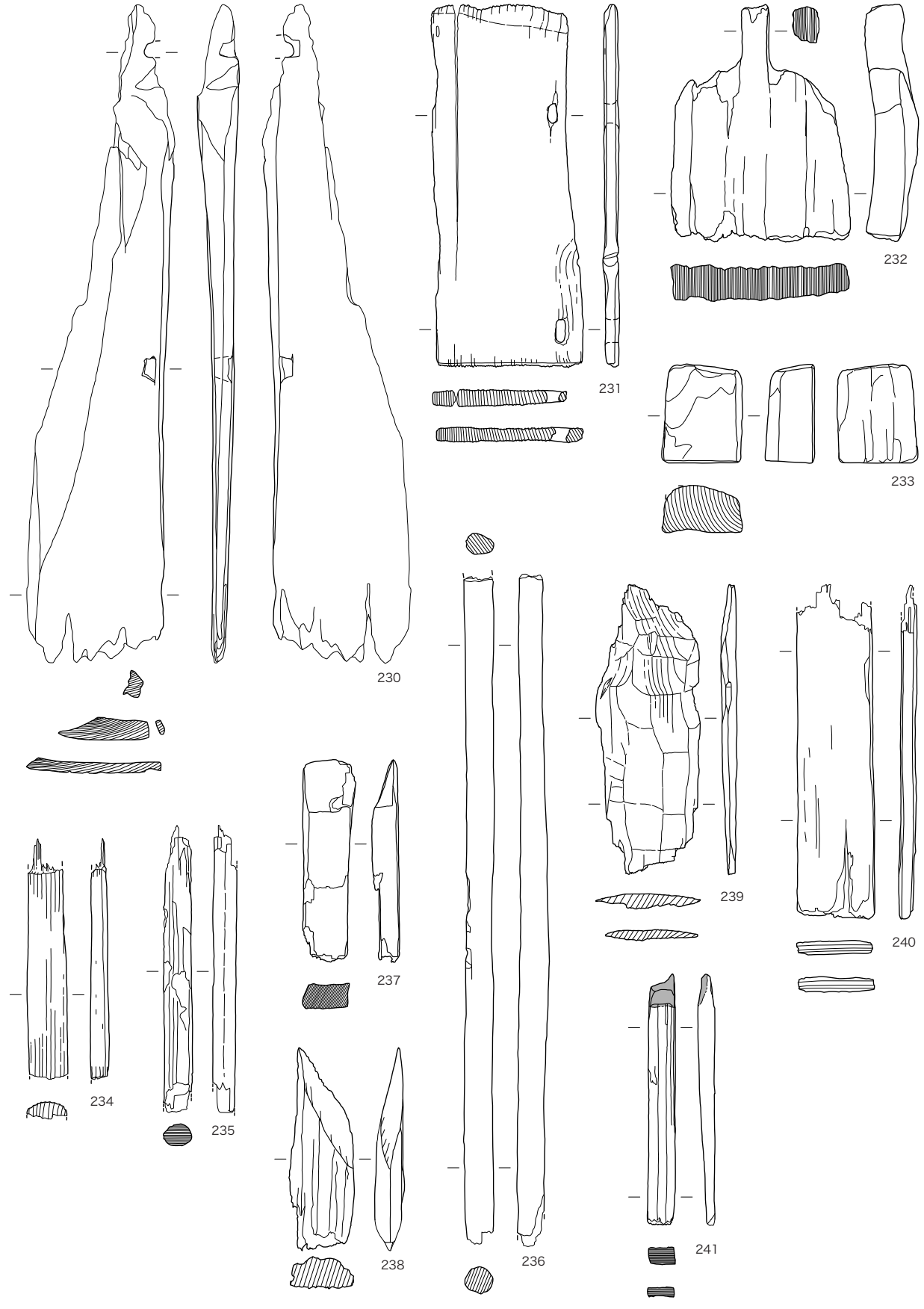
ｃ：幅2㎝以内で，厚さが幅の1/2以上（254～259）

ｄ：平面が不定形で，厚さが5mm以下の削片（260～264）

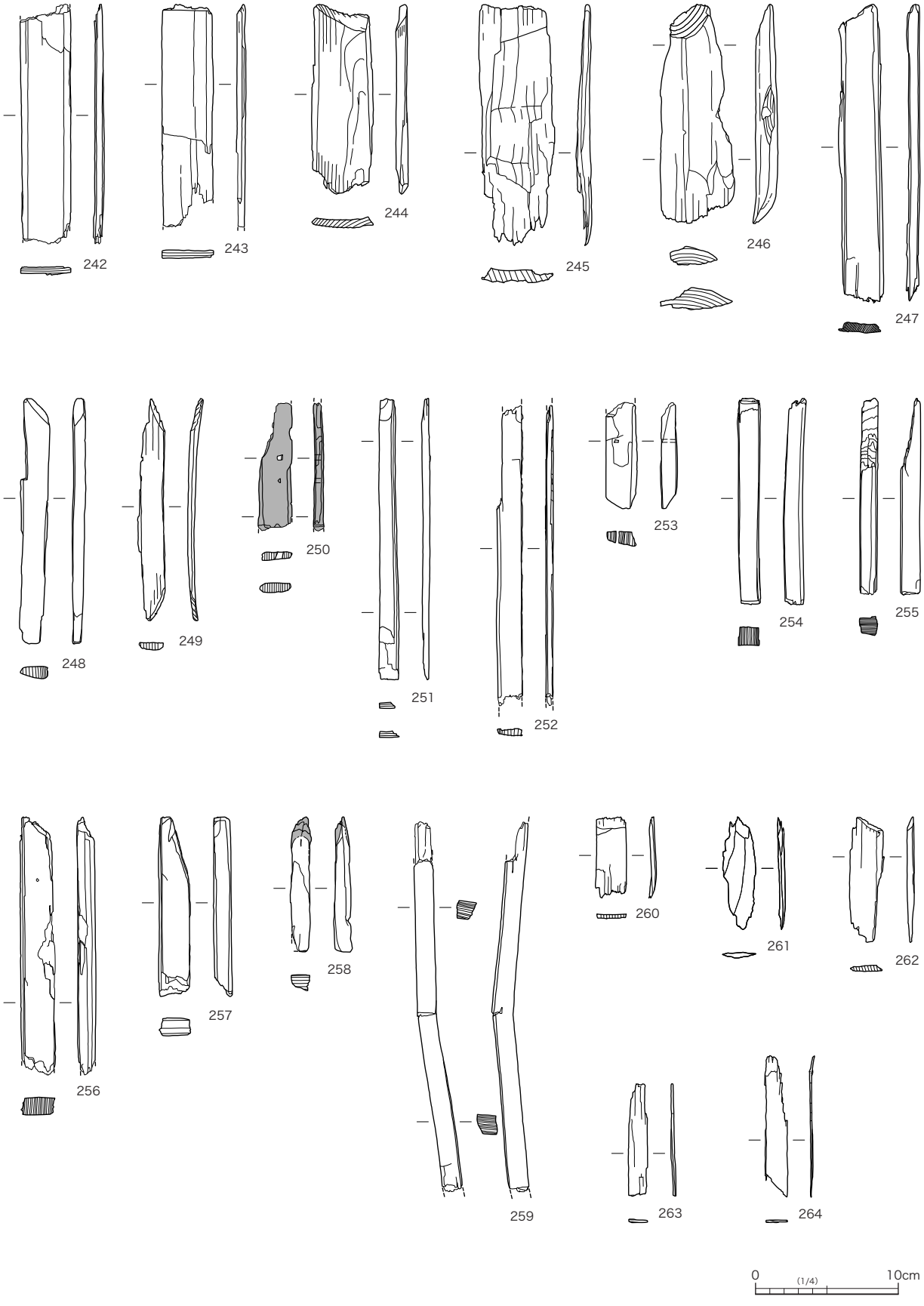
表10によるとほぼ全域にわたり出土はしているが，「落ち込み２」周辺のCl1－3・1－4・1－5・5－3・2－3・2－4・2－5・3－4・3－5区，Dm1－1・1－2・2－1・2－1・3－1・3－2区に集中しており，全体の80～90％が分布している。この部分は川跡の最も低い部分なので必然的に集まった可能性もあるが，「落ち込み1」にはこれほど集中しておらず，この場所で廃棄された可能性が高いと考える。なお，250は穿孔部が認められ，表面・側面全体が炭化している。



第57図　南地区 川跡5木製品7



第58図　南地区 川跡5木製品8



第59図　南地区 川跡５木製品９

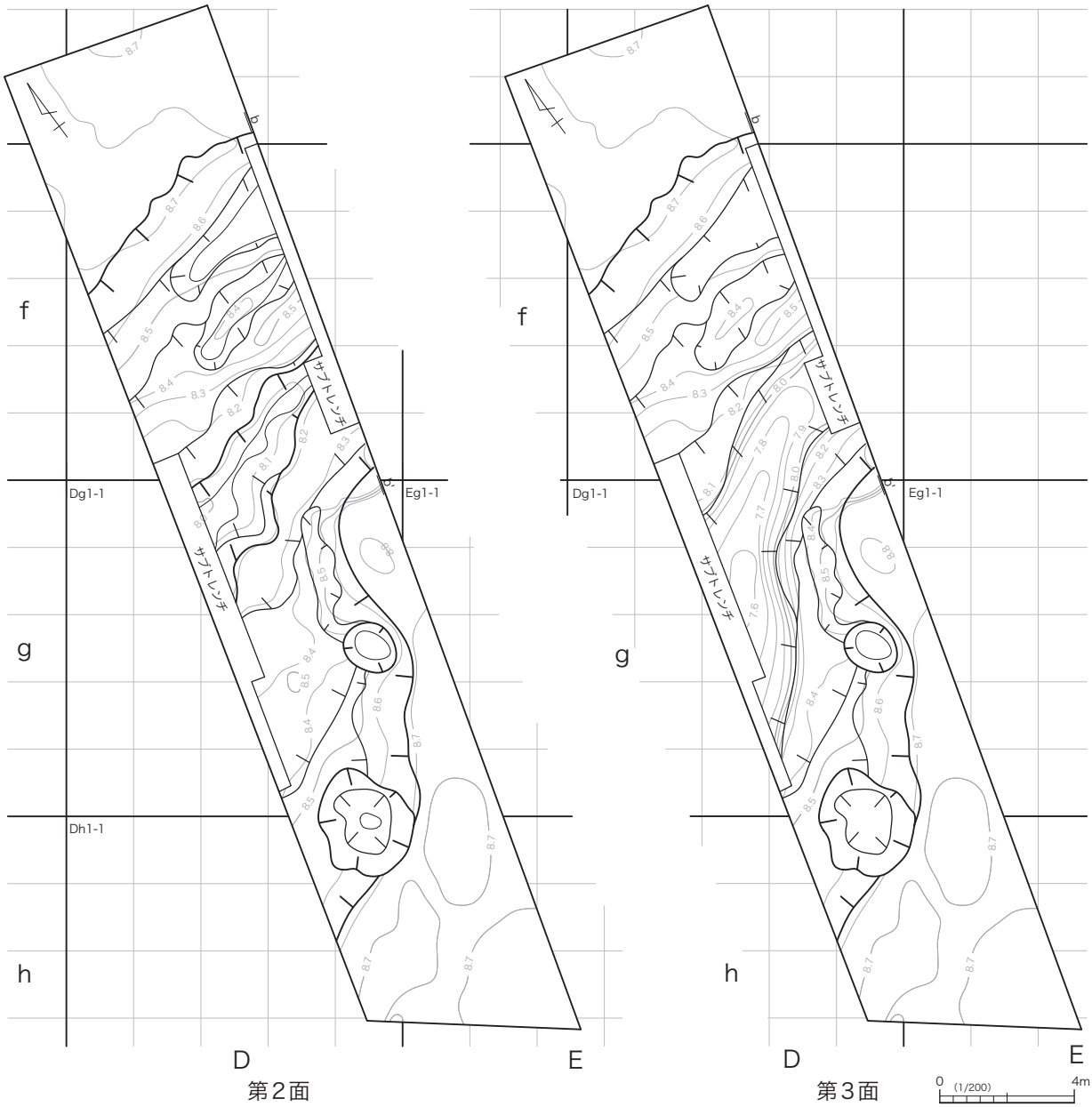
北地区 川跡５（第60～68図，図版7・8）

De・Df・Dg・Dh・Eg・Eh区に位置する。本遺構は土坑12，井戸13と重複し時期的に同時がもしくは古くなる。規模は確認した部分で長さ14.5m，幅7.5～8.5m，深さは最深部で80㎝である。本川跡でも南地区川跡５の第１～３層群に対応する層を確認したため，ここでは確認された３層群に対して南地区と同様の調査を行った。

a. 各層群の概要と遺物分布

第１層群（第60・61・62図）

灰色シルト層の３～10層を第１層群とした。東側から南西に向かい流れ，南側は大きく広がる。幅は川跡に対して調査区が傾斜しており，北岸の東側調査区際と南岸の調査区東壁際を結んだ線で計測すると約10mとなる。底面はなだらかで，中央から徐々に壁に向かい緩やかに上がる。遺物出土位置は，中央部は少なく斜面際に多い。特に南側のなだらかな部分と，北東側に多く出土している。



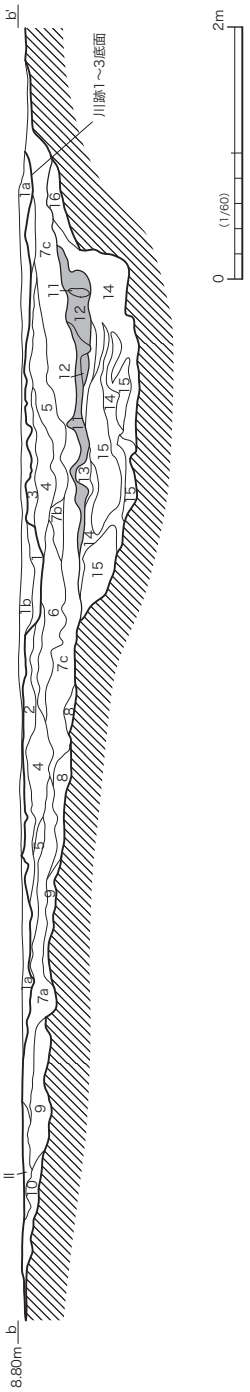
第60図　北地区 川跡５平面図

第２層群（第60・61・63図）

有機物を含む粘質土層の11・12層を第２層群とした。流路の中央付近のみで確認され，層群の厚さは４～18㎝である。遺物は層群の幅が狭いため，出土遺物は少ない。

第３層群（第60・61・63・64図）

砂層と灰色シルト層の13～15層を第３層群とした。本層群は本川跡の中央部分で南側はやや広くなり，幅200～250㎝の範囲で急に深くなる落ち込みに堆積したもので，層群の厚さは約40㎝である。底面はほぼ平坦であるが川岸では急に立ち上がる。なお，底面付近に有機物を含む層を認め，南地区川跡５の第４層群との対応も考慮したが，間層（砂層）が明確でないため，この層を含め第３層群とした。



b. 川跡５出土土器

第１層群（第62・65・66図265～295，図版23・31）

遺物は須恵器の坏・蓋・甕・瓶，土師器の坏・高坏・壺・甕・甑，手捏土器，形状不明土器が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少ないため，形状などが確認できるものを中心に図示した。なお，須恵器は古墳時代と古代の土器が混在して出土し，土師器も古代と考えられるものが少量出土している。

265は古代の須恵器，266～269は古墳時代の須恵器で，いずれも北岸から出土した。265は坏で，器高は高く，口縁部は緩やかに立ち上がる。底部はヘラ切りで，体部下部に回転ヘラケズリを施す。

266・267は蓋で，266の天井部は回転ヘラケズリを施す。なお，本資料は井戸13の４層から出土した遺物と接合した。267の口縁には沈線状の段が認められる。

268は坏で，口縁部・底部を欠損する。体部下半は回転ヘラケズリである。

269は瓶の口縁部で，なだらかに外傾する。外面には段の上半・下半に細かな波状文が施され，内面には自然釉が付着している。胎土は粗砂粒を含む。

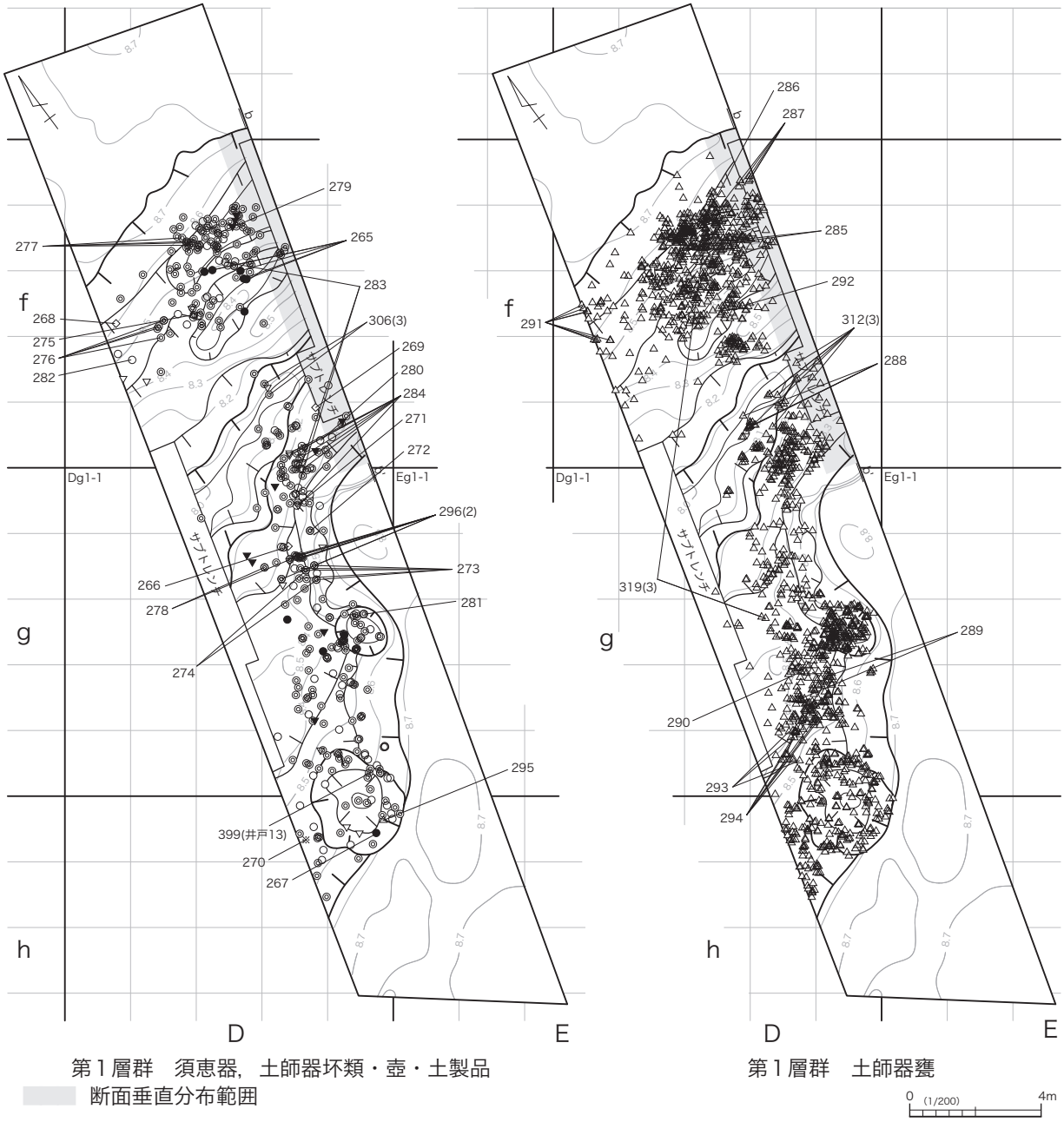
北地区 川跡１～３
1a 10YR2/1　黒色土　粘性やや弱，締まり弱。φ１～２㎜の炭化物粒少量，φ１～５㎜のオリーブ黒色土粒を含む。部分的に粘性が強い。
1b 7.5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性弱，締まり弱。φ10～20mmの黒色土ブロック多量。φ１～2mmの炭化物粒少量含む。
2　5Y4/2　灰オリーブ色土　粘性やや弱，締まりやや強。灰オリーブ色砂を少量含む。
北地区 川跡５
第１層群
3　5Y3/2　オリーブ黒色土　粘性弱，締まり弱。灰オリーブ色砂を少量含む。
4　5Y4/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ10～20mmのオリーブ黒色土ブロック少量。φ1mm程の白色粒少量。φ５～10mmの細砂ブロック微量。φ１～3mmの炭化物粒微量含む。
5　7.5Y5/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。
6　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ10～30mmのオリーブ黒色土ブロック少量含む。
7a 5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性弱，締まりやや弱。φ10～20mmの灰オリーブ色砂質ブロック微量，φ１～10mmの炭化物ブロック・粒を含む。粗砂～細砂粒が混ざり、部分的に砂質分が強い。
7b 2.5Y4/2　暗灰黄色土　粘性やや強，締まり弱。φ10～50mmの灰オリーブ色シルトブロック少量。
7c 2.5Y3/2　黒褐色土　粘性弱，締まり弱。7a層と含有物は同じだが砂質分は弱い。
8　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰色シルトに灰オリーブ色砂粒の混土層。
9　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ10～20mm黒褐色ブロック微量，φ１～3mmの炭化物粒を含む。
10　7.5Y5/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ１～15mmの炭化物ブロック・粒・φ１～5mmの灰オリーブ色シルト粒微量含む。
第２層群
11　7.5YR2/2　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。有機物層。部分的に暗くなる。
12　10YR4/2　灰黄褐色土　粘性弱，締まり弱。φ１～10mmの炭化物ブロック･粒微量含む。
第３層群
13　7.5Y4/1　灰色土　粘性強，締まりやや弱。有機物含む。部分的に暗褐色を呈する。
14　2.5Y4/1　黄灰色シルト　粘性弱，締まりやや弱。φ１～10mmの炭化物ブロック･粒を含む。
15　5Y5/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。粗砂粒主体。
16　5Y5/1　黄灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。炭化物粒を少量含む。

第61図　北地区 川跡５断面図

270は土師器の手捏土器で，内外面はナデを施す。胎土は金雲母，粗砂粒を含む。

271は土師器の坏で，北岸から出土した。口縁部はナデを施す。

272～279は土師器の坏で，内面に黒色処理を施す。275・276・279は北岸，その他は南岸から出土した。272は口縁部にナデを施し，半球状の底部からそのまま口縁部が立ち上がる。273～274は体部で僅かに括れ，口縁部が僅かに外傾する。274は口縁端部が僅かに内湾している。276は体部で大きく括れ口縁部は大きく外傾している。調整は内面はヘラミガキ，外面はヘラミガキ（273・276・277・278），ナデ（274），ハケメ（275），体部下部ヘラケズリ（276）と様々である。焼成前のヘラ書きが，273・274の底部外面に「×」，278の底部内面に「−」が認められる。



第１層群　須恵器，土師器坏類・壺・土製品

第１層群　土師器甕

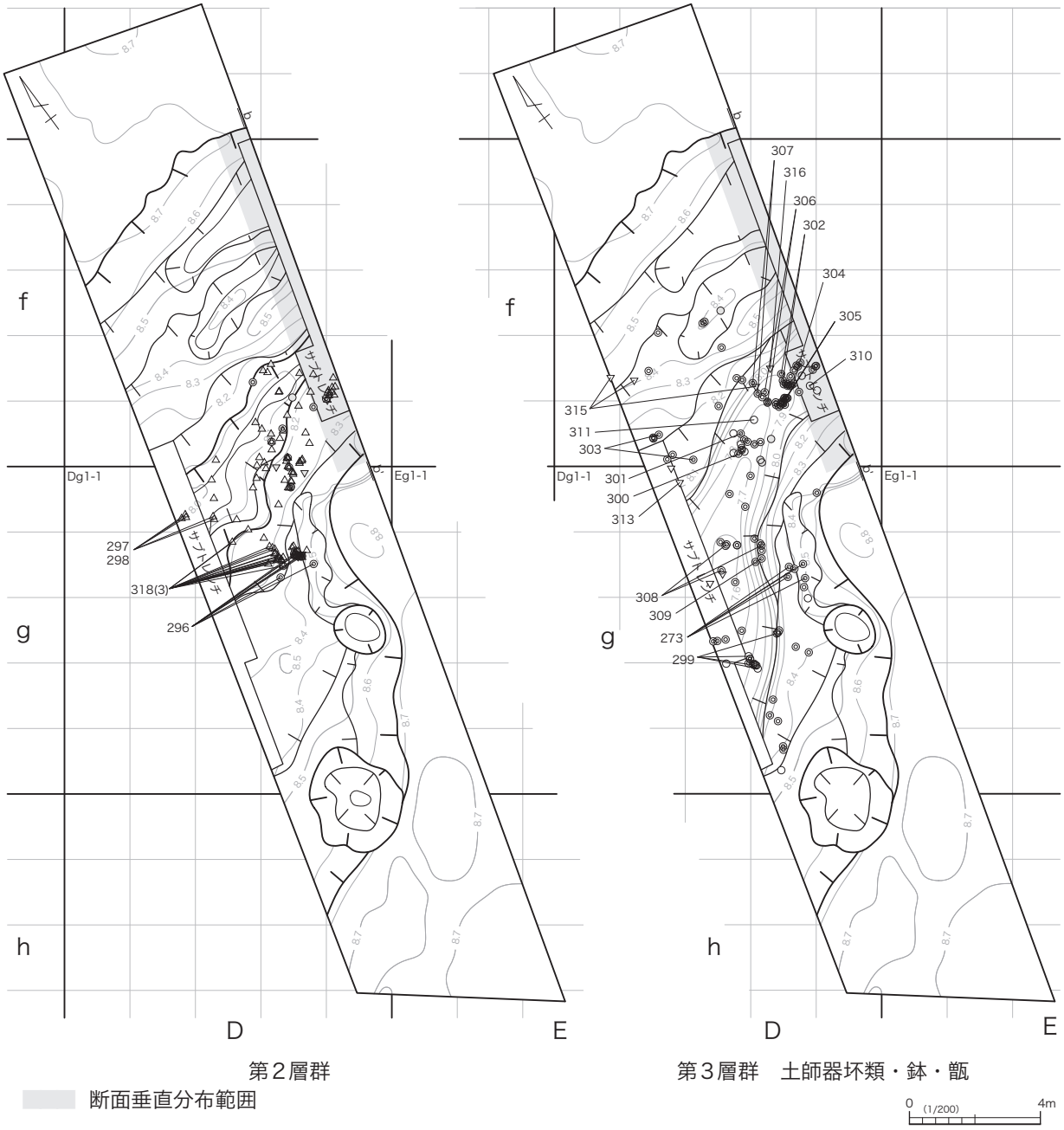
断面垂直分布範囲

第62図　北地区 川跡５遺物分布図１

280～283は土師器の高坏で，280・281は南岸，282は北岸から出土している。283は南岸と北岸から出土した破片が接合した。280は坏部下半～接合部，281～283は脚部の破片資料で，いずれも短脚である。281の上部は坏部が剥離した痕跡が認められる。

284は土師器の壺で，南岸から出土した。内外面はヘラミガキを施す。胎土は白色針状物質の混入が認められる。

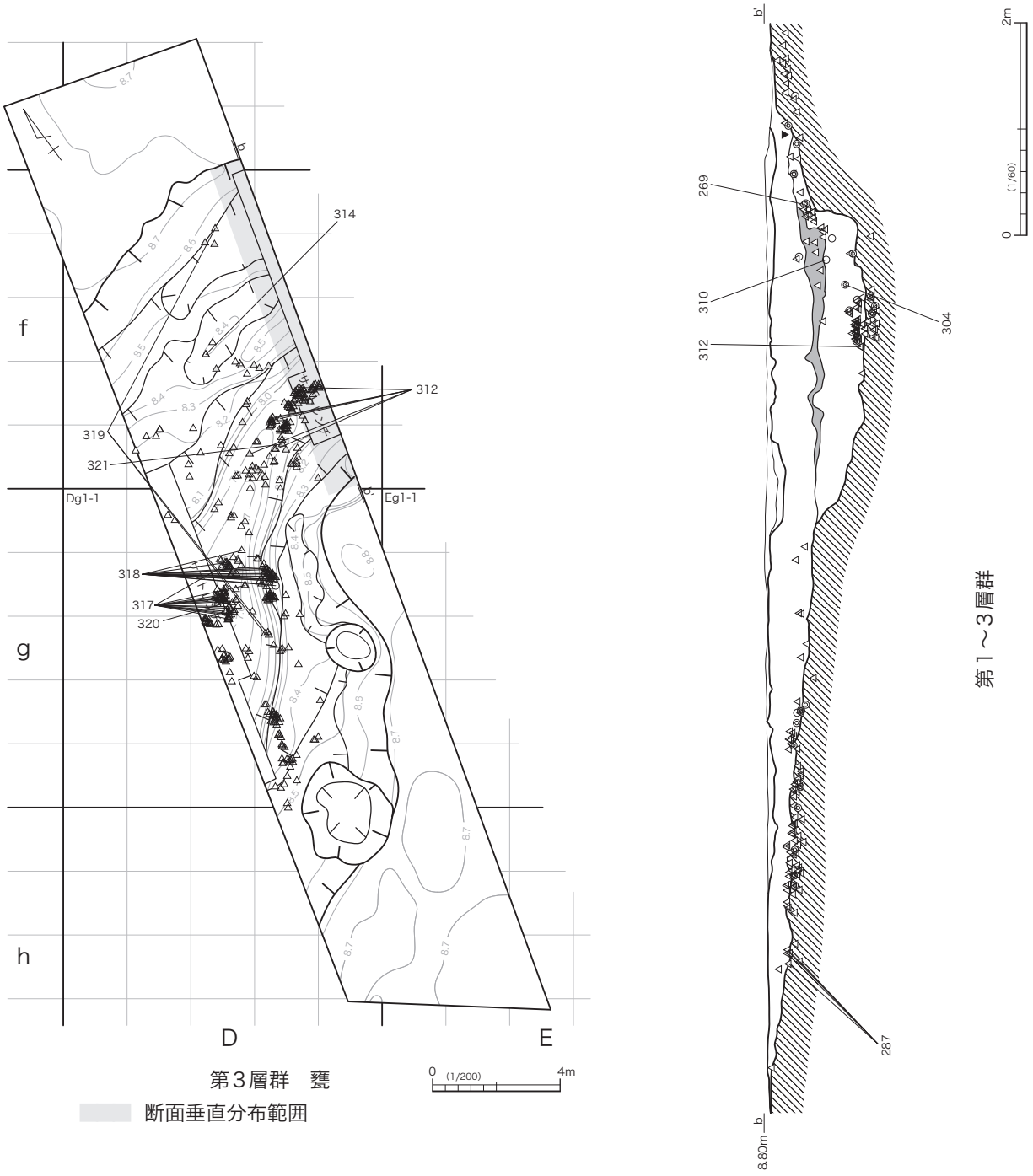
285～294は土師器の甕で，285～287・291・292は北岸，288は中央部分，289・290・293・294は南岸から出土した。285は口縁部を外側に折り返している。全体が磨滅しているため体部の調整は不明瞭であるが，僅かにヘラケズリが確認できる。また，整形にはロクロを使用したと思われる。286・288は内面にヘラナデを施し，外面にハケメを残す。288の底部外面はヘラケズリを施す。287は内外面にハケメを残す。289の内面は



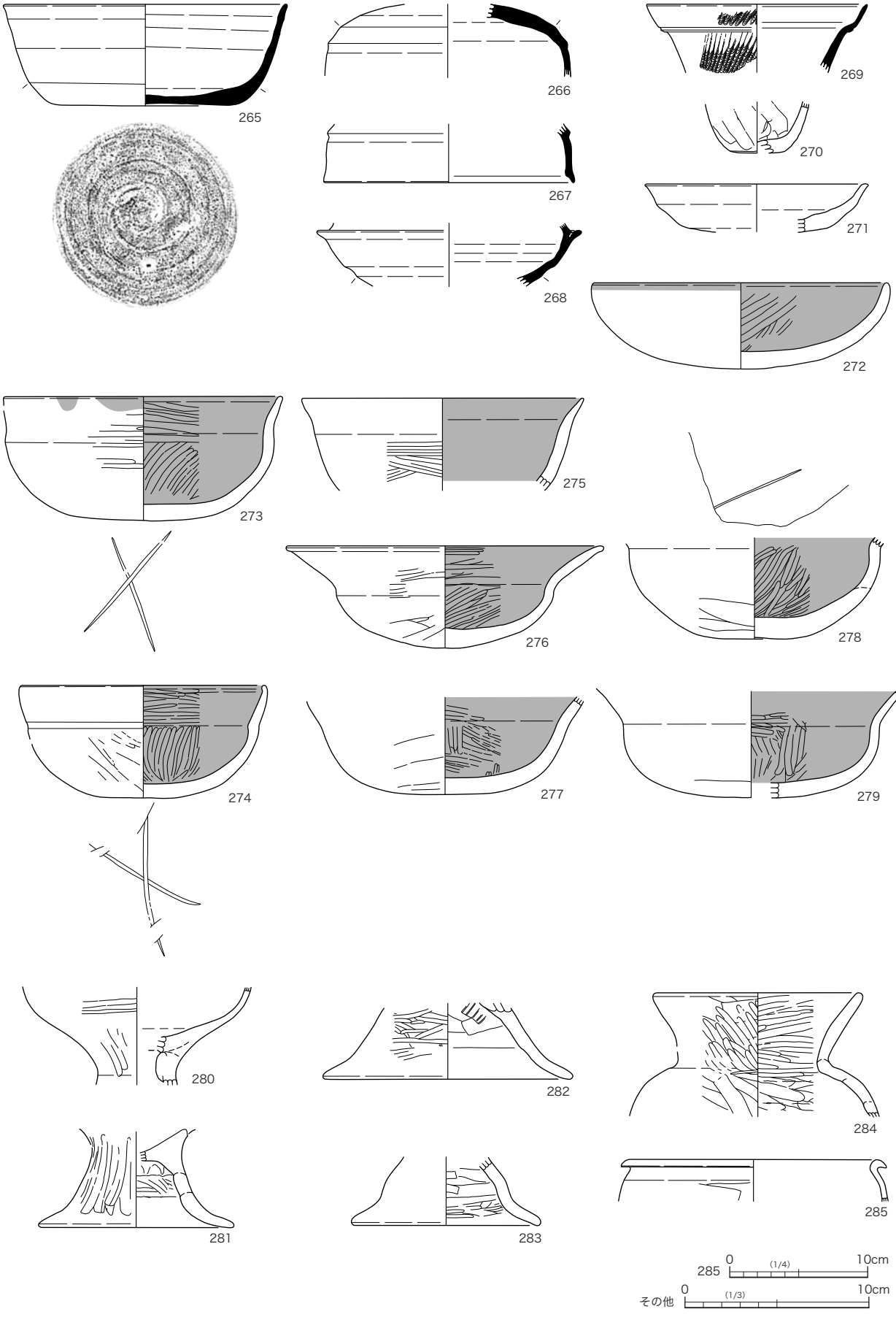
第63図　北地区 川跡５遺物分布図２

頸部にハケメ，体部はヘラナデを施し，外面はハケメを残す。290は磨滅のため不明である。291は底部内面と体部外面にハケメを残し，体部内面の上半はヘラケズリを施す。292は体部内外面ともにハケメの後，内面はヘラミガキ，外面はナデを施す。胎土は白色針状物質を含む。293は底部に砂粒が付着する。294は内外面ともにハケメを施し，底部は中央部が僅かに凹む。

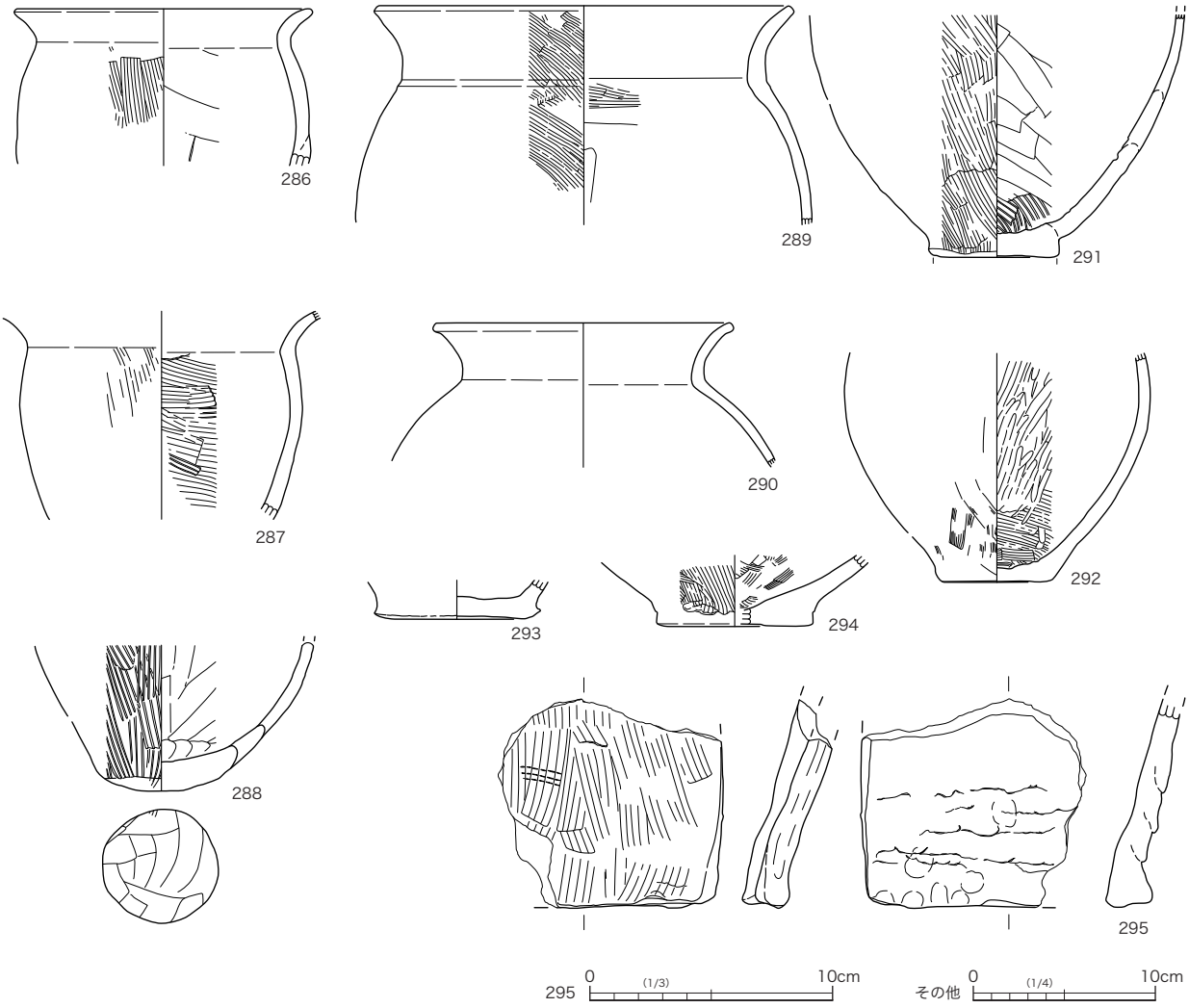
295は形状不明土器としたが，内面に粘土紐の接合痕を残し，器形からは甕などとは考えられず置竈の破片の可能性が高い。内面はナデ，外面はハケメを施す。胎土は粗砂粒・金雲母を多量に含む。なお，同種の破片は出土していない。



第64図　北地区 川跡5遺物分布図3



第65図　北地区 川跡5出土遺物1（第1層群）



第66図　北地区 川跡5出土遺物2（第1層群）

第2層群（第63・67図296～298，図版23・31）

遺物は土師器坏・壺・甑・甕，支脚が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少なく，中央部分から出土した3点を図示した。なお，須恵器は出土していない。

296は内面に黒色処理を施す土師器の坏である。内面はヘラミガキ，底部はヘラケズリを施す。底部外面に焼成前のヘラ書き「×・−」(「卄」を意図したものか) が認められる。

297・298は土師器の甕である。297は頸部付近の破片で，内外面とも平行に横位のハケメを施し，胎土は石英・粗砂粒を多量に含む。298は底部で，内面は横位のハケメ，外面はヘラケズリを施す。この2点は接合しないが胎土・調整などから同一個体と考えられる。

第3層群（第63・64・67・68図299～321，図版23・24・31）

遺物は土師器坏・高坏・壺・甑・甕が出土したが，多くは小片で復元できた個体は少ないため，形状などが確認できるものを中心に図示した。なお，須恵器は出土していない。

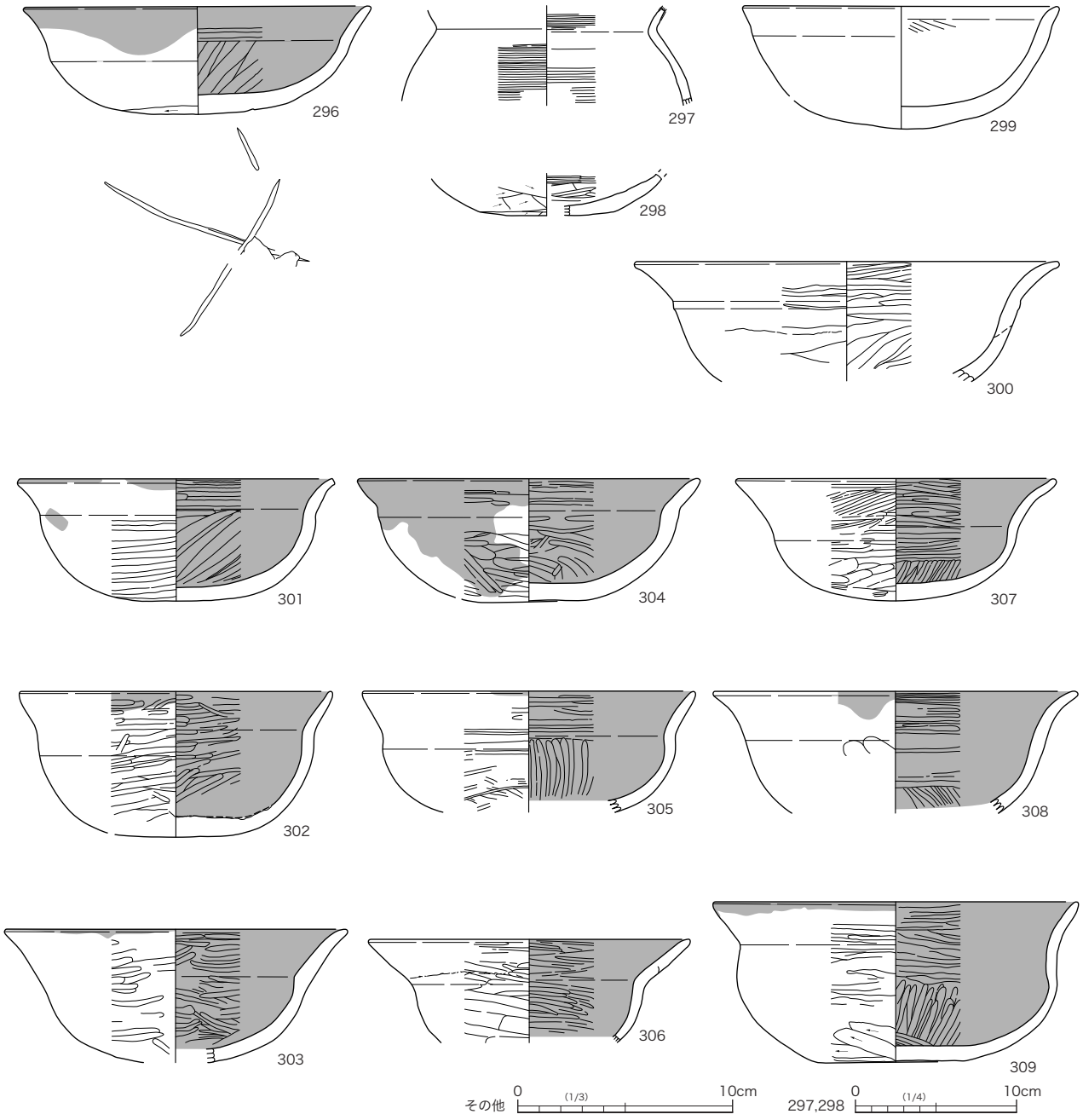
299・300は土師器の坏で，299は半球状の底部で，口縁端部が僅かに外傾する。内面はハケメ後ナデを施す。300は体部外面が，僅かな段となり，口縁部は外傾する。外面は口縁部に横位のヘラミガキ，体部はヘラケズリ，内面は口縁部に横位・体部は斜位のヘラミガキを施す。

301～309は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，底部は半球状で，体部中位で僅かに括れ，口縁部は外傾する。305は外面にハケメが僅かに残る。306～308は口縁部の外傾度が大きく，基本的に内外面はヘラミガキで，308の外面はナデである。309は底部は中央部が凹む。体部外面は下半にヘラケズリを施す。

310・311は高坏の脚部と考えた。調整が粗いため支脚の可能性もあるが，断面の形状から高坏とした。両端部とも破損しており全容は不明である。

312は鉢としたが，甑の可能性もある。口縁部までほぼ直線状に立ち上がり，全体として僅かに外傾する。内面はハケメ，外面はハケメ後粗いヘラミガキを施す。胎土は細かいが，粗砂粒を少量含む。

313は小形の壺で，出土時は頸部が接合面で破損していたが，復元を行い完形となった。口縁部は内外面ともにヘラミガキ，内面は頸部にナデ，体部はハケメ，外面は体部にミガキ,底部はナデを施す。314は壺で，口縁

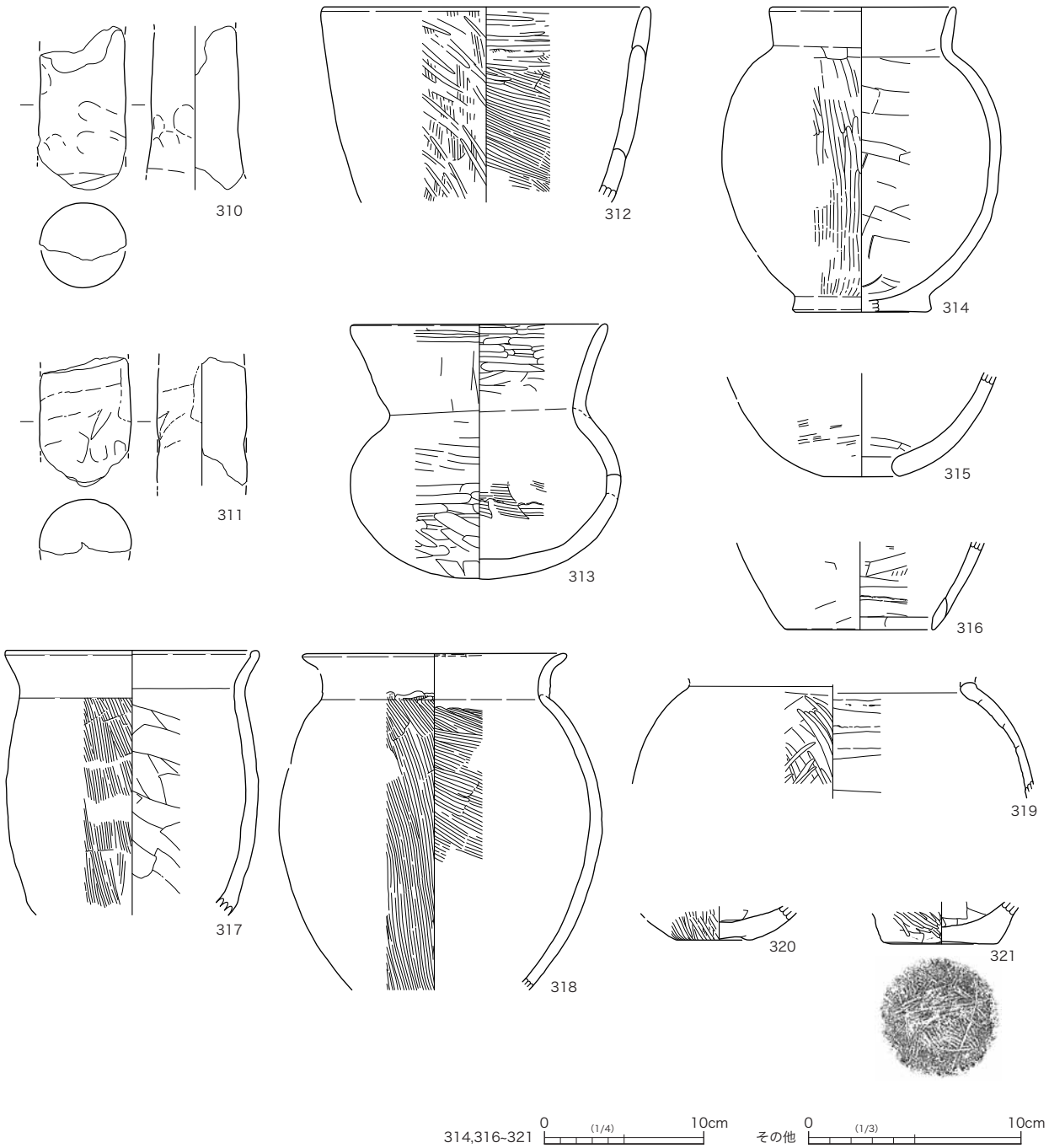


第67図　北地区 川跡5出土遺物3（第2・3層群）

部はほぼ直立する。口縁部は内外面ともにナデ，体部外面は縦位のハケメの後ナデを施す。胎土はよく精選されており細かい。

315・316は土師器の甑で，315は鉢形で，内面はナデを施し，外面にハケメを僅かに残す。単孔式である。胎土は粗く，白色粒・石英を多く含む。316は無底式である。内面はヘラナデを施す。胎土は細かく，細砂粒を少量含む。

317～321は土師器の甕である。317は内面にヘラナデ，外面はハケメを施す。318・319は大形の甕で，318は体部内外面ともにハケメを施す。319は内面にヘラナデ，外面はヘラナデの後ヘラミガキを施す。320・321は底部で，320は内面にヘラナデ，外面はハケメを施す。底部は外周部に粘土を貼付けており中央部が凹む。321は内面にヘラナデ，外面はヘラミガキを施す。なお，底部には整形時の圧痕が認められる。



第68図　北地区 川跡5出土遺物4（第3層群）

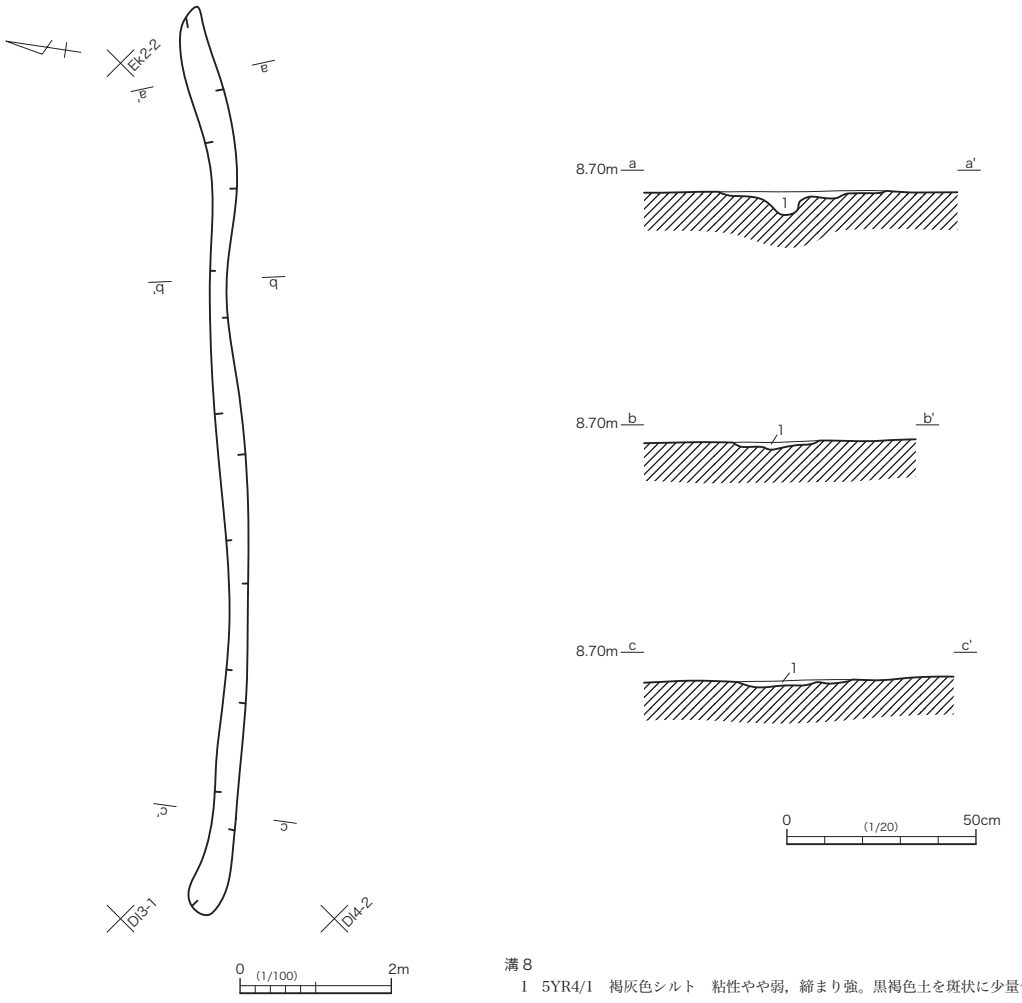
（2）溝・井戸・土坑・ピット

溝8（第19・69図，図版8）

Dk・Dl・Ek区に位置する。確認面はV層上面である。本遺構は確認面上部がほとんど削平されており，僅かにⅣ層が部分的に遺存している部分を精査したところ，溝状に平面形態を確認したため遺構として報告する。遺構上位は削平され，遺存しているのは底部のみと思われる。規模は全長11.2m　幅22～47㎝（平均は35㎝），深さ1～6㎝である。平面形は概ね直線状に東西方向へ延びる。主軸方位はN－82°－Eである。削平を受けているため本来の断面形は不明であり，壁面と底面の境も不明瞭である。覆土は褐灰色シルト層であるが明瞭に遺存しない。遺物は出土していない。

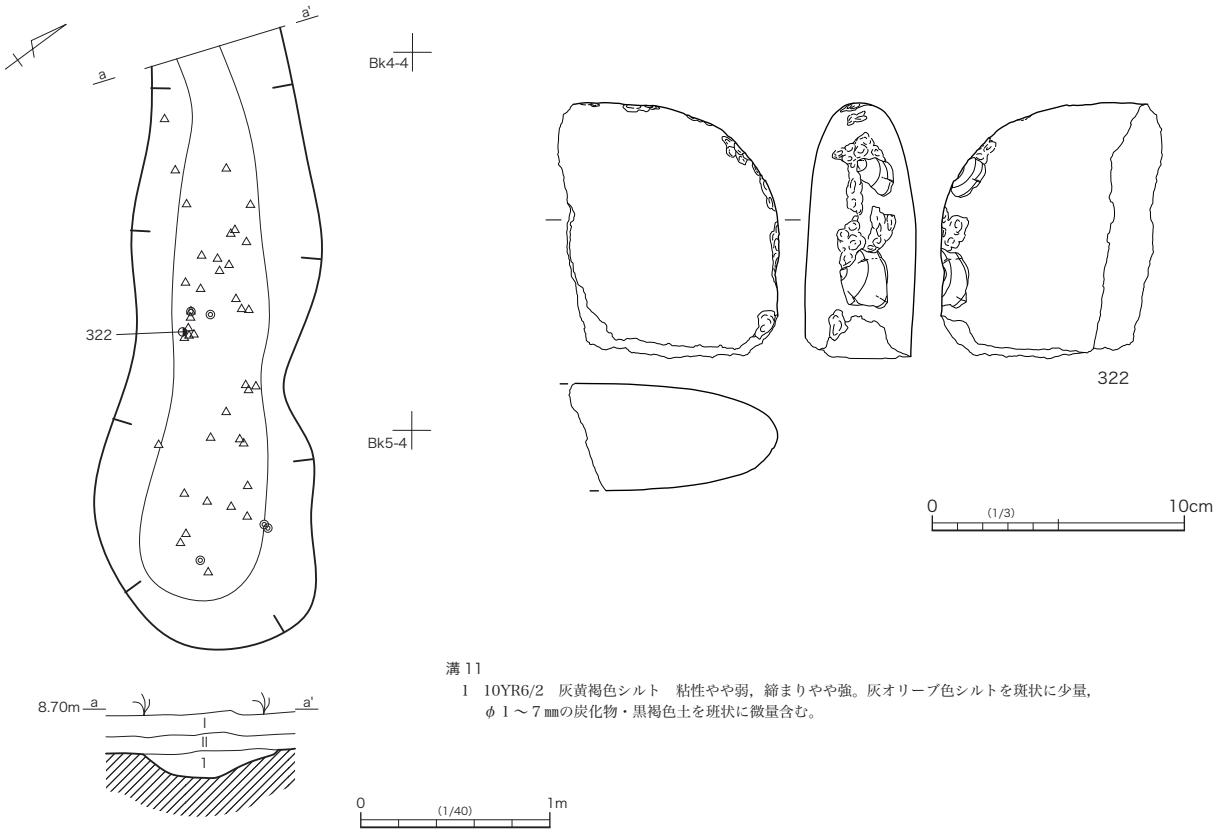
溝11（第19・70図322，図版8・31）

溝11はBk区に位置する。確認面はV層上面である。本遺構の西側が調査区外へと延びており，全体の形状は不明である。調査範囲内での規模は長さ3.14m，幅81～115㎝，深さ14㎝である。平面形は概ね直線状で，東西方向に延びる。主軸方位はN－55°－Wである。断面形は皿状を呈し，ほぼ平坦な底面から緩やかに立ち上がる。



溝8
1　5YR4/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。黒褐色土を斑状に少量含む。

第69図　南地区 溝8平面・断面図



溝11
1　10YR6/2　灰黄褐色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。灰オリーブ色シルトを斑状に少量，
φ1～7㎜の炭化物・黒褐色土を斑状に微量含む。

第70図　南地区 溝11平面・断面図・出土遺物

覆土は単層で，灰黄褐色シルト層で，灰オリーブシルトを斑状に含む。底面に腐食した自然木が溝の形に沿うように出土しているため，本遺構は人為的なものと把握しているが，自然木による凹みである可能性もある。遺物は土師器の坏・甕，敲石が出土したが，土器類は小片であり図示しえなかった。ここでは敲石1点を図示した。

322は側面に敲打痕が看取される。石材は閃緑岩と考えられる。

井戸13（第19・71・72図319～326，図版8・24・31）

Dg4－5・5－5，Eg1－5，Dh4－1・5－1，Eh1－1区に位置する。確認面はV層上面である。川跡5との切り合い関係は不明であるが，立地から考え川跡5に隣接して構築された可能性が高い。規模は長軸334㎝，短軸265㎝，深さは中央部で75㎝である。平面形は不整円形で，主軸方位はN－16°－Eである。断面形は底面が丸く上部はなだらかに立ち上がるが，壁面は崩落しており断面形は本来と異なっていたと考えられる。覆土は16層に分けられ，オリーブ黒色シルト層・砂質土層を主体とし，有機物と炭化物を含む。宇野隆夫の分類（宇野1982）による縦板組無支持の井戸の可能性が考えられる。遺物は側端部に切断面をもつ井戸枠と考えられる木材片が，破砕されて22点出土した。東側では地山に食い込む形で出土しており，この部分を平面図に図示した。

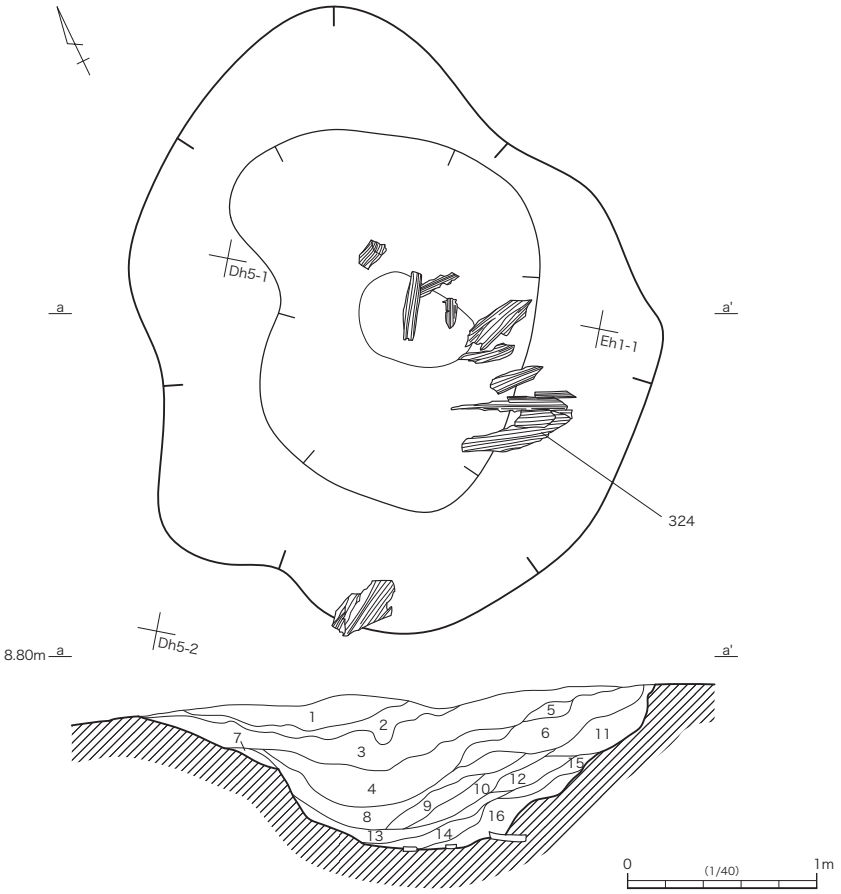
323・324は木製の板材で，出土状態から井戸枠として用いられたものと考えられる。腐食しているため本来の形・厚さは明確ではないが，323は幅15.2㎝で，最も厚い部分で5.6㎝。324は幅18.1㎝である。ともに先端部に切断痕がある。324の樹種はスギと同定された。

井戸枠以外では3・4層を中心に覆土全体から須恵器の坏・瑞，土師器の坏・壺・甑・甕が多量に出土している。このうちは瑞は北地区川跡2から出土した破片と接合した（第17図16）。図示したのは6点である。

325は土師器の坏で口縁端部がやや直立する。内面はヘラミガキ，外面はヘラケズリ後ヘラミガキである。

326～329は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，326～328は体部で括れて口縁部は外傾する。内外面ともにヘラミガキを施す。327は外面にハケメを残す。329は口縁部を欠損する。内面はヘラミガキ，体部外面はヘラケズリが施される。

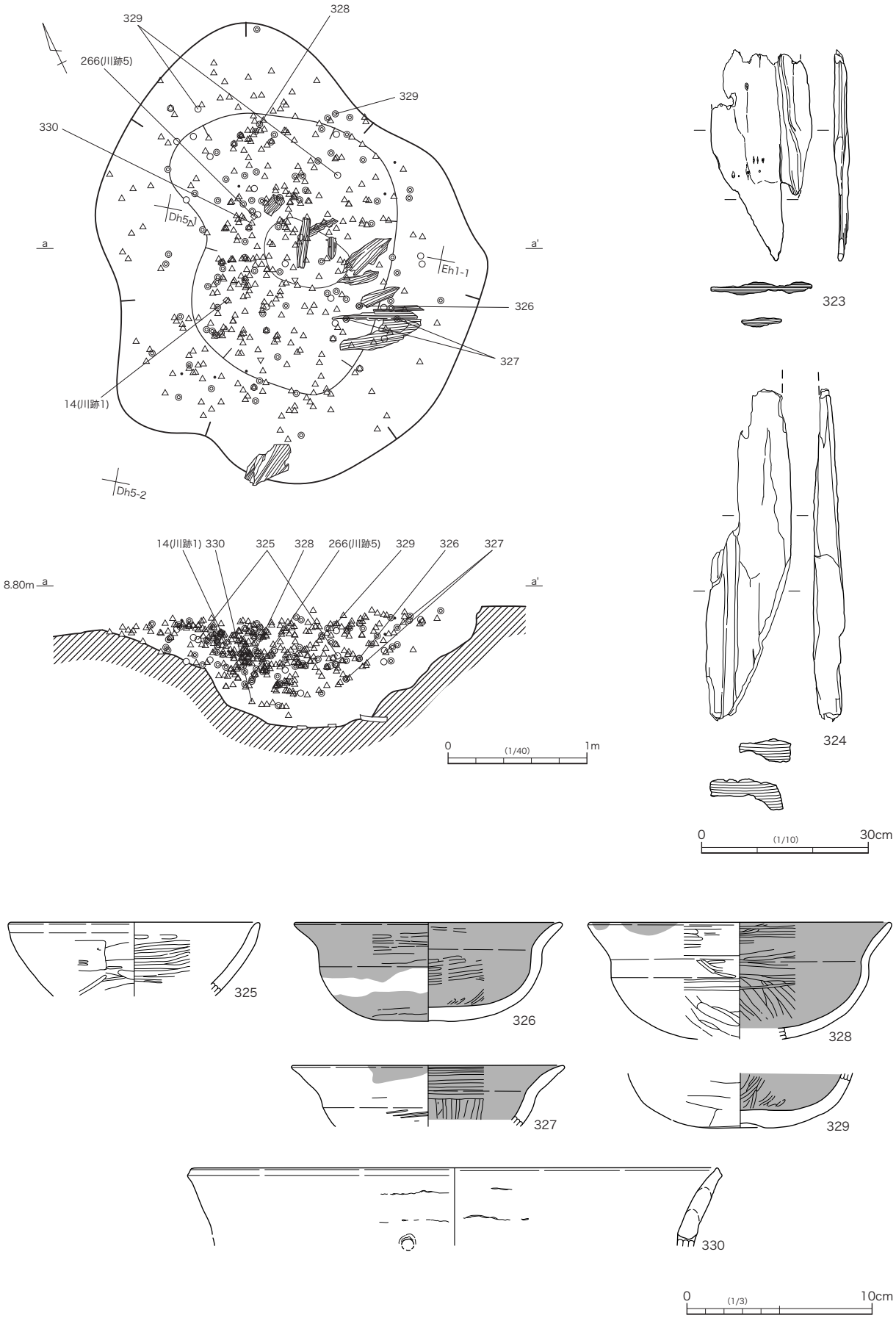
330は土師器甕の口縁部で，頸部付近に焼成前の穿孔が認められる。また内外面に粘土紐の接合痕が残る。



井戸 13

1　2.5Y3/1　黒褐色砂　粘性なし，締まり弱。φ 1～3㎜の炭化物粒・φ 10～20㎜の灰色砂粒ブロック少量，φ 1～5㎜の黒褐色粘質土粒を微量含む。
2　10YR2/2　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。φ 1～10㎜の炭化物ブロック・粒少量，φ 10㎜程の灰色砂粒ブロックを微量に含む。
3　2.5Y3/2　黒褐色土　粘性やや弱，締まりやや弱。φ 1～15㎜の炭化物ブロック・粒少量，灰色砂粒含む。
4　5Y2/2　オリーブ黒色土　粘性やや弱，締まり弱。φ 5～20㎜の炭化物粒，φ 10～40㎜の灰色砂粒ブロック，有機物を含む。灰白色砂が粒混じるが3層より砂質分少ない。
5　7.5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1～5㎜の炭化物粒・φ 10～20㎜の黒褐色砂質土ブロックを微量に含む。
6　10Y3/2　オリーブ黒色砂　粘性なし，締まり弱。φ 5～15㎜の炭化物粒を含み，灰白色砂粒混入。
7　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性弱，締まりやや弱。φ 1～5㎜の炭化物粒少量。
8　5Y2/2　オリーブ黒色土　粘性弱，締まり弱。φ 1～20㎜の炭化物ブロック・粒多量，灰色砂粒を含む。有機物を含む。
9　5Y2/2　オリーブ黒色砂　粘性なし，締まり弱。φ 10～15㎜の灰白色砂粒ブロック少量，φ 1～10㎜の炭化物ブロック・粒が微量に含まれる。
10　5Y4/1　灰色砂　粘性なし，締まり弱。φ 10㎜程の灰オリーブ色シルトブロックを微量に含む。オリーブ黄色砂粒と灰白色砂の混土層。
11　7.5Y4/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ 10㎜程の砂粒ブロック少量，φ 5～10㎜の炭化物ブロック・粒微量に含む。
12　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ 10～20㎜の炭化物ブロック少量。細砂混入。
13　10YR2/2　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。φ 1～5㎜の灰色粘質土粒を微量に含む。有機物含む。
14　7.5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ 1～3㎜の炭化物粒を微量に含む部分的に黒褐色を呈する。
15　5Y6/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まりなし。φ 10㎜程の灰オリーブ色シルトブロックを少量含む。
16　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ 1～5㎜の炭化物粒微量・灰白色砂粒を含む。

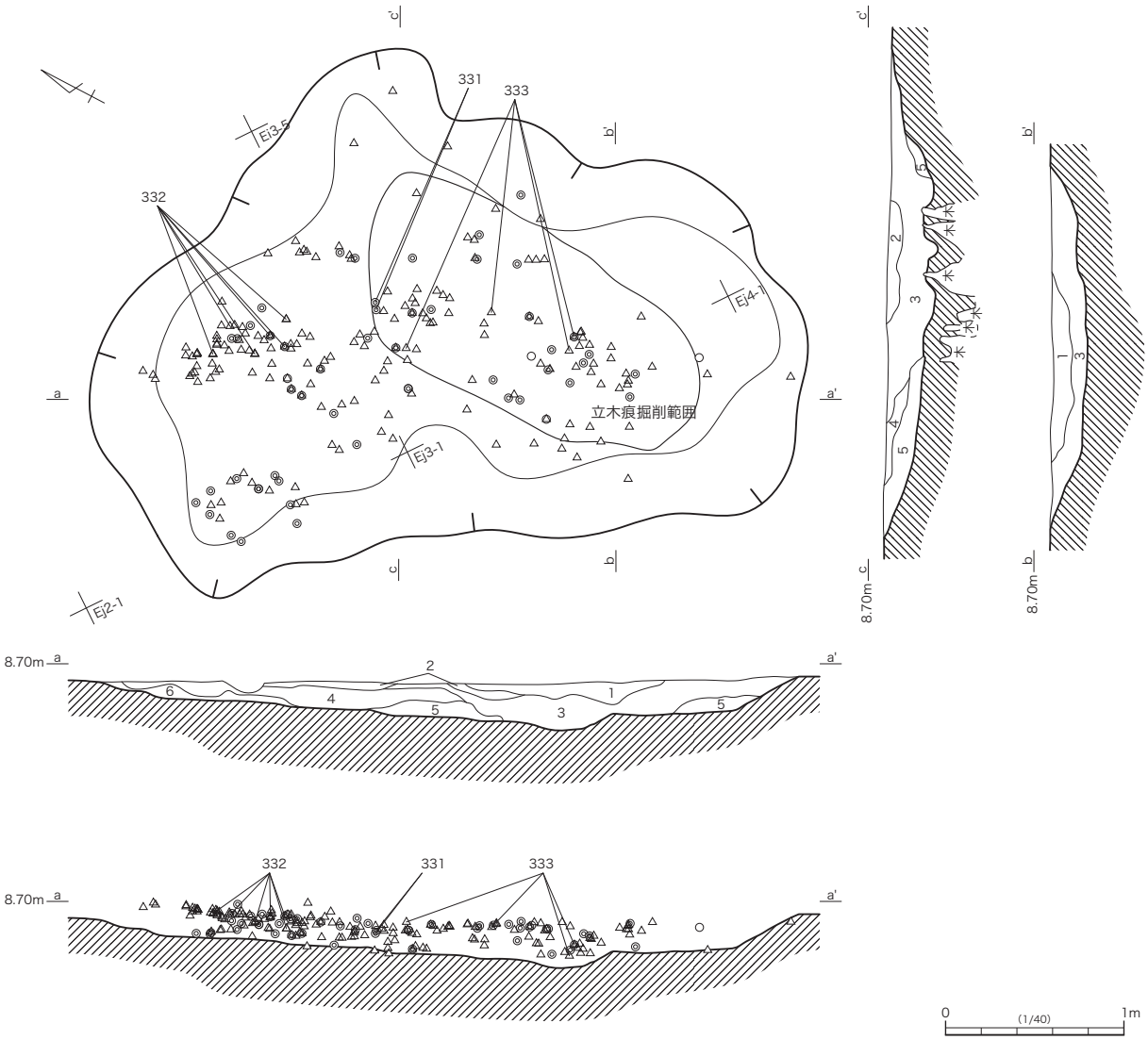
第71図　北地区 井戸13平面・断面図



第72図　北地区 井戸13遺物分布図・出土遺物

土坑6（第19・73・74図331～333，図版8）

Ei3－4・2－5・3－5・4－5区，Ej2－1・3－1・4－1区に位置する。確認面はⅤ層上面である。遺構の規模は長軸401㎝，短軸274㎝，深さは最深部で30㎝，北西側の平坦部で24㎝前後である。平面形は北西側の一部が突出する不整楕円形で，主軸方位はN－35°－Wである。底部はほぼ平坦で，壁面は底面から緩やかに立ち上がる。土坑底面の下に自然埋没した立木が存在した。覆土は5層に分けられ，灰オリーブないし暗オリーブ灰色シルト層を主体とし，全体的に炭化物が含まれる。特に3層で炭化物の混入が顕著である。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は覆土全体から土師器の坏・甕が多数出土した。特に甕の体部は大きな破片もあり，北西



土坑6
1　5BG3/1　暗青灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。φ1～5㎜の炭化物を少量，黄橙色の粗砂をブロック状に含む。
2　7.5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり強。φ1～3㎜の炭化物を微量，暗青灰色シルトを斑状に含む。
3　5GY4/1　暗オリーブ灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。灰オリーブ色シルトをブロック状に少量，φ1～15㎜の炭化物を含む。
4　5BG5/1　青灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。φ1～10㎜の炭化物を小量，灰オリーブ色シルトを斑状に少量含む。
5　5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ1～5㎜の炭化物を微量，暗オリーブ灰色シルトを斑状に微量含む。

第73図　南地区 土坑6平面・断面・遺物分布図

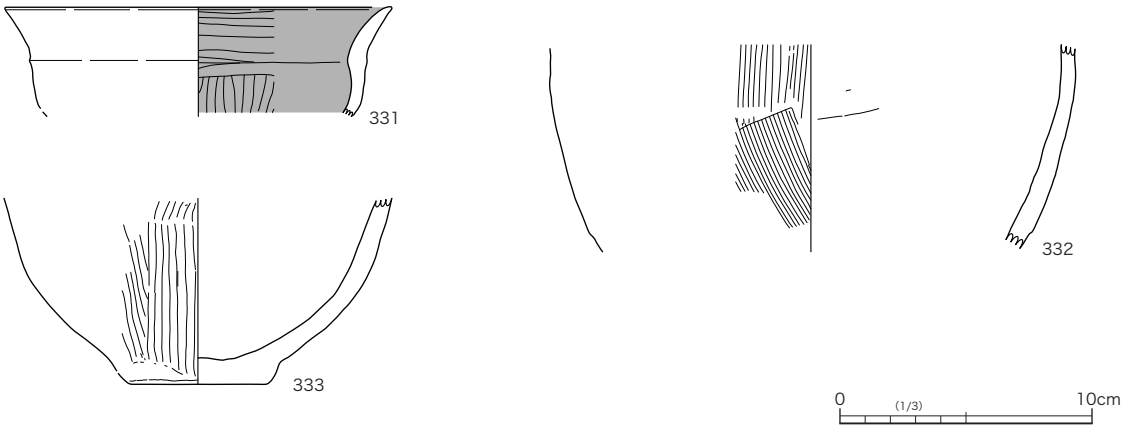
側から土師器甕がまとまった状態で出土している。しかし，多くは小片ないし甕の体部片で図示しえるものは少なかった。このうちの3点を図示した。

331は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，口縁部は緩く外反する。内面はヘラミガキを施す。

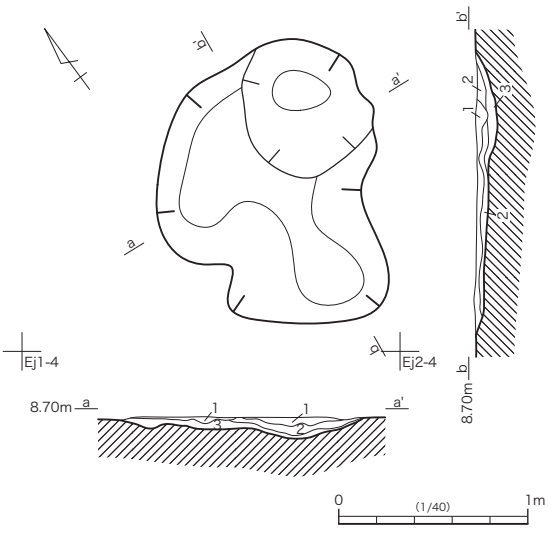
332・333は土師器の甕で，外面にハケメを残す。

土坑7（第19・75図，図版9）

Ej1－3区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸152㎝，短軸113㎝，深さは北東側の最深部で14㎝，それ以外の平坦部で6㎝前後である。平面形は不整形である。主軸方位はN－2°－Eである。断面形は概ね弧状を呈し，壁面は起伏のある底面から緩やかに外傾して立ち上がる。覆土は3層に分けられ，灰オリーブ色シルト層を主体とする。各層とも覆土に炭化物を含み，特に1層はブロック状に多量含む。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は土師器甕が2点出土しているが，小片のため図示しえなかった。



第74図　南地区 土坑6出土遺物



土坑7
1　5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり強。炭化物を帯状ないし，φ2～15㎜のブロック状に多量・灰色シルトを斑状に含む。
2　7.5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり強。φ1～10㎜炭化物を少量，灰色シルトを斑状に少量含む。
3　7.5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり強。φ1～5㎜炭化物・灰色シルトを斑状に微量含む。

第75図　南地区 土坑7平面・断面図

土坑12（第19・76図334～336，図版9）

Dg5－3区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸190㎝，短軸141㎝，深さは中央部で25㎝である。平面形は楕円形である。主軸方位はN－25°－Wである。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は3層に分けられ，オリーブ黒色シルト層を主体とし，炭化物を多く含む。遺物は全体から土師器の坏・高坏・甑・甕，支脚などが出土したが，多くは小片であった。このうち3点を図示した。

334は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，内外面ともにヘラミガキを施す。

335は内面に黒色処理を施す高坏で，内外面ともにヘラミガキを施す。

336は土師器の甑で，無底式である。内面はハケ状のヘラナデを施し，外面にハケメを残す。胎土は石英粒を多量に含む。開口部は端部を折り返し厚くなっている。

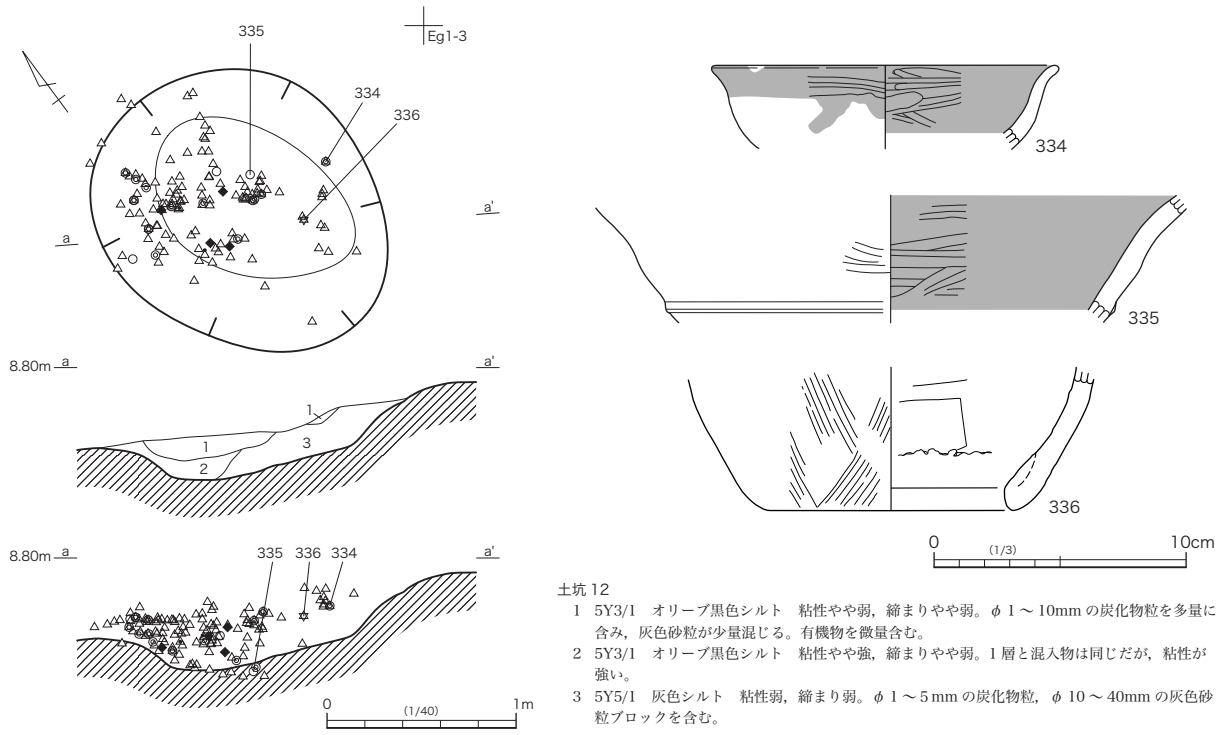
土坑14（第19・77図337，図版9・31）

El3－3・3－4・4－3・4－4区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸127㎝，短軸122㎝，深さ13㎝である。平面形は隅丸の正方形で，主軸方位はN－110°－Eである。底面はほぼ平坦で，壁面は平坦な底面から外傾して急に立ち上がる。覆土は2層に分けられ，灰色シルト層を主体する。1・2層ともに炭化物を含み，特に1層はその混入量が顕著である。覆土の堆積状態から自然埋没であると考えられる。遺物は1層から古墳時代の土師器坏・甕，砥石が出土しているが，土器類は小片のため図示しえず，砥石のみを図示した。

337は砥石で，上下と裏面を欠損し全容は不明である。上方は細くなっている。なお，砥面の使用痕は磨滅しており，明確に確認できない。

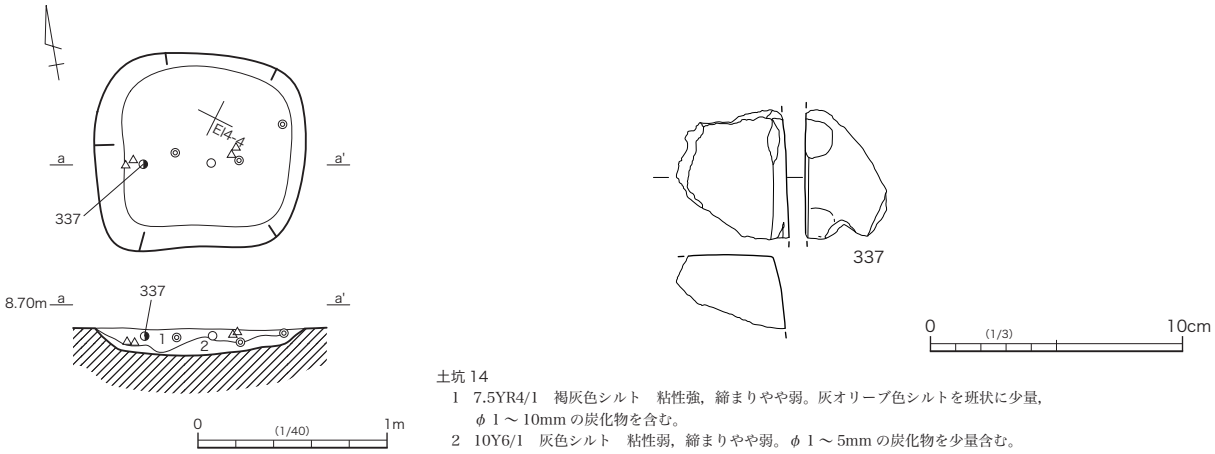
土坑15（第19・77図，図版9）

El2－4・2－5・3－4・3－5区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸367㎝，短軸183㎝，深さ20㎝である。平面形は縦長の不整楕円形で，主軸方位はN－18°－Wである。底面は中央部に平坦面を有し，壁



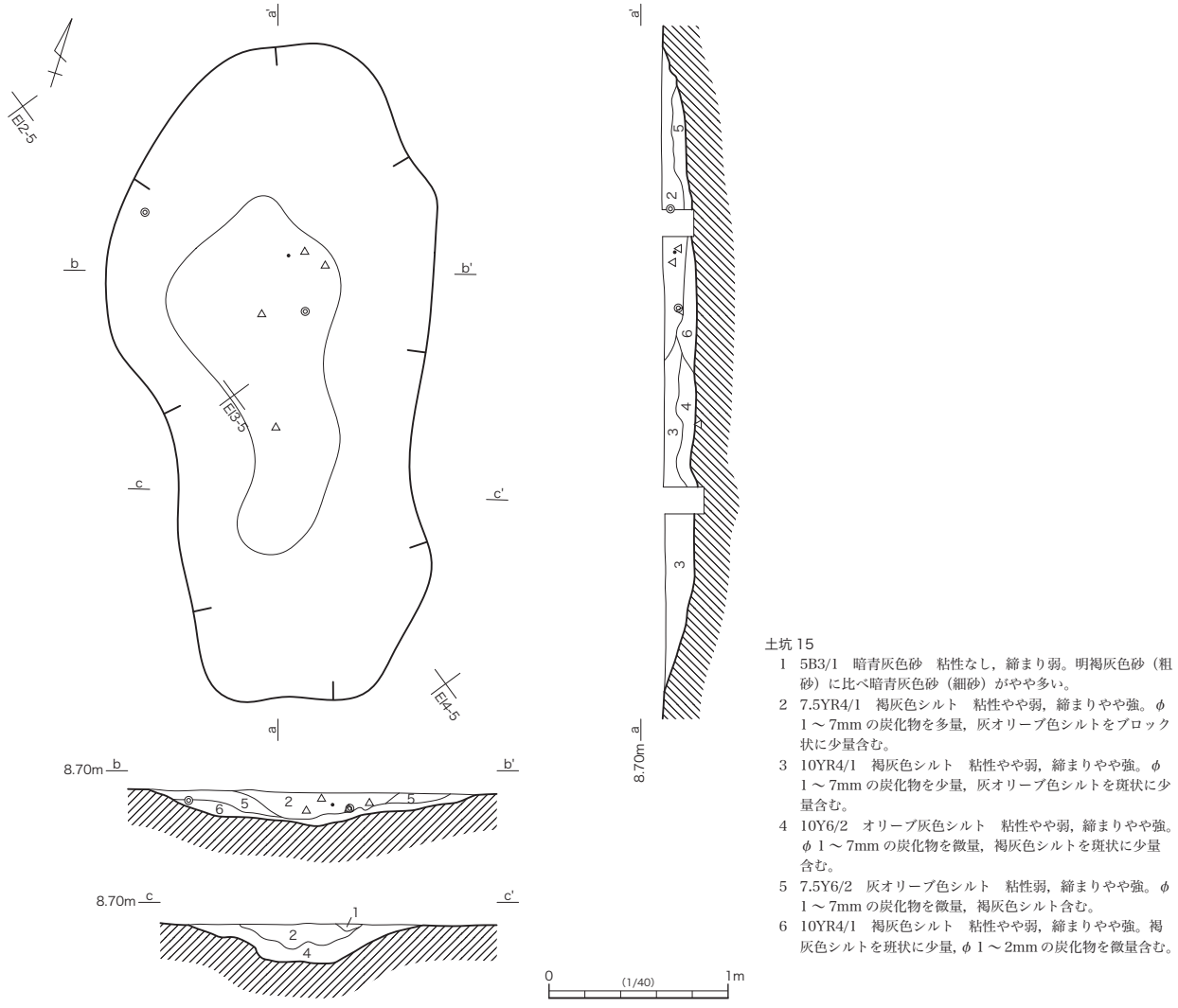
土坑12
1　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ1～10mmの炭化物粒を多量に含み，灰色砂粒が少量混じる。有機物を微量含む。
2　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや強，締まりやや弱。1層と混入物は同じだが，粘性が強い。
3　5Y5/1　灰色シルト　粘性弱，締まり弱。φ1～5mmの炭化物粒，φ10～40mmの灰色砂粒ブロックを含む。

第76図　北地区 土坑12平面・断面・遺物分布図・出土遺物



土坑 14
1　7.5YR4/1　褐灰色シルト　粘性強，締まりやや弱。灰オリーブ色シルトを斑状に少量，φ 1 ～ 10mm の炭化物を含む。
2　10Y6/1　灰色シルト　粘性弱，締まりやや弱。φ 1 ～ 5mm の炭化物を少量含む。

第77図　南地区 土坑14平面・断面・遺物分布図・出土遺物



土坑 15
1　5B3/1　暗青灰色砂　粘性なし，締まり弱。明褐灰色砂（粗砂）に比べ暗青灰色砂（細砂）がやや多い。
2　7.5YR4/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 7mm の炭化物を多量，灰オリーブ色シルトをブロック状に少量含む。
3　10YR4/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 7mm の炭化物を少量，灰オリーブ色シルトを斑状に少量含む。
4　10Y6/2　オリーブ灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 7mm の炭化物を微量，褐灰色シルトを斑状に少量含む。
5　7.5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性弱，締まりやや強。φ 1 ～ 7mm の炭化物を微量，褐灰色シルト含む。
6　10YR4/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。褐灰色シルトを斑状に少量，φ 1 ～ 2mm の炭化物を微量含む。

第78図　南地区 土坑15平面・断面図・遺物分布図・出土遺物

面は緩やかに外傾する。覆土は6層に分けられ，褐灰色ないしオリーブ灰色シルト層を主体とする。各層ともに炭化物を含むが，特に2層での混入量が顕著である。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物はほぼ中央付近から古墳時代の土師器坏・甕が少量出土したが，いずれも小片のため図示しえなかった。

土坑16（第19・79・80図338～346，図版9・24）

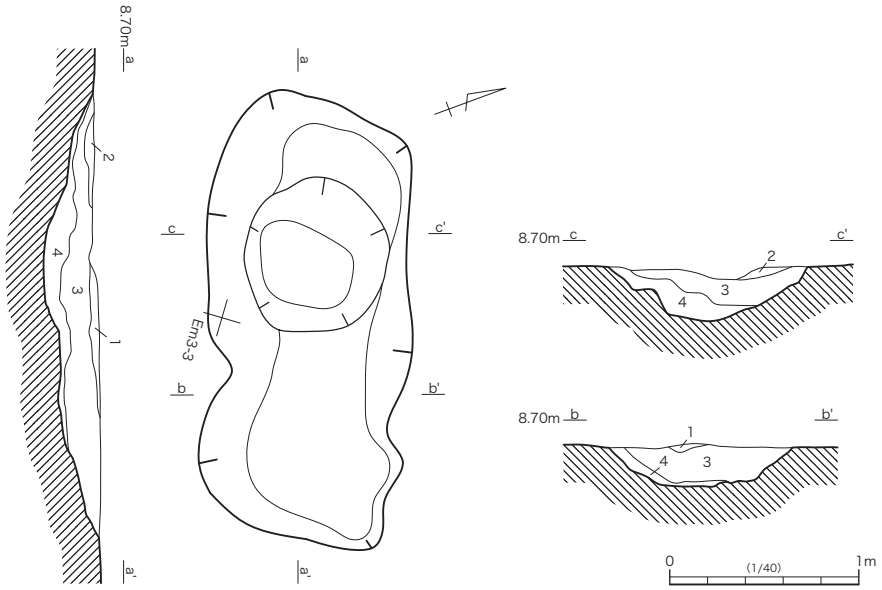
Em1－2・1－3・2－2・2－3区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸236㎝，短軸105㎝，深さ22～28㎝である。平面形は隅丸の不整長方形で，中央西寄りに，ほぼ円形の窪みがある。主軸方位はN－68°－Wである。底面から緩やかな階段状に立ち上がる。覆土は4層に分けられ，褐灰色シルト層を主体とする。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は土師器坏・高坏・甕・壺が出土した。多くは中央部西寄りの一段深落ち込みからの出土である。完形の坏，ほぼ完形となる甕2個体が出土し，その周囲から3個体分の甕も出土している。高坏脚部は窪みとその周辺に散在していた。図示したのは7点である。

338は土師器の坏で，ほぼ完形で出土した。口縁部は上方が僅かに外傾する。内外面ともにヘラミガキ，内面は黒色処理を施すが，底部付近の半分ほどは黒色となっていない。

339は高坏脚部で，坏部は欠損する。外面はヘラミガキ，内面は斜位のハケメである。胎土に大粒の石英，白色針状物質を少量含む。

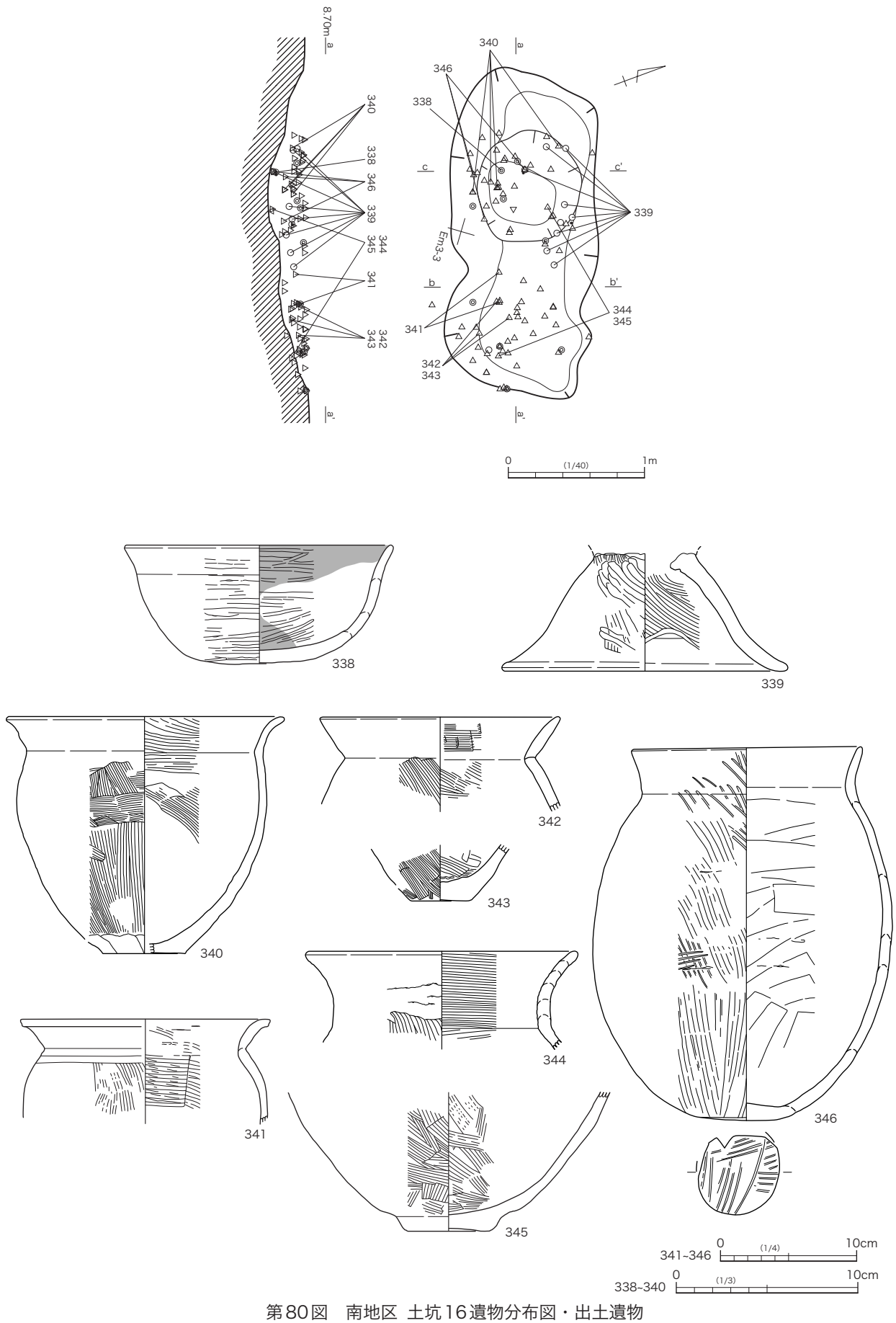
340は小形の甕で，一部欠損するが，ほぼ完形となった。内外面ともにハケメ，体部外面の下端にヘラケズリを施す。内面の下半に炭化物，外面全体に煤が付着する。

341～346は土師器の甕で，341～345は内外面にハケメを残す。341は体部内外面に煤が僅かに付着している。345の底部は僅かに凹む。346は一部が欠損し，全体に磨滅しているが，ほぼ完形となる。口縁部はやや外反している。体部内面はヘラナデ，外面はハケメを施す。胎土は小礫を多量に含む。体部外面の下半に煤が厚く付着している。

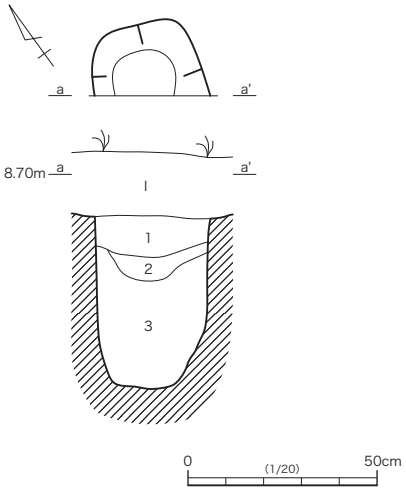


土坑16
1　7.5YR6/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。黒褐色土を斑状に含む。
2　7.5YR5/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。黒褐色土をφ5～10mmのブロック状ないし斑状に少量，灰白色砂を微量含む。
3　7.5YR5/1　褐灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。黒褐色土を斑状に少量，φ1～5mmの炭化物を少量含む。
4　7.5GY7/1　明緑灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。褐灰色シルトを斑状に多量，黒褐色土をφ5mmのブロック状に少量含む。

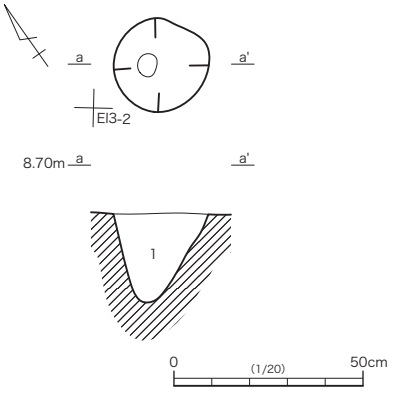
第79図　南地区 土坑16平面・断面図・遺物分布図



第80図　南地区 土坑16遺物分布図・出土遺物



ピット１
1　7.5YR3/1　黒褐色土　粘性やや弱，締まりやや強。地山の灰黄色砂（細砂）を斑状に含む。
2　7.5YR5/1　褐灰色砂　粘性なし，締まり弱。黒褐色土を斑状に含む。
3　7.5YR5/1　褐灰色砂　粘性なし，締まり弱。地山の灰黄色砂（細砂）を斑状に少量含む。下層部になるほど混入量が増す。



ピット２
1　7.5YR4/1　褐灰色砂　粘性なし，締まり弱。φ１～５mm の炭化物を微量・灰白砂（細砂）を微量含む。

第81図　南地区 ピット１・ピット２平面・断面図

ピット１（第19・81図，図版9）

Cn4－3区に位置する。確認面はⅤ層上面で，規模は径30㎝，深さ45㎝である。本遺構の南半は調査区外にあり，全体の平面形は不明である。壁面は底部からほぼ垂直に立ち上がる。覆土は3層に分けられ，1層が黒褐色土層，2・3層が褐灰色砂層を主体とする。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は出土していない。

ピット２（第19・81図，図版9）

El3－1区に位置する。確認面はⅤ層上面で，規模は径25㎝，深さ26㎝である。平面形は円形で，断面形はV字状を呈し，底面は狭く，壁面は斜位に立ち上がる。覆土は単層で，褐灰色砂層に炭化物が微量に含まれる。遺物は出土していない。

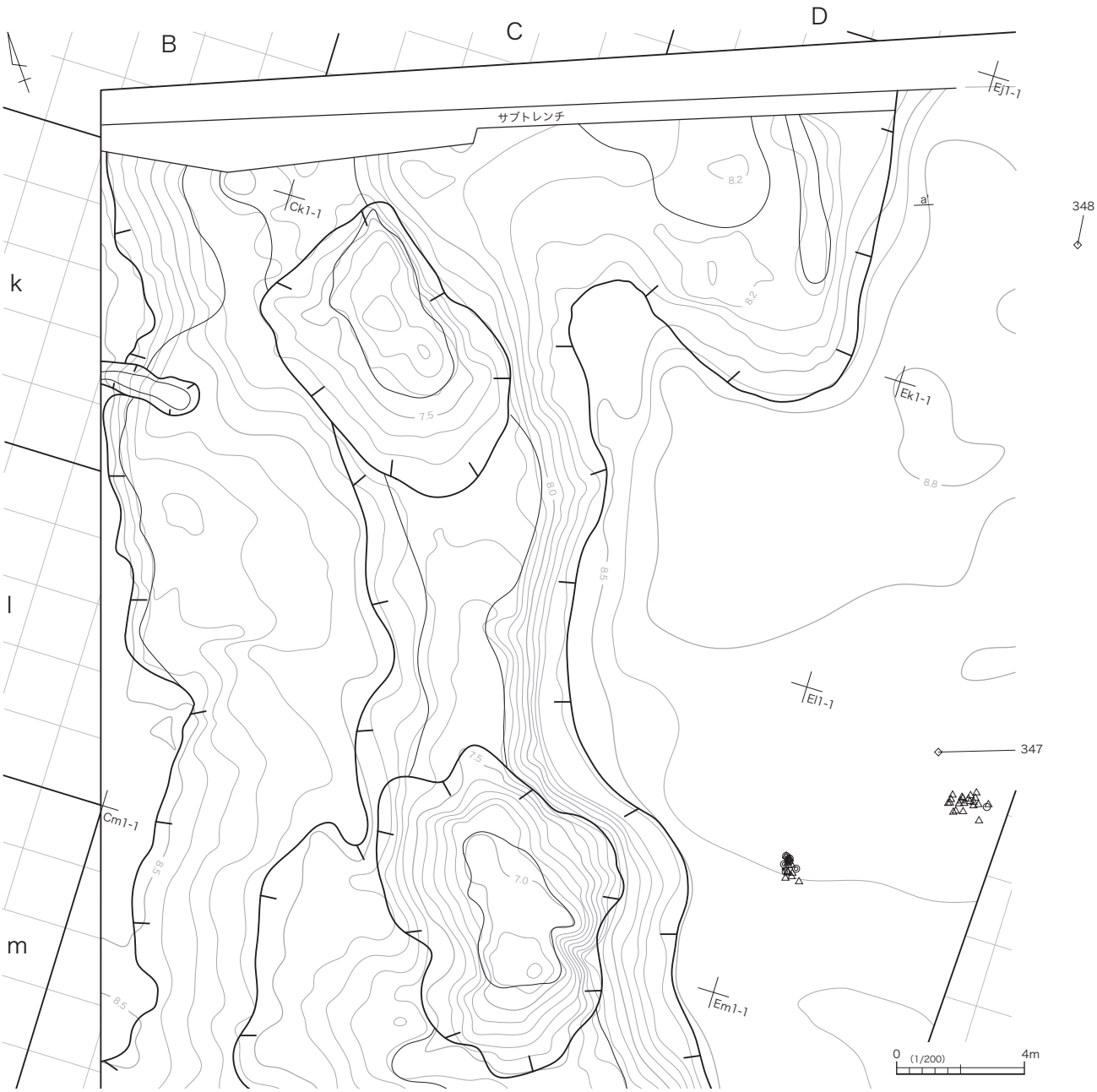
（3）遺構外出土遺物（第82・83図347～351，図版24・31）

ここでは北地区・南地区の遺構外から出土した遺物をとりあげる。遺物は須恵器坏，土師器坏・甕などが出土したが，いずれも小片で図示しえたのは5点であった。なお，El区では遺物が集中する部分が2箇所確認できたが，同一個体が集中しているのではないため，当時の「水溜まり」などであったと考えている。

347は南地区のEl3－1区から出土した須恵器の蓋で口縁端部には沈線状の段があり，外面上部に自然釉が認められる。胎土は緻密で堅く，白色粒を含む。348は南地区のEj3－3区から出土した須恵器の坏で口縁端部には僅かな沈線状の段が認められる。胎土は白色粒・砂粒を含む。

349は北地区のDe3－4区から出土した須恵器の甕の頸部で，胎土は白色粒を多く含み焼成はやや軟質である。体部には同心円状の当て具痕が残る。350は越前系の甕の体部で，北地区のDf3－5区から出土した。

351は須恵器の瓶である。調査区内出土ではなく，調査区東側で採集したものである。頸部内面は絞り上げ，体部外面は下半に平行叩きを施す。口縁部には段が僅かに確認でき，本来はこの段から口縁部が外傾しあまり高くならないようである。頸部には波状文を施す。上部全体に自然釉がかかっている。胎土は白色粒を少量含み，赤く焼き締まっている。内部には漆が入れられ，最終時には横位になっていたようである（図版24）。なお，漆は穿孔部内まで認められた。



第82図　南地区 遺構外出土遺物分布図

第83図　遺構外出土遺物

第V章　神明裏遺跡

1．概要

本遺跡は蚤取橋遺跡の北側に位置し，蚤取橋遺跡北地区の調査区とは8mほどしか離れていない。調査区の現況は水田で，ほぼ平坦であるがわずかに南に向かい傾斜している。遺存状態は蚤取橋遺跡と同様で良好とはいえず，遺構確認面は水田耕作土層の直下であった。また，遺物包含層も削平されたと考えられ，ほとんど確認できなかった。なお，調査区を東西に斜めに走る溝は，調査前まで使用していた配水溝である。なお，川跡1～3・5は方向・覆土の特徴が共通するため，蚤取橋遺跡南・北地区で検出した川跡と同一と判断し，遺跡は異なるが同一の名称を踏襲した。

確認した遺構は以下のとおりである。

古代以降（第82図）	掘立柱建物跡	1棟
	川跡	3条
	土坑	2基
古墳時代（第91図）	川跡	2条
	溝	1条
	土坑	11基
	埋設遺構	1基
	ピット	5基

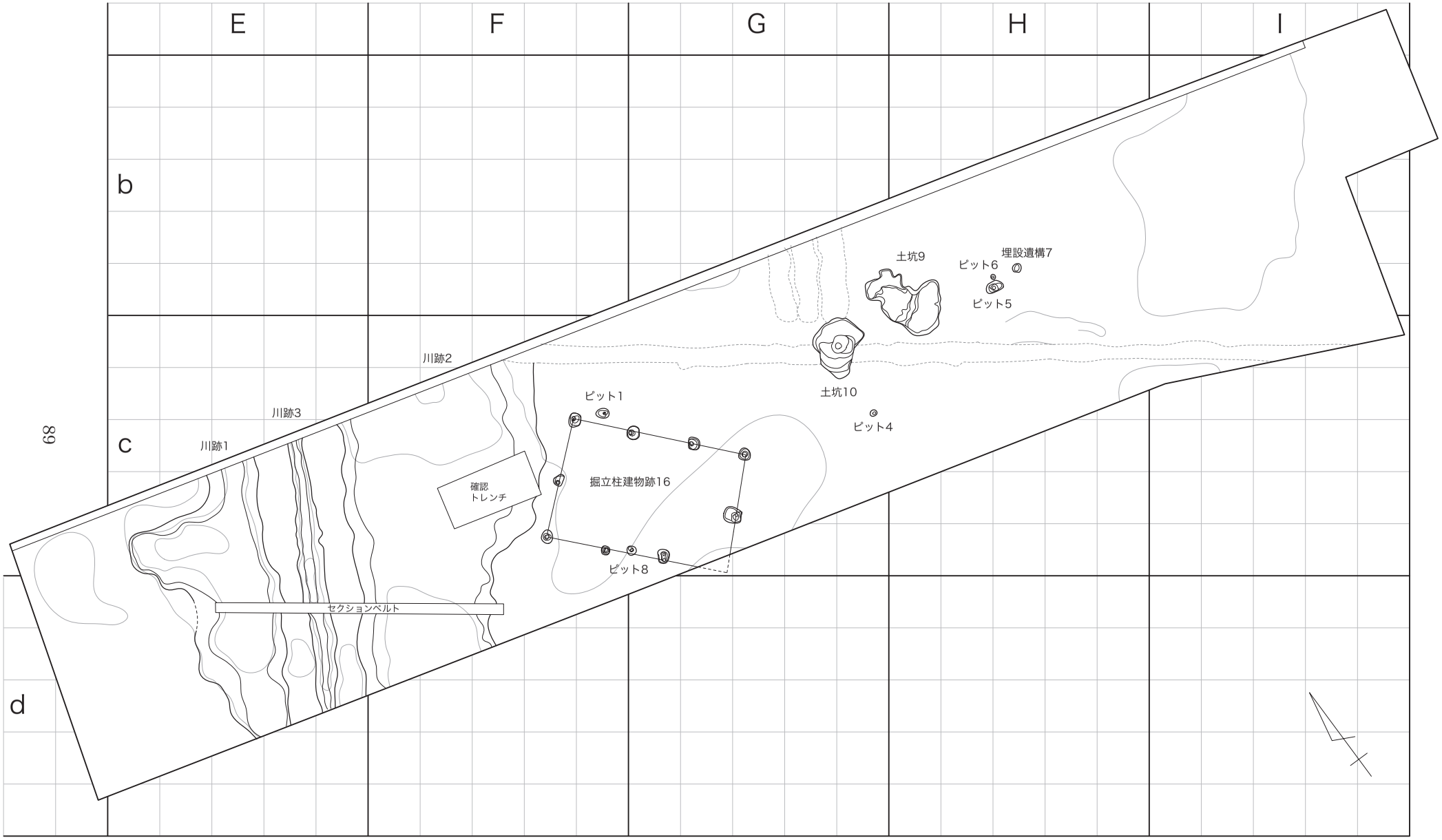
2．古代・中世の遺構と遺物

古代の遺構は掘立柱建物跡，川跡，土坑が検出された。川跡1～3は調査区内で確認できた部分の精査を行ったが，川跡5と共通のセクションベルト部分は出土遺物などの層位的な比較を目的として，敢えて残存させつつ調査を行った。なお，出土遺物から判断すると，掘立柱建物跡の存続期間には川跡1～3は流れていたと考えられる。

（1）掘立柱建物跡

掘立柱建物跡16（第84～87図1・2，図版10～12・34）

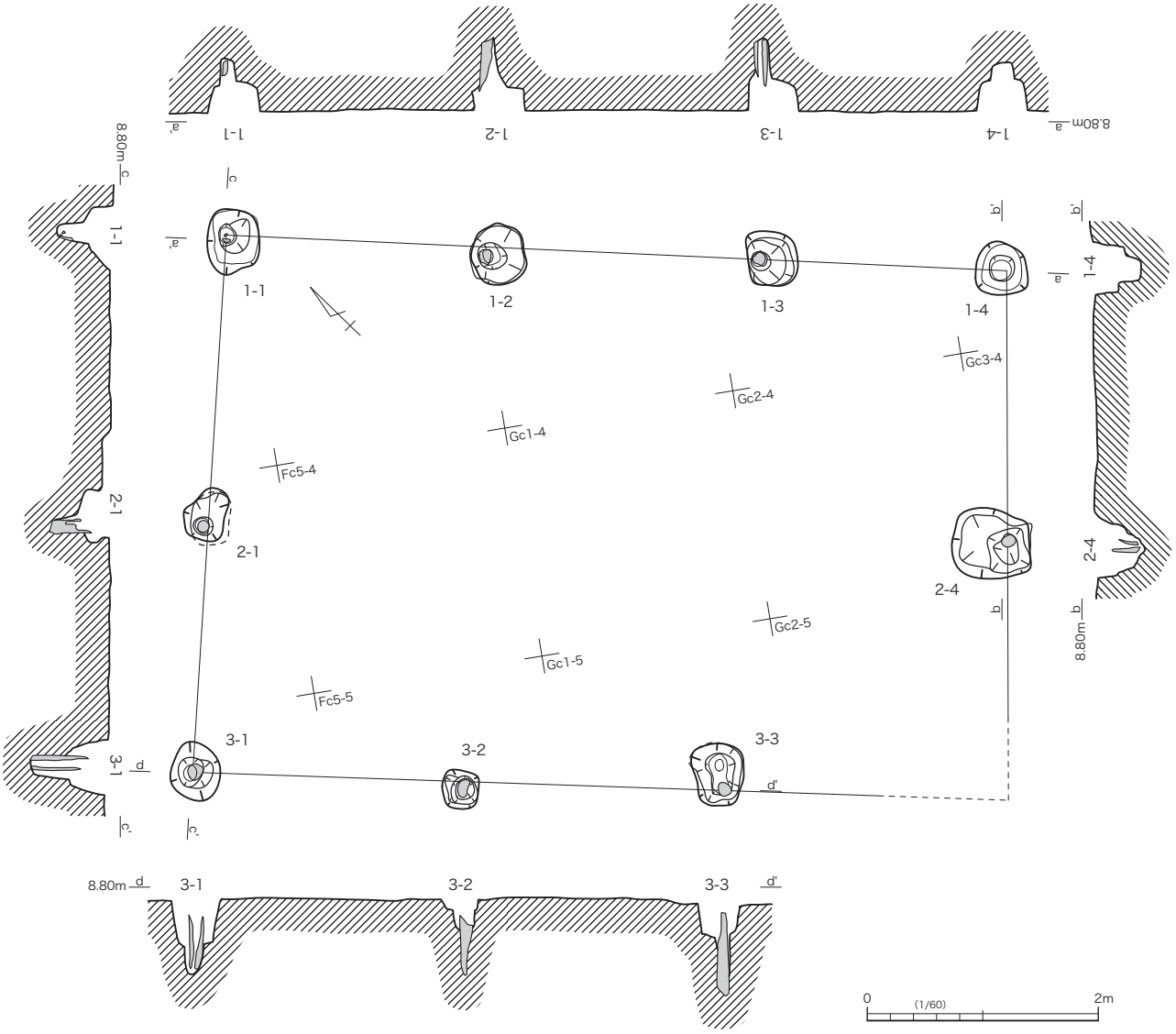
Fc，Gc区に位置する。確認面はV層上面である。柱穴2－1・3－1は川跡5と重複し，本遺構が新しい。梁行2間×桁行3間の側柱建物で，南西隅の柱穴（3－4に相当）は調査区域外のため未確認である。主軸方位はN－79°－Wである。梁行の柱間測定値は，西側が北から252㎝，212㎝（柱穴1－1～3－1）で，計464㎝である。東側は234㎝（柱穴1－4～2－4）である。桁行の柱間測定値は，北側が西から225㎝，235㎝，209㎝（柱穴1－1～1－4）で，計669㎝である。南側は西から234㎝，225㎝（柱穴3－1～3－3）で，計459㎝である。柱間測定値の平均値は梁行側が233㎝で，桁行側は230㎝である。柱穴は一辺33～50㎝の隅丸長方形で，柱穴2－4は



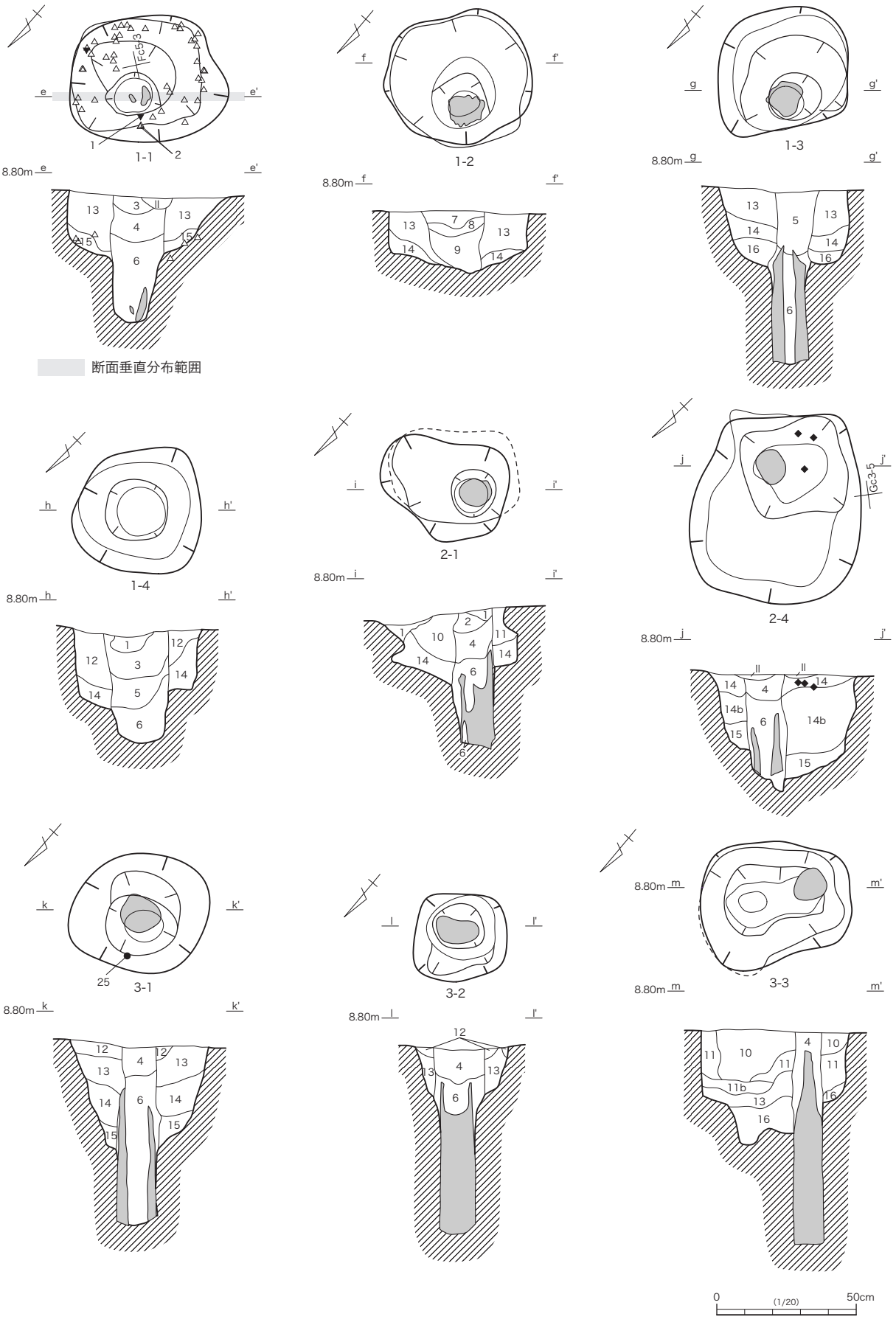
第84図　神明裏遺跡古代以降の遺構配置図

長さ68㎝とやや大きい。深さは20～25㎝である。柱根は柱穴1－4以外で確認され，径11～13㎝の丸太材で比較的良好に遺存している。柱穴1－2・1－3・2－1・3－1・3－2・3－3は特に遺存状態が良く，柱穴底面から25～65㎝下まで打ち込まれていた。柱穴の覆土はシルトブロックが混入するオリーブ黒色土層を主体とし，微量の炭化物が含まれる。遺物は，柱穴1－1の覆土から土師器の甕，須恵器の甕，柱穴3－1の覆土から須恵器の高台付坏が出土し，川跡5第1層群出土の資料（25）と接合し完形となった。これらの遺物は，いずれも柱痕跡または掘方覆土から出土しており，本遺構の構築時に混入したものである。

1は須恵器の甕で，柱穴1－1から出土した。外面は擬格子叩き，内面には同心円文の当て具痕が認められる。胎土には黒色部分が認められ，外面には自然釉が厚く掛かる。2は土師器の甕で，柱穴1－1から出土した。内外面ともに縦位後横位のハケメが平行に施される。その他，柱穴2－4から粘土塊が出土している。なお，柱穴3－3から出土した柱根を樹種同定したところトネリコ属と同定された。



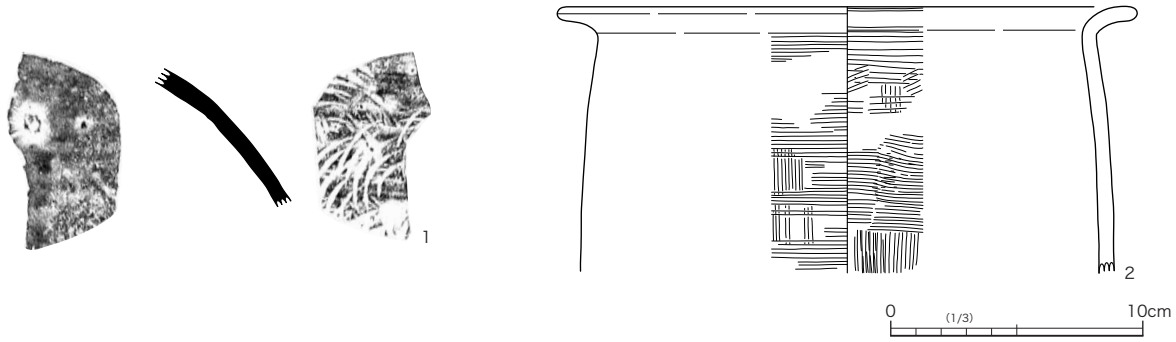
第85図　掘立柱建物跡16平面・断面図1



第86図　掘立柱建物跡16平面・断面図2

掘立柱建物跡 16

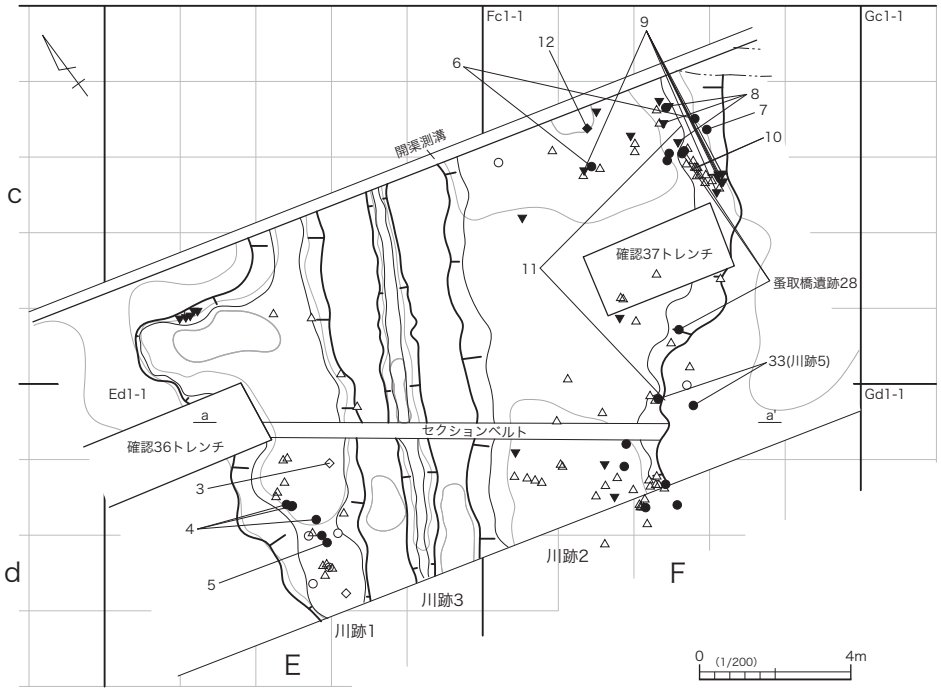
1　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10 ～ 15mm の黒色シルトブロック微量含む。
2　7.5Y2/1　黒色土　粘性弱，締まり弱。φ 1 ～ 3mm の炭化物粒微量含む。
3　2.5Y3/1　黒褐色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 3mm の炭化物粒少量，黒褐色粘質土を縞状に含む。
4　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10mm 程の細砂粒ブロック・φ 5 ～ 10mm の黒褐色粘質土ブロック・粒を微量含む。
5　2.5Y3/1　黒褐色土　粘性弱，締まりやや弱。φ 10 ～ 20mm の灰色シルトブロック少量含む。
6　7.5Y2/1　黒色土　粘性やや強，締まりやや弱。柱根の腐食の影響で赤味を帯びる。
7　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10mm 程の細砂粒ブロック微量，φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック・粒を含む。
8　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 5 ～ 10mm の炭化物ブロック・粒少量含む。
9　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10 ～ 30mm の細砂粒ブロック多量，φ 1 ～ 5mm の炭化物粒微量含む。
10　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10mm 程の暗褐色粘質土ブロック少量，φ 1 ～ 2mm の炭化物粒微量含む。
11　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 5 ～ 10mm の灰色シルトブロック・粒・φ 1 ～ 5mm の炭化物粒少量含む。
11b　5Y2/2　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。黒色シルトブロックと灰色シルトブロックの混土層。
12　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10mm 程の細砂粒ブロック・φ 1 ～ 2mm の炭化物粒微量含む。
13　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10 ～ 40mm の細砂粒ブロック少量，φ 1 ～ 2mm の炭化物粒微量，φ 10 ～ 40mm の灰色シルトブロックを含む。
14　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性弱，締まり弱。φ 10 ～ 15mm の細砂粒ブロック微量，φ 1 ～ 3mm の炭化物粒微量含む。
14b　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10 ～ 40mm の細砂粒ブロック少量，φ 1 ～ 2mm の炭化物微量，φ 10 ～ 40mm 灰色シルトブロックを含む。
15　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ 10 ～ 15mm の細砂粒ブロック微量，φ 1 ～ 3mm の炭化物粒微量。
16　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 5 ～ 10mm のオリーブ黒色シルトブロック・粒微量含む。



第87図　掘立柱建物跡16出土遺物

（2）川 跡

古代以降の川跡を3条検出した。確認面はV層上面で，確認した長さは10mである。西側に川跡1，東側に川跡2，その間を川跡3が，それぞれ重複せずに並走し，下層には古墳時代とした川跡5が存在する。いずれも覆土は単層で，炭化物を少量含む粘性の強い黒色土層である。これらは切り合いがないが，覆土が類似していることから，同時期の自然流路と考えられる。



第88図　川跡1～3平面・遺物分布図

川跡1（第84・88～90図3～5，図版12・32・34）

Ec・Ed区に位置する。規模は幅1.8～5.2m，深さは8～15㎝である。ほぼ直線上ではあるが，Ec2－5付近では西側に広がっている。底面は凹凸があり，壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は土師器の甕を主体に土師器の坏および須恵器が少量出土しているが，図示したのは3点である。

3は須恵器の短脚の高坏の脚部である。端部を僅かに内傾させ，円形の透かしが認められる。外面には光沢が看取できる。

4・5は須恵器の坏で，4は底部はヘラ切りで，胎土に石英・白色粒を含む。5は胎土に長石・粗砂粒を多量に含み，堅く締まった良好な焼成である。

川跡2（第84・88～90図6～12，図版12・32・34）

Ec・Ed・Fc・Fd区に位置する。規模は幅4.9～5.2m，深さは5～10㎝である。底面は凹凸があり壁面は緩やかに立ち上がる。遺物は東側に集中する傾向がある。遺物は須恵器・土師器の甕だが多くは小片で，図示しえたのは7点である。

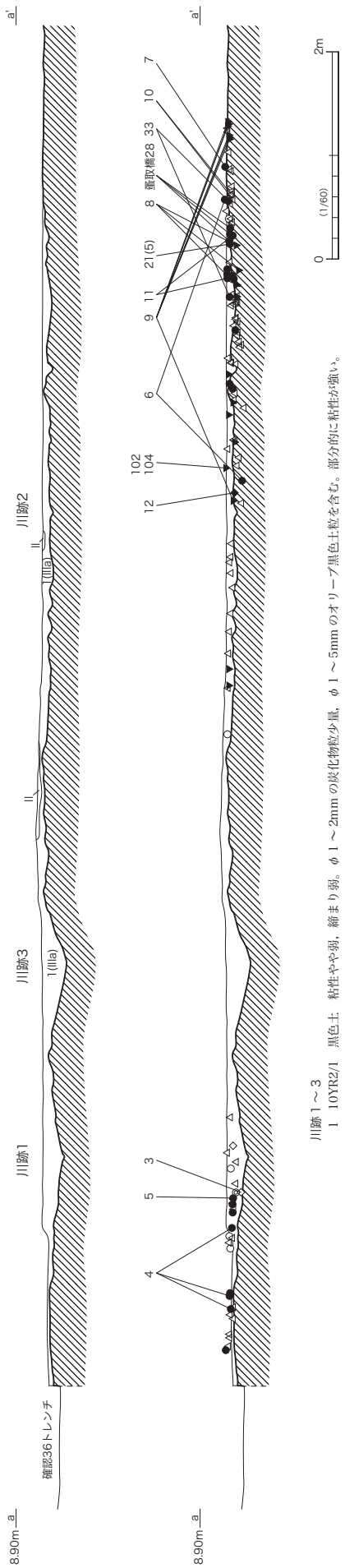
6は須恵器の坏で，底部はヘラ切りである。胎土に石英・白色粒を多量に含む。7は須恵器の高台付坏で，高台は貼り付けで，底部はヘラ切りである。胎土は緻密で，白色粒を極少量含む。

8・9は須恵器の甕で，ともに外面は擬格子，内面は同心円状の当て具痕が認められる。8は上端が厚くなるため頸部付近の破片と考えられる。外面には横位のカキメが認められる。胎土はよく精製されているが，白色粒を極少量混入する。9は底部付近の破片で，内面には自然釉が掛かり，外面はカキメが認められる。胎土は白色粒・黒色粒を少量混入し，堅く焼成される。

10は土師器の甕の底部付近の破片で，内外面ともにハケメを残し，体部外面の下端にヘラケズリを施している。

11は中世土師器の皿で，一見すると須恵器のようである。底部は回転ヘラケズリを施す。胎土はきめ細く，軟質である。

12は中央部に孔が認められるが，羽口の様に垂直に貫通していたか看取できないため不明土製品とした。胎土



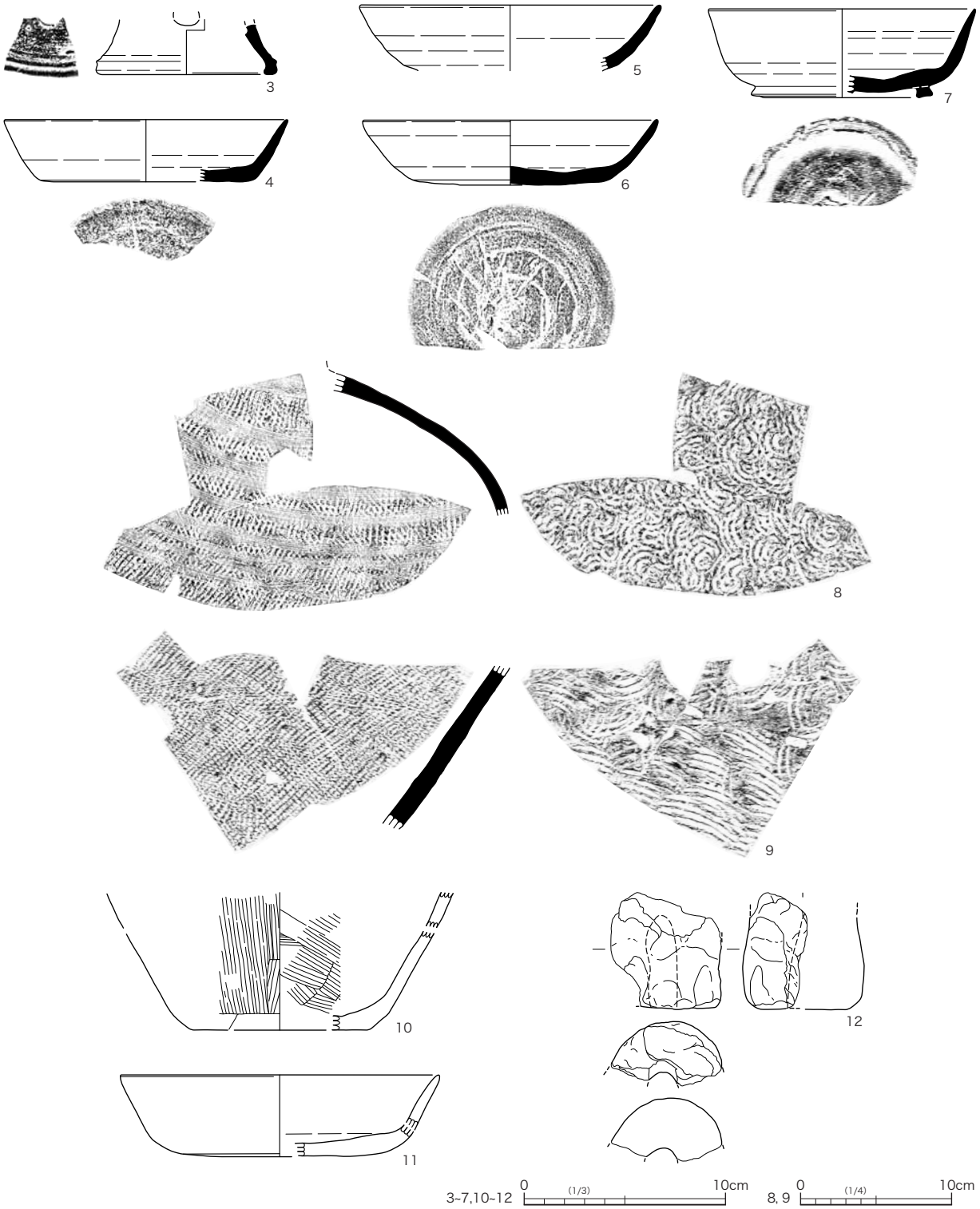
第89図 川跡1～3断面・遺物分布図

は粗砂粒を多く含む。僅かに二次焼成を受けており支脚の可能性もある。

この他に，蚕取橋遺跡南地区の川跡5から出土した須恵器の蓋（第37図28）と接合した破片が認められた。

川跡3（第84・88・89図，図版12）

Ec・Ed区に位置する。規模は幅0.55～1.1m，深さは7～25㎝である。底面に平坦面を持たず，壁面は東西共に緩やかに立ち上がる。遺物は須恵器の甕，土師器の坏・甕が少量しているが，図示しえるものはなかった。



第90図　川跡1・2出土遺物

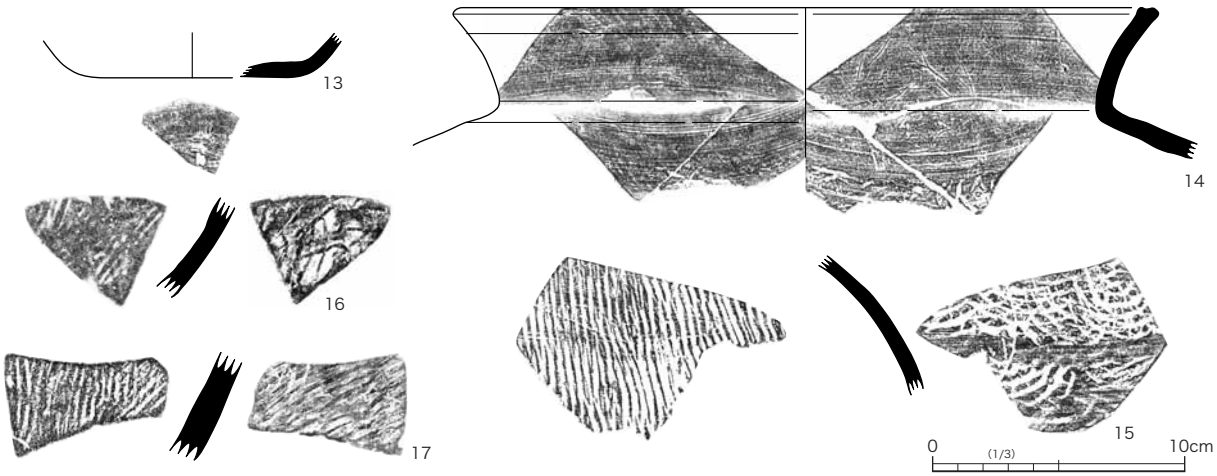
（3）土 坑

土坑9（第84・91図13～17，図版12・34）

Gb5－5・Hb1－5・Gc5－1・Hc1－1区に位置する。遺存状態は不良である。確認面はⅤ層上面である。規模は長軸320㎝，短軸220㎝，深さは中央部で11㎝である。平面形は不整形である。主軸方位はN－57°－Wである。底面は中央部が高くなっており，壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は3層に分けられ，灰オリーブ色シルト層を主体とし，炭化物が微量含まれる。遺物は底面から須恵器の坏・甕，土師器の甕が少量出土している。須恵器の

土坑9
1　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ10～15mmの黒褐色粘質土ブロック・φ1～2mmの炭化物粒微量含む。
2　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ10～20mmの黒褐色粘質土ブロック・φ5～10mmの灰色シルトブロック・φ1～3mmの炭化物粒微量含む。
3　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ5～15mmの灰色シルトブロック少量。φ1～3mmの炭化物粒微量含む。

0　(1/40)　1m



第91図　土坑9平面・断面・遺物分布図・出土遺物

甕は接合したものも多く，胎土の観察から全て同一個体と考えられる。図示したのは5点である。なお，土師器の甕は小片のため図示しえなかった。

13は須恵器の坏で，底部はヘラ切りである。胎土に白色粒を少量含む。

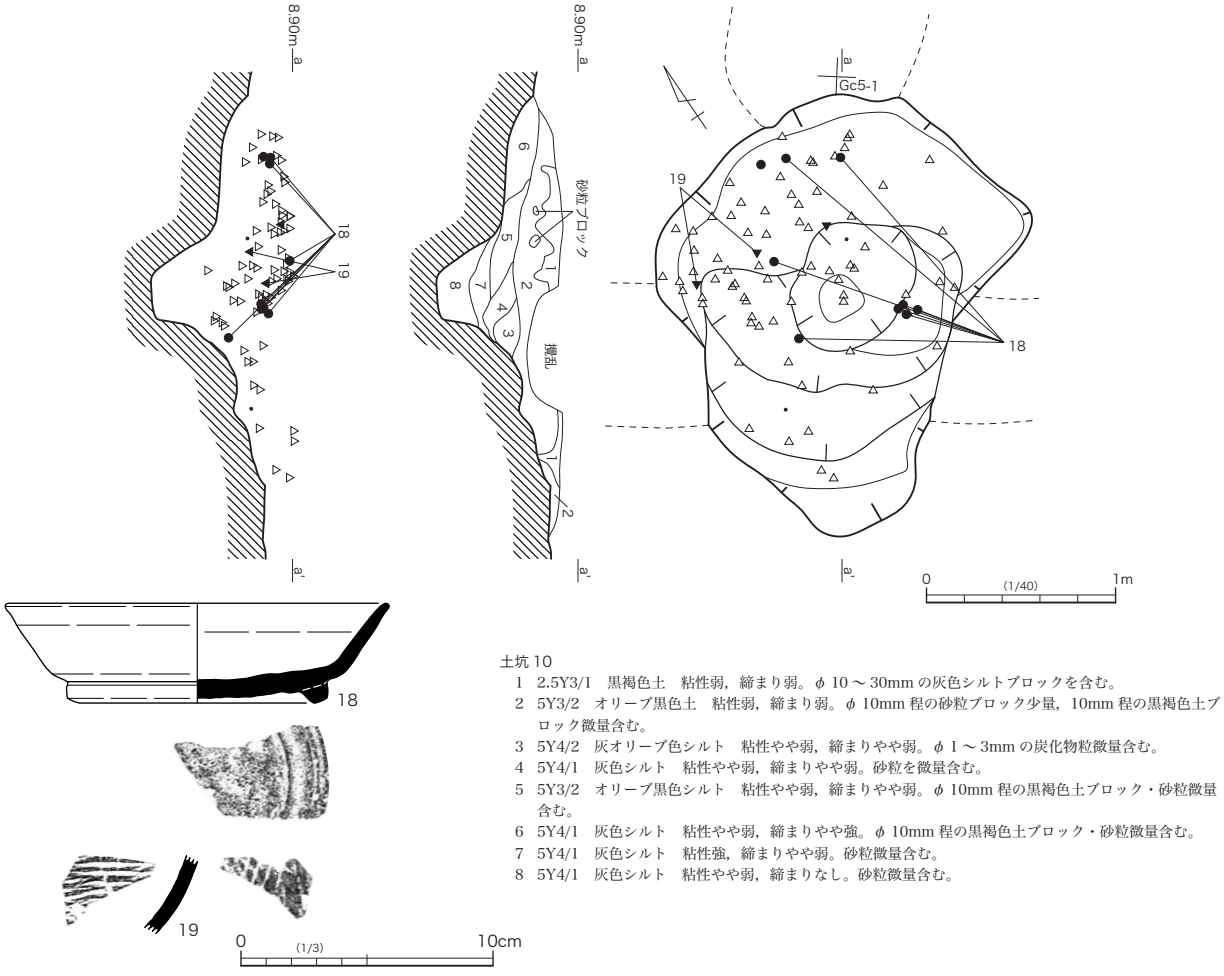
14～17は須恵器の甕で，前述のように同一個体であろう。胎土は黒色粒を極少量含み，全体に軟質である。14は口縁部でタタキ後に回転台によるナデを施し，体部に部分的にタタキの痕跡が残る。15～17は体部片で外面は平行タタキ，内面は同心円文の当て具痕を残す。15はタタキ後内外面ともにナデを施す。

土坑10（第84・92図18・19，図版12・34）

Gc4－1・4－2・5－1・5－2区に位置する。北側と中央部は攪乱を受けている。確認面はⅤ層上面である。規模は長軸232㎝，短軸195㎝である。平面は不整円形で，主軸方位はN－34°－Eである。上部は深さ16㎝程度の皿状で緩やかに立ち上がる。中央部は急に深くなり最深部は60㎝である。覆土は8層に分かれ，灰色シルト層を主体とし，炭化物が微量含まれる。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。

遺物は1・2層を中心に分布し，7・8層からは出土しない。須恵器の坏・甕，土師器の甕が出土しているが，図示しえたのは2点のみである。なお，土師器の甕は小片のため図示しえなかった。

18は須恵器の高台付坏で，高台は貼り付けられ，底部は明瞭ではないが，ヘラ切りと思われる。胎土は大粒の石英・白色粒を含む。19は須恵器の甕で，外面は平行タタキ，内面は同心円状の当て具痕を残す。胎土は砂粒を極少量含み軟質である。



土坑10
1　2.5Y3/1　黒褐色土　粘性弱，締まり弱。φ10～30mmの灰色シルトブロックを含む。
2　5Y3/2　オリーブ黒色土　粘性弱，締まり弱。φ10mm程の砂粒ブロック少量，10mm程の黒褐色土ブロック微量含む。
3　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ1～3mmの炭化物粒微量含む。
4　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。砂粒を微量含む。
5　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ10mm程の黒褐色土ブロック・砂粒微量含む。
6　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ10mm程の黒褐色土ブロック・砂粒微量含む。
7　5Y4/1　灰色シルト　粘性強，締まりやや弱。砂粒微量含む。
8　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりなし。砂粒微量含む。

第92図　土坑10平面・断面・遺物分布図・出土遺物

3．古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては川跡2条，溝1条，土坑11基，埋設遺構1基，ピット5基である。調査区は2条の川に挟まれた平坦地に土坑が確認された。

(1) 川 跡

川跡5（第93～99図，図版12・13）

Dc・Ec・Ed・Fc・Fd区に位置する。確認面はⅤ層上面である。本遺構の上層に川跡1～3があり，掘立柱建物跡16の柱穴2－1，3－1，土坑17，18と重複している。掘立柱建物跡より古いが，土坑17，18との新旧関係は明確ではない。規模は確認した部分で長さ約9m，幅13～19.7m，深さは25～75㎝で，北側が浅くなっている。また，底面は中央部やや東寄りのFc区付近で中洲状に浅くなる。川岸の底面は西側では緩やかに，東側ではやや急角度に立ち上がる。覆土は19層に分けられる。蚕取橋遺跡北地区の川跡5と同様に，覆土の中位で全体にわたり有機物を含む粘質土を確認し，この層をはさむ3層に大別できた。そのため第1～第3層群，各群に覆われる面を第1～第3面とし，調査を行った。以下，各層群ごとに概要，遺物の出土状態を述べ，出土遺物の説明についても各層群ごと記述する。

a．各層群の概要と遺物分布

第1層群（第93～95図）

オリーブ黒色土層を主体とする2～7層を第1群とした。層群の厚さは東側で20㎝，西側では中央付近で薄くなり西側に向かい徐々に深くなり，最も厚いところで40㎝である。中央部には砂層（5・6層）が堆積している。

第2層群（第93～95図）

有機物を含む黒褐色土とオリーブ黒色の粘質土層の8～11層を第2群とした。層群の厚さは東西の岸に近い部分では厚く，東岸では10㎝，西側では25㎝ほど確認された。遺物は東側の浅い部分に集中し，西側の深くなった部分では全く出土しなかった。

第3層群（第93～95図）

灰色シルト層ないし砂層の12～19層を第3群とした。層群の厚さは東西の岸に近い部分がそれぞれ深くなり，東側では10～20㎝，西側では10㎝ほどであった。また，中央部では20～25㎝の砂層（15層）が堆積し中洲状になっており，蚕取橋遺跡南地区の川跡5の第3層群と共通する。遺物は東側に多く分布し，西岸に近い部分と中央部からも出土した。

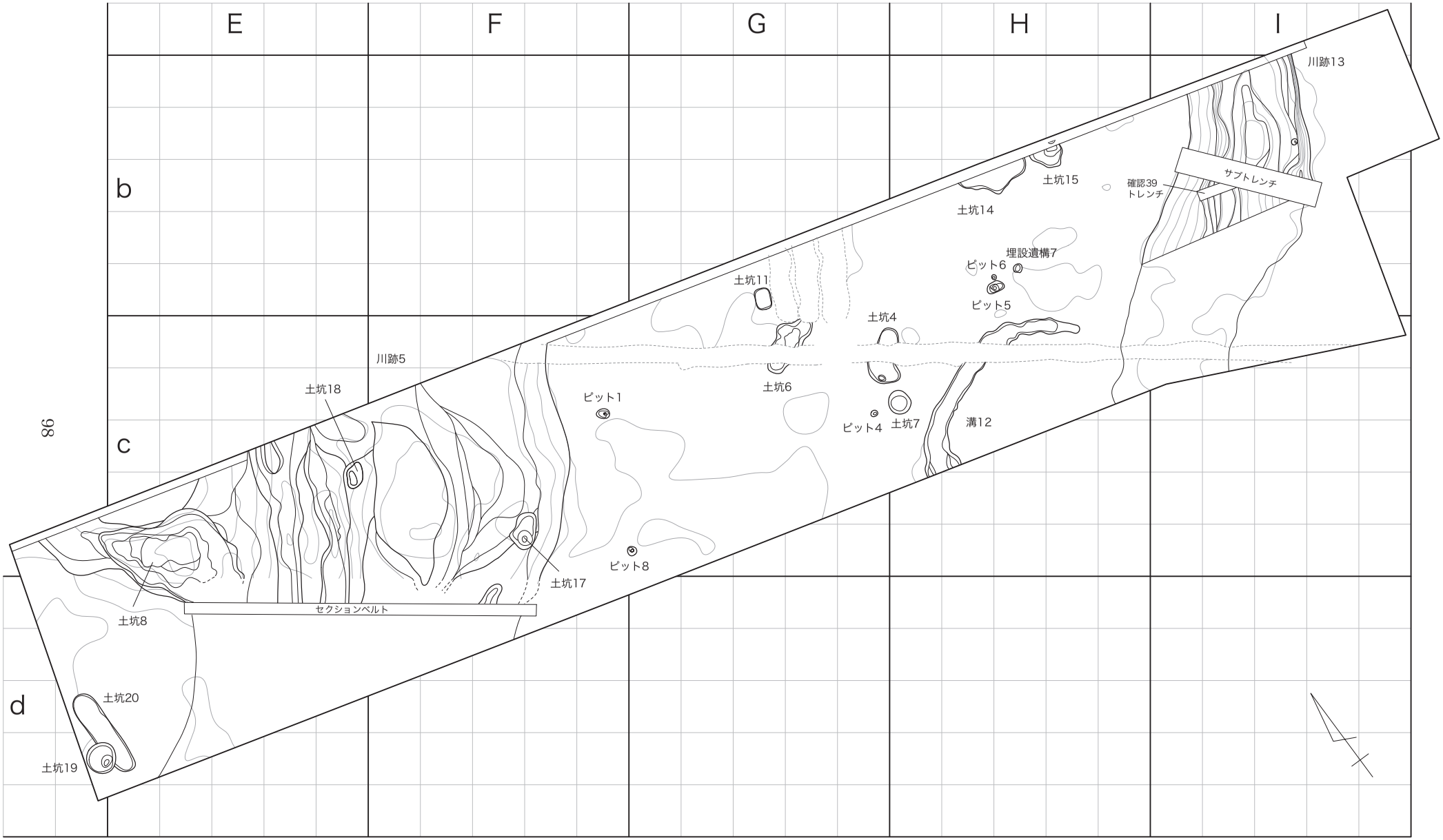
b．川跡5出土土器

第1層群（第95～96図20～29，図版32・34）

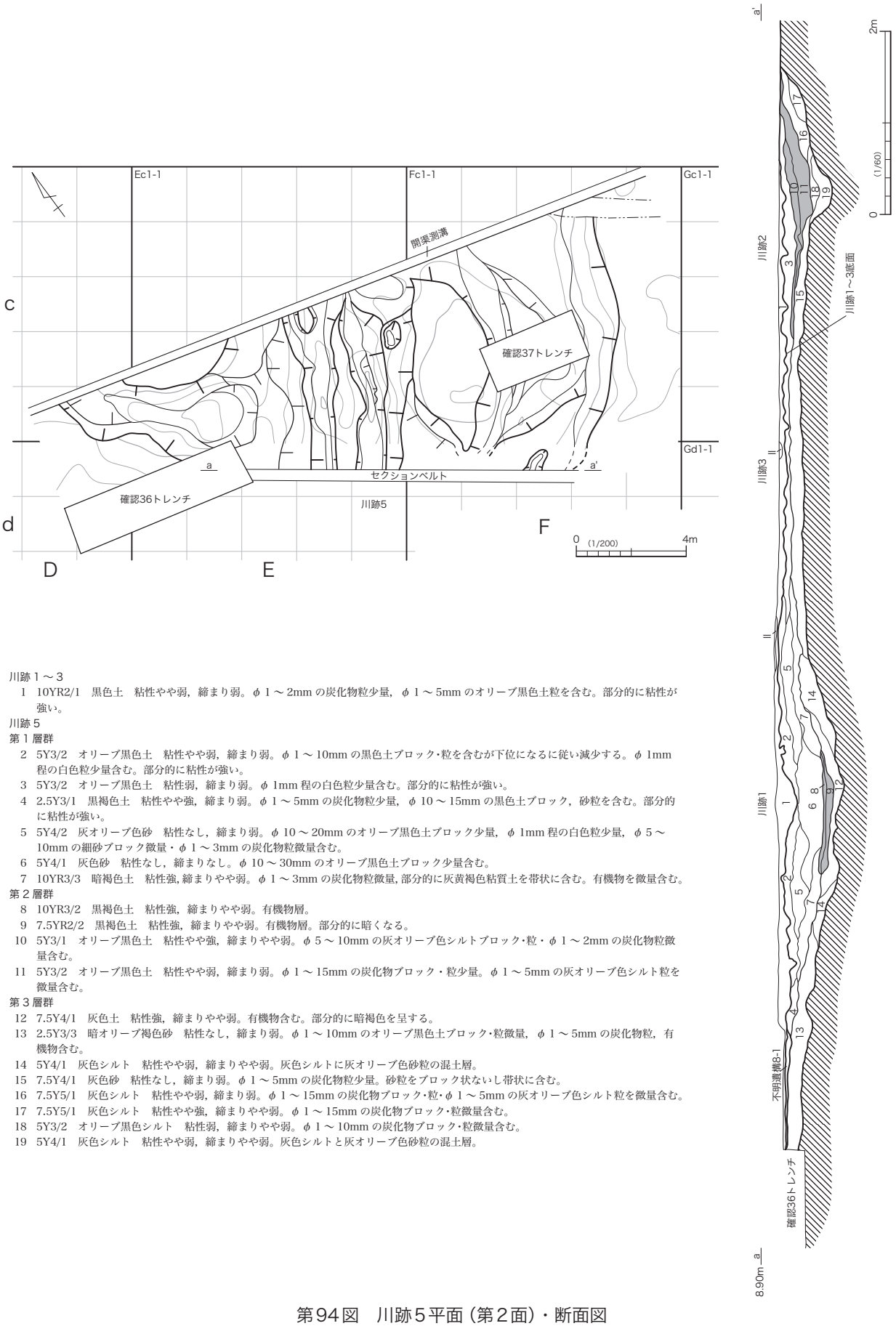
遺物は須恵器の坏・甕，土師器の坏・甕・鍋などが出土した。主体は土師器の甕であるが，多くが小片で図示しえたのは10点である。このうち図示できた古墳時代の遺物は，土師器甕の底部（29）のみである。

20～24は須恵器の坏で，20は中央部の南側，21・23は東岸の南側22は中央部の北側から出土した。いずれも底部はヘラ切りである。20～23は胎土に白色粒や粗砂粒を多く含み，軟質である。20は内面に灯明の芯の痕跡が3箇所認められる。24は胎土に白色粒を多量に混入する。

25・26は須恵器の高台付坏で，25は小形で，中央部の北側から出土した。底部はヘラ切りを施し，高台は貼



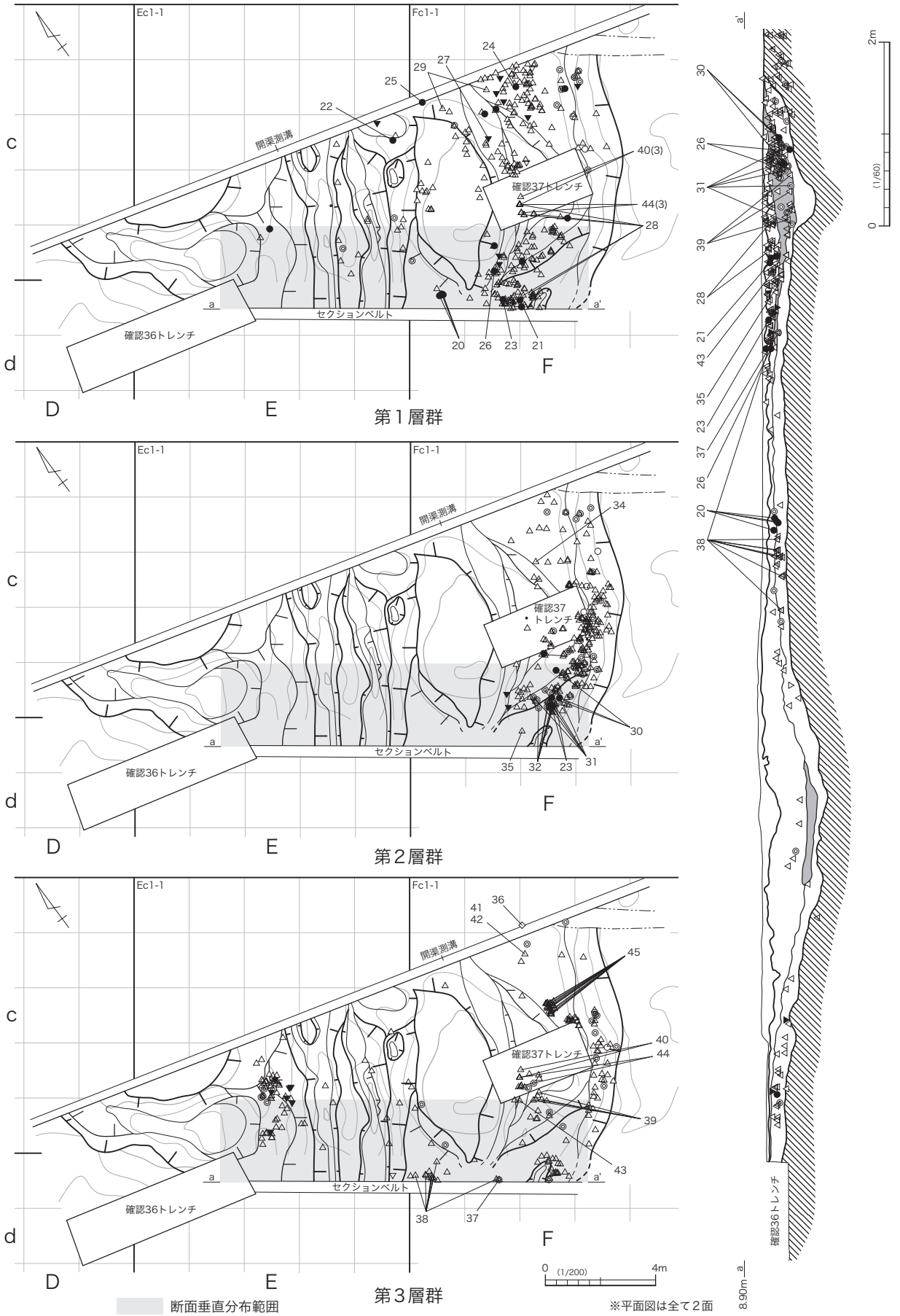
第93図　神明裏遺跡古墳時代の遺構配置図



川跡１～３
1　10YR2/1　黒色土　粘性やや弱，締まり弱。φ１～2mm の炭化物粒少量，φ１～5mm のオリーブ黒色土粒を含む。部分的に粘性が強い。

川跡５
第１層群
2　5Y3/2　オリーブ黒色土　粘性やや弱，締まり弱。φ１～10mm の黒色土ブロック･粒を含むが下位になるに従い減少する。φ1mm 程の白色粒少量含む。部分的に粘性が強い。
3　5Y3/2　オリーブ黒色土　粘性弱，締まり弱。φ1mm 程の白色粒少量含む。部分的に粘性が強い。
4　2.5Y3/1　黒褐色土　粘性やや強，締まり弱。φ１～5mm の炭化物粒少量，φ10～15mm の黒色土ブロック，砂粒を含む。部分的に粘性が強い。
5　5Y4/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ10～20mm のオリーブ黒色土ブロック少量，φ1mm 程の白色粒少量，φ５～10mm の細砂ブロック微量・φ１～3mm の炭化物粒微量含む。
6　5Y4/1　灰色砂　粘性なし，締まりなし。φ10～30mm のオリーブ黒色土ブロック少量含む。
7　10YR3/3　暗褐色土　粘性強，締まりやや弱。φ１～3mm の炭化物粒微量，部分的に灰黄褐色粘質土を帯状に含む。有機物を微量含む。
第２層群
8　10YR3/2　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。有機物層。
9　7.5YR2/2　黒褐色土　粘性強，締まりやや弱。有機物層。部分的に暗くなる。
10　5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性やや強，締まりやや弱。φ５～10mm の灰オリーブ色シルトブロック･粒・φ１～2mm の炭化物粒微量含む。
11　5Y3/2　オリーブ黒色土　粘性やや弱，締まり弱。φ１～15mm の炭化物ブロック・粒少量。φ１～5mm の灰オリーブ色シルト粒を微量含む。
第３層群
12　7.5Y4/1　灰色土　粘性強，締まりやや弱。有機物含む。部分的に暗褐色を呈する。
13　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色砂　粘性なし，締まり弱。φ１～10mm のオリーブ黒色土ブロック･粒微量，φ１～5mm の炭化物粒，有機物含む。
14　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰色シルトに灰オリーブ色砂粒の混土層。
15　7.5Y4/1　灰色砂　粘性なし，締まり弱。φ１～5mm の炭化物粒少量。砂粒をブロック状ないし帯状に含む。
16　7.5Y5/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ１～15mm の炭化物ブロック･粒･φ１～5mm の灰オリーブ色シルト粒を微量含む。
17　7.5Y5/1　灰色シルト　粘性やや強，締まりやや弱。φ１～15mm の炭化物ブロック･粒微量含む。
18　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性弱，締まりやや弱。φ１～10mm の炭化物ブロック･粒微量含む。
19　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰色シルトと灰オリーブ色砂粒の混土層。

第94図　川跡５平面（第２面）・断面図



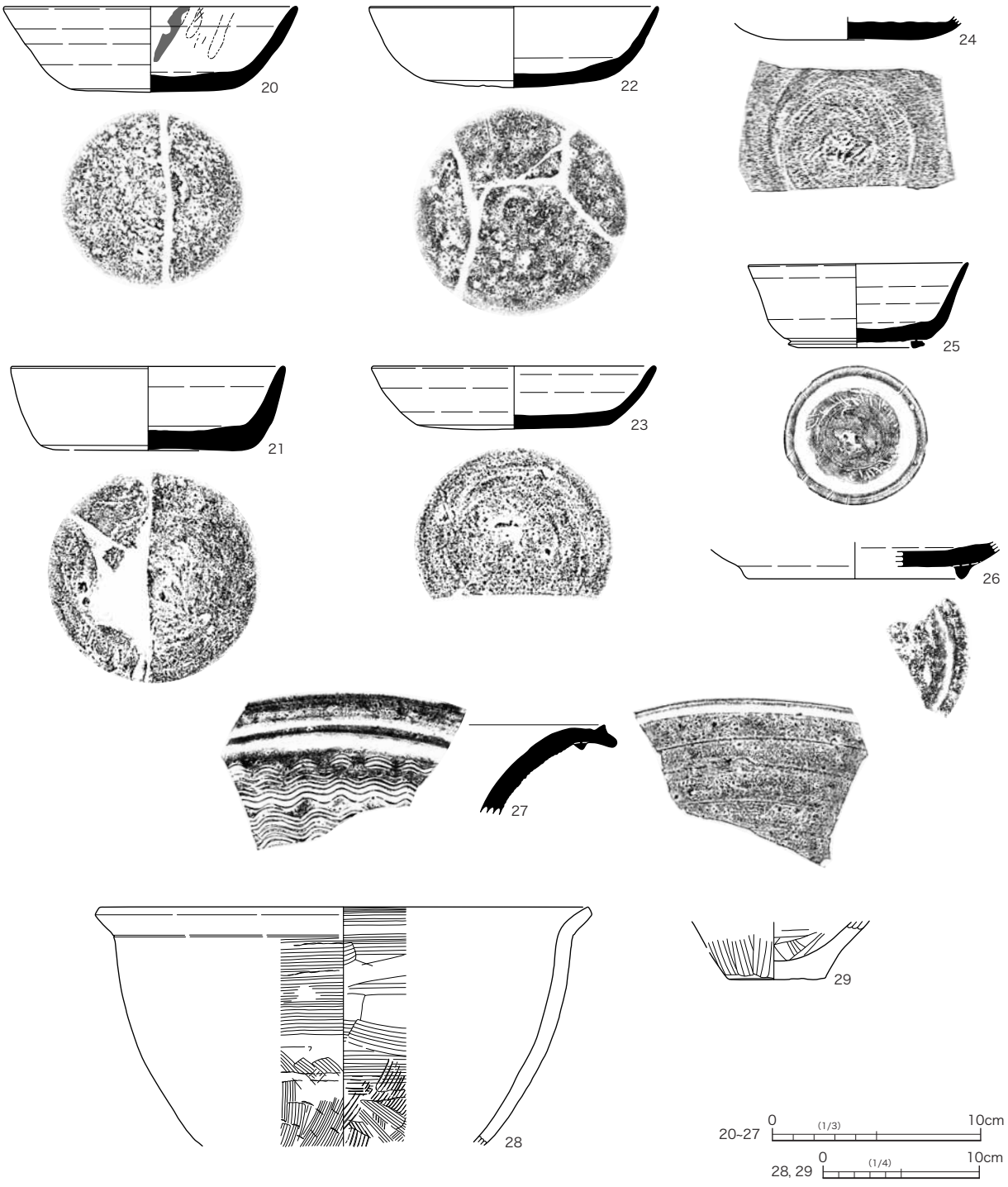
第95図　川跡5遺物分布図

り付けである。26は東岸の南側から出土した。胎土は粗砂粒を多く含み，軟質で脆い。

27は須恵器甕の口縁部で，中央部から出土した。外面には起伏の少ない波状文が認められる。口縁端部に隆線，口縁部に突帯がある。全体に自然釉が掛かる。

28は土師器の鍋で，東岸の中程と南側から出土した破片が接合した。半球状の体部で口縁端部が外傾する。体部内面の下半に斜位のハケメ，体部外面の上半に横位のハケメ，下半に斜位のハケメを施す。

29は土師器甕の底部で，東岸の北側から出土した。外面はハケメ，内面はヘラナデを施す。



第96図　川跡5出土遺物1（第1層群）

第２層群（第95・97図30～35，図版32・34）

遺物は須恵器坏・蓋・甕，土師器坏・甕が出土した。主体は土師器の甕であるが，多くは小片で復元できた個体は少なく，中央部分から出土した３点を図示した。須恵器の坏・甕は古代と考えられ，混入の可能性がある。

30は須恵器の蓋で，南側東岸から３片に割れ出土したが，ほぼ完形となった。口縁端部内面に僅かな段がみられる。天井部外面は回転ヘラケズリを施し，胎土は緻密である。

31・32は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，南側東岸から出土した。31は内外面ともにヘラミガキである。32は内面にヘラミガキ，外面は粗いクシ状工具によるナデを施す。

33・34は土師器の甕で，東岸から出土した。33は小形で，口縁部内面は横位のハケメ，体部内面はヘラナデ，外面はハケメを施す。34は口縁部はほぼ直角に外傾している。体部の内面は縦位の後に横位のハケメ，外面は縦位の丁寧なハケメを施す。

35は形状不明土器である，体部に受口状の貼り付けを施す。小片のため全容は不明であるが，蚤取橋遺跡58・119と同様な貼り付け方をしていると考える。

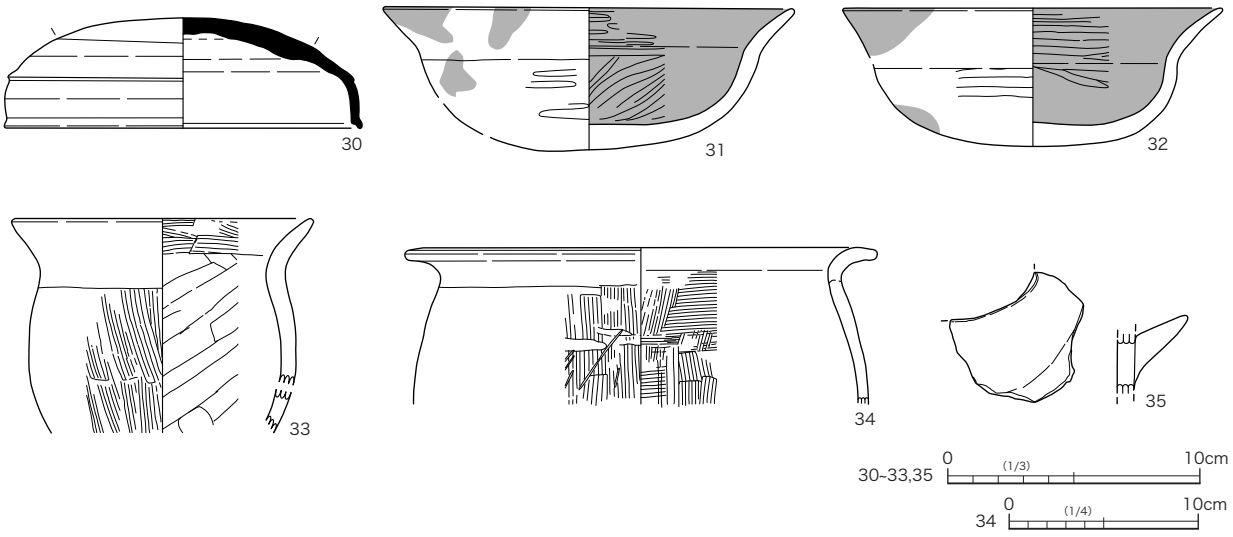
第３層群（第95・98図36～45，図版32）

遺物は須恵器の坏・甕，土師器の坏・壺・甕が出土した。主体は土師器の甕であるが，多くが小片で図示しえたのは10点である。須恵器の坏・甕は古代と考えられ，混入の可能性がある。

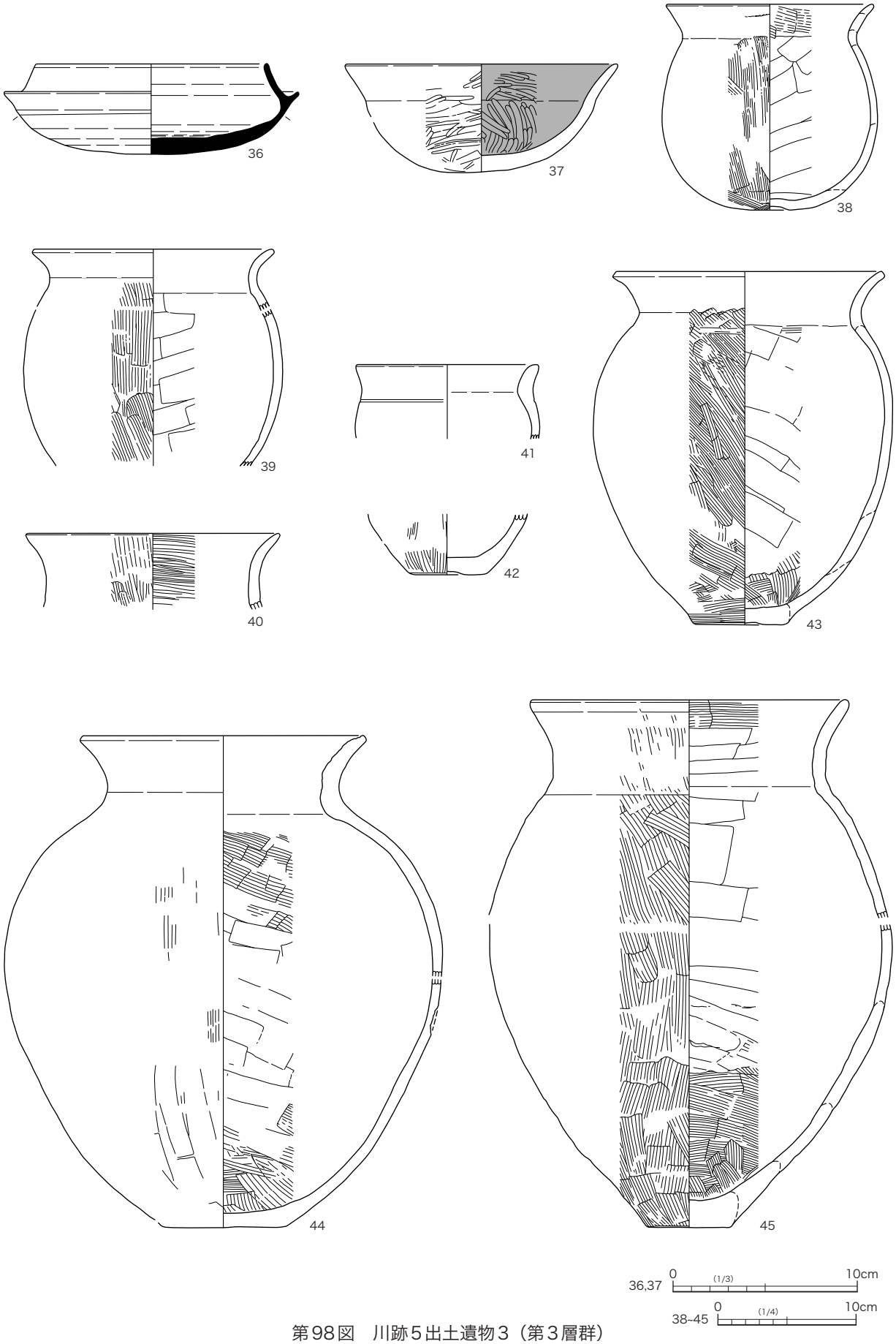
36は須恵器の坏で，北側底面から完形で出土した。口縁部は内傾し，内面に段は見られない。底部は回転ヘラケズリを施す。内面は赤褐色を呈することから，酸化焔焼成である。

37は内面に黒色処理を施す土師器の坏で，南側東岸から出土した。括れはあまり明瞭でなく，内外面ともにヘラミガキである。

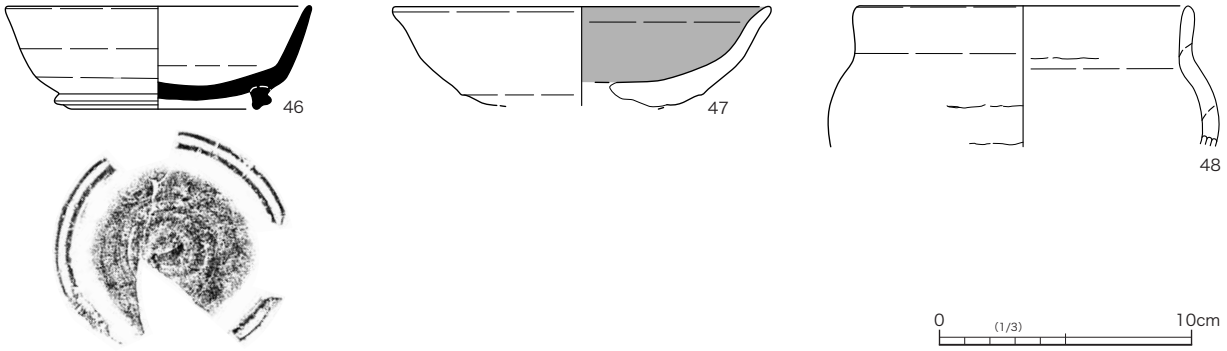
38～45は土師器の甕で，38は南側中央部，39～45は東岸からの出土である。38は底部は平底にはならず，中央が凹んでいる。内面は口縁部にハケメ，体部はヘラナデ，外面はハケメを施す。39は内面はヘラナデ，外面にハケメを施す。胎土には粗砂粒を多量に含む。40は口縁部で，外面にハケメを残す。41は表面が荒れているため，調整は不明である。42は体部外面にハケメを残し，底部外面の中央は凹んでいる。43は体部内面にヘラナデ，底部内面はハケメを施す。底部は中央部が凹む。44は内面にハケメ・ヘラナデ，体部外面はハケメ，ヘラケズリを施す。45は体部内面の上半はヘラナデ，下半はハケメ，体部外面はハケメを施す。



第97図　川跡５出土遺物２（第２層群）



第98図　川跡5出土遺物3（第3層群）



第99図　川跡5出土遺物4（確認トレンチ）

確認トレンチ出土遺物（第99図46～48，図版32）

平成17年に実施した確認調査の37トレンチは川跡2・5の中にあるため，遺存状態の良好な遺物をここに掲載した。出土層位から46（Ⅲ層）は川跡2，47・48（Ⅳ層）は川跡5に相当する。

46は須恵器の高台付坏で，底部はヘラ切り，高台は貼り付けである。全体に自然釉が掛かる。

47は内面に黒色処理を施す土師器の高坏で，外面は磨滅のため調整は判然としないが，下半には僅かな段が認められる。内面はヘラミガキされる。

48は土師器の鉢で，調整は磨滅のため判然としない。

川跡13（第93・100～102図，図版13）

Hb・Ib区に位置する。掘削範囲は排水路部分に限られたため，南側は掘削していない。確認面はⅤ層上面である。規模は確認した部分で長さ6.6m，幅4.45m，深さは45㎝である。南北方向に流れ，底面はほぼ平坦であるが，中央付近が中洲状にやや浅くなる。西岸壁面は緩やかに，東岸壁面は急角度に立ち上がる。またIb3－2区の上端付近からから径20㎝程の落ち込みが確認された。覆土は6層に分かれ，有機物を多く含む層が2層認められた。規模・層の厚さなどに違いはあるが，蚕取橋遺跡南地区の川跡5の類似する堆積をするため，有機物を多く含む層を境に5層群に大別した。なお，ここでは第1層群以外は単層であるが，便宜的に層群と呼称する。遺物は大半が第3層群の東側から出土した。時期の明瞭なものは古墳時代の須恵器の蓋，土師器の坏・壺・甕，手捏土器などが出土している。

第1層群（第93・100図）

灰色シルト層で1・2層を第1群とした。遺物は小片が少量出土したが図示しえなかった。なお，一部は第3層群の54，第4層群の64の資料と接合した。

第2層群（第93・100～102図49～59，図版13・32・33）

有機物を含む3層を第2層群とした。遺物は東側に集中する傾向があり，11点を図示した。

49は手捏土器で，東岸の中位からほぼ完形で出土した。調整は丁寧で，内面は黒い。胎土は雲母を多量に含む。

50・51は土師器の坏である。50は中央部の南側から完形で，51は東岸の中位から出土した。50は平底で，口縁部は緩やかに外傾する。外面は粘土紐の接合痕を残す。胎土は石英を多く含む。51の口縁部は僅かに外傾する。内外面ともにヘラミガキを施す。

52・53は内面に黒色処理を施す土師器の坏である。52は東岸の中位，53は東岸の北側から中位にかけて出土したものが接合した。52は全体的に半球状を呈し，内外面ともにヘラミガキである。53はやや丸みを帯びた底

部から口縁部は外傾する。全体にヘラミガキを施す。

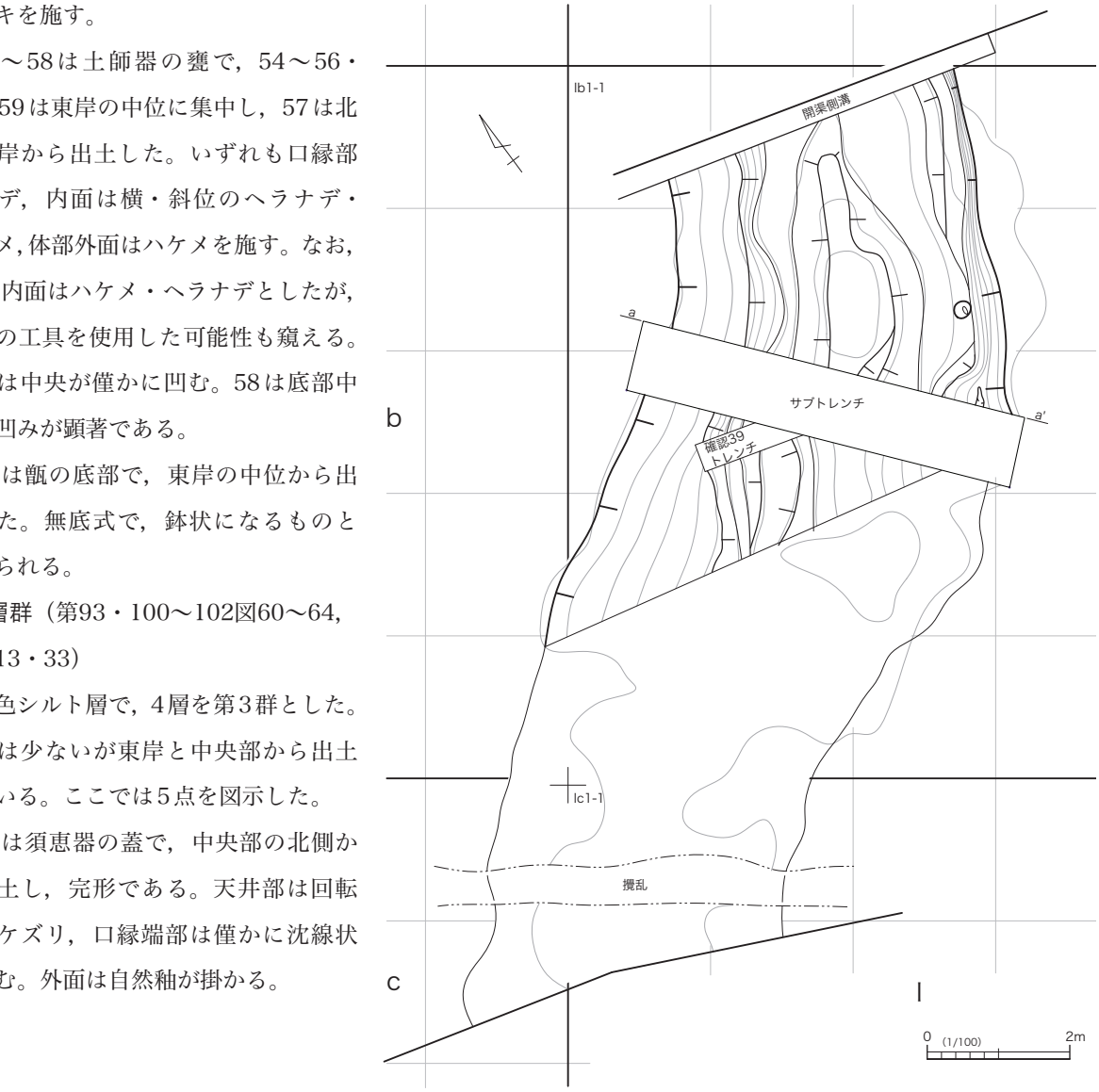
54～58は土師器の甕で，54～56・58・59は東岸の中位に集中し，57は北側東岸から出土した。いずれも口縁部はナデ，内面は横・斜位のヘラナデ・ハケメ，体部外面はハケメを施す。なお，55の内面はハケメ・ヘラナデとしたが，同一の工具を使用した可能性も窺える。底部は中央が僅かに凹む。58は底部中央の凹みが顕著である。

59は甑の底部で，東岸の中位から出土した。無底式で，鉢状になるものと考えられる。

第3層群（第93・100～102図60～64，図版13・33）

灰色シルト層で，4層を第3群とした。遺物は少ないが東岸と中央部から出土している。ここでは5点を図示した。

60は須恵器の蓋で，中央部の北側から出土し，完形である。天井部は回転ヘラケズリ，口縁端部は僅かに沈線状に凹む。外面は自然釉が掛かる。



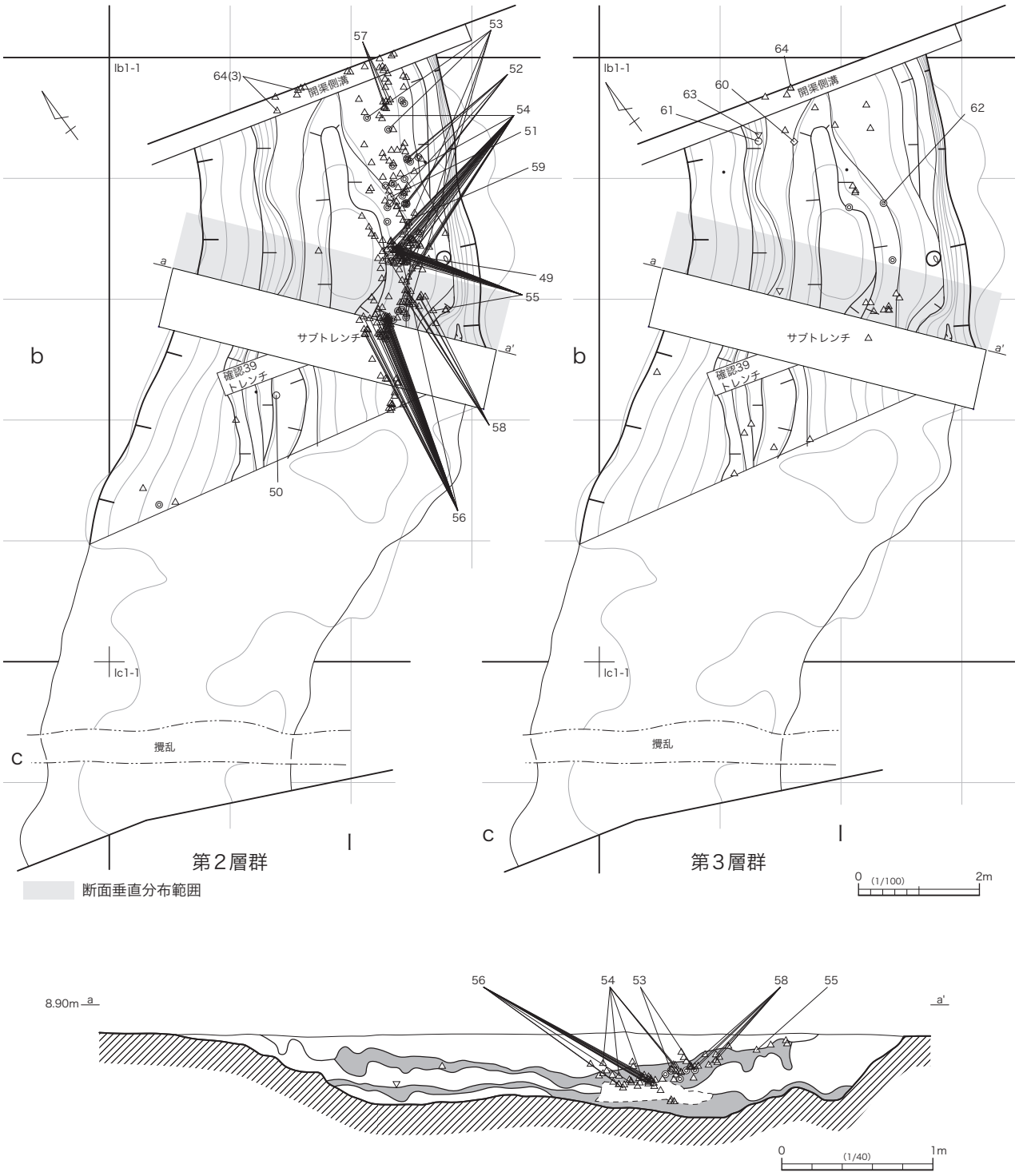
川跡13

1　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性弱，締まりやや強。φ10～15mmの黒褐色粘質土ブロック少量，φ10～15mmの砂粒ブロック・φ1～2mmの炭化物粒微量含む。
2　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや強，締まり弱。φ10～15mmの黒褐色粘質土ブロック・φ1～2mmの炭化物粒微量含む。
3　2.5Y3/3　暗オリーブ褐色土　粘性弱，締まりやや弱。φ10～20mmの黒褐色粘質土ブロック少量，φ10mm程の砂粒ブロック・φ1～10mmの炭化物ブロック・粒微量，有機物を含む。
4　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ10～20mmの灰黄褐色土ブロック微量，φ1～3mmの炭化物粒を含む。
5　2.5Y4/2　暗灰黄色土　粘性弱，締まり弱。φ1～5mmの炭化物粒微量，有機物を含む。
6　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや強，締まり弱。φ1～10mmの炭化物粒・φ10mm程の砂粒ブロック微量含む。

第100図　川跡13平面・断面図

61・62は土師器の坏で，61は北側中央部，62は東岸の中位から出土した。61は完形で，口縁部に沈線状の段があり，そこから緩やかに外傾する，体部外面はハケメが部分的に残る。器厚が全体的に厚い。62は内面がヘラミガキされ，黒色処理を施す。

63・64は土師器の壺で，中央部の北側から出土した。63は小形で頸部より上を欠損するが、体部は完形である。内面は全面が黒色化している。外面はヘラミガキで，底部以外は赤彩を施す。64は外面と口縁部内面にはヘラミガキを施す。



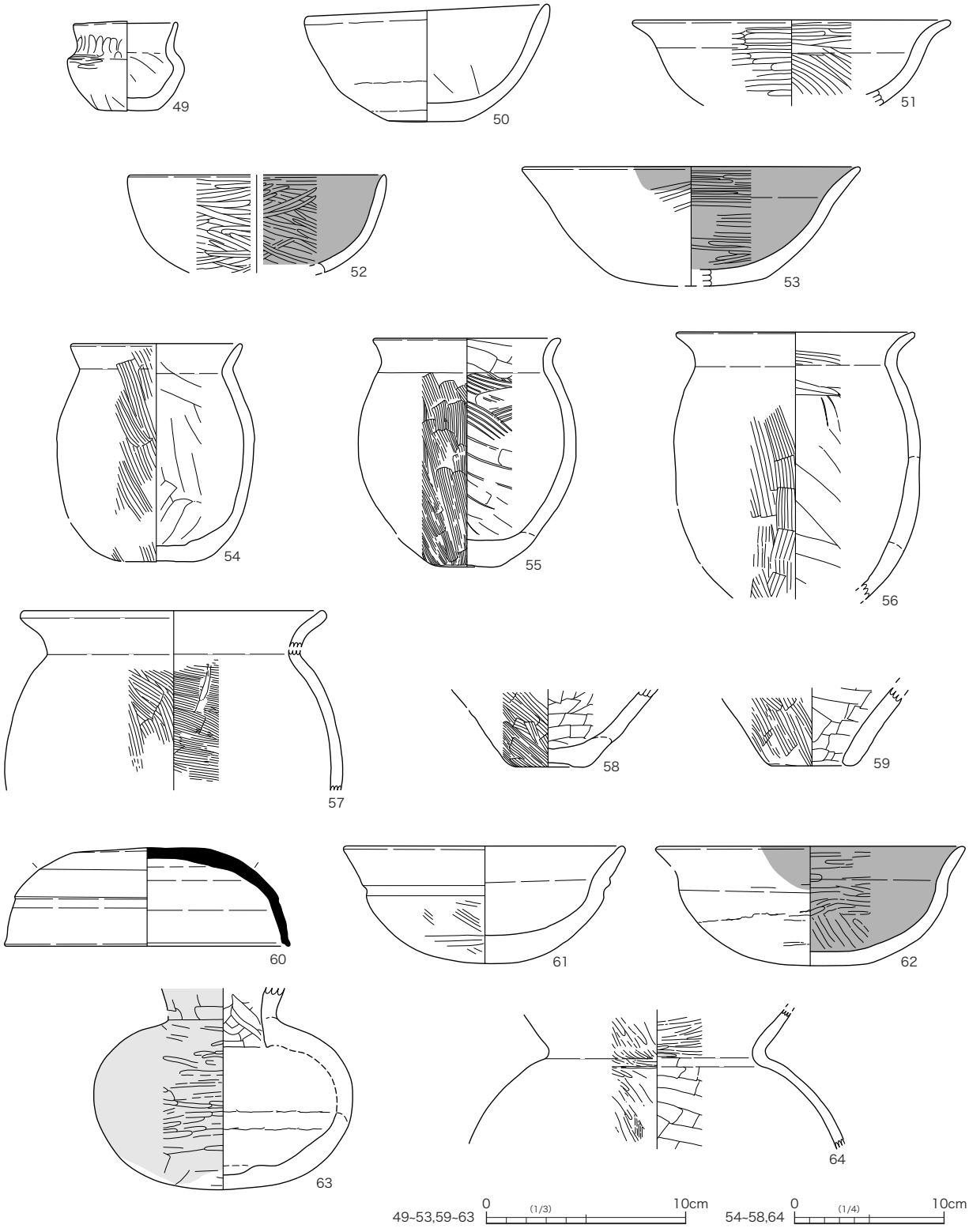
第101図　川跡13遺物分布図

第４層群（第93・100図）

有機物を含む５層を第４層群とした。遺物は小片が少量出土したが図示しえなかった。

第５層群（第93・100図）

灰色シルト層の６層を第５層群とした。遺物は小片が少量出土したが図示しえなかった。

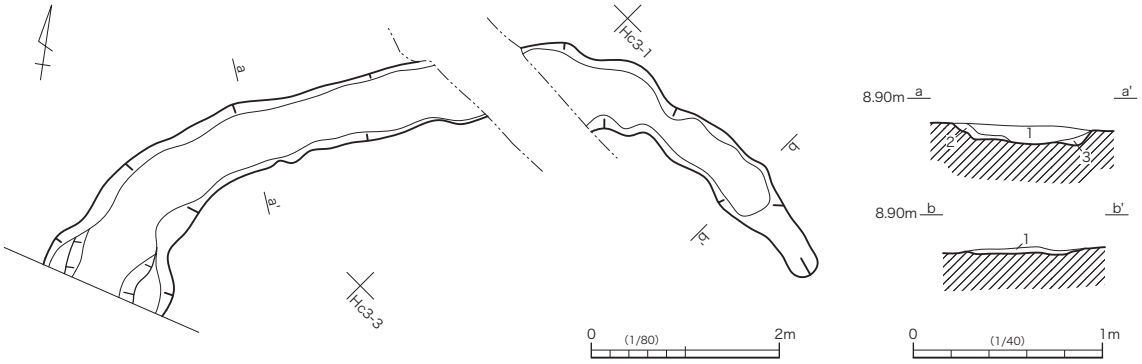


第102図　川跡13出土遺物（第２・３層群）

（2）溝・土坑・埋設遺構・ピット

溝12（第93・103図，図版14）

Hc区に位置する。確認面はV層上面である。規模は幅33～14㎝，深さは6㎝で緩やかに屈曲する。東端は川跡13に向かって延びるが，削平されており判然とせず川跡13との関係は不明である。底面はほぼ平坦で，比較的よく遺存する土層断面a付近では北壁面は緩やかに，南壁面では急角度に立ち上がる。覆土は3層に分かれ，灰オリーブ色シルト層を主体とし，炭化物が少量含まれる。遺物は覆土中から土師器の坏・甕が少量出土しているが，いずれも小片のため時期の特定および図示できる遺物はなかった。



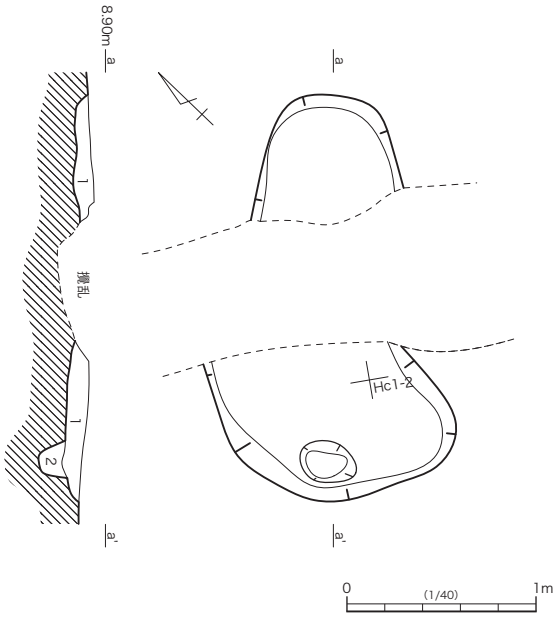
溝12
1　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ5mm程の灰色シルトブロック・φ1～2mmの炭化物粒少量，φ10～20mmの細砂ブロック微量含む。
2　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ1～2mmの炭化物微量含む。
3　7.5Y5/1　灰色シルト　粘性あり，締まりやや強。部分的に粘性が強くなる。

第103図　溝12平面・断面図

土坑4（第93・104図，図版14）

Gc5－1・5－2，Hc1－1・1－2区に位置する。中央部は攪乱により失われている。確認面はV層上面である。規模は長軸215㎝，短軸123㎝，深さは12㎝である。平面径は不整楕円形で，主軸方位はN－46°－Eである。底面はほぼ平坦で，南側にピット状の窪みがあり，壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は2層に分けられ，灰オリーブ色シルト層を主体とし，炭化物が少量含まれる。

遺物は覆土中より，土師器の甕が少量出土しているが，いずれも小片のため時期の特定および図示できる遺物はなかった。



土坑4
1　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ5～20mmの灰色シルトブロック・粒・φ1～3mmの炭化物粒少量，細砂粒含む。
2　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ5～10mmの灰色シルトブロック・粒・φ1～2mmの炭化物粒少量。

第104図　土坑4平面・断面図

土坑6（第93・105図，図版14）

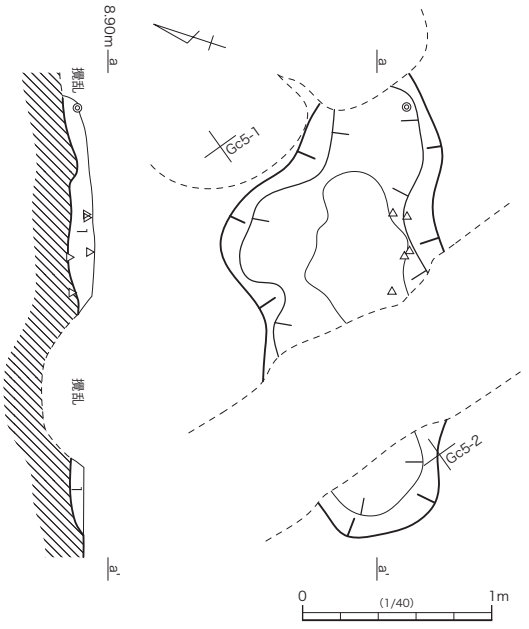
Gc4－1・4－2・5－1区に位置する。確認面はⅤ層上面である。中央西寄りと東側の一部は攪乱により部分的に失われている。規模は長軸252㎝，短軸117㎝，深さは中央部で14㎝である。平面形は不整楕円形で，主軸方位はN－73°－Eである。底面はほぼ平坦で壁面はやや急角度に立ち上がる。覆土は単層で，暗灰黄色シルト層に，炭化物が含まれる。遺物は覆土中から土師器の坏・甕が少量出土しているが，いずれも小片のため時期の特定および図示できる遺物はなかった。

土坑7（第93・105図，図版14）

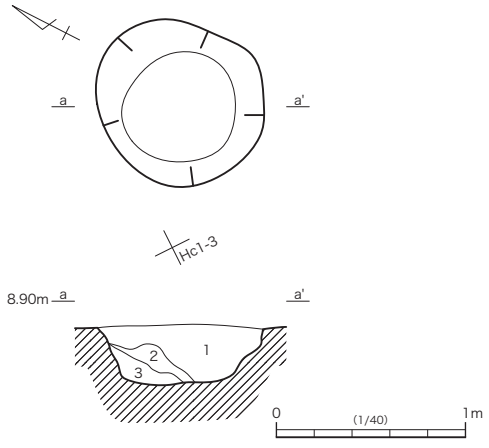
Hc1－2区に位置する。確認面はⅤ層上面である。規模は長軸93㎝，短軸83㎝，深さは中央部で30㎝である。平面形はほぼ円形で，主軸方位はN－27°－Wである。底面はほぼ平坦で壁面はやや急角度に立ち上がる。覆土は3層に分かれ，灰色シルト層を主体とし，炭化物が微量含まれる。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は覆土中から須恵器の甕，土師器の坏・甕が少量出土しているが，小片のため時期の特定および図示できる遺物はなかった。

土坑8（第93・106～111図65～89，図版15・16・33・34）

Dc5－1，Ec1－5・2－4・2－5・3－5区に位置する。確認面はⅤ層上面と川跡5の4層である。川跡5と重複する。新旧関係は覆土からみると川跡5の第3層群よりは新しい。規模は長軸5.78m，短軸1.73m，深さは中央部で23㎝である。平面形は不整楕円形で，主軸方位はN－39°－Wである。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は3層に分かれ，1層は黒色土層で炭化物が多量に含まれ，川跡1の覆土と類似する。2・3層はオリーブ黒色砂層で炭化物が微量ないし少量含まれる。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は，1層中では全体に散漫な分布をし，須恵器の坏，土師器の坏・甕が少量出土し，2点を図示した。2層では中央付近西寄りを中心に，須恵器の坏・蓋，土師器の坏・甕が多量に出土し，特に土師器の甕の多くは底面から北壁付近で出土した。



土坑6
1　2.5Y4/2　暗灰黄色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ10～30mmの灰色シルトブロック多量。φ1～5mmの炭化物粒を含む。



土坑7
1　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まり強。φ10～50mmの灰オリーブ色シルトブロック・φ5～10mmの黒褐色土ブロック・粒を少量，φ10mm程の細砂ブロック・φ1～2mmの炭化物粒微量含む。
2　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ5～10mmの灰オリーブ色シルトブロック・粒少量，φ1～3mmの炭化物粒微量含む。
3　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ5～10mmの灰色シルトブロック・粒・φ1～2mmの炭化物粒微量含む。

第105図　土坑6・7平面・断面図

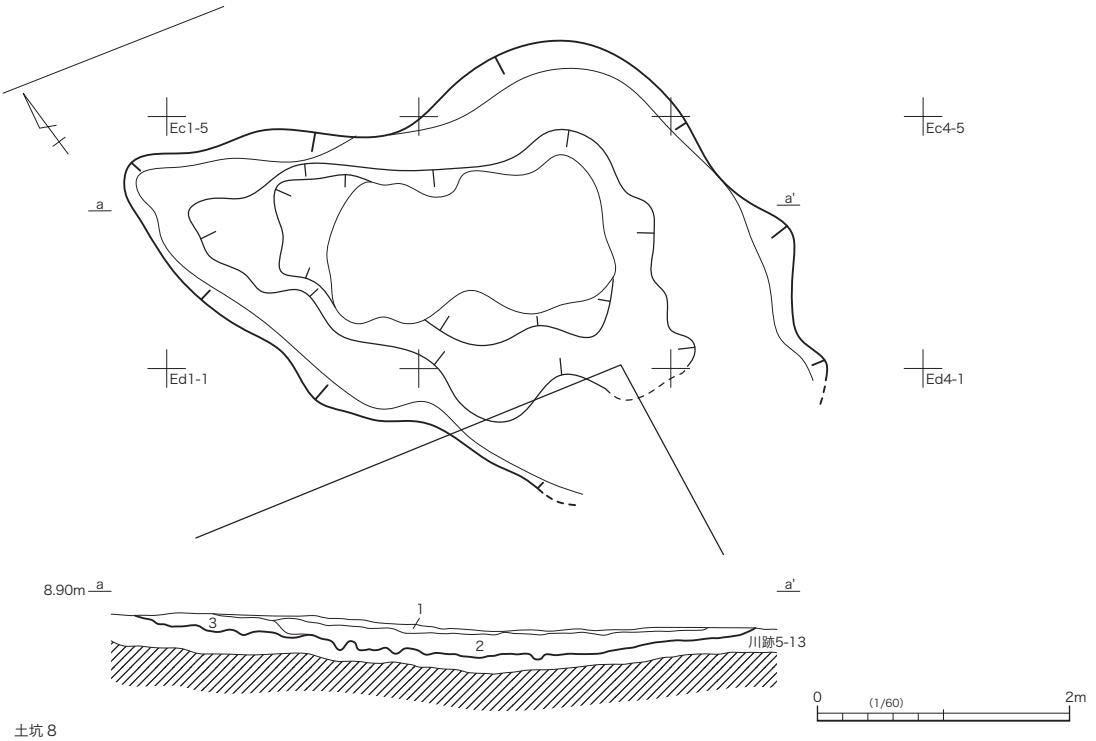
このうち23点を図示したが，土師器の高坏・壺・甕は磨滅が激しく，復元できたものは少ない。須恵器は69点出土しており，2点を除く全てが接合し，6個体がほぼ完形となった。この接合しない2点は6個体のいずれかと同一個体と考えられる。接合した破片は，割れ口面が磨滅しておらず，数多くあった1㎝以下の小片も，ほとんどが接合している。土師器の坏は290点出土した。いずれも二次焼成を受け，割れ口面は磨滅していたが，104点が接合し25個体となった。これらのうち10個体はほぼ完形である。接合しない破片186点の多くは小片であるが，接合した個体と同一個体の可能性が高い。また，複数個体分の破片が86を除き混在して出土しているため，これらは一括して，あるいは断続的に廃棄されたものと考えられる。なお，土師器の坏は二次焼成を受けているが，同層から出土した須恵器には二次焼成の痕跡がないこと，本遺構では焼土が検出されなかったことから，土師器の坏は別の場所で二次焼成を受けた後に，本遺構において廃棄された可能性が高い。

65・66は須恵器の坏で，いずれも胎土に白色粒を多く含む。65は黒色の吹き出しが認められ，底部はヘラ切りの後一方向のヘラケズリを施す。

67は須恵器の蓋で，口縁端部は僅かに沈線状の段がある。天井部は回転ヘラケズリを施す。

68～72は須恵器の坏で，いずれも底部は回転ヘラケズリを施す。口縁端部の形態は異なり，内面が広く面をとるもの（68），沈線状の段のあるもの（69），そのままつまみあげたもの（70～72）がある。71・72の内面は同心円状の当て具痕が認められる。なお，68は胎土・色調・焼成の特徴が共通し，67の蓋と組合わさると考えられる。

73～86は土師器の坏で，黒色処理部分は，二次焼成を受け，磨滅が激しいために不明瞭である。したがって，ここでは黒色処理の有無に関わらず，形態で分類した。調整技術の全様が確認できるものは少ないが，基本的には内外面にヘラミガキを施すようである。器形は体部が丸く，口縁部が僅かに外傾するもの（73～80），大きく外反するもの（81～83）がある。78・79は一部の破片で内面に黒色処理が認められるため，本来は他の破片も黒色処理が施されたと考えられる（このため，この2点の分布図は○と◎が混在する）。76・79・80では体部外面から底



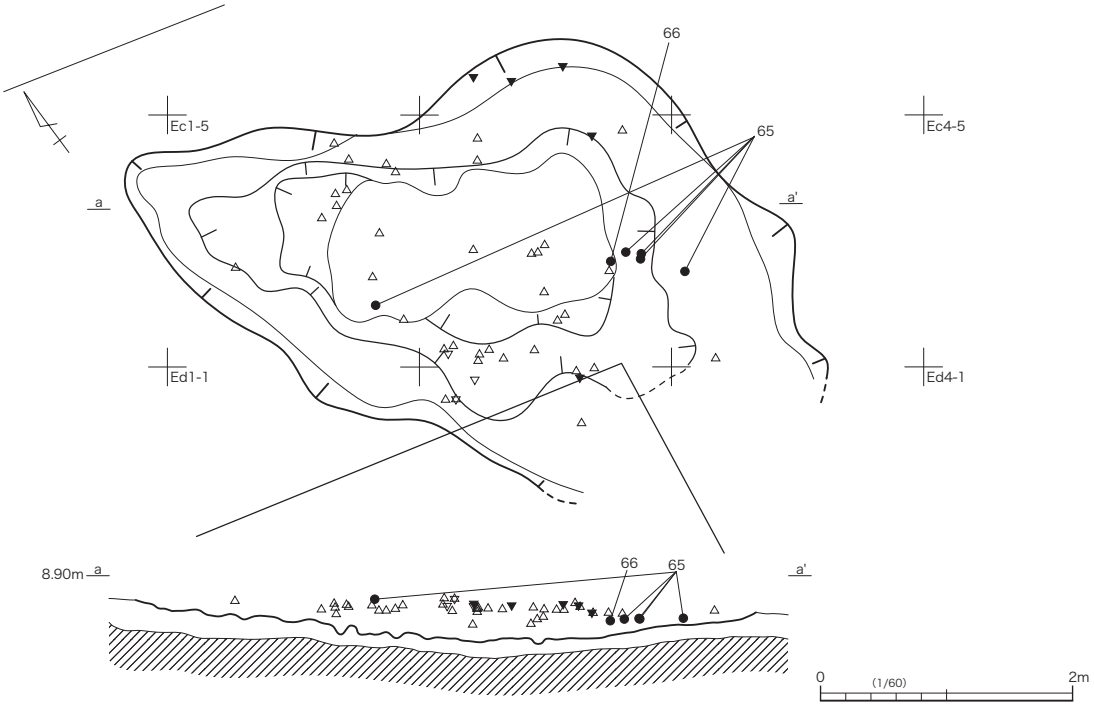
土坑８
1　5Y2/1　黒色土　粘性やや弱，締まりやや強。φ１～20mmの炭化物粒・ブロック多量，φ10～20mmの砂粒ブロックを含む。
2　5Y3/1　オリーブ黒色砂　粘性なし，締まり弱。φ１～10mmの炭化物ブロック･粒・砂粒を微量含む。
3　5Y3/1　オリーブ黒色砂　粘性なし，締まり弱。φ１～5mmの炭化物粒少量。φ10mm程の砂粒ブロック微量含む。

第106図　土坑８平面・断面図

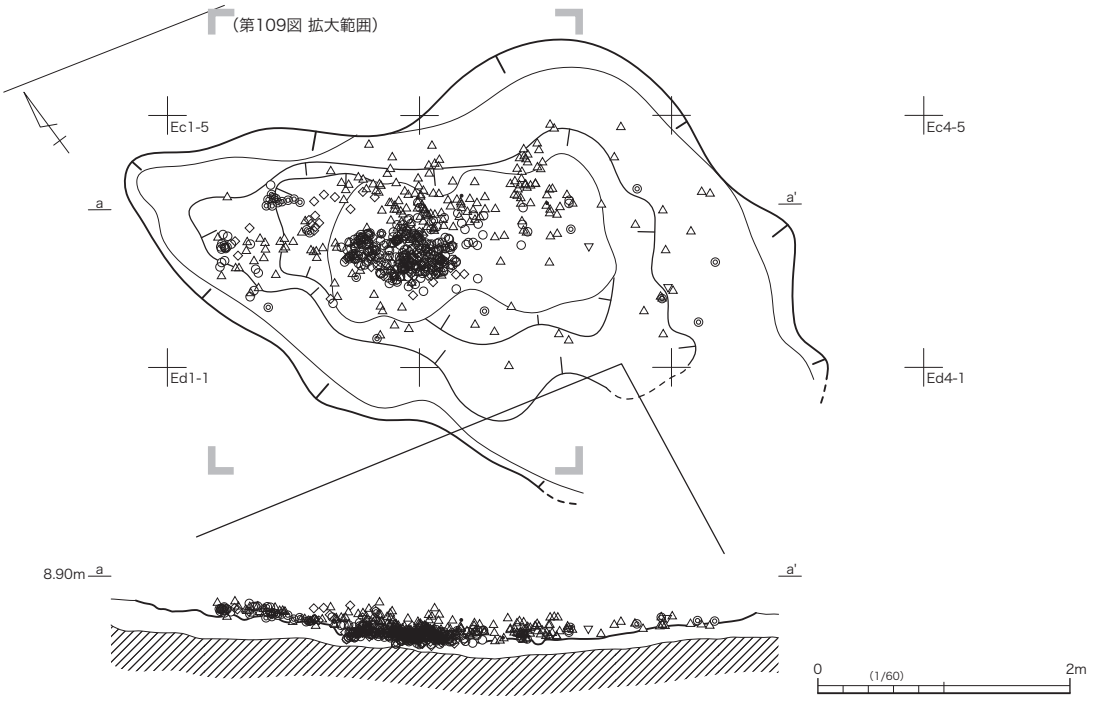
部にヘラケズリを施している。78は外面にヘラナデを施す。83は底部外面に焼成前のヘラ書き（×）が認められる。86は底部が平らで，体部は丸く立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。内面はヘラミガキされ，黒色処理を施す。

87は土師器の高坏の脚部で，坏部を欠損する。外面はヘラミガキを施し，胎土は粗砂粒を多く含む。脚部内面は斑状に黒色化している。外面は僅かに赤みを帯びるが，赤彩の痕跡はない。

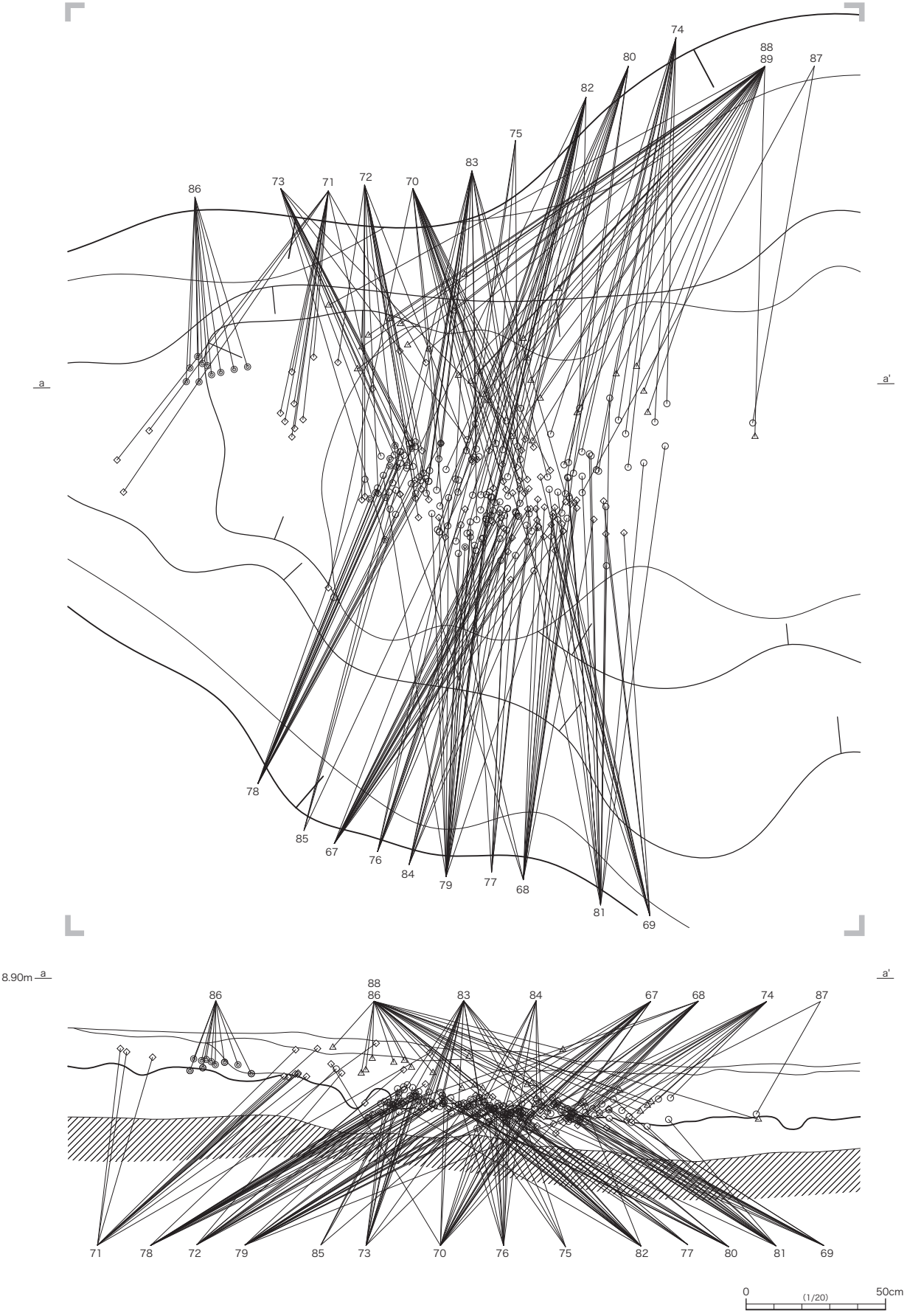
88・89は土師器の甕で，2点は接合しないが，調整・胎土・焼成などの観察から，同一個体と考えられる。88の外面上半は粗いハケメを施す。89は内面はヘラナデ，外面にヘラケズリを施す。



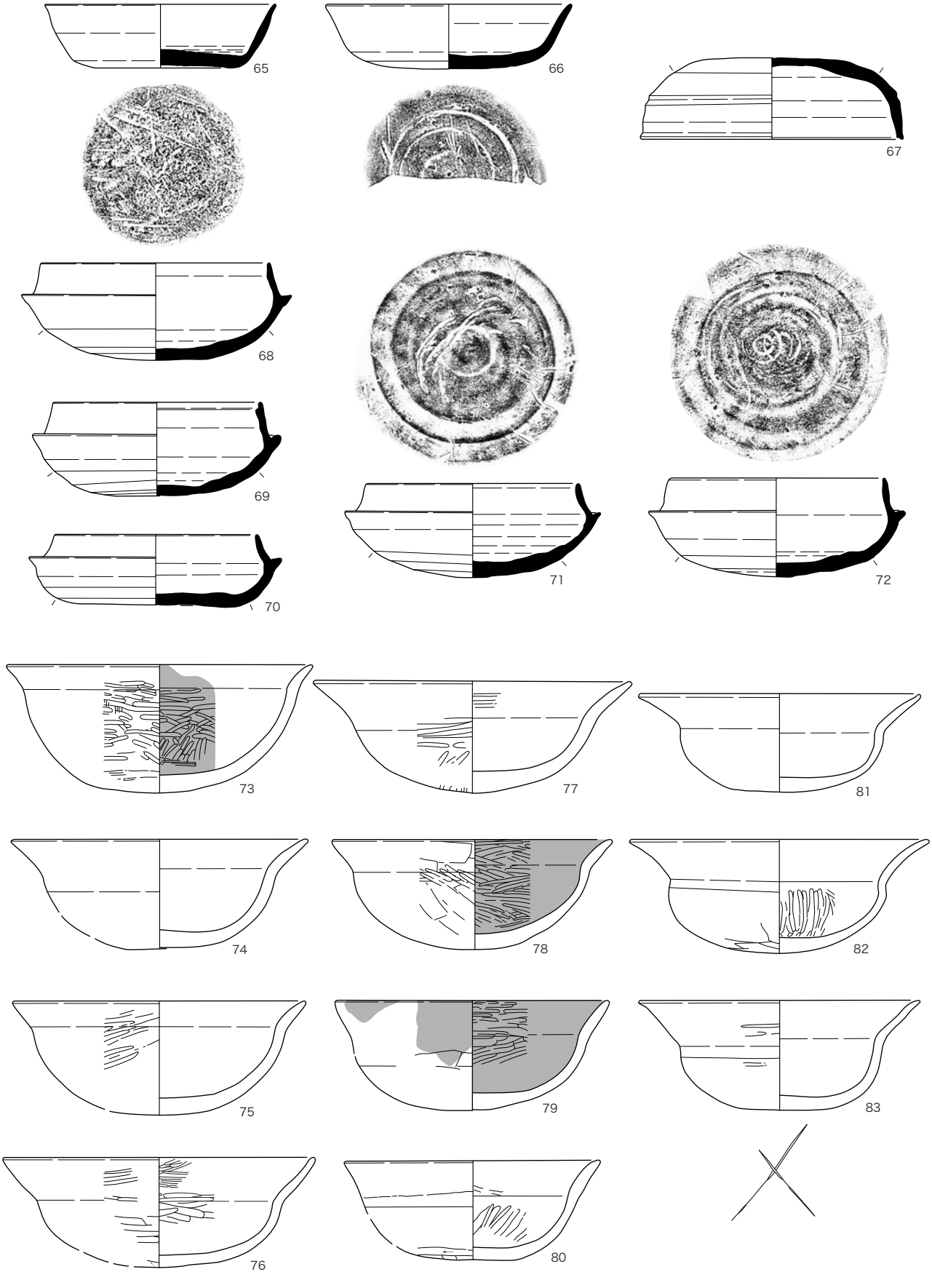
第107図　土坑8遺物分布図1（1層）



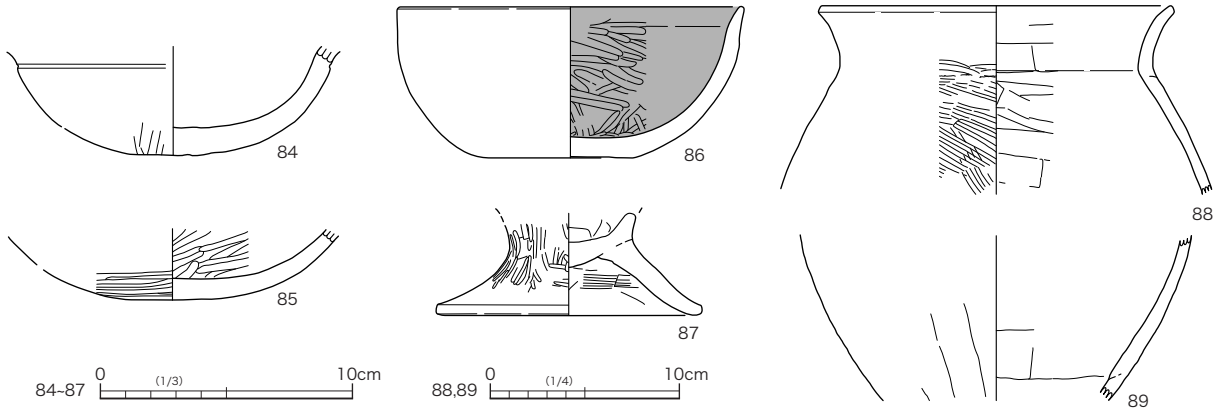
第108図　土坑8遺物分布図2（2層）



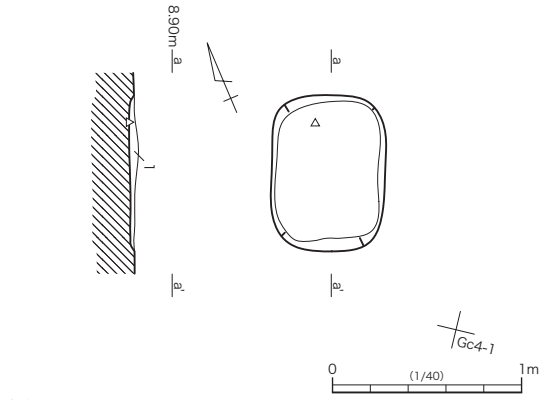
第109図　土坑８遺物分布図３（２層）



第110図　土坑8出土遺物1



第111図　土坑8出土遺物2



土坑 11
1　5Y4/1　灰色シルト　粘性弱，締まりやや強。φ 1 ～ 2mm の炭化物微量含む。

第112図　土坑11平面・断面図

土坑11（第93・112図，図版14）

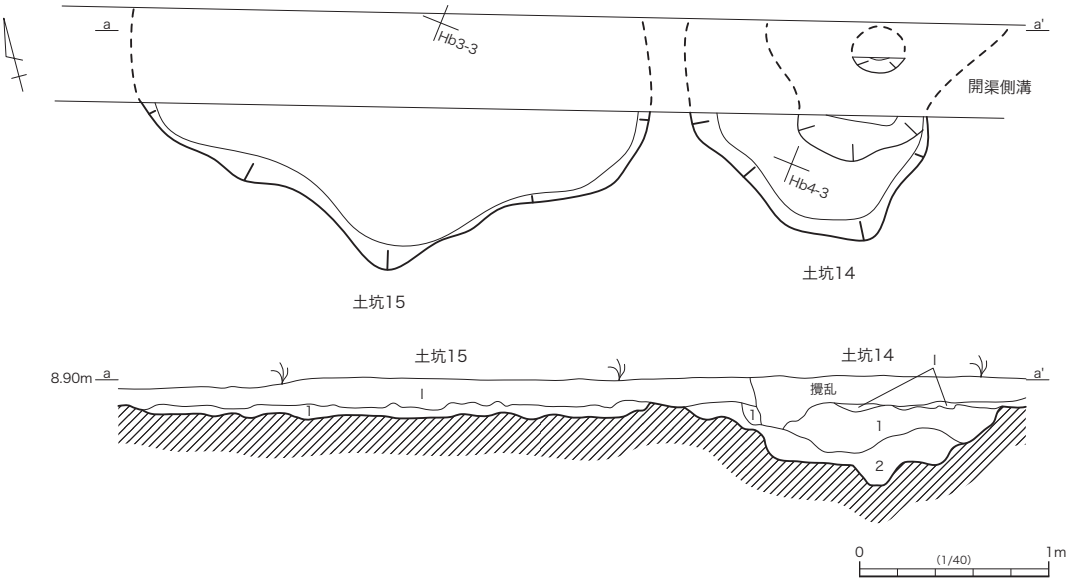
Gb3－5区に位置する。確認面はⅤ層上面である。規模は長軸83㎝，短軸61㎝，深さは中央部で3㎝である。平面形態は隅丸長方形で，主軸方位はN－23°－Eである。底面はほぼ平坦で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は単層で，灰色シルト層に炭化物が微量含まれる。遺物は底面より土師器の甕が1点出土しているが，小片のため時期の特定および図示はできなかった。

土坑14（第93・113図，図版14）

Hb3－2・3－3・4－2・4－3区に位置する。確認面はⅤ層上面である。排水のための開渠側溝により切られており，その北側は調査区外へと続く。調査範囲での規模は長軸125㎝，短軸97㎝，深さは中央部で41㎝である。平面形は不整楕円形と考えられ，底面は凹凸があり，壁面は段差をもって急角度に立ち上がる。覆土は2層に分かれ，灰色オリーブシルト層を主体とし，炭化物が微量含まれる。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は出土しなかった。

土坑15（第93・113図，図版14）

Hb2－3・3－2・3－3区に位置する。確認面はⅤ層上面である。北側が調査区外に続く。調査範囲での規模は長軸270㎝，短軸130㎝，深さは中央部で7㎝である。平面形は不整楕円形と考えられる。底面は凹凸があり，壁面は穏やかに立ち上がる。覆土は単層で，灰色シルト層に炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。



土坑 14
1　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性弱，締まりやや強。φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック･粒少量，φ 10 ～ 50mm の灰色シルトブロックを含む。
2　5Y5/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや強，締まり弱。φ 10 ～ 20mm の灰色シルトブロック少量，φ 10mm 程の砂粒ブロック・φ 1 ～ 2mm の炭化物粒微量含む。

土坑 15
1　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 2mm の炭化物粒微量含む。

第113図　土坑14・15平面・断面図

土坑17（第93・114図，図版15）

Fc3－4・3－5・4－4・4－5区に位置する。川跡5の底面で確認した。規模は長軸145㎝，短軸97㎝，深さは中央部で50㎝である。平面形は不整楕円形で，主軸方位はN－50°－Eである。底面は，北側ではほぼ平坦だが南側は落ち込む。壁面は急角度に立ち上がる。覆土は4層に分かれ，オリーブ黒色シルト層を主体とし，微量の炭化物を含む。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は1，2層から土師器の坏・高坏・甕が少量出土しているが，小片のため時期の特定および図示できる遺物はなかった。

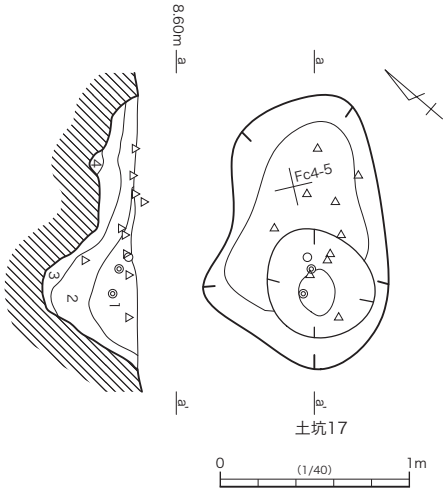
土坑18（第93・114図，図版15）

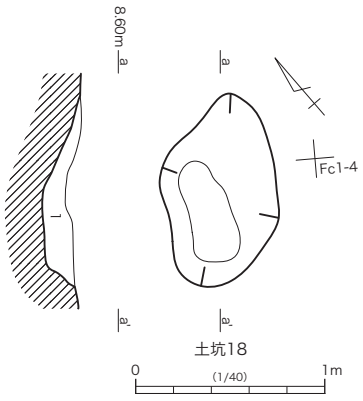
Ec5－3，5－4区に位置する。川跡5の底面で確認した。規模は長軸102㎝，短軸63㎝，深さは中央部で15㎝である。平面形は不整楕円形で，主軸方位はN－47°－Eである。底面はほぼ平坦で，北壁面は緩やかに，南壁は急角度で立ち上がる。覆土は単層で，灰オリーブ色砂質土層で炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

土坑19（第93・114図90～92，図版15）

Dd5－4・Ed1－4区に位置する。確認面はⅤ層上面である。土坑20と重複し，本遺構が新しい。規模は長軸119㎝，短軸113㎝，深さは中央部で14㎝である。平面形は円形で，底面はほぼ平坦であるが，中央のやや南寄りにに径50×35㎝，深さ10㎝の楕円形の落ち込みがある。壁面は垂直ぎみに立ち上がる。覆土は7層に分かれ，灰オリーブ色砂質土層を主体とし，炭化物が含まれる。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は，2層から土師器坏・壺・甕が少量出土しているが，図示しえたのは3点である。

90・91は土師器の坏である。調整はともに内外面とも横位のヘラミガキである。90は内面に，91は内外面ともに黒色処理を施す。92は壺の口縁部で，内面は横位・縦位のヘラミガキ，外面は縦位のヘラミガキである。



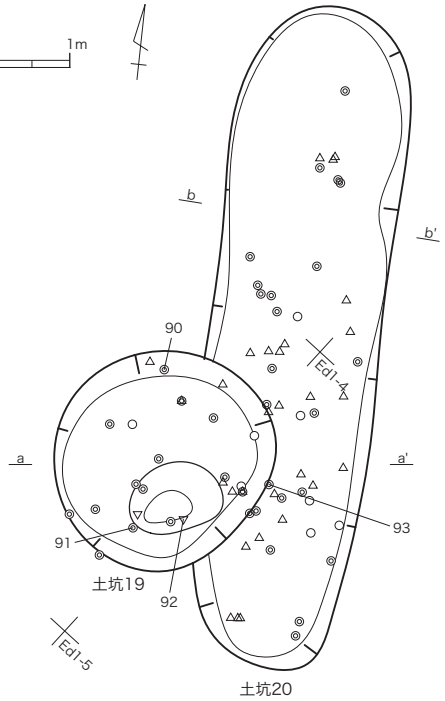


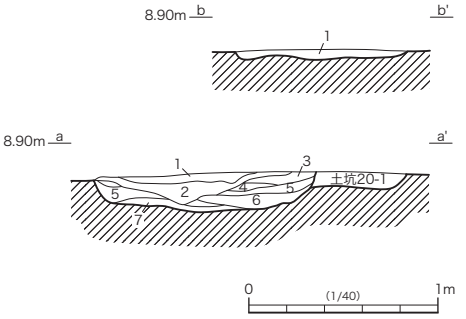
土坑 17
1　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まり弱。φ 1 ～ 15mm の炭化物ブロック･粒少量，φ 1 ～ 5mm の灰オリーブ色シルト粒微量含む。
2　5Y3/2　オリーブ黒色シルト　粘性弱，締まりやや弱。φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック･粒微量含む。
3　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰色シルトと灰オリーブ色砂粒の混土層。
4　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。灰色シルトに灰オリーブ色砂粒の混土層。3 層より砂質分多い。

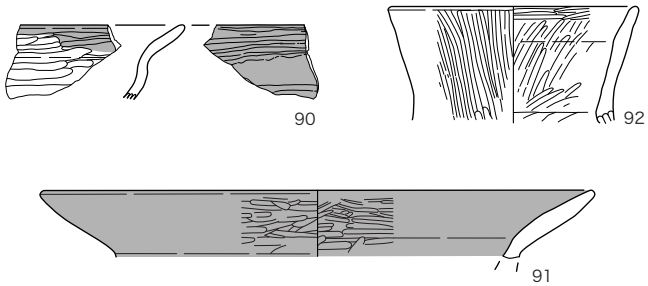
土坑 18
1　5Y4/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ 1 ～ 3mm の炭化物粒微量含む。

土坑 19
1　5Y5/3　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ 10mm 程の灰色砂質ブロック微量，φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック・粒を含む。
2　5Y4/1　灰色砂　粘性なし，締まり弱。φ 10mm 程の灰オリーブ色砂質ブロック少量，φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック・粒を含む。
3　5Y5/3　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ 1 ～ 5mm の炭化物粒を含む。
4　5Y6/1　灰色砂　粘性なし，締まり弱。灰色砂粒と灰白色砂粒の混土層。
5　5Y5/2　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ 1 ～ 20mm の炭化物ブロック・粒少量含む。
6　5Y5/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック･粒，灰オリーブ色シルトを帯状に含む。
7　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや弱。φ 1 ～ 5mm の炭化物粒少量，灰色砂粒含む。

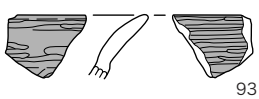
土坑 20
1　5Y5/3　灰オリーブ色砂　粘性なし，締まり弱。φ 1 ～ 5mm の炭化物粒を含む。



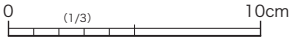




土坑19



土坑20



第114図　土坑17～20平面・断面・遺物分布図・出土遺物

土坑20（第93・114図93，図版15）

Dd5－3・5－4，Ed1－3・1－4区に位置する。確認面はⅤ層上面である。土坑19と重複し，切り合い関係から本遺構が古い。規模は長軸350㎝，短軸93㎝，深さは中央部で8㎝である。平面形は細長い楕円形である。主軸方位はN－1°－Eである。底面はほぼ平坦であるが，僅かに南側が深くなる。壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は単層で，灰オリーブ色砂質土層に炭化物が含まれる。遺物は土師器坏・甕が少量出土しているが，図示しえたのは1点のみである。

93は内外面ともに黒色処理を施す土師器の坏で，口縁部はナデ後，横位のヘラミガキを施す。

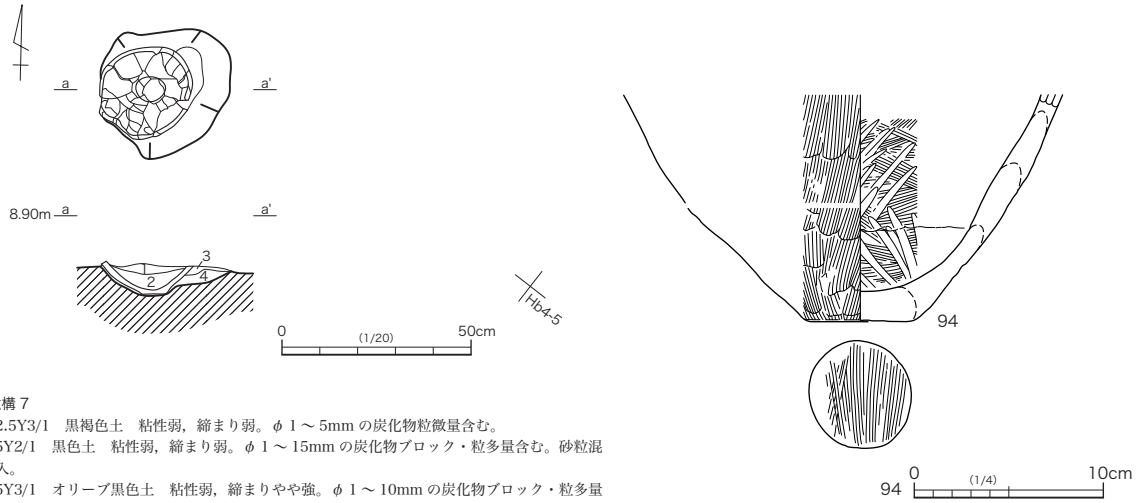
埋設遺構7（第84・93・115図94，図版16）

Hb2－5・3－5区に位置する。確認面はⅤ層上面である。土師器甕の体部下半が正位で掘方に埋め込まれた状態で検出したために「埋設」と判断した。なお，上半は後世の耕作などの削平により欠損したものと考えられる。規模は長軸38㎝，短軸33㎝，深さは中部央で7㎝である。平面形は不整円形である。主軸方位はN－71°－Eである。底面は平坦面を持たず，壁面は緩やかに立ち上がり，ほぼ土器の形に沿っている。覆土は4層に分かれ，1・2層は埋設された土器内部の覆土で，2層は黒色土層に炭化物が多量に含まれる。3・4層は掘方の覆土である。遺物は埋設土器以外は出土しなかった。

94は土師器の甕で，内外面と底部にハケメを残し，内面は部分的に粗くヘラミガキを施し，外面は煤が部分的に付着する。胎土には小石を多く含む。上部は二次焼成を受け脆くなっている。土器内の覆土は炭化物を多量に含んでおり，この場での火の使用も考えられるが，付近に焼土は確認できず詳細は不明である。

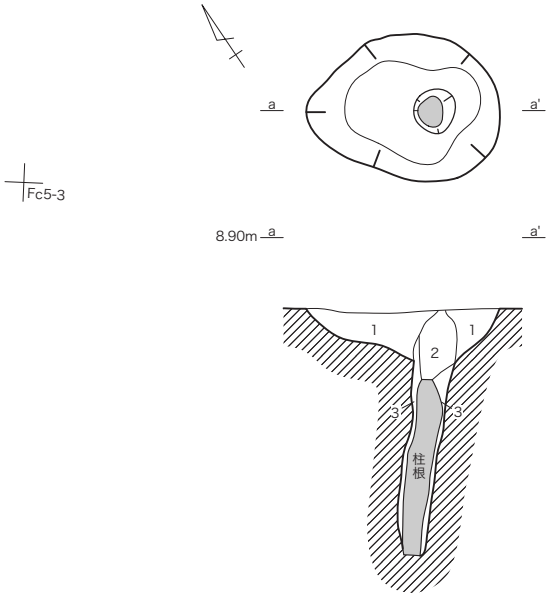
ピット1（第84・93・116図，図版16）

Fc5－2区に位置する。確認面はⅤ層上面である。規模は長軸50㎝，短軸40㎝，深さは中央部で18㎝である。平面形は楕円形で，柱根が底面東側に遺存し底面からは約50㎝下まで打ち込まれていた。主軸方位はN－56°－Wである。底面に平坦面を持たず，壁面は急角度に立ち上がる。覆土は3層に分かれ，灰色シルト層・砂質土層を主体とし，炭化物が少量含まれる。3層は柱根が腐食した有機物層である。掘立柱建物跡の柱穴の可能性を考え

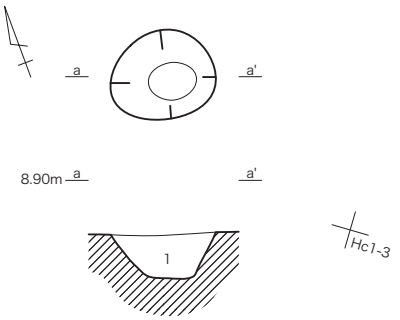


埋設遺構7
1　2.5Y3/1　黒褐色土　粘性弱，締まり弱。φ1～5mmの炭化物粒微量含む。
2　5Y2/1　黒色土　粘性弱，締まり弱。φ1～15mmの炭化物ブロック・粒多量含む。砂粒混入。
3　5Y3/1　オリーブ黒色土　粘性弱，締まりやや強。φ1～10mmの炭化物ブロック・粒多量含む。砂粒と灰色シルトの混土層。
4　5Y5/1　灰色土　粘性やや弱，締まりやや強。φ1～5mmの炭化物粒を含む。砂粒と灰色シルトの混土層。

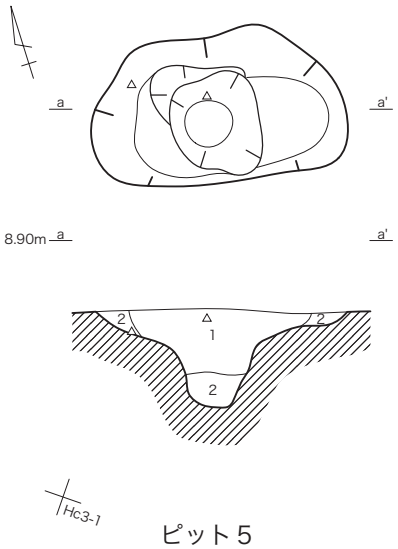
第115図　埋設遺構7平面・断面図・出土遺物



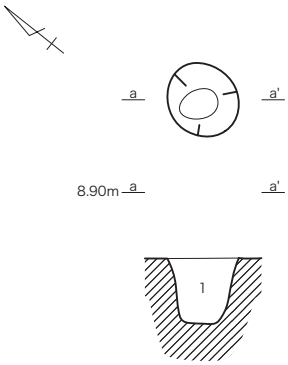
ピット１



ピット４



ピット５



ピット６

ピット１
1　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10mm 程のオリーブ色砂粒ブロック少量，φ 1 ～ 10mm の炭化物ブロック･粒微量含む。
2　5Y3/1　オリーブ黒色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。黒色シルトブロックと灰色シルトブロックの混土層
3　7.5YR2/2　黒褐色シルト　粘性やや強，締まりやや弱。木杭が腐食した有機物層。

ピット４
1　5Y4/1　灰色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 1 ～ 2mm の炭化物微量含む。

ピット５
1　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや強，締まりやや強。φ 10 ～ 30mm の灰オリーブ色シルトブロック・φ 1 ～ 5mm の炭化物粒少量含む。
2　5Y6/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10mm 程の灰オリーブ色シルトブロック微量。

ピット６
1　5Y4/2　灰オリーブ色シルト　粘性やや弱，締まりやや強。φ 10 ～ 30mm の灰色シルトブロック・φ 1 ～ 5mm の炭化物粒少量含む。

0　(1/20)　50cm

第116図　ピット１・４～６平面・断面図

周囲を精査したが，他に柱穴は確認できなかった。むしろ，東西に近接する，掘立柱建物跡16の柱穴1－1・1－2との関連性が考えられる。遺物は1層から，土師器の坏・甕が1点ずつ出土しているが，小片のため図示しえなかった。

ピット4（第84・93・116図，図版16）

Gc5－2区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸27㎝，短軸23㎝，深さは中央部で10㎝である。平面形は楕円形で，主軸方位はN－70°－Wである。底面はほぼ平坦で，壁面は急角度に立ち上がる。覆土は単層で，灰色シルト層に炭化物が微量含まれる。遺物は出土しなかった。

ピット5（第84・93・116図，図版16）

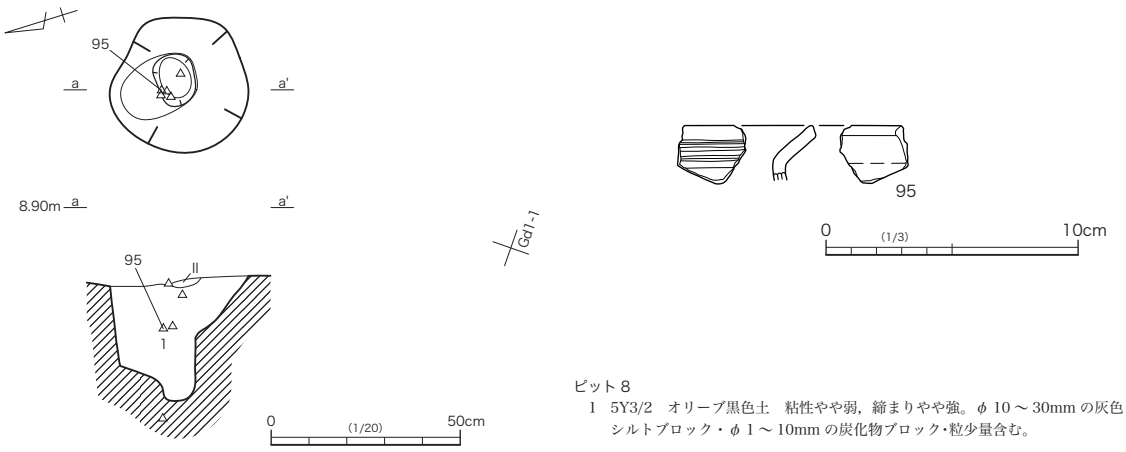
Hb2－5，3－5区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸67㎝，短軸40㎝，深さは中央部で25㎝である。平面形は不整楕円形で，主軸方位はN－74°－Wである。下部はU字状，上部は皿状で壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は2層に分かれ，灰オリーブ色シルト層を主体とし，炭化物が少量含まれる。覆土の堆積状態から自然埋没と考えられる。遺物は土師器の甕が2点出土したが，小片のため図示しえなかった。

ピット6（第84・93・116図，図版16）

Hb2－5・3－5区に位置する。確認面はV層上面である。規模は長軸20㎝，短軸17㎝，深さは中央部で18㎝である。平面形は円形である。底面はほぼ平坦で，壁面は垂直ぎみに立ち上がる。覆土は単層で，灰オリーブ色シルト層である。遺物は出土しなかった。

ピット8（第84・93・117図95，図版16）

Fc5－5，Fg1－5区に位置する。確認面はV層上面である。規模は径35㎝ほど，深さは中央部で31㎝である。平面形は不整円形で，底面のほぼ中央にピット状の掘り込みがあり，壁面は垂直に立ち上がる。覆土は単層で，オリーブ黒色土層に炭化物が少量含まれる。断面観察では柱根は確認できなかった。遺物は土師器の甕が5点出土しているが，図示しえたのは1点であった。95は土師器の甕の口縁部で，ロクロ整形と思われる。

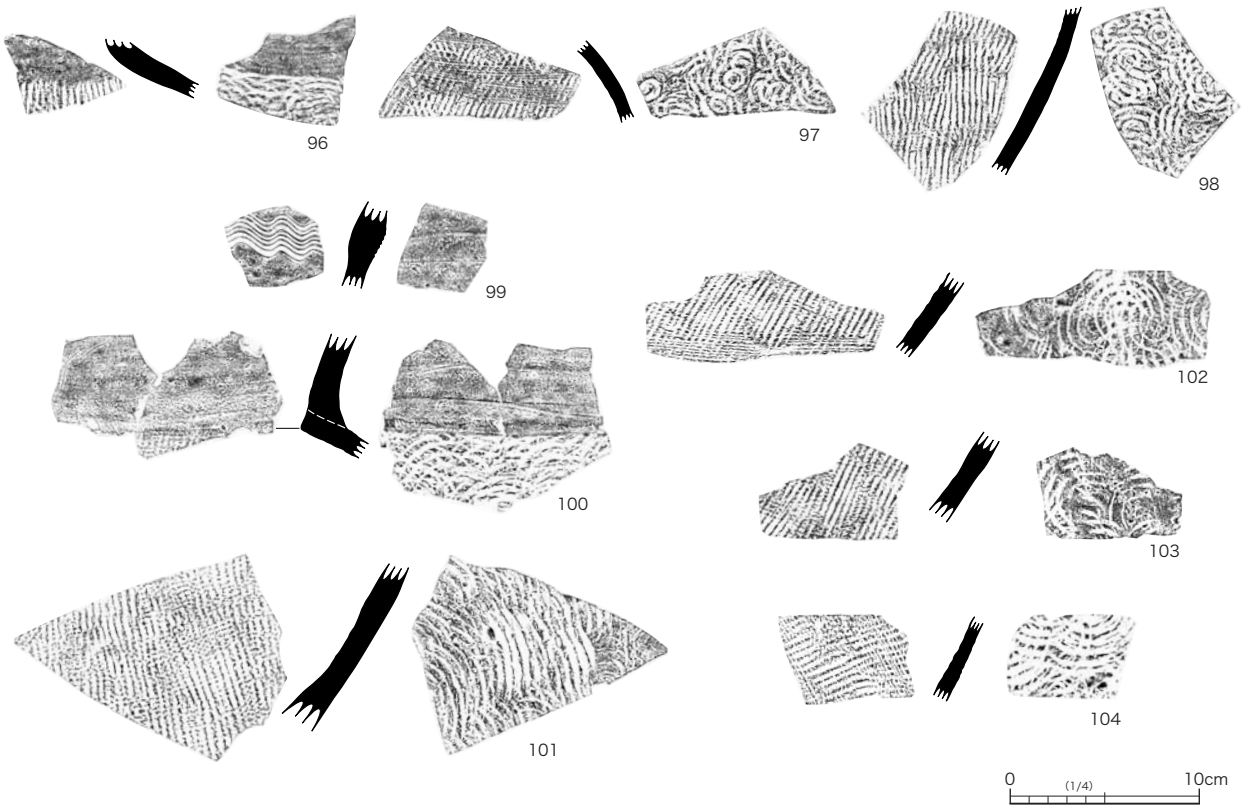


第117図　ピット8平面・断面・遺物分布図・出土遺物

（３）遺構外出土遺物（第118図96～104，図版34）

遺構外からは，須恵器の坏・甕，土師器の坏・壺・甕が出土した。多くは小片のため図示しえるものは少く，このうち須恵器の甕9点を図示した。調査区の広い範囲から出土したが，胎土から96～98，99～104の2個体分と考えられる。出土地点は96はGc4－1区，97がEd1－3区，98がGc5－1区，99がEc5－3区，100がEc5－5・Gc3－5区，101がEe5－1区，102がEc2－5区とGc2－4区の接合，103がEc2－4区，104がFc2－2区である。96は頸部の破片である。97～98は体部の破片で，体部外面は平行叩き後，カキメを施す。内面は同心円状の当て具痕が残る。いずれも焼成は良好で，胎土は白色粒を少量含み，軟質である。

99は頸部片で内部が火脹れし，部分的に厚くなっている。外面は波状文を施す。100は頸部の破片で，体部内面は同心円状の当て具痕が残る。101～104は体部の破片で，外面は擬格子のタタキ，内面は同心円状の当て具痕を残す。いずれも胎土に白色粒を少量含み，焼成は良好である。



第118図　遺構外出土遺物

表２　蚤取橋遺跡 土器・陶器・漆器観察表

計測値のうち（　）は現存値を，((　))は復元値を表す。単位は全てcm。重さはgである。遺存度は全体の大きさのわかるものについてのみ推測率を示した。また，空欄は計測不能である。「時代」の記号は，古墳時代：記号ナシ・古代：○・中世以降：●・不明：△である。「手法」のうち須恵器のロクロ整形については，原則として記していない。胎土A－1は，粗い長石・石英を含む。主に真木山・笹神・貝屋窯産と考えられる。A－2は，A－1に比べ粒子が細かく，胎土はやや白っぽい。主にホーロク沢窯産と考えられる。A－3は，A－1に比べ粒子が細かく少ない。主に真木山・笹神・貝屋窯産と考えられる。胎土Bは，白い細粒子を少量含む。青黒色の吹き出しがあり，色調は青灰色。佐渡小泊窯産と考えられる（鶴巻・永井ほか2005）。なお，胎土Aは細分が明瞭でないものは，単に胎土Aとした。

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
8	土坑9	De1-5	1		漆器 ●	椀		(6.0)				口縁部・底部欠損	(内) 赤漆 (外) 黒漆		体部に黄漆で家紋「丸に蔦」か	木製品	12	24
9	川跡1	Cl3-4 Dk3-5 Dl2-1 Dl2-2 Dl3-1	1		須恵器	坏	11.6	3.3	7.5	103.1	40%	底部ヘラ切り	(内) N5/,灰色 (外) N5/,灰色	大粒の石英粒・白色粒少量混入 胎土A			15	17
10	川跡1	Dm2-5	1		須恵器 ○	坩堝		(3.2)		14.2			(内) N5/,灰色	白色粒・砂粒混入,やや粗		ガラス質滓付着	15	24
12	川跡2	En3-3	1		陶器 ●	折縁深皿		(5.2)		49.7		(外) 回転ヘラケズリ	(内) N8/,灰白色 (外) N8/,灰白色	緻密		外面上半厚(施釉),内面上半厚(施釉),下半薄(施釉)古瀬戸後期	15	24
13	川跡1・2	Dg4-4 Df1-2 Df1-3	1		須恵器	鉢	((14.1))	(5.2)		48.9	不明		(内) N5/,灰色 (外) N3/,暗灰色	石英・雲母・粗砂粒少量混入	高坏か	外面自然釉付着	17	24
14	川跡1	Df2-3	1		須恵器	坏		(2.5)		22.2	20%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) 7.5Y6/1,灰色 (外) 7.5Y7/1,灰白色	白色粒・金雲母・粗砂粒少量混入	古墳時代		17	24
15	川跡1	Df2-2	1		須恵器 ○	壺		(4.3)	((6.3))	117.4		(外) 回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N4/,灰色	白色粒・粗砂粒混入		外面自然釉付着,焼成前ヘラ書き「×」	17	17
16	川跡2	Dg5-4	1		須恵器	甕	((12))	(2.2)		9.2		(外) 波状文	(内) 5YR5/3,にぶい赤褐色 (外) 5Y4/1,灰色	白色粒・粗砂粒少量混入		井戸13出土遺物と接合	17	24
17	川跡2	Dh5-1	1		陶器 ●	片口鉢		(4.4)		31.4			(内) N5/ (外) N5/,灰色	雲母多量混入		珠洲(IV期)	17	24
18	川跡5	Cl4-1	5	1	須恵器 ○	坏	12.1	3.2	8.0	73.1	60%	(外) 底部ヘラ切り	(内) 7.5Y6/1,灰色 (外) 7.5Y6/1,灰色	白色粒多量混入 胎土B		底部に墨書(不明),小泊窯産	36	17 24
19	川跡5	Ck1-5 Cl1-1	5 11	1	須恵器 ○	高台付坏	((13.7))	3.6	((7.5))	102.5	40%	(外) 高台貼り付け	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) 5Y7/1,灰白色	粗砂粒を極少量含む,緻密 胎土A			36	17
20	川跡5	Dl1-2	5	1	須恵器 ○	高台付坏		(1.6)	9.4	146.1	40%	(外) 高台貼り付け	(内) 5Y7/2,灰白色 (外) 5Y6/2,灰オリーブ色	粗砂粒を極少量・細砂粒金雲母を多く含む 胎土A		転用硯	36	24
21	川跡5	En2-3	13 17	2	須恵器	蓋	(12.3)	(2.9)		2.06	15%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) N4/,灰色 (外) N4/,灰色	粗砂粒を少量含む		内面酸化焔	37	巻頭2 17
22	川跡5	En2-1	13	2	須恵器	蓋	13.0	4.7		230	95%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N5/,灰色	粗砂粒(長石)を多く含む		自然釉付着	37	巻頭2 17
23	川跡5	Em2-2 Em3-2	13 18	2	須恵器	坏	((11.1))	4.7		33.6	25%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N4/,灰色 (外) N5/,灰色	細砂粒(長石)を少量含む		口縁内面端部が鋭い，外面に自然釉付着	37	巻頭2 17
24	川跡5	Ck5-2	13	2	須恵器	坏	10.7	5.1		152.6	80%	(外) 体部底部回転ヘラケズリ	(内) 5PB4/1,暗青灰色 (外) N6/,灰色	白色粒・小石・細砂粒を少量含む			37	巻頭2 17
25	川跡5	Dj3-4 Dk1-3	11	2	須恵器	坏	((11.8))	4.8		85.7	40%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N5/,灰色	粗砂粒を多く含む			37	巻頭2 17
26	川跡5	Em1-4	11	2	須恵器	坏	((10.9))	4.9		68.3	25%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N6/,灰色	細砂粒・黒色粒を少量含む		底部は磨滅が著しい	37	巻頭2 17
27	川跡5	En1-3	13	2	須恵器	坏		(2.4)		50.1	15%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N4/,灰色 (外) N5/,灰色	粗砂粒を極少量含む，緻密			37	巻頭2 24
28	川跡5	Cl1-2 Fc3-2 Fc3-5	12	2	須恵器 ○	蓋	((19.5))	(1.6)		169.3	40%	(内) ナデ (外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) 7.5Y7/1,灰白色 (外) 7.5Y7/1,灰白色	緻密	ツマミ欠損	歪みあり，上半全面に自然釉，転用硯	37	24
29	川跡5	Em2-4	11	2	土師器	壺形手捏土器	5.0	5.45	2.4	103.0	口縁部一部欠損	(内) 口縁部,体部下半ナデ,体部上半ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラケズリ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入			37	17
30	川跡5	En3-3	13	2	土師器	坏形手捏土器	((6.2))	(3.1)		10.0	25%	(内) 横位ナデ (外) 不明圧痕あり	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	透明粒・赤色粒			37	17
31	川跡5	Cl4-4 Cl4-5 Em2-4 Em2-5	11 13 17	2	土師器	坏	((14.0))	4.6	2.7	112.5	50%	(内) 体部横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後横位・体部縦位ヘラミガキ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 5YR7/6,橙色	砂粒・黒色粒・赤色粒	外面磨滅して居るため,方向は不明		37	17
32	川跡5	Cl2-2	12	2	土師器	坏	((13.4))	4.5	2.1	94.5	75%,	(内) 不明 (外) 不明	(内) 5YR6/8,橙色 (外) 5YR6/8,橙色	赤色粒・橙色粒・白色針状物質多量混入	底部が窪んでいる	口縁は若干高くなる可能性あり，全体に磨滅している	37	17
33	川跡5	Cm2-1 Cm3-1	13 24	2 3	土師器	坏	((14.9))	5.6		96.0	40%	(内) 口縁～体部横位・体部放射状ヘラミガキ (外) 口縁・体部横位ヘラミガキ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・細砂粒極少量混入			37	17

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
34	川跡5	Ck1-4	11	2	土師器	坏	((12.6))	4.8		26.0	20%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ,下半縦位ヘラケズリ	(内) N2/,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・雲母・細砂粒・白色針状物質少量混入	内面黒色処理	高坏か	37	17
35	川跡5	Ck5-2	13 17	2	土師器	坏	((17.0))	(6.1)		120.2	25%	(内) 体部縦位・口縁部方向不明のヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,下半不明	(内) 5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 5Y4/1,灰色	白色粒・雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		37	17
36	川跡5	Bl5-1	13	2	土師器	坏	15.3	5.5		182.6	30%	(内) 口縁部横位,下半縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,中位ヘラナデ	(内) 5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒混入	内面黒色処理		37	17
37	川跡5	Bk4-3 Bk5-3	11	2	土師器	坏	((15.0))	6.5		211	60%	(内) ナデ後,横位ミガキ (外) ナデ後,横位ヘラミガキ,底部ヘラケズリ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y6/4,にぶい黄色	小石・透明粒・粗砂粒混入	内面黒色処理		37	17
38	川跡5	Dm5-3 En2-2	13	2	土師器	坏	15.5	5.35		214.5	75%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,クシ状工具によるナデ後,横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	粗砂粒少量混入	内面黒色処理		37	17
39	川跡5	Cl2-1	12	2	土師器	坏	15.5	5.9		132.4	50%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y6/4,にぶい黄色	細砂粒・白色針状物質少量混入	内面黒色処理	口縁と体部の境が沈線状となる	37	17
40	川跡5	Em1-3	13	2	土師器	坏	16.0	6.0		296.5	95%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 7.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	石英粒少量含む	内面黒色処理		37	17
41	川跡5	Dk1-4	11	2	土師器	坏	15.2	5.15		159.6	80%	(内) 口縁部横・体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 2.5Y8/3,淡黄色	白色粒・透明粒・金雲母混入	内面黒色処理		37	17
42	川跡5	Ck5-2	11 13	2	土師器	坏	(15.6)	5.6		119.9	40%	(内) 口縁部横位体部縦位ヘラミガキ (外) ナデ後,上半横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・橙色粒・金雲母混入	内面黒色処理		37	17
43	川跡5	Cl3-5	13 18	2	土師器	坏	14.8	6.1		193.8	70%	(内) 口縁部横位,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ	(内) 10YR3/1,黒褐色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		37	18
44	川跡5	Em1-4 En2-1 En2-2	13 27	2 4	土師器	鉢	13.0	10.5		407.5	40%	(内) ハケメ後口縁部横位,下半縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・橙色粒・砂粒混入	内面・外面一部黒色処理		37	18
45	川跡5	Cl2-2	12	2	土師器	高坏		(5.9)		131.9		(内) 坏部縦位ミガキ,脚部横位ハケ後ヘラナデ (外) 坏部から接合部縦位ハケメ,脚部横位ナデ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・橙色粒・細砂粒混入	内面黒色処理		38	18
46	川跡5	Ck5-2	13	2	土師器	高坏		(9.5)	14.9	454.5	脚部ほぼ完存	(内) 横位ナデ後,一部ミガキ・ハケメ (外) 縦位ハケメ後,上半縦位・下半横位ヘラミガキ	(内) 10Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	長石・石英・白色粒・粗砂粒多量混入	内面黒色処理		38	18
47	川跡5	Em2-5	11	2	土師器	高坏		(3.7)	((16.6))	35.8		(内) 横位ナデ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y4/1,黄灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	長石・雲母・粗砂粒混入			38	–
48	川跡5	Bk5-4	11	2	土師器	小形壺		(6.1)		315.8	体部70%	(内) 斜位ハケメ・頸部ヘラナデ (外) 横位ヘラナデ	(内) 5Y4/1,灰色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	大粒の石英・粗砂粒混入			38	18
49	川跡5	Dj4-4	11 15	2	土師器	小形壺		(9.3)		350.3	体部ほぼ完存	(内) 底部ヘラナデ後放射状ハケメ (外) 横位ヘラミガキ・ヘラナデ	(内) 10YR3/1,黒褐色 (外) 7.5YR7/6,橙色	石英・白色粒・橙色粒・白色針状物質・粗砂粒少量混入	体部外面赤彩		38	18
50	川跡5	Cl1-2	11	2	土師器	甑	((14.0))	10.65	((4.8))	175.3	60%	(内) 斜・縦位ヘラミガキ (外) 斜位ヘラミガキ	(内) 10YR7/2,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	砂粒・黒色粒混入	単孔式		38	18
51	川跡5	Bk4-2	11	2	土師器	甑		(2.3)	(5.0)	23.2		(内) 縦位ハケメ,底部ナデ (外) 底部付近横位ハケメ,他ナデ	(内) 10YR6/2,灰黄褐色 (外) 10YR5/2,灰黄褐色	白色粒・石英・金雲母・砂粒多量混入			38	24
52	川跡5	Ck4-1 Ck4-2 Ck5-1 Ck5-2	11 17	2	土師器	壺	13.4	26.2	5.7	1364.2	80%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ,下半ヘラナデ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	砂粒・黒色粒・砂利混入			38	18
53	川跡5	Cm5-1 Cm5-2	13	2	土師器	壺	16.2	28.8	8.9	2324.6	80%	(内) 口縁部横位ナデ・横位ハケメ残る,体部ヘラナデ,底部縦位ナデ (外) 口縁部横位ナデ体部縦位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	大粒の石英粒・白色粒・粗砂粒多量混入			38	18
54	川跡5	Dk1-4	13	2	土師器	甕	12.7	(11.6)		313.0	85%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/2,灰黄色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・白色粒・橙色粒・金雲母・白色針状物質少量混入			38	18
55	川跡5	Dk1-5	13	2	土師器	甕	15.5	21.0	4.2	988.5	70%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR5/3,にぶい黄褐色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	石英・白色粒多量混入		外面煤付着	38	18
56	川跡5	Cm3-2	13	2	土師器	甕	20.0	24.0		1320.0	75%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR5/3,にぶい黄褐色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	石英・白色粒・粗砂粒混入			38	18
57	川跡5	Ck1-2 Dk1-5	11 13	2	土師器	甕		(16.1)	6.8	815.5	40%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ後,横位ヘラナデ (外) 体部縦位ハケメ	(内) 10YR4/2,灰黄褐色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	大粒の石英・白色粒・粗砂粒多量混入		外面体部上半煤付着	38	–

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
58	川跡5	Dj4-3	17	2	土師器	形状不明土器		(6.8)		97.9		(内) 横位ナデ (外) 斜位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR3/2,黒褐色	石英・金雲母・粗砂粒混入		注口状貼付けあり,煤付着,内から外への穿孔あり	39	25
62	川跡5	Dj3-2	18	2	須恵器	蓋	((12.0))	(4.4)		19.3	10%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) 7.5YR5/1,褐灰色 (外) 2.5YR5/1,赤灰色	石英少量・白色粒多量混入			40	巻頭2 25
63	川跡5	Dj2-3	18	2	須恵器	蓋	((14.8))	(4.0)		22.0	10%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) 7.5Y5/1,灰色 (外) N7/,灰白色	粗砂粒・黒色粒を多量混入		外面自然釉	40	巻頭2 25
64	川跡5	Dj4-5	18	2	須恵器	坏	((12.5))	(4.9)		112.4	40%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N4/,灰色	細砂粒を少量混入			40	巻頭2 18
65	川跡5	Dj3-2	18	2	須恵器	坏	(11.9)	((2.7))		30.3	20%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) 5Y8/1,灰白色				40	25
66	川跡5	Dk3-1	11	2	土師器	円筒形手捏土器	((3.5))	3.9	3.4	34.3	65%	(内) ナデ (外) ナデ一部ハケメ	(内) 10YR6/4,にぶい黄橙色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・雲母・粗砂粒多量混入			40	18
67	川跡5	Dj3-2 Dj4-3	18	2	土師器	坏	9.6	5.1	4.2	123.2	80%	(内) 横位ハケメ後,横位ナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部ハケメ,下半ナデ,底部ヘラケズリ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・粗砂粒多量混入			40	19
68	川跡5	Di4-4	18	2	土師器	坏	12.2	5.5		97.7	60%	(内) 斜位ナデ (外) 口縁部横位ナデ後,横位ナデ	(内) 7.5YR6/6,橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・白色粒・橙色粒・粗砂粒混入			40	19
69	川跡5	Dk4-1	11	2	土師器	坏	14.0	6.9		169.1	50%	(内) 斜位ヘラミガキ (外) 体部下半ナデ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・白色粒・粗砂粒混入	内面黒色処理		41	19
70	川跡5	Dj3-5	18	2	土師器	坏	13.8	6.0		280	98%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 7.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・粗砂粒少量混入	内面黒色処理	完形出土	41	19
71	川跡5	Dj3-2 Dj3-4	18	2	土師器	坏	((14.7))	5.7		145.3	45%	(内) 口縁部横位,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ	(内) 7.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y6/2,灰黄色	石英・雲母・粗砂粒小量混入	内面黒色処理		41	19
72	川跡5	Dj3-2	18	2	土師器	坏	(14.5)	6.0		167.2	80%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,縦位ヘラナデ	(内) 2.5Y3/1,黒褐色 (外) 2.5Y6/4,にぶい黄色	雲母・白色針状物質・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		41	19
73	川跡5	Dj4-4	18	2	土師器	坏	15.6	5.6		184.3	80%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 10Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理	略完形出土	41	19
74	川跡5	Dj3-2	18	2	土師器	坏	14.8	6.1		186.3	70%	(内) 口縁部,横位後縦位ヘラミガキ,体部,斜位ミガキ (外) 口縁部横位ナデ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	石英・粗砂粒多量混入	内面黒色処理	略完形出土	41	19
75	川跡5	Dj3-2	18	2	土師器	坏	16.8	5.5		166.1	70%	(内) 横位,斜位ヘラミガキ (外) ヘラナデ,横位ミガキ	(内) 10YR3/1,黒褐色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・橙色粒・雲母・粗砂粒多量混入	内面黒色処理	略完形出土	41	19
76	川跡5	Dj2-4 Dj2-5 Dj3-4	11	2	土師器	坏		(4.8)		89.7	40%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部上半ヘラナデ	(内) 10Y2/1,黒色 (外) 2.5Y5/3,黄褐色	長石・白色粒・粗砂粒多量混入	内面黒色処理	底部外面焼成前ヘラ書き「〆」	41	–
77	川跡5	Dj2-4	18	2	土師器	高坏		(4.0)	10.5	83.5		(内) 斜位ハケメ,輪積痕残す (外) 横位ナデ,ハケメ後縦位ヘラミガキ	(内) 5YR5/6,明赤褐色 (外) 5YR5/6,明赤褐色	白色粒・橙色粒・粗砂粒多量混入		胎土に鉄分の多い粘土を用いている	41	19
78	川跡5	Dj3-3	11	2	土師器	高坏		(5.3)		52.5		(内) 坏部ヘラミガキ,脚部ナデ (外) 縦位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入	坏部内面黒色処理		41	19
79	川跡5	Cj5-5	18	2	土師器	鉢	10.0	7.4		98.3	30%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y5/2,暗灰黄色 (外) 10YR4/1,褐灰色	石英・白色粒・金雲母・粗砂粒混入			41	–
80	川跡5	Dj3-2 Dj3-3 Dj3-4	18	2	土師器	小形壺	10.6	(15.7)		184.1	40%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,頸部～体部横位ヘラナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁～頸部縦位・体部横位ヘラミガキ	(内) 7.5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	大粒石英粒・雲母・粗砂粒混入	内面黒色処理	頸部と体部は接合しないが同一個体と考えられる	41	19
81	川跡5	Dj3-5	11	2	土師器	小形壺		(7.0)		216	体部90%	(内) ナデ (外) 頸部縦位・体部横位ヘラミガキ,下半ハケメ	(内) 2.5Y5/1,黄灰色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	白色粒・石英・橙色粒・雲母・細砂粒少量混入			41	19
82	川跡5	Dj3-2 Dj3-3	18	2	土師器	壺	14.6	25.4	6.4	1638.1	ほぼ完形	(内) 口縁部横位ナデ,頸部ハケメ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ヘラナデ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・白色粒・細砂粒少量混入			41	19
83	川跡5	Dj4-3	18	2	土師器	壺	17.8	32.4	7.8	2290.7	90%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ,底部にハケメ残る (外) 口縁部横位ナデ,体部ヘラナデ	(内) 2.5YR5/1,赤灰色 (外) 7.5YR7/4,にぶい橙色	大粒石英・白色粒・橙色粒多量混入			41	19
84	川跡5	Dj3-5	18	2	土師器	甕	16.9	16.1	5.1	856.5	90%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ,底部ハケメ	(内) 10YR5/4,にぶい黄褐色 (外) 10YR5/4,にぶい黄褐色	石英・雲母・粗砂粒多量混入		頸部～体部中位に炭化物付着	42	19
85	川跡5	Dk4-1 Dj3-5	11	2	土師器	甕	11.8	12.4	5.9	225.5	40%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位・縦位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部頸部横位・体部縦位・底部ハケメ	(内) 10YR5/2,灰黄褐色 (外) 2.5Y5/2,暗灰黄色	大粒石英粒・白色粒・砂粒多量混入		外面体部上半煤付着	42	19

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別	器形	計測値(cm)			重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
					時代		口径	器高	底径									
86	川跡5	Dj4-5	11	2	土師器	甕		(14.1)		318.0	50%	(内) 口縁部横位ナデ,体部縦位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部ハケメ(磨滅している)	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	大粒に石英粒・白色粒・粗砂粒多量混入		体部内面中位帯状に炭化物,外面頸部煤付着	42	–
87	川跡5	Dj3-3	18	2	土師器	甕	15.1	(19.1)		675.4	80%	(内) 口縁部横位ナデ,頸部横位ヘラケズリ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR5/2,灰黄褐色 (外) 10YR5/2,灰黄褐色	大粒石英・白色粒・砂粒多量混入		内面煤付着	42	19
88	川跡5	Dj4-5	11 18	2	土師器	甕	16.1	22.8	5.4	1342.1	80%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ,底部外周ヘラケズリ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・粗砂粒混入			42	20
89	川跡5	Dj3-5	18	2	土師器	甕	16.2	(8.4)		461.0	90%	(内) 口縁部横位ハケメ・体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) N1.5/,黒色	小石・白色粒混入	口縁のみ	外面煤付着	42	20
90	川跡5	Dj2-5 Dj4-4 Dj4-5	11 18	2	土師器	甕		(15.1)		568.0	20%	(内) 口縁部横位ナデ,頸部横位ハケメ,体部斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・長石・雲母・小石混入		体部下半煤付着	42	–
91	川跡5	Dj2-5	18	2	土師器	甕	17.8	(22.7)		1193.0	70%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR4/2,灰黄褐色 (外) 7.5YR4/2,灰褐色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入			42	20
92	川跡5	Dj3-5	18	2	土師器	甕	19.6	(24.1)		1447.2	90%	(内) 口縁部横位ナデ,横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR5/3,にぶい黄褐色 (外) 2.5Y4/1,黄灰色	石英・白色粒・粗砂粒混入		外面口縁～胴下半まで煤付着	42	20
93	川跡5	Dk1-5 Dk4-1 Dj4-4	11 13	2	土師器	甕	((16.7))	(23.6)		1280.0	40%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位・底部縦位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR7/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	石英・白色粒・雲母・粗砂粒混入		外面煤付着	42	20
95	川跡5	Dm3-2	19	3	土師器	塊形手捏土器	7.65	6.1	4.0	118.8	完形	(内) ヘラナデ (外) 口縁部横位ヘラナデ	(内) 2.5Y4/1,黄灰色 (外) 2.5Y6/2,灰黄色	白色粒・透明粒・砂粒・金雲母混入			43	20
96	川跡5	Dl4-4	19	3	土師器	坏形手捏土器	5.25	3.1		33.9	90%	(内) ヘラナデ (外) ヘラナデ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	雲母・白色粒多量混入			43	20
97	川跡5	Ck3-5	19	3	土師器	坏	13.9	5.7		202.0	ほぼ完存	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 7.5YR7/4,にぶい橙色	白色粒・透明粒・赤色粒・金雲母混入	内面黒色処理		43	20
98	川跡5	Dl4-5	19	3	土師器	坏	14.5	5.8		213.5	80%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部ヘラケズリ後,横位ヘラミガキ	(内) 7.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	白色粒・石英・雲母・粗砂粒混入	内面黒色処理		43	20
99	川跡5	Cm3-3 Cm3-4 Cm4-3	19	3	土師器	坏	((15.0))	6.3		100.4	30%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,横位ヘラミガキ	(内) 7.5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・細砂粒混入	内面黒色処理		44	–
100	川跡5	Dl3-5 En3-3	19	3	土師器	坏	((15.4))	(4.4)		25.4	20%	(内) 横位・縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後,横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・金雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		44	–
101	川跡5	En2-2 En2-3	13 19	2 3	土師器	坏	15.4	5.0		125.4	30%	(内) ナデ後ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部不明	(内) 5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・砂粒極少量混入	内面黒色処理	外面焼成ヘラ書き「卄」	44	20
102	川跡5	Cm3-3 Cm4-3	19	3	土師器	坏	16.4	6.5		272.0	40%	(内) 横位ナデ後,横位・縦位ヘラミガキ (外) 横位ナデ後,横位ヘラミガキ・ヘラナデ	(内) N1.5/,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	小石・白色粒・透明粒・赤色粒・砂粒混入	内面黒色処理	内面焼成ヘラ書き「卄」	44	20
103	川跡5	Dm5-2	19	3	土師器	坏	15.2	5.3		248.5	ほぼ完存	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位クシ状工具によるナデ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	白色粒・石英粒・赤色粒・金雲母混入	内面黒色処理	完形出土	44	20
104	川跡5	Dl3-5 Dl4-5	17 19	2 3	土師器	坏	14.2	5.9		171.8	40%	(内) 口縁部横位,体部縦ヘラミガキ (外) 口縁部斜位・体部横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y5/3,黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒・金雲母混入	内面黒色処理		44	–
105	川跡5	En2-1	11 19	2 3	土師器	坏		(6.3)		144.1	60%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部上半横位ヘラミガキ,下半ヘラナデ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	長石・雲母・粗砂粒多量混入	内面黒色処理	外面底部焼成前ヘラ書き「–」	44	–
106	川跡5	Cm5-4	19	3	土師器	高坏	((19.6))	(4.15)		222.0		(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後,縦位ヘラミガキ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	長石・粗砂粒多量混入	内面黒色処理		44	20
107	川跡5	Dm3-5	19	3	土師器	鉢	((11.0))	(8.5)		94.5	25%	(内) 口縁部横位ナデ, 体部ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ, 体部ヘラナデ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y5/1,黄灰色	石英・白色粒・雲母・白色針状物質混入			44	25
108	川跡5	Ck4-5	19	3	土師器	鉢	12.0	9.9	4.0	328.0	90%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部ヘラミガキ	(内) 10YR5/3,にぶい黄褐色 (外) 7.5YR4/1,褐灰色	石英・白色粒少量混入		外面煤付着	44	20
109	川跡5	Dm5-4	19	3	土師器	壺		(9.1)		204.0	体部完存	(内) 体部上位横位・下半斜位ヘラナデ (外) 頸部縦位・体部斜位ヘラミガキ	(内) 10Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	雲母・石英・白色針状物質・粗砂粒極少量混入			44	20

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
110	川跡5	Dm5-2 Dm5-3 Em1-2	11 13 19	2 3	土師器	壺		(14.0)	5.5	387.7	40%	(内) 体部横位ハケメ後，横位ヘラナデ (外) 体部縦位ヘラミガキ，底部ナデ	(内) 2.5YR6/1，赤灰色 (外) 10YR8/2，灰白色	大粒石英粒・白色粒・赤色粒・砂粒・金雲母混入	口縁部欠		44	–
111	川跡5	Dm3-4	19	3	土師器	甑	17.1	9.2	3.0	374.1	60%	(内) 口縁部横位ナデ，体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部横位・斜位ハケメ，底部ナデ	(内) 10YR6/3，にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3，にぶい黄橙色	石英・雲母・粗砂粒少量混入	単孔式		44	20
112	川跡5	Cm5-4	23	3	土師器	甕	17.4	13.4	3.5	902.0	90%	(内) ヘラナデ (外) 口縁部ナデ，体部ハケメ，底部外周ヘラケズリ，底部ナデ	(内) 10YR6/3，にぶい黄橙色 (外) 10YR6/2，灰黄褐色	石英・雲母・白色粒・粗砂粒多量混入		外面に煤付着	44	21
113	川跡5	Ck4-5	19	3	土師器	甕	14.3	15.8	5.4	798.5	ほぼ完存	(内) 口縁部横位ナデ，体部上半横位・下半斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/4，にぶい黄色 (外) 2.5Y7/4，浅黄色	石英・長石・雲母・粗砂粒少量混入			44	21
114	川跡5	Cm5-4	19	3	土師器	甕	((14.5))	(13.5)		194.0	20%	(内) 口縁部横位ナデ，体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部斜位ハケメ	(内) 10YR7/3，にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3，にぶい黄橙色	石英・長石・雲母・粗砂粒混入		外面煤付着	44	–
115	川跡5	Dn5-2	19	3	土師器	甕	(17.9)	(13.4)		680.5	30%	(内) 口縁部横位ナデ，体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部斜位ハケメ	(内) 10YR6/3，にぶい黄橙色 (外) 10YR5/2，灰黄褐色	石英・白色粒・粗砂粒混入		指頭痕あり	44	–
116	川跡5	Ck4-5	19	3	土師器	甕	((19.2))	(19.1)		622.0	30%	(内) 口縁部横位ナデ，体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部縦位ハケメ	(内) 10YR3/3，暗褐色 (外) 10YR3/3，暗褐色	大粒の石英・白色粒・粗砂粒多量混入		外面体部上半・頸部煤付着	45	21
117	川跡5	Cl1-2 Cl3-4 Cl3-5 Cl4-5 Cm3-1 Cm3-2 Cm4-1 Em2-4	11 12 13 19	2 3	土師器	甕	17.5	(17.5)		1099.9	60%	(内) 口縁部横位ナデ後，斜位ハケメ，横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部斜位ハケメ	(内) 10YR6/2，灰黄褐色 (外) 10YR6/3，にぶい黄橙色	石英・雲母・白色針状物質・細砂粒少量混入			45	21
118	川跡5	En2-1 En2-2 En2-3	13 17	2 3	土師器	甕	20.4	(29.1)		1165.7	60%	(内) 口縁部横位ナデ，体部ヘラナデ，底部に一部ハケメ残る，粘土紐接合部に指頭痕あり (外) 口縁部横位ナデ，体部上半横位・中位以下縦位ハケメ	(内) 2.5YR3/2，暗赤褐色 (外) 10YR6/3，にぶい黄橙色	石英・白色粒・粗砂粒混入		体部上半内外面煤付着	45	–
119	川跡5	Bk5-2	20	3	土師器	形状不明土器		(9.5)		76.1		(内) 横位ナデ (外) ハケメ後ナデ	(内) 10YR7/3，にぶい黄橙色 (外) 7.5YR2/1，黒色	石英・雲母・粗砂粒混入		外面全面煤付着	45	25
121	川跡5	Em1-3	13 27	2 4	須恵器	蓋	((12.2))	4.7		71.0	30%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) N6/，灰色 (外) N6/，灰色	粗砂粒（長石）を多量混入			46	巻頭2 21
122	川跡5	En3-3	27	4	須恵器	蓋	((13))	(1.8)		2.3	10%		(内) 5Y6/1，灰色 (外) N5/，灰色	細砂粒を少量混入		外面に自然釉	46	巻頭2 25
123	川跡5	En1-2	27	4	須恵器	坏	10.8	4.7		117.8	60%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N5/，灰色 (外) 7.5Y4/1，灰色	細砂粒を多量混入	MT15か	蓋重ね焼きの痕跡あり	46	21
124	川跡5	Dn4-1	27	4	須恵器	坏	((9.4))	(3.7)		38.4	20%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N5/，灰色 (外) N5/，灰色	細砂粒を少量・粗砂粒を多量混入			46	巻頭2 21
125	川跡5	Bk5-1	27	4	土師器	坏	((11.8))	5.5		39.1	20%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ，体部縦位ハケメ	(内) 7.5YR5/6，明褐色 (外) 10YR6/4，にぶい黄橙色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入		外面煤付着	46	–
126	川跡5	Em4-3	27	4	土師器	坏	((12.3))	(5.2)		45.1	25%	(内) 口縁部横位ナデ，体部ナデ (外) 口縁部横位ナデ，体部ヘラナデ	(内) 7.5Y6/3，オリーブ黄色 (外) 10YR6/3，にぶい黄橙色	石英・長石・橙色粒・細砂粒混入			46	21
127	川跡5	Dn5-3	27	4	土師器	坏	16.8	5.6		176.3	40%	(内) 口縁部横位ナデ，体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ，体部上半横位ヘラミガキ，下半ナデ	(内) 5YR6/6，橙色 (外) 7.5YR6/4，にぶい橙色	石英・長石・赤色粒・白色針状物質混入			46	21
128	川跡5	Dn4-2 Dn5-2	27	4	土師器	坏	15.8	5.9		143.2	50%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 10YR7/3，にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3，にぶい黄橙色	石英・細砂粒小量混入			46	21
129	川跡5	Dn4-1 Dn5-2	27	4	土師器	坏	16.3	6.6		218.0	80%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ，体部横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y6/3，にぶい黄色 (外) 2.5Y6/3，にぶい黄色	金雲母・粗砂粒・橙色粒極少量混入			46	21
130	川跡5	Ck1-2	27	4	土師器	坏	((16.6))	(5.4)		31.9	10%	(内) 口縁部横位ナデ後，横位ヘラミガキ，体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後，横位ヘラナデ後，縦位ヘラミガキ	(内) 2.5Y5/3，黄褐色 (外) 10YR5/4，にぶい黄褐色	石英・雲母・粗砂粒を極少量混入			46	–
131	川跡5	Dl2-3 Dl2-4	27	4	土師器	坏	13.8	5.6		191.3	85%	(内) 放射状ヘラミガキ，斜・横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ，体部横位ヘラミガキ	(内) 10YR6/3，にぶい黄橙色 (外) 7.5YR6/6，橙色	石英・長石・雲母・粗砂粒多量混入	内面の全面，外面口縁部赤彩		46	21
132	川跡5	Em2-5	13 27	2 4	土師器	坏	((10.4))	(5.9)		78.4	40%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1，黒色 (外) 2.5Y6/3，にぶい黄色	微砂粒を極少量混入	内面黒色処理	外面に籾圧痕あり	46	21
133	川跡5	Bk5-2 Cl5-5 Dl2-1 Dm1-1 Dn5-3	13 22 27	2 3 4	土師器	坏	11.3	5.5		82.2	40%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 10Y2/1，黒色 (外) 2.5Y6/3，にぶい黄色	石英・雲母・細砂粒少量混入	内面黒色処理	内面に焼成前ヘラ書き「卄」	46	21

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別	器形	計測値(cm)			重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
					時代		口径	器高	底径									
134	川跡5	Dn5-2 En1-2 En3-2	13 27	2 4	土師器	坏	((14.0))	(4.0)		20.2	10%	(内) 縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・細砂粒小量混入	内面黒色処理		47	–
135	川跡5	En3-3	27	4	土師器	坏	((13.6))	(3.1)		15.6	15%	(内) 斜位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・雲母・白色針状物質混入	内面黒色処理		47	–
136	川跡5	En2-2 En3-2	13 27	2 4	土師器	坏	((13.3))	(4.6)		37.9	25%	(内) 口縁部横・体部斜位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 7.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	石英・雲母・細砂粒・白色針状物質少量混入	内面黒色処理		47	21
137	川跡5	Em1-4 Em2-4	11 13 27	2 4	土師器	坏	14.0	4.4		214.0	70%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・石英粒・橙色粒・砂粒・雲母・白色針状物質少量混入	内面黒色処理		47	21
138	川跡5	Dn4-1 Dn5-2	19 24	3 4	土師器	坏	15.2	5.8		132.0	50%	(内) 口縁部横位・体部縦位ナデ (外) 横位クシ状工具による横位ナデ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・橙色粒・砂粒・金雲母混入	内面黒色処理	一部被熱している	47	21
139	川跡5	En2-2	27	4	土師器	坏	((14.9))	(5.1)		62.7	25%	(内) 口縁部横位・体部横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・粗砂粒極少量混入	内面黒色処理,高坏か		47	–
140	川跡5	Dn5-1	27	4	土師器	坏	15.4	6.5		212.0	60%	(内) 口縁部横位ナデ,口縁部横体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部ハケメ後,ヘラミガキ,体部～底部ヘラケズリ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/2,灰黄褐色	雲母・細砂粒少量混入	内面黒色処理	被熱している	47	21
141	川跡5	Dm4-2	27	4	土師器	坏	16.7	5.6		262.5	70%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ヘラミガキ,下半不明	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・粗砂粒多量混入	内面黒色処理	半完形出土	47	21
142	川跡5	En2-1 En2-2	13 27	2 4	土師器	坏	16.4	5.3		295.5	80%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・赤色粒・砂粒を極少量混入	内面黒色処理	外面焼成前ヘラ書き「×」,外面底部に5㎜程のワラ圧痕が複数あり	47	21
143	川跡5	Dn3-1	27	4	土師器	坏	15.3	5.0		202.0	一部欠損	(外) 横位ヘラケズリ後,上半横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・金雲母混入	内面黒色処理		47	21
144	川跡5	En2-2 En2-3	13 27	2 4	土師器	坏	13.8	6.9		122.6	50%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 磨耗の為不明	(内) 2.5Y3/1,黒褐色 (外) 7.5YR7/3,にぶい橙色	石英・橙色粒・細砂粒少量混入	内面黒色処理		47	21
145	川跡5	Em1-3	27	4	土師器	坏	((14.5))	6.1		183.0	70%	(内) 横位ナデ後,横・斜位・放射状のヘラミガキ (外) 横位ヘラケズリ後,横位ヘラミガキ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	細砂粒・白色針状物質極少量混入	内面黒色処理		47	21
146	川跡5	Dn4-1	27	4	土師器	坏	((14.8))	6.1		99.3	40%	(内) 口縁縦位ヘラミガキ,体部横位ヘラミガキ (外) 体部不明,底部ナデ	(内) 7.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	粗砂粒・小石・長石・橙色粒少量混入	内面黒色処理		47	–
147	川跡5	En3-2 En3-3	13 27	2 4	土師器	坏	16.3	5.9		182.3	80%	(内) 口縁・体部上半・横位・底部口縁部横・縦位ヘラミガキ (外) 全体磨耗の為整形不明	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 7.5YR5/4,にぶい褐色	白色粒・赤色粒・橙色粒・砂粒混入	内面黒色処理		47	22
148	川跡5	Bj3-5 Bj4-5 Bk3-1	19 27	3 4	土師器	坏	15.8	(5.8)		69.4	25%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N1.5/,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・長石・粗砂粒混入	内面黒色処理		47	–
149	川跡5	Dm3-5	27	4	土師器	坏	14.8	6.0		147.5	60%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ナデ,底部クシ状工具による縦位ナデ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒混入	内面黒色処理		47	22
150	川跡5	En2-2 En2-3 En3-3	13 27	2 4	土師器	坏	16.4	6.0		106.6	50%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁不明,体部横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y5/3,黄褐色	石英・長石・細砂粒混入	内面黒色処理		47	22
151	川跡5	Dn5-3	27	4	土師器	高坏		(4.5)		10.7		(内) 縦位ナデ後,縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	白色粒・石英・砂粒・金雲母・黒雲母・赤色粒混入			47	25
152	川跡5	Dn4-1	27	4	土師器	高坏		(3.4)			10%	(内) 横位後・斜位ヘラミガキ (外) 体部横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	粗砂粒を少量含む	内面黒色処理		47	–
153	川跡5	Dn4-2	27	4	土師器	高坏		(7.0)	15.8	408.9	脚部ほぼ完存	(内) 脚部横位ハケメ,坏部斜位ヘラミガキ, (外) 縦位ヘラナデ,脚部横位ヘラミガキ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・粗砂粒・橙色粒極少量混入	内面黒色処理	坏部との接合部を漆にて補修接着	47	22
154	川跡5	Cl2-2	27	4	土師器	高坏		(4.1)	7.9	101.2	脚部ほぼ完存	(内) 横位ナデ後,脚部横位ヘラミガキ,斜位ハケメ (外) 横位ナデ後,縦位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 2.5Y6/4,にぶい黄色	石英・細砂粒混入	内面黒色処理		47	22
155	川跡5	Dm4-3	27	4	土師器	小形壺	9.4	(7.4)		98.7	頸部60%	(内) 横位ハケメ (外) 縦位ハケメ後,縦位ヘラミガキ	(内) 7.5YR7/4,にぶい橙色 (外) 7.5YR7/4,にぶい橙色	白色粒多量・金雲母・橙色粒・粗砂粒混入			48	22
156	川跡5	DN4-2	27	4	土師器	小形壺	((8.8))	(8.3)		69.0	30%	(内) ハケメ後,上半ヘラナデ (外) 縦位ヘラミガキ,頸部横位ヘラナデ	(内) 5Y4/1,灰色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・白色針状物質・粗砂粒混入			48	–
157	川跡5	Dm3-4 Dn3-1	19 27	3 4	土師器	小形壺	(10.7)	(11.3)		267.8	90%	(内) 横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,縦位ハケメ後,口縁部横位・下半縦位・頸部横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y4/1,黄灰色 (外) 2.5Y6/2,灰黄色	白色粒・石英・細砂粒少量混入			48	22
158	川跡5	Dn4-1	27	4	土師器	小形壺	8.6	18.1		524.6	口縁部一部欠	(内) 口縁部ヘラナデ,頸部ハケメ (外) 口縁部横・頸部縦,体部横位ヘラミガキ	(内) 10YR6/2,灰黄褐色 (外) 10YR6/2,灰黄褐色	白色粒・橙色粒・雲母・白色針状物質少量混入	頸部に破砕痕	頸部に破砕痕	48	22

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
159	川跡5	Ck1-2	27	4	土師器	壺	((13.6))	(7.9)		63.1	20%	(内) 口縁～頸部横位ヘラミガキ,体部ヘラナデ (外) 口縁部横位・斜位,頸部横位,体部縦位ヘラミガキ	(内) 5YR5/6,明赤褐色 (外) 5YR4/4,にぶい赤褐色	白色粒・白色針状物質極少量混入		外面は煤付着	48	22
160	川跡5	Dn4-1	19 27	4	土師器	壺		(13.4)	5.0	188.6	40%	(内) 斜位ヘラミガキ, 底部ハケメ (外) 斜位ヘラミガキ,底部ヘラナデ	(内) 2.5Y5/2,暗灰黄色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・細砂粒少量混入			48	–
161	川跡5	Dm3-5 Dm4-5 DN5-1 DN5-2	27	4	土師器	壺	19.2	28.6	6.5	2525.5	80%	(内) 口縁部横位ナデ, 体部ヘラナデ, 底部縦位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ヘラミガキ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	大粒の石英粒・白色粒・粗砂粒混入		外面体部中位に煤付着	48	22
162	川跡5	Dm4-5	27	4	土師器	甕	((21.0))	19.3	((8.7))	357.5	20%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ, 底部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部斜位ヘラミガキ,下半縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/3,にぶい黄色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	白色粒・赤色粒・砂粒混入	無底式		48	–
163	川跡5	Dl4-5	27	4	土師器	甕	((11.8))	(7.6)		81.3	口縁部20%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位・横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,口縁・体部縦位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10yr5/2,灰黄褐色	石英・長石・雲母・粗砂粒混入			48	–
164	川跡5	Dn3-1 Dn3-2 Dn4-1	11 19 27	2 3 4	土師器	甕	14.1	(8.9)		210.0		(内) 口縁部横位ハケメ,横位ナデ,体部ヘラケズリ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/1,黄灰色 (外) 2.5Y5/1,黄灰色	小石・白色粒・透明粒・金雲母混入			48	22
165	川跡5	Dn3-1 Dn4-1 Dn4-2	27	4	土師器	甕		(5.4)	4.7	193.5		(内) 斜位ヘラケズリ (外) 体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/1,黄灰色 (外) 2.5Y5/1,黄灰色	小石・白色粒・透明粒・金雲母混入			48	22
166	川跡5	Dn4-2 Dn5-2	19 27	3 4	土師器	甕	14.2	18.4	4.6	690.5	80%	(内) 口縁部横位ナデ,体部ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR4/2,灰黄褐色 (外) N3/,暗灰色	白色粒・透明粒・金雲母混入		外面煤付着	48	22
167	川跡5	Cn4-1 Dm3-5 Dm4-5 En2-2	13 19 27	2 3 4	土師器	甕	((16.0))	21.9	8.0	540	30%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ,底部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR6/2,灰黄褐色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・白色粒・細砂粒混入			48	–
168	川跡5	Dm5-5	27	4	土師器	甕	17.6	22.0	3.6	1076.7	80%	(内) 口縁部横位ナデ,体部上半斜位ヘラナデ,体部下半縦位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部斜位ハケメ,底部外周ヘラケズリ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	大粒石英・長石・砂粒多量混入		内面と外面口縁～体部中位煤付着	48	22
169	川跡5	Dn4-2 Dn5-2	27	4	土師器	甕	18.0	(21.2)		1482.0	85%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 7.5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 10YR4/2,灰黄褐色	石英・白色粒・橙色粒・粗砂粒少量混入			49	22
170	川跡5	Dm4-5	27	4	土師器	甕		(16.4)	6.2	731.0	50%	(内) ヘラナデ,底部斜位ハケメ (外) 縦位ハケメ後一部斜位ハケメ	(内) 10YR5/2,灰黄褐色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・金雲母混入			49	–
171	川跡5	Dm5-3	27	4	土師器	甕	17.9	(23.8)		1082.5	80%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部斜位ハケメ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・白色粒・粗砂粒少量混入			49	22
172	川跡5	Dm4-5	27	4	土師器	甕	(19.6)	((30.5))	8.6	2579.2	80%	(内) 口縁部横位ナデ,体部上半横位ハケメ, 下半ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ部分的にヘラナデ,底部ハケメ	(内) 2.5Y7/2,灰黄色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・粗砂粒少量混入			49	23
173	川跡5	Ck2-3	27	4	土師器	甕	((20.0))	(12.9)		310.9	20%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部斜位ハケメ	(内) 7.5YR7/6,橙色 (外) 7.5YR2/1,黒色	石英・長石・粗砂粒多量混入		体部外面煤付着	49	–
174	川跡5	Bj5-1 Cj1-4 Ck1-1	27 30	4 5	土師器	坏	14.0	5.5		192	70%	(内) 横位,斜位ヘラミガキ (外) ナデ後,横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 7.5YR4/3,褐色	白色粒・赤色粒を極少量混入,精選されている	内面黒色処理		50	–
265	川跡5	Df3-2 Df3-3	7a	1	須恵器 ○	坏	15.3	5.5	9.2	276.1	95%	(外) 底部ヘラ切り,体部底部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N6/,灰色	石英・粗砂粒混入 胎土A			65	23
266	川跡5	Dg4-2 Dh5-1	7b	1	須恵器	蓋	4.0	(3.9)		22.1		(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N5/,灰色	白色粒混入(緻密)		外面上半に自然釉付着	65	巻頭2 31
267	川跡5	Dh5-1	7c	1	須恵器	蓋	((13.4))	(3.2)		6.2			(内) N5/,灰色 (外) N6/,灰色	白色粒少量混入		外面上半に自然釉付着	65	巻頭2 31
268	川跡5	Df1-3	7a	1	須恵器	坏		(3.5)		21.0		(外) 体部底部回転ヘラケズリ	(内) 2.5GY6/1,オリーブ灰色 (外) N6/,灰色	石英・白色粒混入			65	巻頭2 31
269	川跡5	Df4-5	7c	1	須恵器	甕	((11.9))	(3.7)		9.3		(外) 口縁部,頸部に波状文	(内) 5Y5/1,灰色 (外) 5Y5/1,灰色	長石・粗砂粒混入		内面自然釉付着	65	31
270	川跡5	Dh4-1	7c	1	土師器	手捏土器		(2.8)	((3.0))	10.3		(内) ナデ (外) ナデ	(内) 2.5Y6/2,灰黄色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	白色粒・金雲母・粗砂粒混入			65	23
271	川跡5	Dg4-1	7c	1	土師器 △	坏	((12.0))	(2.5)		18.1		(内) 口縁部横位ナデ (外) 口縁部横位ナデ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・長石・粗砂粒少量混入	高坏か		65	–
272	川跡5	Dg4-1	7c	1	土師器	坏	((15.9))	4.7		69.7	30%	(内) 斜位ヘラミガキ (外) 磨滅の為不明	(内) N2/,黒色 (外) 7.5YR7/6,橙色	石英・橙色粒・粗砂粒混入	内面黒色処理		65	23

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
273	川跡5	Dg4-2	7b	1	土師器	坏	15.0	6.8		194.8	50%	(内) 口縁部横位,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後,横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・金雲母・細砂粒少量混入	内面黒色処理	焼成前ヘラ書き「×」	65	23
274	川跡5	Dg4-2	7b	1	土師器	坏	(13.2)	6.1		102.2	60%	(内) 口縁部横位,体部放射状ヘラミガキ (外) 斜位ナデ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y3/1,黒褐色	石英・金雲母・細砂粒少量混入	内面黒色処理	焼成前ヘラ書き「×」	65	–
275	川跡5	Df2-3	9b	1	土師器	坏	((15.2))	(5.0)		29.4	30%	(内) 不明 (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・透明粒・雲母・白色針状物質・細砂粒多量混入	内面黒色処理		65	–
276	川跡5	Df2-3 Df2-4	9	1	土師器	坏	17.2	5.6		122.2	40%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ヘラミガキ,体部ヘラケズリ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	石英・長石・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		65	23
277	川跡5	Df2-2	7a 7c	1	土師器	坏		(5.3)		72.7	50%	(内) 横位ヘラミガキ後,斜位・縦位ヘラミガキ (外) 不明	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	石英・長石・橙色粒・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		65	–
278	川跡5	Dg4-2	7b 7c	1	土師器	坏		(5.5)		87.4	50%	(内) 縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N1.5/,黒色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	白色粒・石英・雲母・細砂粒少量混入	内面黒色処理	焼成前ヘラ書き「–」	65	–
279	川跡5	Df3-2	7a	1	土師器	坏		(5.9)		73.5	30%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部縦位ヘラミガキ (外) 底部ヘラケズリ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・金雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		65	–
280	川跡5	Df4-5	7c	1	土師器	高坏		(5.5)		40.6		(外) 上半横位・下半縦位ミガキ	(内) 10YR8/2,灰白色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	赤色粒・砂粒・金雲母・微砂粒少量混入			65	–
281	川跡5	Df5-3	7c	1	土師器	高坏		5.4	10.6	60.7	脚部40%	(内) 横・斜位ハケメ (外) 縦位ヘラミガキ	(内) 2.5Y4/1,黄灰色 (外) 7.5YR8/3,浅黄橙色	長石・白色粒・金雲母・粗砂粒・白色針状物質混入	脚部内面粘土紐接合痕残す,	坏部剥離痕	65	23
282	川跡5	Df2-4	9	1	土師器	高坏		(4.1)	((13.3))	25.3		(内) ハケメ,横位ナデ (外) 横・斜位ヘラミガキ	(内) 2.5Y5/1,黄灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	砂粒・金雲母・石英・粗砂粒少量混入			65	–
283	川跡5	Df3-2 Dg4-1	7c	1	土師器	高坏		(3.7)	((10.1))	51.5	脚部55%	(内) 横位ヘラナデ (外) 不明	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	金雲母・橙色粒・白色針状物質混入			65	23
284	川跡5	Df4-5 Dg4-1	7b 7c	1	土師器	壺	11.2	(6.9)		122.8	口縁・頸部ほぼ完存	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部横位ナデ (外) 口縁部横位ナデ後縦位・体部斜位ヘラミガキ	(内) 2.5Y6/3,にぶい黄色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・長石・雲母・粗砂粒・白色針状物質混入			65	23
285	川跡5	Df3-2	7a	1	土師器 ○	甕	((17.8))	(3.0)		31.0	口縁部3/16	(内) 口縁部横位ナデ (外) 口縁部横位ナデ 体部上半ヘラケズリ	(内) 10YR5/4,にぶい黄褐色 (外) 7.5YR5/2,灰褐色	石英・雲母・粗砂粒混入	ロクロ使用		65	–
286	川跡5	Df3-2	7a	1	土師器	甕	((16.1))	(8.5)		129.6	口縁部50%	(内) 口縁部横位ナデ,体部ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 5YR6/6,橙色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	石英・雲母・白色粒・粗砂粒多量混入			66	–
287	川跡5	Df3-1	7a	1	土師器	甕		(11.5)		132.1	30%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y4/1,黄灰色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入			66	–
288	川跡5	Df3-5	7 8	1	土師器	甕		(8.0)	6.4	200.5	20%	(内) 縦位ナデ (外) 縦位・斜位ハケメ,底部ヘラケズリ	(内) 10YR3/1,黒褐色 (外) 10YR4/3,にぶい黄褐色	小石・白色粒・透明粒・金雲母混入			66	–
289	川跡5	Dg4-5 Dg5-4	7c	1	土師器	甕	((22.6))	(12.0)		440.5		(内) 口縁部横位ナデ,頸部横位ハケメ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,口縁〜体部斜位ハケメ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・長石・粗砂粒多量混入			66	–
290	川跡5	Dg4-4	7c	1	土師器	甕	((16.1))	(7.5)		89.6	口縁部30%	(内) 口縁部横位ナデ (外) 口縁部横位ナデ	(内) 10YR5/1,褐色 (外) 5YR6/6,橙色	白色粒・雲母・橙色粒・粗砂粒多量混入			66	–
291	川跡5	Df1-3 Df1-4	9 10	1	土師器	甕		(13.3)	6.6	529.5	体部60%	(内) 斜位ヘラケズリ,内面底部放射状ハケメ (外) 斜位ハケメ,外底面ヘラケズリ	(内) 2.5Y6/3,にぶい黄色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	大粒白色粒・石英・粗砂粒混入			66	–
292	川跡5	Df1-4 Df3-3	8	1	土師器	甕		(12.6)	5.9	472.5	体部50%	(内) ハケメ後,縦位ヘラミガキ,底部斜位ハケメ (外) 縦位ハケメ後,縦位ナデ	(内) 2.5Y7/2,灰黄色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	石英・小石・白色粒・赤色粒・雲母・白色針状物質・粗砂粒混入			66	–
293	川跡5	Dg4-5 Dg5-4	7c	1	土師器	甕		(2.1)	((9.1))	120.9		(内) ナデ (外) ナデ	(内) 2.5Y4/1,黄灰色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	石英・長石・雲母・粗砂粒多量混入			66	–
294	川跡5	Dg4-4 Dg4-5 Dg5-4	7c	1	土師器	甕		(3.9)	((8.6))	214.6		(内) 底部斜位ハケメ (外) 底部縦位ハケメ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・白色粒・金雲母・粗砂粒多量混入	底部が高台状になる		66	–
295	川跡5	Dh5-1	7c	1	土師器 △	形状不明土器		(8.6)		141.4		(内) 指ナデ,粘土のつなぎ目,指頭痕残る (外) 縦位ハケメ	(内) 10YR8/2,灰白色 (外) 10YR8/2,灰白色	白色粒・石英・金雲母・粗砂粒多量混入		置竈か	66	31
296	川跡5	Dg4-2	12	2	土師器	坏	15.9	5.0		234.5	80%	(内) 口縁部横位・体部放射状ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,底部ヘラケズリ	(内) N2/,黒色 (外) 7.5YR7/4,にぶい橙色	石英・金雲母・粗砂粒混入	内面黒色処理	焼成前ヘラ書き「×・–」,「廾」を意図したものか	67	23
297	川跡5	Dg2-1	11	2	土師器 △	甕		(6.2)	(8.2)	64.4		(内) 横位ハケメ (外) 横位ハケメ	(内) 10YR6/6,明黄褐色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	石英・粗砂粒多量混入			67	31

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
298	川跡5	Dg3-1	11	2	土師器	甕		(6.2)		39.4		(内) 体部横位ハケメ (外) 体部横位ヘラケズリ	(内) 10YR6/6,明黄褐色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	石英・粗砂粒多量混入			67	31
299	川跡5	Dg3-3 Dg4-3 Dg4-4	15	3	土師器	坏	((14.5))	5.7		102.5	40%	(内) ハケメ後ナデ (外) 口縁部横位ナデ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・細砂粒混入			67	23
300	川跡5	Df3-5	15	3	土師器	坏	((9.6))	(5.6)		56.9	15%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後横位ヘラミガキ,体部横位ヘラケズリ	(内) 5YR4/6,赤褐色 (外) 5YR5/6,明赤褐色	砂粒・金雲母混入	内面黒色処理	外面粘土紐接合痕が残る	67	–
301	川跡5	Df3-5	14	3	土師器	坏	14.6	5.7		297.5	完存	(内) 口縁部横・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラミガキ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	金雲母・粗砂粒極少量混入	内面黒色処理	完形出土	67	23
302	川跡5	Df4-4	15	3	土師器	坏	((14.4))	6.8		94.8	80%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR5/4,にぶい黄褐色	石英・長石・粗砂粒混入	内面黒色処理		67	–
303	川跡5	Df2-5 Df3-5	13	3	土師器	坏	((15.8))	(6.2)		64.1	20%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 10YR7/2,にぶい黄橙色 (外) N1.5/,黒色	橙色粒・雲母混入	内面黒色処理		67	–
304	川跡5	Df4-4	15	3	土師器	坏	15.7	5.7		212.0	60%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後,横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR5/4,にぶい黄褐色	白色粒・細砂粒少量混入	内面黒色処理		67	23
305	川跡5	Df4-4 Df4-4	15	3	土師器	坏	((15.2))	(5.6)		53.3	20%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ミガキ,体部ハケメ後横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR4/2,灰黄褐色	石英・細砂粒少量混入	内面黒色処理		67	–
306	川跡5	Df4-4 Df4-5	15	3	土師器	坏	((14.8))	(4.8)		34.1	20%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ナデ後横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	白色針状物質・金雲母・白色粒多量混入	内面黒色処理	粘土紐接合痕が残る	67	–
307	川跡5	Df4-4	8 11	3	土師器	坏	14.7	5.7		182.0	85%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR5/4,にぶい黄褐色	石英・雲母・橙色粒・細砂粒混入	内面黒色処理		67	23
308	川跡5	Dg3-2 Dg4-2	15 16	3	土師器	坏	((16.6))	(5.7)		58.8	20%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部ナデ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		67	–
309	川跡5	Dg4-2	16	3	土師器	坏	16.8	7.5		266.8	85%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後横位ヘラミガキ,底部横位ヘラケズリ	(内) N1.5/,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	長石・石英・雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		67	23
310	川跡5	Df4-4	14	3	土師器	高坏		(7.7)		57.2		(外) 横位ナデ	(内) 5YR7/4,にぶい橙色 (外) 10YR7/4,にぶい黄橙色	白色粒・橙色粒・砂粒多量混入	高坏脚部か	支脚の可能性もあり	68	31
311	川跡5	Df4-5	15	3	土師器	高坏		(6.2)		51.0		(外) 横位ナデ	(内) (外) 10YR4/4,褐色	金雲母・橙色粒混入	高坏脚部か	支脚の可能性もあり	68	31
312	川跡5	Df4-4 Df4-5 Df3-5	8 15	3	土師器	鉢	((15.2))	(9.2)		196.6		(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部斜位ハケメ (外) 縦位ハケメ後斜位ヘラミガキ	(内) 10YR6/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒子・石英・粗砂粒少量混入			68	23
313	川跡5	Dg2-1	13	3	土師器	小形壺	11.8	12.0		416.5	95%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,頸部横位ナデ,体部横位ハケメ (外) 口縁部横位ヘラミガキ,縦位ナデ,体部横位ミガキ,底部横位ナデ	(内) 2.5Y3/1,黒褐色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	砂粒・白色粒・赤色粒・金雲母混入		内面外面一部黒色処理状に黒くなる	68	23
314	川跡5	Df3-3	14	3	土師器	壺	11.3	19.2	8.4	906.0	ほぼ完形	(内) 口縁部横位ナデ,横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ後,縦位ナデ	(内) 7.5YR6/4,にぶい橙色 (外) 7.5YR5/4,にぶい褐色	石英・長石・橙色粒・粗砂粒少量混入			68	23
315	川跡5	Df1-4 Df2-4 Df4-4	7c 14 15	3	土師器	甑		(4.9)	3.3	138.0	底部完形	(内) ナデ (外) 横位ハケメ	(内) 10YR6/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・石英多量混入	単孔式		68	23
316	川跡5	Df4-4	14	3	土師器	甑		(5.5)	((9.1))	23.7		(内) 横位ヘラナデ	(内) 2.5Y6/3,にぶい黄色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	赤色粒・砂粒・金雲母・細砂粒少量混入	無底式		68	–
317	川跡5	Dg3-2 Dg3-3	15	3	土師器	甕	((15.6))	(15.8)		259.8	40%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR4/3,にぶい黄褐色 (外) 5y2/1,黒色	大粒の石英粒・金雲母・長石・粗砂粒混入		外面煤付着	68	–
318	川跡5	Dg3-1 Dg3-2 Dg4-2	12 14 15 16	3	土師器	甕	16.2	(21.1)		657.0	60%	(内) 口縁部横位ナデ,斜位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,縦位ハケメ	(内) 7.5YR5/4,にぶい褐色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	白色粒・黒色粒・赤色粒・金雲母・粗砂粒混入			68	24
319	川跡5	Df3-3 Dg4-3	14 16	3	土師器	甕		(7.1)		101.0	20%	(内) 体部ヘラナデ (外) 横位ヘラナデ後斜位ヘラミガキ	(内) 2.5Y6/1,黄灰色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	石英・白色粒・細砂粒少量混入			68	–
320	川跡5	Dg3-2	15	3	土師器	甕		(2.1)	(4.5)	119.7	底部完形	(内) 横位ヘラナデ (外) 縦位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR4/4,褐色	石英・粗砂粒多量混入			68	–
321	川跡5	Df4-5	15	3	土師器	甕		(2.7)	7.1		底部完形	(内) 横位ヘラナデ (外) 底部外周ヘラケズリ後ヘラミガキ,底部ハケメ	(内) 2.5Y5/4,黄褐色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	石英・長石・白色粒・粗砂粒多量混入			68	–

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
325	井戸13	Dg5-5	1 3		土師器	坏	((13.4))	(3.9)		43.6	20%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラケズリ後,横位ミガキ	(内) 5YR6/6,橙色 (外) 5YR5/6,明赤褐色	小石・白色粒・赤色粒・石英・金雲母			72	31
326	井戸13	Dh5-1	6		土師器	坏	14.5	5.4		176.4	70%	(内) 口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ヘラミガキ,底部ヘラケズリ	(内) N3/,暗灰色 (外) N3/,暗灰色	白色粒・赤色粒・石英・雲母・白色針状物質・細砂粒混入	内面黒色処理	外面全体が黒くなっている	72	24
327	井戸13	Dh5-1 Eh1-1	3 8		土師器	坏	((14.5))	(3.2)		26.7	20%	(内) 体部縦位後・口縁部横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・透明粒・白色針状物質多量混入	内面黒色処理		72	–
328	井戸13	Dg5-5	4		土師器	坏	((16.2))	(6.3)		56.2	30%	(内) 口縁部横位・底部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位,体部斜位ヘラミガキ,底部ナデ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・石英・金雲母・白色針状物質・細砂粒混入	内面黒色処理		72	24
329	井戸13	Dg5-5	1		土師器	坏		(2.9)		78.0	30%	(内) 斜位ヘラミガキ (外) 横位ヘラケズリ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・金雲母混入	内面黒色処理		72	–
330	井戸13	Dg5-5	8		土師器	甕	((28.3))	(3.9)		53.4		(外) 口縁部横位ナデ	(内) 2.5Y8/2,灰白色 (外) 2.5Y8/2,灰白色	粗砂粒を少量含む	頸部に焼成前穿孔あり	粘土紐接合痕が残る	72	31
331	土坑6	Ei3-5	4		土師器	坏	((15.4))	(4.35)		19.5		(内) 口縁部横位ナデ,口縁部横位・体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ナデ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) N1.5/,黒色	石英・雲母・細砂粒小量混入	内面黒色処理		74	–
332	土坑6	Ei2-3	4		土師器	甕		(8.1)		170.5		(内) 横位ヘラナデ (外) 縦位ハケメ	(内) 2.5Y8/3,淡黄色 (外) 10YR8/2,灰白色	石英粒多量・白色粒・粗砂粒混入		外面煤付着	74	–
333	土坑6	Ei3-5	3		土師器	甕		(7.4)	5.4	108.2		(内) 斜位ナデ (外) 縦位ハケメ	(内) 2.5YR7/4,淡赤橙色 (外) 10YR8/3,浅黄橙色	石英・橙色粒・雲母・粗砂粒混入			74	–
334	土坑12	Dg5-3	3		土師器	坏	((13.4))	(3.3)		10.7	小片	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ナデ後横位ヘラミガキ	(内) 2.5GY2/1,黒色 (外) 2.5y8/3,淡黄色	白色粒・石英・雲母・粗砂粒混入	内面黒色処理		76	–
335	土坑12	Dg5-3	2		土師器	坏		(5.1)		30.2	5%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR7/4,にぶい黄橙色	白色粒・赤色粒・砂粒混入	内面黒色処理	高坏か	76	–
336	土坑12	Dg5-3	1		土師器	甑		(5.7)	9.7	50.6		(内) 横位ヘラナデ,底部開口部折り返し (外) 斜位ハケメ	(内) 2.5Y8/2,灰白色 (外) 2.5Y8/3,淡黄色	白色粒・石英・雲母・粗砂粒混入	無底式		76	–
338	土坑16	Em2-2	3		土師器	坏	(14.6)	6.5		242.0	85%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR8/3,浅黄橙色	白色粒・赤色粒・粗砂粒・小石混入	内面黒色処理		80	24
339	土坑16	Em2-2	1 3		土師器	高坏		(6.5)	((15.4))	158.0	脚部60%	(内) 脚部斜位ハケメ裾部横位ナデ (外) 坏部との境にハケメ, 脚部斜位ヘラミガキ	(内) 5Y4/1,灰色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	大粒の石英・雲母・白色針状物質・粗砂粒混入	脚部		80	24
340	土坑16	Em3-2	3		土師器	甕	15.0	13.0	4.5	385.5	90%	(内) 口縁部横位・体部斜位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部斜位後横ハケメ後底部外周横位ヘラケズリ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	大粒の石英・白色粒・粗砂粒多量混入		外面煤付着	80	24
341	土坑16	Em2-2 Em3-2	3		土師器	甕	((18.2))	(7.7)		61.9	20%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y3/1,黒褐色 (外) 10YR4/2,灰黄褐色	白色粒・砂粒混入		内・外面煤付着	80	–
342	土坑16	Em3-2	3		土師器	甕	((17.2))	(6.9)		61.4	口縁部25%,	(内) 口縁部横位ナデ後,横位ハケメ (外) 体部斜位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR4/2,灰黄褐色	雲母・粗砂粒多量混入			80	–
343	土坑16	Em2-2 Em3-2	3		土師器	甕		(4.1)	4.2	70.5		(内) 斜位ハケメ (外) 体部斜位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR4/2,灰黄褐色	雲母・粗砂粒多量混入			80	–
344	土坑16	Em2-2	4		土師器	甕	((19.6))	(7.2)		173.2	口縁部30%	(内) 横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・雲母・粗砂粒多量混入		口縁と体部接合しないため,別図として実測	80	–
345	土坑16	Em2-2 Em3-2	3		土師器	甕		(10.2)	6.0	440.0	30%	(内) 横位ハケメ (外) 斜位ハケメ	(内) 10YR6/2,灰黄褐色 (外) 10YR5/3,にぶい黄褐色	砂粒・黒色粒混入		口縁と体部接合しないため,別図として実測	80	–
346	土坑16	Em2-2	3		土師器	甕	16.7	27.5	7.2	1730.0	90%	(内) 口縁部横位ナデ,体部ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位・一部横位・底部ハケメ	(内) 10yr7/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・小礫多量混入		体部外面下半に煤付着	80	24
347	遺構外	El3-1	Ⅳ		須恵器	蓋	((12.2))	(3.45)		9.8			(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	白色粒混入, 緻密	古墳時代	上半に自然釉付着	83	31
348	遺構外	Ej3-3	Ⅳ		須恵器	坏	((11.5))	(4.0)		22.3	15%		(内) N6/,灰色 (外) N6/,灰色	白色粒・砂粒混入	古墳時代		83	巻頭2 31
349	遺構外	De3-4	Ⅱ		須恵器 △	甕		(6.8)		106.2		(内) 体部同心円状の当て具痕	(内) 2.5Y5/1,黄灰色 (外) 2.5Y6/1,黄灰色	白色粒・細砂粒少量混入			83	31
350	遺構外	Df3-5	Ⅲ		陶器 ●	甕		(3.6)		40.4			(内) 7.5YR4/6,褐色 (外) 2.5YR4/3,にぶい赤褐色	白色粒混入		越前	83	31
351	遺構外		表採		須恵器	鉢		(7.7)		148.8	70%	(内) 体部上半工具痕 (外) 頸部波状文,体部下半平行タタキ,カキメ	(内) N5/,灰色 (外) 5Y4/1,灰色	白色粒・赤色粒少量	内部に漆付着, 外面自然釉	調査終了後隣接地にて表採	83	24

表３　蚤取橋遺跡 土製品・石製品観察表

計測値のうち（　）は現存値。単位は全てcm。遺存度は全体の大きさのわかるものについてのみを遺存率を示した。

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別	器形	長さ	幅	厚さ	重量	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
11	川跡1	Dn2-2	1		土製品	支脚	(9.9)	(5.1)	3.95	149.2	70%	(外) 指頭押圧	10YR7/4,にぶい黄橙色	白色粒・砂粒混入，やや粗			15	24
59	川跡5	Em2-5	13	2	土製品	羽口		外径(3.3)	内径(2.7)	24.5						ガラス質滓付着	39	24
94	川跡5	Dj4-4	18	2	石製品	砥石	(3.6)	(2.9)	(1.8)	20.7							42	25
120	川跡5	Em1-5	19	3	土製品	支脚	8.1	4.5	4.4	183.5	完形	ナデ，指頭痕あり					45	25
322	溝11	Dk4-4	1		石製品	敲石	(8.8)	(10.2)	4.4	604.5							70	31
337	土坑14	El3-4	1		石製品	砥石	(5.2)	(4.5)	(3.1)	66.9							77	31

表４　蚤取橋遺跡 木製品観察表

計測値のうち（　）は現存値。単位は全てcm。遺存度は全体の大きさのわかるものについてのみを遺存率を示した。

遺物番号	遺構名	グリッド	概略位置	層位	大分類	種別	木取り	遺存状態	加工・形状の特徴	樹種	長さ	幅	厚さ	備考	挿図	図版
60	川跡5	Cl5-3	第3層群	13	容器	曲物	柾目	75%		スギ	16.4	(12)	1.0		39	25
61	川跡5	Dl1-3	第3層群	13	容器	曲物	柾目	25%	表面は平滑に加工されているが裏面は凹凸がある		(15.8)	(5.7)	0.9		39	25
175	川跡5	Ck3-2	落ち込み1中央部	27	祭祀具	剣形木製品	柾目	完形		スギ	39.4	4.4	2.2		51	巻頭3 25
176	川跡5	Ck3-3.4-3	落ち込み1中央部	27	農耕具	杵	柾目			コナラ節	(39.6)	9.3	(6.6)		51	25
177	川跡5	Ck3-2	落ち込み1中央部	27	建築部材		板目		長方形の枘穴を１つ有す，下部端部切断痕		(152.4)	10.4	3.2		51	25
178	川跡5	Ck3-1/3-2	落ち込み1中央部	27	建築部材		板目		板材中央に枘穴と思われる加工痕あり		78.8	17.2	3.6		51	25
179	川跡5	Ck4-2	落ち込み1中央部	27	建築部材		板目		上部に長軸片側に枘（切り欠き）あり		(82.4)	4.6	2.4		51	26
180	川跡5	Ck2-2/3-2	落ち込み1中央部	27	建築部材		柾目		板材，下部に切断痕	スギ	28.3	(10.9)	1.4	上部は炭化	51	26
181	川跡5	Ck4-2	落ち込み1東端部	27	用途不明製品		板目		短軸両側に連続した半円状の切り込みあり		(47.7)	6.5	1.5		51	26
182	川跡5	Ck3-2	落ち込み1中央部	27	用途不明製品		板目	60%	面取りされた棒状の製品，片側端面を丸く整形	スギ	(41.6)	3.1	2.8		52	26
183	川跡5	Ck3-2	落ち込み1中央部	27	用途不明製品		柾目		長軸片側端部が両側から斜めに切断された痕跡あり		(54.5)	11.7	1.6		52	26
184	川跡5	Ck2-2	落ち込み1西端部	27			柾目	完形			66.9	6.8	1.7		52	26
185	川跡5	Ck2-1	落ち込み1北端部	27			板目	完形	下部に直角の切断痕	スギ	27.8	5.0	1.1	上部は炭化	52	26
186	川跡5	Ck3-3	落ち込み1中央部	27			板目	完形	上部斜め，下部に直角の切断痕	スギ	28.1	2.0	1.6		52	26
187	川跡5	Ck3-2	落ち込み2中央部	27			板目	完形	上下に直角の切断痕	スギ	22.2	2.6	1.9		52	26
188	川跡5	Dl2-5	落ち込み2南端部	27	祭祀具	斎串	板目	上部欠損	下部を両端から斜めに切断	スギ	24.6	2.7	0.4		52	巻頭3 26
189	川跡5	Dl.Dm	落ち込み2	27	祭祀具	斎串	板目	上部欠損	下部を両端から斜めに切断	スギ	(20.5)	2.5	0.4		52	巻頭3 26
190	川跡5	Dm3-1	落ち込み2中央部	27	武器	弓		60%	表面をきれいに整形し，端部に弓弭を削りだしている	イヌガヤ	(68.4)	2.7	2.4		52	26
191	川跡5	Dm2-1	落ち込み1中央部	27	武器	弓？	芯持	60%	弓弭部の遺存状態が悪い，表面の一部を整形しており，材質から弓と想定される	イヌガヤ	(70.4)	6.8	1.2		52	27
192	川跡5	Dm2-1	落ち込み2中央部	27	用途不明製品		柾目		端面弧状に整形，上部斜めに切れ込み幅を狭めている		(17.2)	5.9	1.6		53	27
193	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27	用途不明製品		板目	完形	穿孔部2口		6.4	3.65	3.0		53	27
194	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27	用途不明製品	串状製品	板目		6面に面取りされている	スギ	(17.0)	0.6	0.5		53	27
195	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27	用途不明製品		柾目		3面に面取りされている		(14.8)	1.1	0.5		53	27
196	川跡5	Dl3-5	落ち込み2南端部	27	杭?		柾目		下部が尖らせている		(15.1)	6.8	3.5	全体に炭化	53	27
197	川跡5	Dm3-1	落ち込み2中央部	27			板目	完形	上部は斜めに切断，下部は徐々に薄くなる，右側縁部を波状に加工	スギ	37.4	11.4	1.7		53	27
198	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目		表面が半円状		(54.2)	2.2	0.9		53	27
199	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目		断面が円を四分の一に切った形状 表面が円形に加工されている，下部を斜めに切断		(31.5)	1.9	1.5		53	27
200	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	31			柾目	完形	上下に直角の切断痕		16.7	6.8	1.2		53	27
201	川跡5	Dm2-1	落ち込み2中央部	31	祭祀具	円板状木製品	柾目	完形	外面は直角に切断　角の面取りなし	スギ	長径7.2	単径6.8	1.2		53	巻頭3 27
202	川跡5	Dm2-1	落ち込み1中央部	31	不明成品		柾目	ほぼ完形	表面を細かく削っているため削りの範囲は不明	スギ	32.4	2.4	0.8		53	巻頭3 27

遺物番号	遺構名	グリッド	概略位置	層位	大分類	種別	木取り	遺存状態	加工・形状の特徴	樹種	長さ（径）	幅	厚さ	備考	挿図	図版
203	川跡5	Dn2-1	落ち込み2中央部	31	用途不明製品		板目	完形	両端を丸く整形		19.9	3.1	2.7		53	27
204	川跡5	Dl2-4	落ち込み2東端部	27	祭祀具	斎串	板目	完形			31.2	3.6	0.6		54	巻頭3 27
205	川跡5	Dl2-4	落ち込み2東端部	27	祭祀具	斎串	板目	完形		スギ	28.6	4.3	0.7		54	巻頭3 27
206	川跡5	Dl2-4	落ち込み2東端部	27	祭祀具	斎串	板目	完形			32.5	3.9	0.6		54	巻頭3 27
207	川跡5	Dl2-4	落ち込み2東端部	27	祭祀具	斎串	板目	完形			30.5	4.1	0.7		54	巻頭3 27
208	川跡5	Dl3-5	落ち込み2東端部	27	容器	槽	板目	50%		スギ	62.8	(40.5)	19.7		54	28
209	川跡5	Dl3-5	落ち込み2東端部	27	建築部材		板目	完形	ほぼ中央に枘穴あり		9.4	3.0	1.9		54	28
210	川跡5	Dl3-5	落ち込み2東端部	27	用途不明製品		板目	ほぼ完形	両端が斜めにカットされてる		15.5	(8.8)	1.7		54	28
211	川跡5	Dl2-4.3-4. 3-5	落ち込み2東端部	27	建築部材	梯子	芯持	ほぼ完形	丸太製，刻み梯子，踏み段8段	スギ	(335)	20.0	13.0	AMS分析	55	巻頭4 28
212	川跡5	Dl1-4	落ち込み2北端部	27	武器	弓	芯持		先端に弓弭を削りだしている		(49.6)	3.0	2.6		55	28
213	川跡5	Cl5-4.5-5. Dl1-5	落ち込み2北端部	27	建築部材		板目		楕円を呈する枘穴を有す（1口と3口が並ぶ）片側端部に明確な切断面を有す		(204)	20.0	4.0		55	29
214	川跡5	Dm3-2/4-2	落ち込み2南端部	27	用途不明製品		板目		長軸片側端部が両側より斜めに切断され，尖頭状の形態を呈する	スギ	(141.8)	10.0	1.0		56	29
215	川跡5	Dl.Dm	落ち込み2	27	用途不明製品		柾目		側縁部に斜めの切り込み，斜めの穿孔部あり		(29.4)	3.0	1.3		56	28
216	川跡5	Dm3-2	落ち込み2南端部	27	用途不明製品		柾目		下部が徐々に幅広くなる，断面上部円形，下部半円傾		(45.5)	3.0	1.1		56	29
217	川跡5	Dl1-4	落ち込み2南側西側	27	用途不明製品		柾目	完形	両端を斜めに切断し，台形状に作る	スギ	18.9	5.0	2.0		56	28
218	川跡5	Dm2-2	落ち込み2南端部	27			柾目	完形	斜めの切断痕，表面にも削痕あり，平面三角形状		18.0	11.3	3.4		56	28
219	川跡5	Dl1-4/2-4	落ち込み2北端部	27			柾目	完形	（長軸）一方は直角，他方は斜めに切断された端部を有す，片側端部に切れ込みあり		35.5	5.1	1.1	穿孔部あり	56	29
220	川跡5	Dm2-1	落ち込み2西端部	27			柾目	完形	長軸片側に明確な切断面を有す（鋸痕？）		61.4	8.4	3.2		56	29
221	川跡5	Dl.Dm	落ち込み2	27			柾目	側面一部欠	上部斜め，下部直角に切断痕	スギ	136.4	14.0	4.0	AMS分析	56	29
222	川跡5	Dm3-2	落ち込み2南端部	27			柾目	完形	両端に切断痕		32.4	5.7	2		57	29
223	川跡5	Dl1-5	落ち込み2西端部	27			柾目	完形	両端に切断痕	スギ	25.7	5.9	1.5		57	29
224	川跡5	Dl1-5	落ち込み2西端部	27			柾目	完形	両側縁は平行に切断　上下に直角の切断痕		16.9	3.2	0.6		57	30
225	川跡5	Dl1-5	落ち込み2西端部	27			柾目	完形	表面に対して斜めの切断痕，側面家平行四角形状	スギ	18.5	1.2	1.1		57	30
226	川跡5	Dm2-2	落ち込み2南端部	27			板目				(32.5)	1.5	0.8		57	30
227	川跡5	Dl1-4	落ち込み2北端部	27			板目		下部に直角の切断痕		(50.6)	2.0	1.1		57	30
228	川跡5	Dm4-2.5-2	南側平坦面	27	建築部材		板目	側面一部欠	長方形の枘穴を3箇所，上部の端部枘穴状の切り欠き2箇所あり	スギ	(144.5)	13.0	3.5		57	30
229	川跡5	Dm3-2	落ち込み2南端部	27	建築部材	扉か	板目	側面一部欠	長軸右側端部に方形の孔3・左側に1口，他に小孔3あり，表面の一部に整形痕	スギ	(87.0)	33.9	3.2		57	巻頭4 30
230	川跡5	Dm1-3	落ち込み2西端部	27	建築部材		板目		長方形の枘穴と枘（切り欠き）を1箇所ずつ有す		(92.8)	(19.2)	7.6		58	30
231	川跡5	Dm4-4.5-4	南側平坦面	27	建築部材		柾目	完形	右側縁に並行して枘穴が2箇所		38.5	15.9	1.8		58	30
232	川跡5	En2-3	南側平坦面	27	用途不明製品		柾目		斜めの切断痕？		(16.8)	12.7	2.6		58	30
233	川跡5	Dn2-1	南側平坦面	27	用途不明製品		柾目	完形			5.3	4.3	2.5		58	30
234	川跡5	Dn2-1	南側平坦面	27	用途不明製品		柾目		上部が半円状に加工されている		(17.1)	2.8	(1.2)		58	30
235	川跡5	Dn1-3.2-1	南側平坦面	27	用途不明製品		板目		断面楕円形		(20.3)	2.0	1.6		58	30
236	川跡5	Dn1-3.2-1	南側平坦面	27	用途不明製品		柾目		断面円形		(47.2)	2.0	1.8		58	30
237	川跡5	Dm1-2	落ち込み2西端部	27	用途不明製品		柾目	完形	上部表面に対して斜めの切断痕	スギ	14.3	3.8	1.8		58	30
238	川跡5	Dn3-2	南側平坦面西側	27			柾目	完形	上部斜めに切断（表面に対しても斜め）		14.4	4.6	2.8		58	30
239	川跡5	Dm3-1	落ち込み2南壁	27			柾目	完形	斜めの切断痕，表面にも削痕あり	スギ	30.8	11.1	1.6		58	30
240	川跡5	Dm5-4	南側平坦面東側	27			板目		下部に直角の切断痕	スギ	(23.7)	5.5	1.2		58	30
241	川跡5	Dn3-1	南側平坦面	27			板目	完形	下部に直角の切断痕		17.8	1.9	1.2	上部は炭化している	58	30
242	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目				(16.8)	3.5	0.5		59	31
243	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目		上部に切断痕		(15.6)	3.6	0.6		59	31

遺物番号	遺構名	グリッド	概略位置	層位	大分類	種別	木取り	遺存状態	加工・形状の特徴	樹種	長さ（径）	幅	厚さ	備考	挿図	図版
244	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上部斜めで，表面に対し斜めの切断痕，下部は両側縁から斜めの切断痕		13.3	4.3	0.7		59	31
245	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上下表面に対し斜めの切断痕，表面にも削痕あり		16.9	5.1	1.0		59	31
246	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目	完形	上下表面に対し斜めの切断痕		15.3	5.2	1.5		59	31
247	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上部直角・下部斜め，下部表面に対して斜めの切断痕		20.9	2.95	0.9		59	31
248	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上部斜め・表面に対して斜め・下部直角の切断痕		17.2	2.0	0.9		59	31
249	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上下端斜めに切断，平面台形状		15.6	1.8	0.5		59	31
250	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目				(9.0)	2.3	0.7	裏面は外周のみ炭化，穿孔部2口あり	59	31
251	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目	完形	上下表面に対して斜めの切断痕		19.7	1.4	0.4		59	31
252	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目				(21.0)	1.8	5.5		59	31
253	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	表面に対して斜めの切断痕		7.5	2.2	1.2		59	31
254	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上下直角の切断痕		14.5	1.6	1.4		59	31
255	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上部表面に対して斜め・下部直角の切断痕		13.5	1.3	1.4		59	31
256	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目		上部斜め・表面に対して斜めの切断痕		(18.1)	2.5	1.3		59	31
257	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目	完形	上部斜め・下部直角のので表面に対して斜めの切断痕		12.6	2.2	1.3		59	31
258	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形			9.5	1.5	1.3		59	31
259	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形			(25.9)	1.4	1.5	中央部で折れている	59	31
260	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	表面に対して斜めの切断痕，側面は平行四角形状		5.7	2.1	0.4		59	31
261	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目	完形			7.9	2.3	0.4		59	31
262	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			柾目	完形	上下端斜めに切断		8.8	2.9	0.4		59	31
263	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目	完形			7.9	1.3	0.2		59	31
264	川跡5	Dl2-5	落ち込み2中央部	27			板目	完形			9.9	1.6	0.2		59	31
323	井戸13	一括	井戸底面	16	建築部材	井戸枠	板目		端部を山形に切断		(38.0)	18.1	(2.3)	全体に腐食が激しい，地山に食い込んでいた	72	31
324	井戸13	材1	井戸底面	16	建築部材	井戸枠	板目		端部は斜めに切断，反対の端部は欠損している	スギ	(59.8)	(15.2)	(5.6)	全体に腐食が激しい，地山に食い込んでいた	72	31

表5　神明裏遺跡 土器・陶器観察表

計測値のうち（　）は現存値を，（(　)）は復元値を表す。単位は全て㎝。重さはgである。遺存度は全体の大きさのわかるものについてのみ推測率を示した。また，空欄は計測不能である。「時代」の記号は，古墳時代：記号ナシ・古代：○・中世以降：●・不明：△である。「手法」のうち須恵器のロクロ整形については，原則として記していない。胎土A－1は，粗い長石・石英を含む。主に真木山・笹神・貝屋窯産と考えられる。A－2は，A－1に比べ粒子が細かく，胎土はやや白っぽい。主にホーロク沢窯産と考えられる。A－3は，A－1に比べ粒子が細かく少ない。主に真木山・笹神・貝屋窯産と考えられる。胎土Bは，白い細粒子を少量含む。青黒色の吹き出しがあり，色調は青灰色。佐渡小泊窯産と考えられる（鶴巻・永井ほか2005）。なお，胎土Aは細分が明瞭でないものは，単に胎土Aとした。

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
1	掘立16 柱穴1-1	Fc4-2	6		須恵器 ○	甕		(5.5)		33.6		(内) 同心円状の当て具痕 (外) 擬格子タタキ	(内) N7/,灰白色 (外) 5Y6/1,灰色	緻密・黒い吹き出しあり		外面自然釉付着	87	34
2	掘立16 柱穴1-1	Fc4-2	15		土師器 ○	甕	((22.4))	(10.6)		87.3	10%	(内) 口縁部横位ナデ,体部縦位後横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位後横位ハケメ	(内) 10YR7/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/4,にぶい黄橙色	金雲母・石英・粗砂粒・橙色粒極多量混入	ロクロ使用	胴部外面煤付着	87	34
3	川跡1	Ed3-2	1		須恵器	高坏		(2.7)	((8.4))	8.8			(内) N5/,灰色 (外) 2.5Y5/1,黄灰色	白色粒混入	脚部,円形透かし		90	34
4	川跡1	Ed3-2	1		須恵器 ○	坏	((14.0))	3.1	((10.5))	60.2		(外) ヘラ切り	(内) 5Y6/1,灰色 (外) 5Y6/1,灰色	石英・白色粒混入 胎土B			90	32
5	川跡1	Ed3-3	1		須恵器 ○	坏	((14.8))	(3.3)		23.9			(内) 2.5Y6/1,黄灰色 (外) 2.5Y6/1,黄灰色	長石・粗砂粒を多く含む 胎土A			90	–

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
6	川跡2	Fc2-3 Fc3-2	1		須恵器 ○	坏	14.6	3.2	9.9	111.0	40%	(外) ヘラ切り	(内) N6/,灰色 (外) N6/,灰色	石英・白色粒を多量混入 胎土B			90	32
7	川跡2	Fc3-2	1		須恵器 ○	高台付坏	((13.2))	4.4	((7.7))	96.3	30%	(外) ヘラ切り,高台貼り付け	(内) N6/,灰色 (外) 7.5y6/1,灰色	白色粒を極少量混入			90	32
8	川跡2	Fc3-2	1		須恵器 ○	甕		(8.4)		280.9	不明	(内) 同心円状の当て具痕 (外) 平行タタキ後横位ナデ	(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	白色粒・黒色粒・細砂粒を少量含む			90	34
9	川跡2	Fc2-3 Fc4-3	1		須恵器 ○	甕		(10.7)		363.2	破片	(内) 同心円状の当具痕 (外) 擬格子タタキ後横位カキメ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) 5Y5/1,灰色	白色粒・黒色粒混入		内面に僅かに自然釉	90	34
10	川跡2	Fc3-3	1		土師器 ○	甕		(6.8)	((8.6))	71.7	20%	(内) 斜位ハケメ (外) 体部縦位ハケメ,体部下端横位ヘラケズリ	(内) 7.5YR8/4,浅黄橙色 (外) 10YR4/1,褐灰色	長石・雲母・粗砂粒少量混入			90	–
11	川跡2	Fd3-1 Fc3-2	1		中世 土師器 ●	皿	((15.8))	(4.05)	((9.5))	26.1	10%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) 2.5Y8/2,灰白色 (外) 2.5Y8/2,灰白色	細砂粒を少量含む		口縁外面に靭圧痕あり	90	–
13	土坑9	Gb5-5	2		須恵器 ○	坏		(1.8)	((8.4))	13.5		(外) ヘラ切り	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) 5Y7/1,灰白色	石英・白色粒・細砂粒混入 胎土A－1			91	–
14	土坑9	Hb1-5	2		須恵器 ○	甕	((27.5))	(6.0)		87.0		(内) 同心円状の当て具痕後ナデ (外) 平行タタキ後ナデ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N7/,灰白色	黒色粒・細砂粒極少量含む 胎土A－3			91	34
15	土坑9	Hc1-1	1		須恵器 ○	甕		(5.5)		41.6		(内) 同心円状の当て具痕後ナデ (外) 平行タタキ後ナデ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N7/,灰白色	黒色粒・細砂粒極少量含む 胎土A－3			91	34
16	土坑9	Hc1-1	1		須恵器 ○	甕		(4.0)		15.6		(内) 同心円状の当て具痕 (外) 平行タタキ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N7/,灰白色	黒色粒・細砂粒極少量含む 胎土A－3			91	–
17	土坑9	Hb1-5	1		須恵器 ○	甕		(4.3)		28.8		(内) 同心円状の当て具痕 (外) 平行タタキ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N7/,灰白色	黒色粒・細砂粒極少量含む 胎土A－3			91	–
18	土坑10	Gc4-1 Gc5-1	1 2 6		須恵器 ○	高台付坏	((15.0))	(3.95)	((9.3))	64.8	20%	(外) 高台貼り付け,底部ヘラ切りか？	(内) N7/,灰白色 (外) N7/,灰白色	大粒の石英粒・白色粒混入 胎土A－1			92	34
19	土坑10	Gc4-1	2		須恵器	甕		(3.1)		3.9		(内) 同心円状の当て具痕 (外) 平行タタキ目	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N6/,灰色	砂粒混入			92	–
20	川跡5	Fd1-1	3	1	須恵器 ○	坏	14.0	4.1	7.8	178.5		(外) 底部ヘラ切り	(内) 2.5Y8/1,灰白色 (外) 2.5Y8/1,灰白色	石英・白色粒を多量混入 胎土A－1		内面に灯明の芯の痕跡あり	96	32
21	川跡5	Fd3-1 Fd3-2	3	1	須恵器 ○	坏	13.1	4.0	9.5	247.6		(外) 底部ヘラ切り	(内) 7.5Y7/1,灰白色 (外) 7.5Y8/1,灰白色	粗い石英粒・長石・粗砂粒混入 胎土A－1			96	32
22	川跡5	Ec5-3	7	1	須恵器 ○	坏	13.8	3.9	8.2	110.5		(外) 底部ヘラ切り	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) 5Y7/1,灰白色	長石・石英・粗砂粒混入 胎土A－1			96	32
23	川跡5	Fb2-1 Fb3-1	1 3	1	須恵器 ○	坏	13.4	3.1	9.2	107.2	50%	(外) 底部ヘラ切り	(内) 5Y6/1,灰色 (外) 5Y5/1,灰色	白色粒混入,黒い吹き出しあり		外面全面に自然釉	96	32
24	川跡5	Fc2-2	3	1	須恵器 ○	坏		(1.1)	7.2	78.5		(外) 底部ヘラ切り	(内) N6/,灰色 (外) N6/,灰色	白色粒多量混入 胎土B			96	34
25	川跡5	Fc1-2 Fc4-5	3	1	須恵器 ○	高台付坏	10.5	4.1	5.6	138.1	完存	(外) 底部ヘラ切り,高台貼り付け	(内) N6/,灰色 (外) N6/,灰色	砂粒極少量含む,緻密 胎土B		底部に爪の跡あり内面自然釉付着	96	32
26	川跡5	Fc2-5	3	1	須恵器 ○	高台付坏		(1.8)	(10.2)	32.1		(外) 高台貼り付け	(内) 7.5Y7/1,灰白色 (外) 7.5Y7/1,灰白色	長石・雲母・粗砂粒を多く混入			96	34
27	川跡5	Ec2-3	3	1	須恵器 △	甕		(4.3)		117.7		(外) 波状文	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 5Y5/1,灰色	白色粒・黒色吹き出しあり		全体に自然釉付着	96	34
28	川跡5	Fb3-1 Fc2-4 Fc3-4	3	1	土師器 ○	鍋	((31.2))	15.2		905.0	20%	(内) 口縁から体部中位まで横ハケメ,下半斜位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部上半横位・下半斜位ハケメ	(内) 10YR7/2,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入	ロクロ使用		96	32
29	川跡5	Fc2-1 Fc2-2 Fc2-5	3	1	土師器	甕		(2.8)	6.8	48.5		(内) ヘラナデ (外) 体部下半縦位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR5/2,灰黄褐色	小石・白色粒・透明粒・赤色粒・雲母少量混入			96	–
30	川跡5	Fc3-5	11	2	須恵器	蓋	14.1	4.4		284.5	97%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N4/,灰色	粗砂粒を極少量含む,緻密			97	巻頭2 32
31	川跡5	Fc3-5	11	2	土師器	坏	16.2	5.8		210.9	40%	(内) 口縁部横位・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラミガキ	(内) N2/,黒色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	長石・雲母・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		97	32
32	川跡5	Fc3-5	10 11	2	土師器	坏	14.9	5.5		146.9	70%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ (外) 横位ナデ,クシ状工具によるナデ	(内) N3/,暗灰色 (外) 7.5YR6/4,にぶい橙色	白色粒・雲母・橙色粒・雲母・粗砂粒混入	内面黒色処理		97	32
33	川跡5	FRc3-5	10 11	2	土師器	甕	((11.6))	(8.5)		105.7	30%	(内) 口縁部横位ハケメ,体部斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR6/2,灰黄褐色 (外) 10YR3/1,黒褐色	橙色粒・小石・白色粒混入			97	32
34	川跡5	Fc3-3	11	2	土師器	甕 △	((24.6))	(8.3)		104.9		(内) 口縁部横位ナデ,体部縦位後横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・長石・雲母・粗砂粒多量混入	ロクロ使用		97	34
35	川跡5	Fd2-1	11	2	土師器	形状不明土器 △		(5.1)		25.0		(内) 横位ナデ (外) 不明	(内) 10Yr6/4,にぶい黄橙色 (外) 7.5YR6/6,橙色	石英・長石・橙色粒・粗砂粒少量混入			97	34

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
36	川跡5	Fc3-1	15	3	須恵器	坏	12.6	4.9		284.0	受け部が一部欠損	(外) 体部底部回転ヘラケズリ	(内) 2.5YR5/3,にぶい赤褐色 (外) 10Y5/1,灰色	白色粒・細砂粒多量混入		内面酸化焔焼成	98	巻頭2 32
37	川跡5	Fd2-1	12	3	土師器	坏	14.7	5.9		182.8	60%	(内) 口縁部横位,体部縦位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	石英・白色粒・橙色粒・粗砂粒少量混入	内面黒色処理		98	32
38	川跡5	Fd1-1 Fd2-1	3 12	1 3	土師器	甕	(14.8)	14.9		430.8	50%	(内) 口縁部ハケメ後横位ヘラナデ,体部斜位ヘラケズリ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ後一部ナデ	(内) 2.5Y6/2,灰黄色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	石英・白色粒・粗砂粒多量混入		外面胴上半煤付着	98	32
39	川跡5	Fc3-4 Fc3-5	15	3	土師器	甕	17.2	(15.7)		492.3	40%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位・斜位ヘラケズリ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y7/3,浅黄色 (外) 2.5Y5/2,暗灰黄色	石英・雲母・粗砂粒多量混入			98	–
40	川跡5	Fc2-4 Fc3-4	3 15	1 3	土師器	甕	((18.1))	(5.5)		98.1	20%	(内) 横位ハケメ (外) 縦位ハケメ	(内) 10YR6/2,灰黄褐色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・長石・粗砂粒多量混入		外面に煤付着	98	–
41	川跡5	Fc3-2	18	3	土師器	甕	((12.9))	(5.4)		116.2		(内) 不明 (外) 不明	(内) 2.5Y7/2,灰黄色 (外) 2.5Y6/2,灰黄色	石英・長石・白色粒・雲母・粗砂粒多量混入		外面口縁部に煤付着,外面底部に籾殻痕あり	98	–
42	川跡5	Fc3-2	18	3	土師器	甕		(4.4)	5.5	72.0		(内) ナデ (外) 体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y7/2,灰黄色 (外) 2.5Y6/2,灰黄色	石英・長石・白色粒・雲母・粗砂粒多量混入			98	–
43	川跡5	Fc2-5	15	3	土師器	甕	19.1	25.6	6.8	1548.0	85%	(内) 口縁部横位ナデ,体部斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部斜位ハケメ,底部ナデ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR4/1,褐灰色	石英・白色粒・雲母・粗砂粒多量混入		外面,胴中位と口縁の一部に煤付着底部高台風	98	32
44	川跡5	Fc2-4 Fc3-4	3 15	1 3	土師器	甕	20.2	(35.6)	9.0	3631.0	60%	(内) 体部横位ハケメ, ヘラナデ (外) 体部縦位ハケメ, ヘラケズリ	(内) 2.5Y6/3,にぶい黄色 (外) 10YR6/2,灰黄褐色	石英・白色粒・細砂粒少量混入			98	32
45	川跡5	Fc3-3	18	3	土師器	甕	22.8	((138.2))	6.0	2747.6	70%	(内) 口縁部上半横位ハケメ,下半ヘラナデ, 体部上半横位ヘラナデ,下半横位ハケメ (外) 口縁部縦位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 2.5Y6/3,にぶい黄色	大粒の石英・白色粒・粗砂粒多量混入			98	–
46	37トレ		Ⅲa	1	須恵器 ○	高台付坏	((12.2))	4.1	9.0	163.3	70%	(外) ヘラ切り,高台貼り付け	(内) 7.5Y6/1,灰色 (外) 7.5Y5/1,灰色	粗砂粒を少量含む		歪み	99	32
47	37トレ		Ⅳa		土師器	高坏	((14.8))	(3.9)		93.3	40% (坏部)	(内) ヘラミガキ (外) 不明	(内) 10YR4/1,褐灰色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	白色粒・透明粒・黄褐色粒・金雲母少量含む	内面黒色処理		99	32
48	37トレ		Ⅳa		土師器	鉢	((13.0))	(5.6)		27.0		(内) 不明 (外) 不明	(内) 2.5Y7/2,灰黄色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	石英・白色粒・粗砂粒混入			99	–
49	溝13	Ib3-2	3		土師器	壺形手捏土器	5.1	4.5	3.1	62.8	ほぼ完存	(内) 口縁部横位ナデ,頸部ナデ (外) 口縁部横位ナデ,頸部ナデ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 2.5Y6/2,灰黄色	石英・雲母・粗砂粒多量混入	内面黒色処理状に黒くなる		102	32
50	溝13	Ib2-3	3		土師器	坏	12.1	5.8	3.8	167.3	ほぼ完存	(内) ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ	(内) 10YR8/3,浅黄橙色 (外) 7.5YR8/3,浅黄橙色	長石・石英・橙色粒・砂粒多量混入	完形出土		102	33
51	溝13	Ib3-2	3		土師器	坏	((15.6))	(4.3)		36.9	25%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部斜位ヘラミガキ (外) 全体横位ミガキ	(内) 10YR6/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・石英・粗砂粒多量混入			102	–
52	溝13	Ib3-1 Ib3-2	3		土師器	坏	((12.8))	(4.9)		79.2	40%	(内) 斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横・体部斜位ヘラミガキ	(内) 2.5Y3/1,黒褐色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・長石・雲母・粗砂粒混入	内面黒色処理		102	33
53	溝13	Ib3-1 Ib3-2 Ib3-3	3		土師器	坏	((16.7))	(6.0)		51.5	25%	(内) 全体横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ミガキ	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	白色粒・砂粒多量混入	内面黒色処理		102	–
54	溝13	Ib3-1 Ib3-2	1 3		土師器	甕	((11.2))	14.6	6.4	283.5	40%	(内) 口縁部横位ナデ,他ヘラナデ,底部指ナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ,底部ヘラナデ	(内) 10YR3/1,黒褐色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・粗砂粒多量混入			102	33
55	溝13	Ib3-2 Ib3-3	3		土師器	甕	12.2	15.3	3.8	596.0	70%	(内) 口縁部横位ナデ後ヘラナデ,体部上半ハケメ,下半ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 10YR4/2,灰黄褐色 (外) 10YR2/1,黒色	石英・長石・小石・粗砂粒多量混入			102	33
56	溝13	Ib3-2 Ib3-3	3		土師器	甕	15.6	(17.9)		834.5	口縁部25% 胴部65%	(内) 口縁部横位ナデ,頸部ハケメ,体部横・斜位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/3,にぶい黄色 (外) 2.5Y5/2,暗灰黄色	白色粒・石英・砂粒多量混入			102	33
57	溝13	Ib3-1	3		土師器	甕	((20.0))	(12.0)		139.5		(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ハケメ (外) 口縁部横位ナデ,体部縦位ハケメ	(内) 2.5Y6/2,灰黄色 (外) 2.5Y7/3,浅黄色	赤色粒・砂粒混入		外面に煤付着	102	–
58	溝13	Ib3-2 Ib3-3	3		土師器	甕		(5.2)	4.8	186.0		(内) ヘラケズリ,ヘラナデ (外) 斜位ハケメ	(内) 10YR5/3,にぶい黄褐色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色			底部は高台風になっている	102	–
59	溝13	Ib3-2	3		土師器	甑		(3.9)	((2.1))	58.3		(内) 横位ヘラナデ (外) 斜位ハケメ	(内) 10YR7/2,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	白色粒・粗砂粒多量混入		単孔式	102	–

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
60	溝13	Ib2-1	4		須恵器	蓋	14.2	5.0		246.5	100%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) 5Y7/1,灰白色 (外) N7/,灰白色	細砂粒を多量混入		外面自然釉	102	巻頭2 33
61	溝13	Ib2-1	4		土師器	坏	13.8	5.9		319.0	口縁部～底部ほぼ完存	(内) ナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部ハケメ後ナデ	(内) 7.5YR6/4,にぶい橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	金雲母・粗砂粒多量混入			102	33
62	溝13	Ib3-2	4		土師器	坏	15.2	6.0		170.1	50%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,中位横位ヘラミガキ	(内) N3/,暗灰色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	小石・白色粒・透明粒・金雲母混入	内面黒色処理	外面体部に粘土紐接合痕を残す	102	33
63	溝13	Ib2-1	4		土師器	壺		(10.1)		625.0	体部完存	(内) 頸部ヘラナデ,体部ナデ (外) 頸部ナデ,体部上半ハケメ後ヘラミガキ,下半不明	(内) 2.5Y2/1,黒色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・細砂粒小量混入	頸部欠	外面赤彩内面黒色処理	102	33
64	溝13	Ib2-1	1 3 4		土師器	壺		(9.3)			20%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部ヘラナデ (外) 頸部縦位ヘラミガキ後,体部横位ヘラミガキ,体部ハケメが残る	(内) 2.5Y6/2,灰黄色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	石英・橙色粒・粗砂粒少量混入			102	–
65	土坑8	Ec1-5 Ec2-5 Ec3-5	1		須恵器 ○	坏	((12.5))	3.5	7.6	116.3	底部完存	(外) ヘラ切り後,一方向手持ちヘラケズリ	(内) N7/,灰白色 (外) N7/,灰白色	白色粒を多量混入 胎土A－1		内底面外周に指頭痕	110	34
66	土坑8	Ec2-5	2		須恵器 ○	坏	((13.3))	3.6	9.0	92.8	40%	(外) 底部ヘラ切り	(内) 5Y5/1,灰色 (外) 5Y6/1,灰色	白色粒を極少量混入,緻密 胎土A－3			110	33
67	土坑8	Ec1-5 2-5	2		須恵器	蓋	14.2	4.5		270.0	98%	(外) 天井部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N6/,灰色	細砂粒を多量混入			110	巻頭2 33
68	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		須恵器	坏	12.4	5.3		290.5	100%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	細砂粒を少量混入			110	巻頭2 33
69	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		須恵器	坏	11.3	5.2		236.5	98%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N6/,灰色 (外) N6/,灰色	粗砂粒を多量混入			110	巻頭2 33
70	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		須恵器	蓋	11.0	4.1		287.0	100%	(外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N5/,灰色 (外) N5/,灰色	緻密			110	巻頭2 33
71	土坑8	Ec1-5	1 2 3		須恵器	坏	11.5	5.2		264.5	98%	(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	白色粒・細砂粒を多量混入			110	巻頭2 33
72	土坑8	Ec1-5	2		須恵器	坏	11.7	5.4		236.7	98%	(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 底部回転ヘラケズリ	(内) N7/,灰白色 (外) N7/,灰白色	黒色粒・粗砂粒を多量混入			110	巻頭2 33
73	土坑8	Ec1-5	2		土師器	坏	16.5	7.0		269.6	75%	(内) 口縁部横位ナデ,体部横位後縦位ヘラミガキ (外) 体部縦位ハケメ,横位ヘラミガキ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	石英・白色粒・金雲母・粗砂粒混入	二次焼成	黒班あり	110	33
74	土坑8	Ec2-5	2		土師器	坏	15.9	6.0		187.5	80%	(内) 不明 (外) 不明	(内) 10YR8/3,浅黄橙色 (外) 10YR8/3,浅黄橙色	石英・白色粒・橙色粒・粗砂粒少量混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる	110	33
75	土坑8	Ec1-5	2		土師器	坏	(15.8)	6.2		120.7	33%	(内) 不明 (外) 斜位ヘラミガキ	(内) 5YR6/4,にぶい橙色 (外) 7.5YR6/3,にぶい橙色	石英・雲母・橙色粒・粗砂粒少量混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる	110	33
76	土坑8	Ec1-5	2		土師器	坏	((17.0))	6.0		128.2	70%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラミガキ底部ヘラケズリ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/2,にぶい黄橙色	白色粒・雲母・粗砂粒少量混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる	110	33
77	土坑8	Ec1-5 2-5	2		土師器	坏	17.05	6.1		251.5	70%	(内) 口縁部横位ヘラミガキ,体部不明 (外) 口縁部横位ヘラナデ,体部横位・底部縦位ヘラミガキ	(内) 5YR7/4,にぶい橙色 (外) 5YR7/4,にぶい橙色	石英・橙色粒・粗砂粒多量混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる	110	33
78	土坑8	Ec1-5	2		土師器	坏	15.1	6.0		179.0	80%	(内) 口縁部横・体部斜位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ヘラナデ,体部斜位ヘラナデ後上半斜位ヘラミガキ	(内) 7.5YR5/3,にぶい褐色 (外) 10YR6/4,にぶい黄橙色	石英・橙色粒・雲母・粗砂粒少量混入	二次焼成	破片により,内面黒色処理が残る	110	34
79	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	坏	14.8	6.0		251.5	75%	(内) 横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラケズリ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/4,にぶい黄橙色	白色粒・橙色粒・多量混入	二次焼成	破片に内面黒色処理が残る	110	34
80	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	坏	13.85	5.4		160.7	60%	(内) 口縁部横ハケメ,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,底部ヘラケズリ	(内) 10YR7/3,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/3,にぶい黄橙色	雲母・粗砂粒少量混入	二次焼成	部分的に被熱粘土紐の接合痕が残る, 内面6ヶ所モミ痕あり	110	34
81	土坑8	Ec2-5	2		土師器	坏	15.2	5.4		150.0	80%	(内) 磨耗のため不明 (外) 磨耗のため不明	(内) 2.5Y6/1,黄灰色 (外) 5YR6/6,橙色	白色粒・橙色粒・粗砂粒多量混入	二次焼成	本来は内面黒色処理か	110	34
82	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	坏	16.4	6.2		189.6	90%	(内) 口縁部横位ナデ,体部縦位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ,底部ヘラナデ	(内) 7.5YR6/6,橙色 (外) 7.5YR7/6,橙色	白色粒・雲母・粗砂粒混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる	110	34
83	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	坏	15.2	6.0		173.0	90%	(外) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラミガキ	(内) 2.5YR6/6,橙色 (外) 2.5YR6/6,橙色	白色粒・橙色粒・雲母・粗砂粒少量混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる,底部外面焼成前ヘラ書き(×)	110	34

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別 時代	器形	計測値(cm) 口径	器高	底径	重量(g)	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
84	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	坏		(4.3)		143.1	50%	(内) ヘラナデ，上半は磨耗のため不明 (外) 斜位ヘラミガキ，上半は磨耗のため不明	(内) 7.5YR5/3,にぶい褐色 (外) 7.5YR6/4,にぶい橙色	石英・大粒石英粒・橙色粒混入	二次焼成	本来は内面黒色処理と思われる	111	34
85	土坑8	Ec1-5	2		土師器	坏		2.8		101.9	30%	(内) 斜位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 2.5Y8/2,灰白色 (外) 10YR8/2,灰白色	石英・粗砂粒少量混入			111	–
86	土坑8	Ec1-5	2		土師器	坏	13.6	6.0	4.8	158.2	60%	(内) 斜・縦位ヘラミガキ (外) 不明	(内) 7.5Y3/1,オリーブ黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	白色粒・雲母混入	内面黒色処理	内・外面黒色処理,白色針状物質	111	34
87	土坑8	Ec2-5	2		土師器	高坏		(4.1)	9.9	151.0	脚部完存	(内) 脚部横位ハケ後,縦位ヘラナデ (外) 横位ナデ後,縦位・一部横位ヘラミガキ	(内) 5Y2/1,黒色 (外) 7.5YR6/6,橙色	石英・長石・橙色粒・粗砂粒多量混入		坏部との接合部で剥離	111	34
88	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	甕	((18.5))	(10.0)		265.5		(内) 口縁部横位ナデ,体部横位ヘラナデ (外) 口縁部横位ナデ,体部上半斜位ハケメ	(内) 10YR6/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/4,にぶい黄橙色	小石多量・石英・雲母・粗砂粒混入			111	–
89	土坑8	Ec1-5 Ec2-5	2		土師器	甕		(8.8)		440.9		(内) 体部横位ヘラナデ (外) 下半縦位ヘラケズリ	(内) 10YR6/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR7/4,にぶい黄橙色	小石多量・石英・雲母・粗砂粒混入			111	–
90	土坑19	Dd5-4	3		土師器	坏		(2.9)		7.3		(内) 口縁部・体部横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) N2/,黒色 (外) 2.5Y7/2,灰黄色	白色粒・透明粒・雲母混入	内面黒色処理		114	–
91	土坑19	Dd5-4	2		土師器	坏	((21.8))	(2.7)		20.8		(内) 横位ヘラミガキ (外) 横位ヘラミガキ	(内) 10Y2/1,黒色 (外) 7.5Y2/1,黒色	石英・雲母・細砂粒少量混入	内・外面黒色処理		114	–
92	土坑19	Ed1-4	2		土師器	壺	((9.8))	(4.6)		11.9		(内) 口縁部横位,頸部縦位ヘラミガキ (外) 縦位ヘラミガキ	(内) 2.5Y3/1,黒褐色 (外) 7.5YR5/4,にぶい褐色	透明微粒多量・橙色粒・白色粒混入			114	–
93	土坑20	Ed1-4	1		土師器	坏		(2.5)		8.8		(内) 横位ヘラミガキ (外) 口縁部横位ナデ後,横位ヘラミガキ	(内) N1.5/,黒色 (外) 7.5Y3/1,オリーブ黒色	石英・雲母・細砂粒少量混入	内・外面黒色処理		114	–
94	埋設遺構7	Hb3-5			土師器	甕		(12.0)	5.4	884.0	底部完	(内) 斜位ハケ後,斜位ヘラミガキ (外) 縦位ハケメ,底部ハケメ	(内) 10YR4/2,灰黄褐色 (外) 10YR4/2,灰黄褐色	小石多量・金雲母微量・透明粒混入		埋設土器	115	–
95	ピット8	Gc1-5	1		土師器 ○	甕		(2.2)		4.8		(内) 横位ナデ,横位ハケメ (外) 横位ナデ	(内) 10YR6/4,にぶい黄橙色 (外) 10YR6/3,にぶい黄橙色	石英・雲母・細砂粒少量混入	ロクロ使用		117	–
96	遺構外	Gc4-1	II		須恵器 △	甕		(3.0)		44.2		(内) 同心円状の当て具痕,ナデ (外) 平行タタキ後ナデ	(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	白色粒・粗砂粒極少量混入 胎土A			118	–
97	遺構外	Ed1-3	II		須恵器 △	甕		(4.5)		42.9		(内) 同心円あて具痕 (外) 平行タタキ後ナデ後カキメ	(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	白色粒・粗砂粒極少量混入 胎土A			118	–
98	遺構外	Gc5-1	II		須恵器 △	甕		(8.7)		68.1		(内) 同心円あて具痕 (外) 平行タタキ後ナデ	(内) N7/,灰白色 (外) N6/,灰色	白色粒・粗砂粒極少量混入 胎土A			118	34
99	遺構外 (川跡5)	Ec5-3	3		須恵器 △	甕		(4.5)		36.8		(外) 波状文	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 2.5Y7/1,灰白色	白色粒・黒色粒混入 胎土A			118	34
100	遺構外	Ec5-5 Gc3-5	II		須恵器 △	甕		(6.6)		208.3		(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 擬格子タタキ	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 2.5Y7/1,灰白色	白色粒・黒色粒混入 胎土A			118	34
101	遺構外	Ec5-1	II		須恵器 △	甕		(9.0)		192.2		(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 擬格子タタキ	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 2.5Y7/1,灰白色	白色粒・黒色粒混入 胎土A			118	34
102	遺構外	Ec2-5 Gc2-4	I III		須恵器 △	甕		(4.5)		70.7		(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 擬格子タタキ後,カキメ	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 2.5Y7/1,灰白色	白色粒・黒色粒混入 胎土A			118	–
103	遺構外	Ec2-4	1		須恵器 △	甕		(4.7)		51.2		(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 擬格子タタキ	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 2.5Y7/1,灰白色	白色粒・黒色粒混入 胎土A			118	–
104	遺構外	Fc2-2	1		須恵器 △	甕		(4.5)		51.2		(内) 同心円状の当て具痕あり (外) 擬格子タタキ	(内) 2.5Y7/1,灰白色 (外) 2.5Y7/1,灰白色	白色粒・黒色粒混入 胎土A			118	–

表6　神明裏遺跡 土製品観察表

計測値のうち（ ）は現存値。単位は全て㎝。

遺物番号	遺構名	グリッド	層位	層群	種別	器形	長さ	幅	厚さ	重量	遺存度	手法	色調	胎土	特徴	備考	挿図	図版
12	川跡2	Fc2-2	1		土製品	不明	(5.8)	(5.5)	(3.2)	77.0		ナデ		石英・白色粒・粗砂粒多量混入	土錘状,中心部に円孔		90	34

表７　神明裏遺跡 柱根観察表

計測値のうち（　）は現存値。単位は全てcm。

遺構名	柱穴	木取り	形状・底面加工	樹種	長さ	幅	厚さ	備考
掘立柱建物跡16	1-1	丸木取り	残存する加工面は３面である。詳細不明		(13.8)	(8.2)	(2.5)	
掘立柱建物跡16	1-2	丸木取り	僅かに先端底面が尖る，２面の大きな加工面と縁辺から角度の浅い１面の加工面で構成され，頂点は中心よりやや偏る。		(55.0)	(13.5)	(10.5)	
掘立柱建物跡16	1-3	丸木取り	底面は中心に向かい斜め，中心部分は腐食のため不明。面が尖る。が３方向から加工（伐採痕か）され，段をもつ。		(43.0)	14.0	14.0	樹皮，炭化は無し。
掘立柱建物跡16	1-4	不明	不明		(10.6)	(5.1)	(1.3)	樹皮，炭化は無し。
掘立柱建物跡16	2-1	丸木取り	底面は斜め，加工面は２面と考えられる，腐食のため中心部欠損。		(35.5)	(11.5)	(10.5)	樹皮，炭化は無し。
掘立柱建物跡16	2-4	丸木取り	底面は斜め。遺存状態は不良である。残存する加工面は３面である。		(24.5)	(11.2)	(7.0)	樹皮，炭化は無し。
掘立柱建物跡16	3-1	丸木取り	底面は中心に向かい斜め，中心部は腐食のため欠損し不明。残存する加工面（伐採痕か）は３面であり，段がもつ。		(47.5)	15.0	14.0	樹皮，炭化は無し。
掘立柱建物跡16	3-2	丸木取り	底面中心に向かい斜め。加工面の頂点はやや中央よりずれる。大きな３方向からの加工面と小さな２方向からの加工面で構成される。		(55.0)	21.0	(9.5)	樹皮，炭化は無し。
掘立柱建物跡16	3-3	丸木取り	底面は尖頭状。大きな１方向からの加工面と小さな４方向からの加工面で構成される。頂点に狭い平坦面を持つ。	トネリコ属	(71.8)	12.3	11.7	樹皮，炭化は無し。
ピット1		丸木取り	底面の加工面（伐採痕か）は２面		(45.8)	(7.6)	(6.9)	樹皮，炭化は無し。

表８　蚕取橋遺跡 土器・陶器集計表

時代	遺構名	須恵器									土師器										中世土師器	中世陶器		陶器	形状不明土器	合計
		高台付坏	高坏	坏	蓋	甕	壺	鉢	鼈	不明	高坏	坏	坏（黒色）	甕	壺	鉢	鍋	甑	手捏土器	不明	皿	甕	鉢	鉢		
古代	南地区 川跡1			3		2					1	5	37	342												390
				13		236					28	17	261	2,843												3,397
	南地区 川跡2		1	12								7	15	220						3	1		1	1		261
			2	117								28	42	753						3	7		50	43		1,045
	南地区 川跡3													47	1											48
														120	5											125
	北地区 川跡1			2			1	1						20												24
				35			117	16						256												424
	北地区 川跡2			2		6		1	1					3								1				14
				36		109		16	3					30								31				225
	北地区 川跡3			1		1								1												3
				5		14								11												30
	溝4												1	6												7
													2	27												28
古墳時代	南地区 川跡5	4	1	24	7						47	466	2,027	9,624	171	8		14	6	37					2	12,438
		249	7	909	467						2,400	4,369	21,365	140,713	13,843	701		1,227	303	430					2	186,983
	北地区 川跡5			11	2	11			1		19	143	641	3,910	93			11	1	1						4,844
				347	19	274			9		457	1,219	5,969	42,782	1,898			223	10	141						53,348
	井戸13			1					1			28	120	589	4			1		1						745
				5					6			238	1,257	4,743	23			8		3						6,282
	土坑6											5	62	295												362
												22	299	2,662												2,983
	土坑7													2												2
														6												6
	土坑12										1	4	13	137				1								156
											30	20	129	1,266				51								1,496
	土坑14											3	7	12												22
												9	24	54												87
	土坑15												4	5												9
													21	92												113
	土坑16										10	4	10	118	2											144
											163	8	299	3,791	7											4,268
不明	溝11												5	53												58
													16	1,090												1,106
確認調査	15トレンチ										1		4	6												11
											18		63	177												258
	16トレンチ												6	28												34
													35	908												942
	17トレンチ											5	5	36												46
												68	61	332												460
	18トレンチ												2	16												18
													5	158												163
	22トレンチ					1							6	51												58
						11							33	259												303
	33トレンチ										1	5	13	74	1											94
											3	28	148	337	3											518
合計		4	2	56	9	21	1	2	3	0	80	675	2,978	15,595	272	8	0	27	7	42	1	1	1	1	2	19,788
		249	9	1,466	486	644	117	32	19	0	3,098	6,025	30,027	203,408	15,779	701	0	1,508	314	577	7	31	50	43	2	264,590

上段：点数，下段：重量（g）

表９　蚤取橋遺跡 川跡５木製品グリッド別集計表

小グリッド	数量
Ck	1
Ck1-2	5
Ck2-1	13
Ck2-2	12
Ck2-3	2
Ck2-3.2-4	3
Ck3-1	3
Ck3-2	15
Ck3-3	13
Ck4-1	9
Ck4-2	26
Ck4-3	19
Ck4-4	4
Ck5-2	1
Ck5-3	5
Ck5-4	4
Ck5-5	1
Cl1-3.5-3 Dl1-4	8
Cl4-1	1
Cl4-2	2
Cl5-1	1
Cl5-2	2
Cl5-3	1
Cl5-4	5
Di2-3	1

小グリッド	数量
Di3-4	5
Dk1-5	1
Dl.Dm	10
Dl1-3	1
Dl1-4	22
Dl1-5	27
Dl2-4	22
Dl2-4 Dl2-5 Dl3-4 Dl3-5, Dm2-1 Dm3-1	7
Dl2-5	32
Dl3-4	4
Dl3-5	14
Dm	13
Dm1-1	3
Dm1-1.1-2	15
Dm1-2	5
Dm1-3	4
Dm1-4	3
Dm2-1	26
Dm2-2	20
Dm2-3	2
Dm2-4	8

小グリッド	数量
Dm3-1	20
Dm3-2	22
Dm3-3	3
Dm3-5	3
Dm4-1	2
Dm4-2	4
Dm4-3	2
Dm4-4	9
Dm4-5	1
Dm5-3	1
Dm5-4	3
Dm5-5	11
Dn1-3	2
Dn2-1	1
Dn3-2	1
Dn5-1	2
Em1-4	1
Em1-5	1
En1-1	1
En1-2	4
En1-3	6
En2-3	3
グリッド不明	16

大グリッド	数量
Ck	136
Cl	12
Cl.Dl	8
Di	6
Dk	1
Dl	124
Dl.Dm	15
Dm	180
Dn	6
Em	2
En	14
グリッド不明	16

表10　木製品（小形切削片）小グリッド別集計表

グリッド	a	b	c	d
Ck1-2	7	13	1	11
Ck2-3.2-4	3	2		3
Ck2-4	1	5	1	9
Ck3-2		1		
Ck4-1	5	9		3
Ck4-4		1	1	
Ck5-2		1	1	
Cl1-3	4	7	3	7
Cl5-3		2		3
Dl.Dm		1		
Dl1-4	6	37	4	36
Dl1-5	11	31	3	26
Dl2-3		1		
Dl2-4	9	26	2	22
Dl2-4.2-5 Dl3-4.3-5 Dm2-1.3-1		4		6

グリッド	a	b	c	d
Dl2-5	13	19	15	70
Dl3-4		2		1
Dl3-5	3	2		
Dm1-1.1-2		9		7
Dm2-1	37	58	26	72
Dm2-2	1	3		1
Dm3-1	6	14	4	12
Dm3-2	1	1		
Dm3-5		1		
Dm4-2	2	3		1
Dn5-1			1	
En1-3		1		
En2-3	1	2		
小計	110	256	62	290

表11　神明裏遺跡 土器・陶器集計表

時代	遺構名	須恵器									土師器										中世土師器	中世陶器		陶器	形状不明土器	合計
		高台付坏	高坏	坏	蓋	甕	壺	鉢	廌	不明	高坏	坏	坏（黒色）	甕	壺	鉢	鍋	甑	手捏土器	不明	皿	甕	鉢	鉢		
古代	掘立柱建物跡16	1 9				2 37						3 12		75 554												81 612
	川跡1		1 9	9 148		7 142				1 3		13 93	31 131	144 864	3 17					1 27						210 1,434
	川跡2	1 96		20 378	6 60	23 834					1 21	7 48	6 35	481 2,778	2 7					1 1	2 26					550 4,284
	川跡3					1 4							2 10	19 83												22 97
	土坑9			1 14		43 564								20 47												64 625
	土坑10	8 65		1 1		3 21								71 235												83 322
古墳時代	川跡5	3 168		17 942	3 284	16 362	2 19					11 108	81 938	783 15,987	4 10	1 24	21 1,052			1 25						943 19,919
	川跡13				1 247							4 531	31 444	304 4,238	2 636			1 38	1 63							344 6,197
	溝12												3 5	55 207												58 212
	土坑4													7 20												7 20
	土坑6												3 2	14 57												17 59
	土坑8			83 1,529	17 268	6 129					5 167	321 3,021	38 452	294 2,920	9 56											773 8,542
	土坑7					2 5							1 1	6 24												9 30
	土坑11													1 2												1 2
	土坑17										1 21	1 2	3 9	10 57						2 10						17 99
	土坑19											3 29	15 90	12 34	2 19											32 172
	土坑20											8 36	25 181	28 278												61 495
	埋設遺構7													9 894												9 894
	P1												1 1	1 3												2 4
	P2												1 1													1 1
	P5													2 10												2 10
	P8													5 20												5 20
確認調査	36トレンチ			4 83									4 15	31 149												39 247
	37トレンチ	1 163	1 93	2 11								1 5	2 8	133 1,502		1 27	2 45									143 1,854
合計		14 501	2 102	137 3,106	27 859	103 2,098	2 19	0 0	0 0	1 3	7 209	372 3,885	247 2,323	2,505 30,963	22 745	2 51	23 1,097	1 38	1 63	5 63	2 26	0 0	0 0	0 0	0 0	3,473 46,151

上段：点数，下段：重量（g）

第Ⅵ章　自然科学分析

1．木製品の樹種同定および木製品の年代測定

パリノ・サーヴェイ㈱　辻本　崇夫

はじめに

今回の分析調査では，蚤取橋遺跡から出土した木製品と神明裏遺跡から出土した柱根の木材利用状況を確認するため，樹種同定を実施する。また，蚤取橋遺跡の木製品の年代を確認するため，一部の木製品について放射性炭素年代測定を併せて実施した。

1．試　料

試料は，蚤取橋遺跡から出土した木製品33点と神明裏遺跡の掘立柱建物跡から出土した柱根1点の合計34点で，全点について樹種同定を実施する。また，蚤取橋遺跡の211と221の2点については，加速器質量分析法による放射性炭素年代測定も併せて実施した。なお，211の梯子と221の不明製品は，いずれも樹皮のすぐ内側の最終形成年輪を含む部分から試料を採取した。

2．分析方法

（1）放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合，これらをピンセット，超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分を除去，NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分を除去，HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理）。

試料をバイコール管に入れ，1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて，管内を真空にして封じきり，500℃（30分），850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し，真空ラインにてCO_2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO_2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し，グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして，タンデム加速器のイオン源に装着し，測定する。測定機器は，3MV小型タンデム加速器をベースとした^{14}C－AMS専用装置（NEC　Pelletron 9SDH－2）を使用する。AMS測定時に，標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸（HOX－Ⅱ）とバックグラウンド試料の測定も行う。また，測定中同時に$^{13}C/^{12}C$の測定も行うため，この値を用いて$\delta^{13}C$を算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また，測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり，誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお，暦年較正は，RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986－2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い，誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

（2）樹種同定

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し，ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し，プレパラートを作製する。作製したプレパラートは，生物顕微鏡で木材組織を観察し，その特徴から種類を同定する。

なお，同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については，島地・伊東（1982），Wheeler他（1998），Richter他（2006）を参考にする。また，各樹種の木材組織配列の特徴については，林（1991），伊東（1995，1996,1997,1998,1999）や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

3．結　果

（1）放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表12，暦年較正結果を表13に示す。211は1,600±30BP，221は1,580±30BPを示す。

暦年較正とは，大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された年代値に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動，及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては，本来10年単位で表すのが通例であるが，将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算，再検討に対応するため，1年単位で表している。いずれも木材を試料としたことから，北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年校正は，測定誤差σ，2σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲，2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また，表中の相対比とは，σ，2σの範囲をそれぞれ1とした場合，その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差をσとして計算させた結果，211はcalAD415－532，221はcalAD432－534である。

表12　蚤取橋遺跡の放射性炭素年代測定結果

試料名	遺構	種類	補正年代 BP	δ ^{13}C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
211	川跡5	生木	1,600± 30	−25.31±0.57	1,610± 30	9687－1	IAAA－70341
221	川跡5	生木	1,580± 30	−21.12±0.75	1,520± 30	9687－2	IAAA－70342

1）年代値の算出には，Libbyの半減期5,568年を使用。
2）BP年代値は，1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は，測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

表13　暦年較正結果

試料名	遺構	補正年代 (BP)	暦年較正年代（cal）			相対比	Code No.
211	川跡5	1,604± 32	σ	cal AD 415 － cal AD 442	cal BP 1,535 － 1,508	0.319	9687－1
				cal AD 451 － cal AD 461	cal BP 1,499 － 1,489	0.101	
				cal AD 483 － cal AD 532	cal BP 1,467 － 1,418	0.579	
			2σ	cal AD 396 － cal AD 540	cal BP 1,554 － 1,410	1.000	
221	川跡5	1,579± 32	σ	cal AD 432 － cal AD 466	cal BP 1,518 － 1,484	0.317	9687－2
				cal AD 482 － cal AD 534	cal BP 1,468 － 1,416	0.035	
			2σ	cal AD 414 － cal AD 551	cal BP 1,536 － 1,399	0.551	

1）計算には，RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01（Copyright 1986－2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用。
2）計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3）1桁目を丸めるのが慣例だが，暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように，1桁目を丸めていない。
4）統計的に真の値が入る確率はσは68%，2σは95%である。
5）相対比は，σ，2σのそれぞれを1とした場合，確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

（2）樹種同定

樹種同定結果を表14に示す。蚤取橋遺跡の木製品は，針葉樹2種類（スギ・イヌガヤ）と広葉樹1種類（コナラ属コナラ亜属コナラ節）に同定された。また，神明裏遺跡の柱根は広葉樹のトネリコ属に同定された。各種類の解剖学的特徴等を記す。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don） スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で，晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で，1分野に2－4個。放射組織は単列，1－10細胞高。

・イヌガヤ（*Cephalotaxus harringtonia*（Knight）K. Koch f.） イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され，分野壁孔はヒノキ型で1分野に1－2個。放射組織は単列，1－10細胞高。

現在の本地域では，変種のハイイヌガヤは分布しているが，イヌガヤは分布していない。そのため，今回の試料もハイイヌガヤの可能性があるが，木材組織からイヌガヤとハイイヌガヤを区別することは困難であり，ハイイヌガヤも含む意味でイヌガヤとする。

表14　樹種同定結果

遺跡	掲載番号	遺構	グリッド	層位	大分類	製品名	部位	樹種	備考
蚤取橋遺跡	60	川跡5	Cl5－3	13層	容器	曲物	底板	スギ	
	175	川跡5	Ck3－2	27層	祭祀具	剣形木製品		スギ	
	176	川跡5	Ck3－3,4－3	27層	農耕具	杵		コナラ属コナラ亜属コナラ節	
	180	川跡5	Ck2－2,3－2	27層	建築部材	（板状）		スギ	
	182	川跡5	Ck3－2	27層	用途不明製品	（棒状）		スギ	
	185	川跡5	Ck2－1	27層		（板状）		スギ	
	186	川跡5	Ck3－3	27層		（角棒状）		スギ	
	187	川跡5	Ck3－2	27層		（棒状）		スギ	
	188	川跡5	Dl2－5	27層	祭祀具	斎串		スギ	
	189	川跡5	Dl,Dm	27層	祭祀具	斎串		スギ	
	190	川跡5	Dm3－1	27層	武器	弓		イヌガヤ	
	191	川跡5	Dm2－1	27層	武器	弓？		イヌガヤ	
	194	川跡5	Dl2－5	27層	用途不明製品	串状製品		スギ	
	197	川跡5	Dm3－1	27層	用途不明製品	（板状）		スギ	
	201	川跡5	Dm2－1	31層	用途不明製品	円板状木製品		スギ	
	202	川跡5	Dm2－1	31層	用途不明製品			スギ	
	205	川跡5	Dl2－4	27層	祭祀具	斎串		スギ	
	208	川跡5	Dl3－5	27層	容器	槽		スギ	
	211	川跡5	Dl2－4,3－4,3－5	27層	建築部材	梯子		スギ	AMS－1
	214	川跡5	Dm3－2,4－2	27層		（板状）		スギ	
	217	川跡5	Dl1－4	27層		（板状）		スギ	
	218	川跡5	Dm2－2	27層				スギ	
	221	川跡5	Dl,Dm	27層		（板状）		スギ	AMS－2
	222	川跡5	Dm3－2	27層		（板状）		スギ	
	223	川跡5	Dl1－5	27層		（板状）		スギ	
	225	川跡5	Dl1－5	27層		（板状）		スギ	
	228	川跡5	Dm4－2,5－2	27層	建築部材	板材		スギ	
	229	川跡5	Dm3－2	27層	建築部材	扉か		スギ	
	232	川跡5	En2－3	27層		（板状）		スギ	
	237	川跡5	Dm1－2	27層				スギ	
	239	川跡5	Dm3－1	27層		（板状）		スギ	
	240	川跡5	Dm5－4	27層		（板状）		スギ	
	324	井戸13		16層	井戸枠			スギ	
神明裏遺跡		掘立16			柱根			トネリコ属	

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. Prinus）　ブナ科

環孔材で，孔圏部は1－3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1－20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・トネリコ属（*Fraxinus*）　モクセイ科

環孔材で，孔圏部は1－3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，厚壁の道管が単独または2個が放射方向に複合して配列し，年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，1－3細胞幅，1－30細胞高。

4．考　察

（1）蚤取橋遺跡の木材利用

蚤取橋遺跡の木製品は，斎串，剣形木製品，槽，曲物底板，杵，弓，弓？，梯子，板，扉？井戸枠などがある。このうち，梯子は全長3m以上，段数も8段ある大型のものである。木製品の樹種は，杵にコナラ節，弓・弓？にイヌガヤが認められた他は，全て針葉樹のスギであり，スギ材が様々な用途に多量に利用されていたことが推定される。スギは，木理が通直で割裂性が高く，加工は容易である。新潟県内では当該期の木材利用に関する資料が少なく，スギが木製品に利用された例はほとんど知られていない。周辺地域では沖ノ羽遺跡（新潟市）で柱根にクリが認められた例が知られている程度である（株式会社古環境研究所,1996）。一方，古代の木製品ではスギが多用される傾向があり，本地域周辺でも曽根遺跡（新発田市）の井戸枠，箸，板等，沖ノ羽遺跡の井戸部材，曲物等，細池寺道上遺跡（新潟市）の曲物の事例等の報告例がある（川村,1983;三村,2003;金原,2004）。

一方，弓・弓？に認められたイヌガヤ（ハイイヌガヤ）は，針葉樹としては重硬・緻密で強度・靱性・耐水性等に優れた材質を有する。弓の素材としては一般的な樹種であり，周辺地域では当該期の事例が知られていないが，下割遺跡（上越市）では古墳時代の弓にイヌガヤが認められている（パリノ・サーヴェイ株式会社,2004a）。また,一之口遺跡（上越市）や桃川遺跡群（神林町）では,古代の弓がイヌガヤに同定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,1994,2003）。今回の結果は，これらの事例と調和的といえる。なお，弓？とされる遺物（191）は，樹種からみれば弓と同一の用材といえる。

杵に認められたコナラ節は，重硬で強度が高い材質を有しており，杵として適した木材を選択している。新潟県内では，同時期の杵について樹種を明らかにした例が知られていない。古墳時代前期では，丸潟遺跡（加茂市）でアカガシ亜属が認められた例があり（パリノ・サーヴェイ株式会社,2000），樹種は異なるが同様に重厚な木材が利用されている。古代の事例でも一之口遺跡でクリ（パリノ・サーヴェイ株式会社,1994），蔵ノ坪遺跡（胎内市）でクリとヤブツバキ（パリノ・サーヴェイ株式会社,2002）が利用されており，同様に重硬な木材が利用されている。

（2）神明裏遺跡の柱材

掘立柱建物跡から出土した柱根は，トネリコ属であった。トネリコ属は，一般的に重硬で強度が高い材質を有しており，強度の高い木材を選択していたことが推定される。古代の柱材については，これまでにも多くの遺跡で樹種同定を実施しており，三角田遺跡（燕市）や西川内北遺跡および反貫目遺跡（胎内市）等でトネリコ属が比較的多く利用されている（パリノ・サーヴェイ株式会社,2001,2004b,2005）。いずれも沖積地の遺跡が多いが，トネリコ属の中には低湿地に生育する種類もあることから，周辺で入手可能な木材が利用されていたことが推定される。

引用文献

林　昭三,1991,日本産木材　顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東　隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81－181.

伊東　隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66－176.

伊東　隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83－201.

伊東　隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30－166.

伊東　隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47－216.

株式会社古環境研究所,1996,出土柱根の樹種同定.「新潟県埋蔵文化財調査報告書第80集　沖ノ羽遺跡Ⅱ（B地区）」,新潟県教育委員会,57－58.

金原　明,2004,細池寺道上遺跡２区における樹種同定.「中谷内遺跡Ⅲ・沖ノ羽遺跡Ⅱ・細池寺道上遺跡発掘調査報告書」,新津市教育委員会,55－56.

川村　恵洋,1983,曽根遺跡出土木材の識別.新潟大学農演報,16,75－82.

三村　昌史,2003,木製品の樹種.「新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集　沖ノ羽遺跡Ⅲ（C地区）」,新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団,38－41,図17－18.

パリノ・サーヴェイ株式会社,1994,一之口遺跡東地区から出土した木質遺物の同定.「新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集　北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書Ⅳ　一之口遺跡東地区（本文編）」,新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団,147－167.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2000,丸潟遺跡から出土した木材の樹種.「加茂市文化財調査報告（10）　丸潟遺跡・新通遺跡」,加茂市教育委員会・山武考古学研究所,154－170.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2001,三角田遺跡から出土した木材の樹種.「燕市埋蔵文化財調査報告書第１集　三角田遺跡」,燕市教育委員会,45－49.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2002,蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種.「新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集　一般国道７号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書　蔵ノ坪遺跡」,新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団,45－59.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2003,桃川遺跡群の自然化学分析.「神林村埋蔵文化財報告第19　桃川遺跡群石川遺跡・草田遺跡・桃川板碑・堤下瓦窯跡」,神林村教育委員会,18－55.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2004a,木製品の樹種同定.「新潟県埋蔵文化財調査報告書　第134集　一般国道253号上越三和道路関係発掘調査報告書Ⅱ下割遺跡Ⅱ」,新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団,39－44.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2004b,樹種同定.「新潟県埋蔵文化財調査報告書　第135集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅵ　反貫目遺跡」,新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団,41－43.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2005,自然科学分析,「新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集　日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ｘ,　西川内北遺跡・西川内南遺跡」,新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団,20－38.

Richter　H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別　IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東　隆夫・藤井　智之・佐野　雄三・安部　久・内海　泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter　H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）*IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification*］.

島地　謙・伊東　隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別　ＩＡＷＡによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東　隆夫・藤井　智之・佐伯　浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）*IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*］.

２．土器の胎土分析

㈱第四紀 地質研究所　井上　巖

Ｘ線回折試験及び化学分析試験

１．実験条件

１−１　試料

分析に供した試料は表15 胎土性状表に示す通りである。なお，新潟県内に６世紀代の窯跡が確認されていないため，本遺跡から出土した古墳時代の須恵器は，他の地方からの搬入品と考えられる。原産地として有力な畿内・東海・北陸地方西部のうち，第四紀地質研究所では北陸西部の対比資料が得られていなかった。このため，小松市教育委員会より戸津二ツ梨殿様池支群の資料を提供頂き，この分析データを参考資料として掲載した。

Ｘ線回折試験に供する遺物試料は洗浄し，乾燥したのちに，メノウ乳鉢にて粉砕し，粉末試料として実験に供した。化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し，表面を洗浄し，乾燥後，試料表面をコーテングしないで，直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し，分析した。

１−２　Ｘ線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はＸ線回折試験によった。測定には日本電子製JDX−8020X線回折装置を用い，次の実験条件で実験した。

Target: Cu，Filter: Ni，Voltage: 40kV，Current: 30mA，ステップ角度：0.02゜

計数時間：0.5秒。

１−３　化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置をセットし，実験条件は加速電圧：15kV，分析法：スプリント法，分析倍率：200倍，分析有効時間：100秒，分析指定元素10元素で行った。

２．Ｘ線回折試験結果の取扱い

実験結果は表15 胎土性状表に示す通りである。

表15右側にはＸ線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり，左側には，各胎土に対する分類を行った結果を示している。Ｘ線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

２−１　組成分類

１）　Mont−Mica−Hb三角ダイヤグラム

第120図に示すように三角ダイヤグラムを１〜13に分割し，位置分類を各胎土について行い，各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ，別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト（Mont），雲母類（Mica），角閃石（Hb）のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント（%）で表示する。モンモリロナイトはMont/Mont+Mica+Hb*l00でパーセントとして求め，同様にMica，Hbも計算し，三角ダイヤグラムに記載する。三角ダイヤグラム内の1～4はMont，Mica，Hbの3成分を含み，各辺は2成分，各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第120図に示す通りである。

2） Mont－Ch，Mica－Hb菱形ダイヤグラム

第121図に示すように菱形ダイヤグラムを1～19に区分し，位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。モンモリロナイト（Mont），雲母類（Mica），角閃石（Hb），緑泥石（Ch）の内，a）3成分以上含まれない，b）Mont，Chの2成分が含まれない，c）Mica，Hbの2成分が含まれない，の3例がある。菱形ダイヤグラムはMont－Ch，Mica－Hbの組合せを表示するものである。Mont－Ch，Mica－Hb のそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので，例えば，Mont/Mont+Ch*100と計算し，Mica，Hb，Chも各々同様に計算し，記載する。菱形ダイヤグラム内にある1～7はMont，Mica，Hb，Chの4成分を含み，各辺はMont，Mica，Hb，Chのうち3成分，各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第121図に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として，ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し，化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO_2－Al_2O_3図，Fe_2O_3－TiO_2図，K_2O－CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに，土器類を元素の面から分類した。

3．X線回折試験結果

3－1　タイプ分類

表15 胎土性状表には蚤取橋遺跡・神明裏遺跡と対比試料の小松市殿様池支群遺跡より出土した土器と埴輪が記載してある。

表17 タイプ分類表に示すように土器と原土はA～Bの2タイプが検出された。

Aタイプ：Hb1成分を含み，Mont，Mica，Chの3成分に欠ける。

Bタイプ：Mont，Mica，Hb，Chの4成分にかける。

高温で焼成されているために鉱物は分解してガラスに変質している。

3－2　石英（Qt）－斜長石（Pl）の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質，土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で，ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るということは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり，言い換えれば，各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第122図 Qt－Pl図に示すようにQtの強度が小の領域から大の領域にかけて3グループと“その他”に分類された。

Qt：小－Qtが700～1300，Plが60～90の領域に分布する。

蚤取橋遺跡と神明裏遺跡の坏が殿様池支群遺跡の坏H・甕とが共存する。

Qt：中－Qtが1500～2150，Plが55～70の領域に分布する。

神明裏遺跡の坏と殿様池支群遺跡の坏H・甕が共存する。

Qt：Ⅲ－Qtが2500～3100，Plが40～60の領域に分布する。

神明裏遺跡の坏と殿様池支群遺跡の坏H・甕が共存する。

“その他”－ 殿様池支群 －14はQtが4144と高く，異質である。

神明裏遺跡と殿様池支群遺跡の土器は同じ領域で共存する。殿様池支群遺跡の埴輪は甕と共存する。

４．化学分析結果

表16 化学分析表には神明裏・蚤取橋遺跡と対比試料の小松市殿様池支群遺跡より出土した土器と埴輪が記載してある。

分析結果に基づいて第123図 SiO_2－Al_2O_3図, 第124図 Fe_2O_3－TiO_2図, 第125図 K_2O－CaO図を作成した。

4－1 SiO_2－Al_2O_3の相関について

神明裏・蚤取橋遺跡と対比試料の小松市殿様池支群遺跡より出土した土器と埴輪は第123図 SiO_2－Al_2O_3図の中でⅠ～Ⅲの３タイプに分類した。

Ⅰタイプ：SiO_2が62～65%，Al_2O_3が22～26%の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の埴輪が集中し，殿様池支群遺跡の甕と神明裏遺跡の坏が共存する。

Ⅱタイプ：SiO_2が66～72%，Al_2O_3が18～24%の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の坏Hが集中し，殿様池支群遺跡の甕と神明裏遺跡の坏が共存する。

Ⅲタイプ：SiO_2が50～58%，Al_2O_3が25～32%の領域に分布する。

神明裏遺跡 －30の蓋と蚤取橋遺跡 －24の坏が共存する

4－2 Fe_2O_3－TiO_2の相関について

第124図 Fe_2O_3－TiO_2図に示すように，Fe_2O_3の領域によって３グループと“その他”に分類した。

Fe_2O_3： １－Fe_2O_3が4.5～7.5%，TiO_2が0.9～1.4%の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の坏H・埴輪・甕が集中し，神明裏遺跡の坏が共存する。

Fe_2O_3： ２－Fe_2O_3が８～8.3%，TiO_2が0.9～1.25%の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の甕が集中する

Fe_2O_3：大－Fe_2O_3が9.5～12%，TiO_2が1.35～1.55%の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の埴輪と神明裏遺跡 －30の蓋と蚤取橋遺跡 －24の坏が共存する。

その他：殿様池支群－２の坏HはTiO_2がいくぶん高いがFe_2O_3：１に近いものとして判断した。

4－3 K_2O－CaOの相関について

第125図 K_2O－CaO図に示すようにK_2OとCaOの値によって３グループに分類した。

K_2O：小 －K_2Oが1.55～2.8%，CaOが0.15～.28%の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の坏H・埴輪・甕が集中し，神明裏遺跡－30の蓋・76の坏と蚤取橋遺跡－24

の坏が共存する。

K_2O：大 －K_2Oが3.27～4.35％，CaOが0.2～0.45％の領域に分布する。

神明裏遺跡の坏が集中する。

CaO：高 －K_2Oが1.5～2.35％，CaOが0.3～0.55％の領域に分布する。

殿様池支群遺跡の坏H・甕・埴輪が共存する。

5．まとめ

X線回折試験と蛍光X線分析結果に基づいて，神明裏遺跡の土器と殿様池支群遺跡の土器と埴輪を表17 タイプ分類表と表18 組成分類表に示すように分類した。

1）表17 タイプ分類表に示すように，土器胎土はA～Bの2タイプに分類された。高温で焼成されているために4成分は分解してガラスに変質している。

2）第122図 Qt－Pl図に示すように，Qtの強度が小さい領域～大きい領域にかけて3グループに分類した。

3）表18 組成分類表に示すように，神明裏遺跡の土器と殿様池支群遺跡の土器と埴輪の組成分類では12タイプに分類された。20個の分析で12タイプと言うのは多種にわたることを意味する。

組成分類表の左側の欄には各タイプに分類した時のデータが記載してある。同じ番号がそろったものが組成的に近いことを意味する。

4）神明裏遺跡 －30の蓋と蚤取橋遺跡 －24の坏は組成的に近い。神明裏遺跡 －72の坏と殿様池支群遺跡 －1，3の坏Hは組成的に近い。神明裏遺跡 －68，69，70の坏は各々1個の独立したもので，どのタイプとも組成が異なる。

5）殿様池支群遺跡 －2，4，5の坏Hと9，10の甕は同じ組成をする。

殿様池支群遺跡 －1，3の坏Hは同じ組成。

殿様池支群遺跡 －11，13の埴輪は同じ組成。

殿様池支群遺跡 －12，14の埴輪，殿様池支群遺跡 －7，8の甕は各々4個ともに組成が異なり，各々が独立している。

表15 胎土性状表

試料名	タイプ分類	組成分類		粘土鉱物および造岩鉱物														備考	
		Mo-Mi-Hb	Mo-Ch,Mi-Hb	Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-fels	Halloy	Kaol	Pyrite	Au	ガラス	器種	時期
蚤取橋遺跡 －24	A	5	20			68			863	77	632	167							坏	5世紀末
神明裏遺跡 －30	B	14	20						1053	71	168	153							蓋	6世紀中葉
神明裏遺跡 －68	B	14	20						2059	67	89	153							坏	6世紀前半
神明裏遺跡 －69	B	14	20						3022	55	417	133							坏	6世紀前半
神明裏遺跡 －70	B	14	20						1084	71	103	118							坏	6世紀前半
神明裏遺跡 －72	B	14	20						1137	88	1067	130							坏	6世紀前半
殿様池支群 －1	B	14	20						1084	69	1366	166							坏H	6世紀
殿様池支群 －2	B	14	20						1776	64	1471	181							坏H	6世紀
殿様池支群 －3	B	14	20						1244	79	1070	145							坏H	6世紀
殿様池支群 －4	B	14	20						1889	60	1326	139							坏H	6世紀
殿様池支群 －5	B	14	20						1535	66	698	149							坏H	6世紀
殿様池支群 －6	B	14	20						2823	53	358	92							甕	6世紀
殿様池支群 －7	A	5	20			88			714	62	1085	129							甕	6世紀
殿様池支群 －8	B	14	20						2586	45	608	83							甕	6世紀
殿様池支群 －9	B	14	20						2105	58	1080	120							甕	6世紀
殿様池支群 －10	B	14	20						1501	65	888	166							甕	6世紀
殿様池支群 －11	B	14	20						2745	44	423	103							埴輪	6世紀
殿様池支群 －12	B	14	20						2688	48	246	147							埴輪	6世紀
殿様池支群 －13	B	14	20						2945	52	310	96							埴輪	6世紀
殿様池支群 －14	B	14	20						4144	106	156	64							埴輪	6世紀

Mont：モンモリロナイト　Mica：雲母類　Hb：角閃石 Ch：緑泥石（Ch:Fe　一次反射，Ch:Mg　二次反射）Qt：石英 Pl：斜長石　Crist：クリストバライト
Mullite：ムライト　K-fels：カリ長石　Halloy：ハロイサイト Kaol：カオリナイト　Pyrite:黄鉄鉱 Au：普通輝石 Py:紫蘇輝石

表16　化学分析表

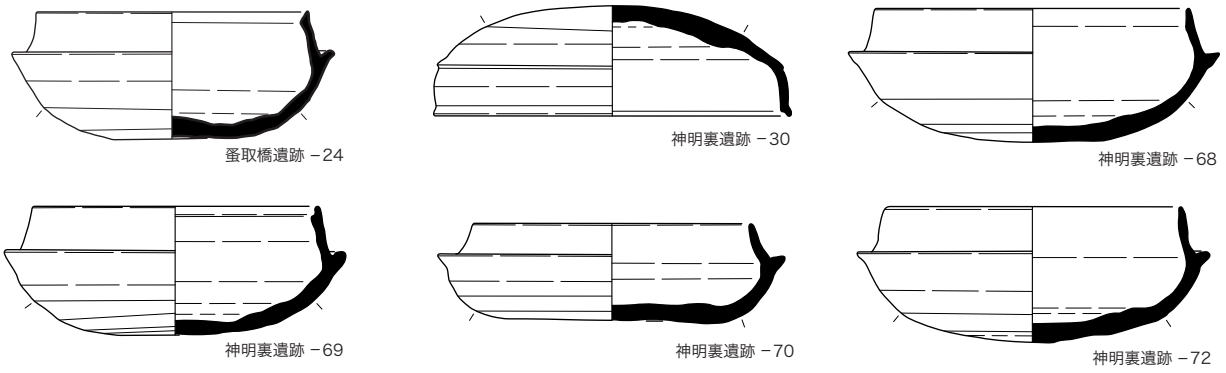
試料名	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	NiO	Total	器種	時期
蚕取橋遺跡－24	0.51	0.00	27.00	58.00	2.51	0.19	1.52	0.37	9.76	0.13	99.99	坏	5世紀末
神明裏遺跡－30	0.37	0.00	31.80	51.00	2.42	0.16	1.46	0.88	10.71	1.19	99.99	蓋	6世紀中葉
神明裏遺跡－68	0.46	0.00	24.92	63.26	3.27	0.30	1.37	0.44	5.82	0.17	100.01	坏	6世紀前半
神明裏遺跡－69	0.60	0.00	21.37	67.05	4.11	0.43	0.91	0.00	5.53	0.01	100.01	坏	6世紀前半
神明裏遺跡－70	1.86	0.00	22.90	63.29	4.33	0.25	0.93	0.08	6.36	0.00	100.00	坏	6世紀前半
神明裏遺跡－72	0.73	0.00	18.44	69.79	2.36	0.22	1.07	0.16	6.91	0.32	100.00	坏	6世紀前半
殿様池支群－1	0.53	0.00	19.86	69.29	1.65	0.17	1.31	0.80	6.36	0.04	100.01	坏H	6世紀
殿様池支群－2	0.44	0.00	22.79	67.92	1.82	0.24	1.60	0.18	4.42	0.60	100.01	坏H	6世紀
殿様池支群－3	0.27	0.00	18.76	71.25	1.64	0.17	1.25	0.00	6.35	0.30	99.99	坏H	6世紀
殿様池支群－4	0.44	0.00	22.05	69.13	1.64	0.36	1.07	0.00	4.87	0.45	100.01	坏H	6世紀
殿様池支群－5	0.54	0.00	22.74	68.09	1.99	0.22	1.27	0.00	4.91	0.23	99.99	坏H	6世紀
殿様池支群－6	0.47	0.00	23.36	64.13	1.59	0.18	1.70	0.00	7.85	0.73	100.01	甕	6世紀
殿様池支群－7	0.43	0.00	21.58	66.56	1.63	0.20	0.90	0.07	8.29	0.33	99.99	甕	6世紀
殿様池支群－8	0.53	0.00	23.74	64.00	1.59	0.26	1.25	0.19	8.00	0.43	99.99	甕	6世紀
殿様池支群－9	0.39	0.00	23.20	67.40	1.81	0.03	1.31	0.29	5.42	0.16	100.01	甕	6世紀
殿様池支群－10	0.39	0.00	22.14	67.65	2.34	0.37	1.21	0.35	5.44	0.12	100.01	甕	6世紀
殿様池支群－11	0.55	0.00	22.23	62.06	1.90	0.18	1.44	0.00	11.63	0.00	99.99	埴輪	6世紀
殿様池支群－12	0.41	0.00	25.21	64.64	2.09	0.51	1.29	0.00	5.84	0.00	99.99	埴輪	6世紀
殿様池支群－13	0.03	0.00	23.44	63.14	1.51	0.36	1.39	0.10	9.71	0.32	100.00	埴輪	6世紀
殿様池支群－14	0.26	0.00	24.86	63.82	2.70	0.15	1.08	0.10	7.00	0.03	100.00	埴輪	6世紀

表17　タイプ分類表

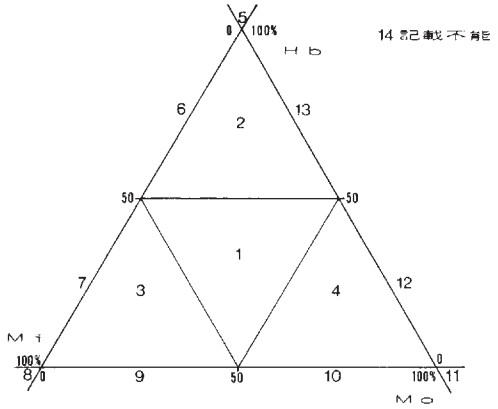
試料名	タイプ分類	備　考	
		器種	時期
蚕取橋遺跡－24	A	杯	5世紀末
殿様池支群－7	A	甕	6世紀
神明裏遺跡－30	B	蓋	6世紀中葉
神明裏遺跡－68	B	杯	6世紀前半
神明裏遺跡－69	B	杯	6世紀前半
神明裏遺跡－70	B	杯	6世紀前半
神明裏遺跡－72	B	杯	6世紀前半
殿様池支群－1	B	杯H	6世紀
殿様池支群－2	B	杯H	6世紀
殿様池支群－3	B	杯H	6世紀
殿様池支群－4	B	杯H	6世紀
殿様池支群－5	B	杯H	6世紀
殿様池支群－6	B	甕	6世紀
殿様池支群－8	B	甕	6世紀
殿様池支群－9	B	甕	6世紀
殿様池支群－10	B	甕	6世紀
殿様池支群－11	B	埴輪	6世紀
殿様池支群－12	B	埴輪	6世紀
殿様池支群－13	B	埴輪	6世紀
殿様池支群－14	B	埴輪	6世紀

表18　組成分類表

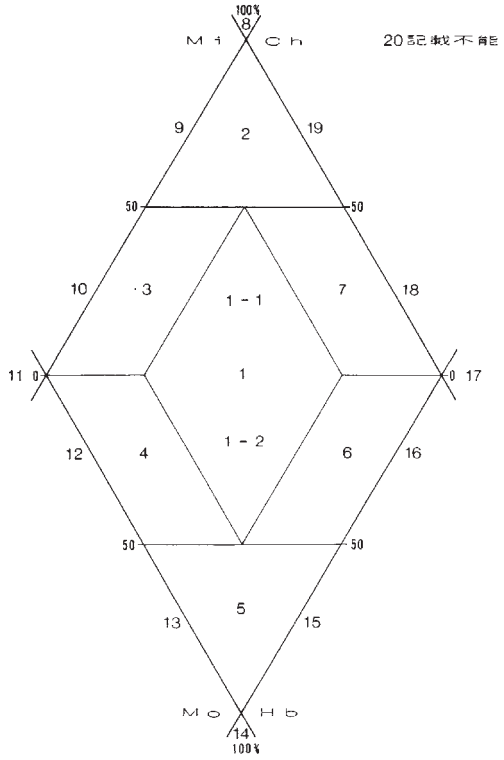
Fe	Qt	Si	試料名	タイプ分類	備　考	
					器種	時期
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－小，Fe_2O_3－1			
1	1	1	神明裏遺跡－70	B	杯	6世紀前半
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－中，Fe_2O_3－1			
1	2	1	神明裏遺跡－68	B	杯	6世紀前半
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－大，Fe_2O_3－1			
1	3	1	殿様池支群－12	B	埴輪	6世紀
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－大，Fe_2O_3－2			
2	3	1	殿様池支群－8	B	甕	6世紀
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－大，Fe_2O_3－3			
3	3	1	殿様池支群－11	B	埴輪	6世紀
3	3	1	殿様池支群－13	B	埴輪	6世紀
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－大，Fe_2O_3－4			
4	3	1	殿様池支群－6	B	甕	6世紀
			Ⅰタイプ：Q殿様池支群－最大，Fe_2O_3－1			
1	4	1	殿様池支群－14	B	埴輪	6世紀
			Ⅱタイプ：Q殿様池支群－小，Fe_2O_3－1			
1	1	2	神明裏遺跡－72	B	杯	6世紀前半
1	1	2	殿様池支群－1	B	杯H	6世紀
1	1	2	殿様池支群－3	B	杯H	6世紀
			Ⅱタイプ：Q殿様池支群－小，Fe_2O_3－2			
2	1	2	殿様池支群－7	A	甕	6世紀
			Ⅱタイプ：Q殿様池支群－中，Fe_2O_3－1			
1	2	2	殿様池支群－2	B	杯H	6世紀
1	2	2	殿様池支群－4	B	杯H	6世紀
1	2	2	殿様池支群－5	B	杯H	6世紀
1	2	2	殿様池支群－9	B	甕	6世紀
1	2	2	殿様池支群－10	B	甕	6世紀
			Ⅱタイプ：Q殿様池支群－大，Fe_2O_3－1			
1	3	2	神明裏遺跡－69	B	杯	6世紀前半
			Ⅲタイプ：Q殿様池支群－小，Fe_2O_3－3			
3	1	3	蚕取橋遺跡－24	A	杯	5世紀末
3	1	3	神明裏遺跡－30	B	蓋	6世紀中葉



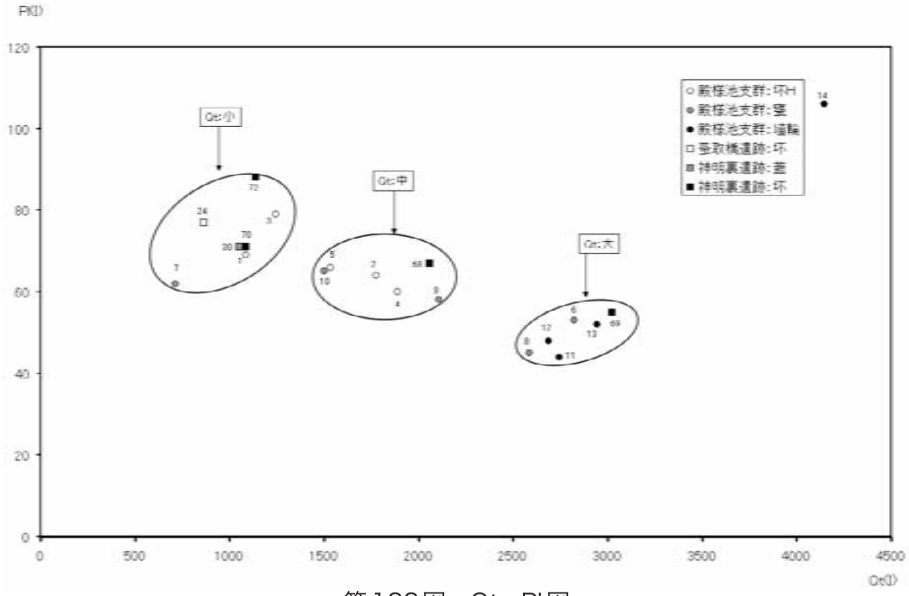
第119図　胎土分析を行った須恵器



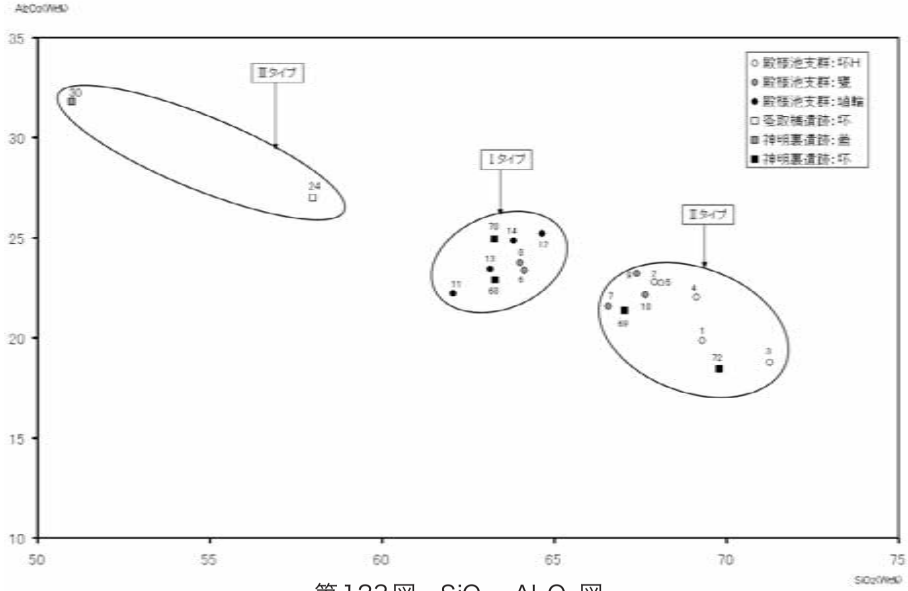
第120図　三角ダイヤグラム位置分類図



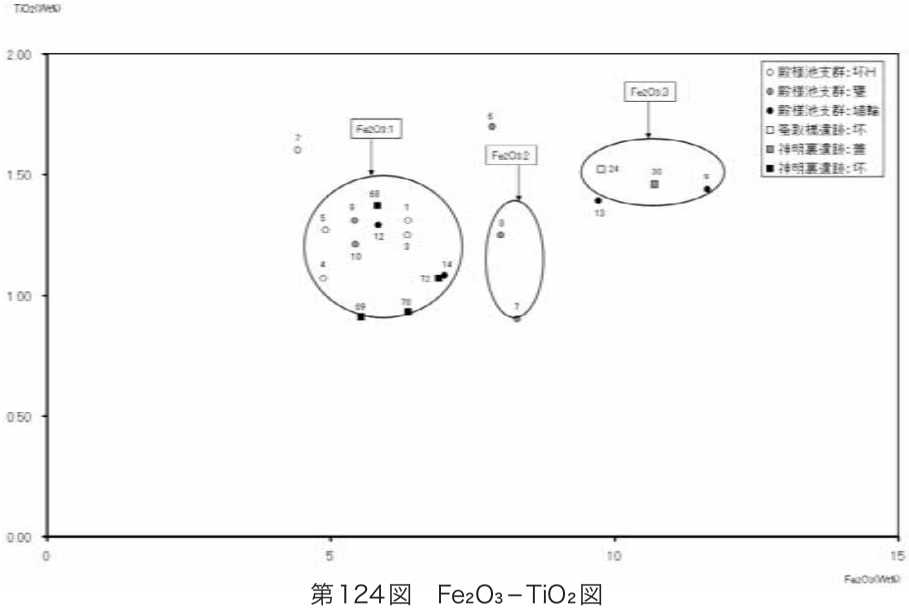
第121図　菱形ダイヤグラム位置分類図



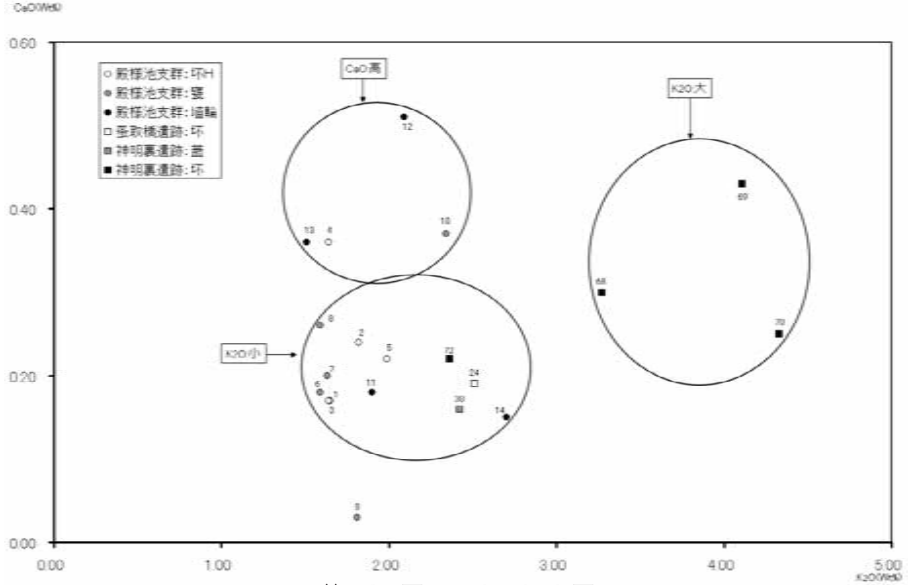
第122図　Qt－Pl図



第123図　SiO_2－Al_2O_3図



第124図　Fe_2O_3－TiO_2図



第125図　K_2O－CaO図

第Ⅶ章　ま と め

はじめに

今回の調査では二つの遺跡にまたがって検出した川跡5，神明裏遺跡の川跡13において多量の須恵器・土師器・木製品が出土した。これらは重層的に出土し，沖積地の小河川における遺物の出土状況として注目される。主体を占めるのは，古墳時代の後期を中心とした遺物であるが，時間的断絶を経て中世に至る。ここでは，これらの変遷について須恵器・土師器の坏類を中心に時期を示し，川跡の変遷を述べ，一括遺物の出土した神明裏遺跡土坑8の時期についてもふれる。また，斎串を始め祭祀遺物も出土しており，これらの位置付けについて考えてみたい。なお，文中での数字は本報告書中の遺物の掲載番号である。

（1）川跡について

川跡1～3と川跡5は上層と下層の関係にあり，同一の小河川が時期を経て変遷していた痕跡と考えられる。

川跡1～3・5は，西側を通る農道に沿うように蛇行していた。この農道は旧豊浦町と新発田市の境界であった。この地域は過去に耕地整理等が実施されているため，調査前の現況では，川跡の痕跡を示す地形の変化は確認できなかったが，これらの川跡は出土遺物からみると中世までは存在していたとみられ，その結果今日においても地区の境界に影響していた可能性を示すものと考えられる。川跡の時期については後に記述する。

古墳時代の須恵器　今回の調査では古墳時代の土師器と須恵器が共伴している。新潟県内では当該期の須恵器の出土例は近年発掘例が増加しつつあるが，生産地は7世紀末の出雲崎町梯子谷窯（春日ほか2001）が最も古い。ここでは時期について，陶邑編年（田辺1966・1981）を基に須恵器の坏・蓋を中心に，各層群の様相を整理する。

古墳時代の須恵器が目立って出土したのは，川跡1～3・5と13，神明裏遺跡土坑8と蚤取橋遺跡南地区の遺物包含層である。検討にあたっては，川跡1～3から出土した須恵器は，後続する時期に相当する流路への混入遺物のためここでは除外し，はじめに川跡5から出土した坏・蓋に資料を限定して地区別・層群ごとに検討する。なお，川跡5第2層群からは，28（蓋）・65（坏）といった7・8世紀代まで下る可能性を持っている須恵器を僅かに含んでいるが，各1点のみなのでここでは混入品と判断した。型式決定については，口径・器高・口縁部内面直下の段・全体の形状等により決定した。その他の遺構については後述し，遺構外遺物は除外する。

川跡5から出土した須恵器の坏・蓋を調査地区・出土層群ごとに型式を対比させると，次のとおりである。

		坏	蓋
蚤取橋遺跡南地区	第2層群	TK47（24）・TK47～MT15（26）・MT15（23・64）・TK10（25）	MT15（22・62）・TK10（63）
	第4層群	TK47（124）・TK47～MT15（123）	MT15（121）
蚤取橋遺跡北地区	第1層群	TK10（268）	MT15～TK10（266・267）
神明裏遺跡	第2層群		TK10（30）
	第3層群	TK10（36）	

層群の時期決定にあたっては，それぞれから出土した遺物のうち，最も新しい型式を優先させる。

このように見ると，第2層群はTK10型式期，第3層群はTK10型式期，第4層群はMT15型式期となる。つまり，第2・3層群はTK10型式期内での形成ということになる。

対象が川跡であるため，遺物は水流によって攪乱を受ける可能性があり第４層群はMT15型式期としたが，TK47型式期まで遡る可能性も考えたい。したがって，川跡５は須恵器編年では，TK47～TK10型式期に形成されたものと考えられ，年代としては５世紀末～６世紀中葉と考えられる。

川跡13の第３層群は60（蓋）がTK10型式と考えられ，川跡５の第３層群と時期は一致する。

神明裏遺跡土坑８からは坏５点，蓋１点が出土した。68・69・71・72の坏は，MT15型式，70はTK10型式と考えられる。67は蓋でMT15型式と考えられる。全体的にはMT15～TK10型式期相当と考えられる。

古墳時代の土師器　今回の調査では土師器の坏・鉢・高坏・壺・甑・甕などが多量に出土しているが，主体を占めるのは土師器の坏・甕である。本来は全ての器形の様相について述べるべきであるが，ここでは，蚤取橋遺跡南地区の川跡５から出土した坏について検討を行う。まずは相田泰臣氏の分類（相田2004）を軸に形態分類を行い，土器の様相を整理し，相田編年と比較する。

１類　半球状の底部

ａ口縁端部が短く直立する（69・70・174）。

ｂ口縁が内傾する（68）。

ｃ端部が僅かに外傾する（31）。

ｄ底部からの変化なし（32・137～139）。

ｅ内湾する（126）。

２類　半球状の底部で体部中位から上部で括れ，外傾する。

ａ体部上部で僅かに括れ，外傾する（98・127・128・129・131）。

ｂ体部中位で僅かに括れ，口縁が僅かに外傾する（37・99・140・144～146）

ｃ体部中位で括れ，僅かに口縁が外傾する（33・38～43・71～75・101・103・104・134・142・143・147・150）

ｄ体部中位で括れ，大きく口縁が外傾する

ｅ体部中位で僅かに括れ，稜線状になり，口縁が外傾する（34・35・100・102・130・141）

３類　平底

ａ口縁がほぼ直立する（132）

ｂ口縁が外傾する（67）

４類　体部外面に段がある（36・97・135・136）

１類は古墳時代中期以来の形態で，これらの多くは蚤取橋遺跡南地区の川跡５第４・５層群から出土（174・137～139）している。２類ａの内127～129は黒色処理を施さない。第２～４層群での主体を占めるのは２類ｂ～ｅで，相田分類のA2類に相当し，相田編年ではⅠ～Ⅱ期になる。また，蚤取橋遺跡北地区の第１層群から出土した276は，相田分類のA3類とも考えられ，Ⅱ期では新しい様相であろう。２類としたものは体部の括れと口縁部の外傾度の違いによって細分したが，その変化は漸移的である。第２～４層群からは各形態の土器が混在して出土しており，出土層位から分類はできなかった。これは同層群の形成時間が短いためとも考えられる。３・４類は数が少なく傾向はつかめない。

古代の須恵器　今回の調査で出土した古代の須恵器は，主に川跡１～３・５，神明裏遺跡の掘立柱建物跡16，土坑８，土坑10の上層から出土している。器種は坏を主体に高台付坏・蓋・甕である。坏は確認できるものの多くはヘラ切り後無調整であるが，土坑８から出土した65は，ヘラ切り後薄く一方向のヘラケズリを施している。

口径11～14.8㎝，底径7.5～10.5㎝ほどの底部の広いもので，山三賀編年のⅡ期～Ⅲ期と考えられる（坂井1989）。8世紀中葉から9世紀前半代の年代が与えられている。川跡1～3と川跡5の第1層群の遺物の時期を分けることはできなかったが，蚤取橋遺跡北地区と神明裏遺跡の川跡5第1層群からは古墳時代と古代の遺物が混在している。したがって，遺物からみると第1層群は古代に形成された層であろう。

中世の遺物　川跡1～3覆土中からは中世の遺物が少量出土している。蚤取橋遺跡南地区の川跡2から出土した，12は古瀬戸折縁深皿片で古瀬戸後Ⅰ期（14世紀末～15世紀初頭）である。蚤取橋遺跡北地区の川跡2から出土した，17は珠洲の片口鉢（13世紀代）である。神明裏遺跡の川跡2から出土した11は，中世土師器の皿である（15世紀前半）。これらが川跡1～3の終末時期を表す遺物といえよう。

木製品の年代測定結果　年代測定をした2点は梯子（211）と加工痕のあるもの（221）で，いずれも表皮直下が残る部分を採取したため，伐採年代に近い年代が得られたものと考えられる。詳細は第Ⅴ章1を参照して頂きたいが，暦年較正年代（cal）では，いずれも4世紀後半を中心とした年代との結果を得た。この2点は川跡5の第4層群出土であり，須恵器の型式ではTK47～MT15型式である。

梯子は高床建物に使われたものが，2次的に川において転用されたとも考えられ，伐採年代と廃棄年代には相応の時間差が存在する可能性はある。もっとも，100年以上もの時間差は考え難い。これは221のような，建築部材の未成品と考えられる遺物と211の成品に測定結果と大きな差がないことからも窺える。

川跡の時期　今回の調査では川跡5・13の覆土を各層群に別けて調査することができた。蚤取橋遺跡南地区の川跡5では5群，蚤取橋遺跡北地区の川跡5では3群，神明裏遺跡の川跡5では3群，川跡13では5群に大別できた。川跡1～3は川跡5の上層にあり，流路が1本から3本に分かれること，覆土がシルト・砂・有機物を含む層から黒褐色土主体の層に変わるため，調査・報告では別の名称を付けた。しかし，同一の川の変遷と考えられるため，川跡5の各層群の形成時期を1時期とし，川跡1～3を1時期と考えると，川跡は6時期の変遷が考えられる。ここで，各層群の古い順から，前述の土器の様相をまとめると次のようになる。

	須恵器・陶器等の年代	土師器坏類（相田編年）
第Ⅰ期（川跡5第5層群）	TK47以前型式期	第Ⅰ期
第Ⅱ期（川跡5第4層群）	TK47～MT15型式期	第Ⅰ～Ⅱ期
第Ⅲ期（川跡5第3層群）	TK10型式期	第Ⅰ～Ⅱ期
第Ⅳ期（川跡5第2層群）	TK10型式期	第Ⅰ～Ⅲ期
第Ⅴ期（川跡5第1層群）	8世紀中葉半から9世紀前半	
第Ⅵ期（川跡1～3）	9世紀後半代～15世紀	

（2）神明裏遺跡土坑8の出土土器について

古墳時代の土師器坏は，先の形態分類では2類e（73～77），2類d（81～83）が出土しており，相田編年のⅡ～Ⅲ期と考えられる。須恵器は陶邑編年（田辺1966・1981）のMT15型式～TK10型式が出土しているが，土層観察からは土坑8は川跡5第3層群を切っており時期差がみられる。出土した須恵器の主体を占めるのはMT15型式であるため，第Ⅱ・Ⅲ層群に相当すると考えられ，須恵器の年代が土師器の年代より若干古い様相を示す。今回は陶邑編年に準処したが本来は産地ごとに年代を検討しなければならないであろう。なお，今回の調査で出

土した須恵器6点を胎土分析し，小松市の調査事例資料と比較を行ったが，明確な産地の推定は出来なかった。

（3）祭祀遺物について

蚤取橋遺跡の南地区川跡5より祭祀関係の遺物である手捏土器，剣形木製品，斎串が出土している。手捏土器は第2・3層群から5点出土している。95は第3層群底面からの出土であるが，それ以外の多くは東岸から出土している。剣形木製品は第4層群「落ち込み1」から出土したもので，付近には祭祀関係の遺物はなく，建築部材等の木製品が多く出土しており，北側からの流入と考えたい。斎串は第4層群「落ち込み2」から6点出土しており，形態的には，下部を尖らせたものと，台形状の2種類が出土している。下部を尖らせたものは2点で，大きさが異なる。台形状の斎串は4点で，形状・大きさが類似し，出土地点も近接することから，同一の祭祀で使用されたものであろう。

一方，これらに伴う明確な遺構は確認できなかった。しかし，斎串の出土は1箇所に集中しており，遠く北側から流入したとは考え難い。この様な状態からして大形の梯子の出土と合わせて祭祀行為の結果と考えられる。

引用参考文献

相田泰臣　2004 「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相」『新潟考古』第15号　新潟県考古学会
家田順一郎ほか　1981 『曽根遺跡Ⅰ』豊浦町文化財報告三　豊浦町教育委員会
家田順一郎ほか　1982 『曽根遺跡Ⅱ』豊浦町文化財報告四　豊浦町教育委員会
宇野隆夫　1982 「井戸考」『史林』 第65巻　第5号　史学研究会
春日真実ほか　2001 『国道116号埋蔵文化財発掘調査報告書　梯子谷窯跡』 新潟県教育委員会
春日真実　2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について」『新潟考古』第16号　新潟県考古学会
川上貞雄　1982 『貝屋須恵窯址』 加治川村教育委員会
川上貞雄　1997 『曽根遺跡Ⅲ』豊浦町文化財報告六　豊浦町教育委員会
川上貞雄　1999a 『前田遺跡・壱本杉遺跡』 笹神村教育委員会
川上貞雄　1999b 『志村山須恵窯址』豊浦町文化財報告七　豊浦町教育委員会
川上貞雄ほか　2002 『腰廻遺跡』笹神村文化財調査報告13　笹神村教育委員会
坂井秀弥　川村浩司　田中　靖　本間桂吉　1987 「越後における古式須恵器と若干の問題」『第8回　三県シンポジウム　東国における古式須恵器をめぐる諸問題』 北武蔵古代文化研究会・群馬県考古学研究所・千曲川水系古代文化研究所
坂井秀弥ほか　1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書　山三賀Ⅱ遺跡』 新潟県教育委員会
佐藤友子　2006 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査書XVII　野中土手付遺跡　砂山中道下遺跡』 新潟県教育委員会
嶋田仁志　2005 『野中土手付遺跡2次』加治川村埋蔵文化財調査報告書第5集　加治川村教育委員会
品田高志　1990 「越後における古墳時代土器の変遷−柏崎平野の中期〜後期を中心として」『柏崎市立博物館　館報』№4　柏崎市立博物館
椙山林継　2002 「手捏土器」『日本考古学事典』 三省堂
関　雅之・本間信昭ほか　1981 『真木山製鉄遺跡』豊浦町文化財報告二　豊浦町教育委員会
関　雅之　2001 「新潟県新発田市馬見坂遺跡出土の土師器−阿賀北地域の7世紀の土器様相とその意義」『北越考古学』第12号　北越考古学研究会
田辺昭三　1966 『陶邑古窯址群Ⅰ』 平安学園考古学クラブ
田辺昭三　1981 『須恵器大成』 角川書店
鶴巻康志ほか　2003 『桑ノ口遺跡発掘調査報告書』新発田市埋蔵文化財発掘調査報告 第27　新発田市教育委員会
鶴巻康志　2001 「新発田市ホーロク沢窯跡採集の須恵器」『北越考古学』第12号　北越考古学研究会
鶴巻康志　永井いずみほか　2005 『荒神裏A遺跡 発掘調査報告書』新発田市埋蔵文化財調査報告 第30　新発田市教育委員会
出越茂和　1995 「Ⅲ　北陸」『須恵器集成図録』第3巻 東日本編Ⅰ　雄山閣出版株式会社
中川成夫ほか　1972 『狼沢2号窯址群の調査』 笹神村教育委員会
中山俊道ほか　2001 『上高関遺跡』 笹神村教育委員会
新潟県考古学会編　1999 『新潟県の考古学』 高志書院

新潟古代土器研究会編　2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
水澤幸一・三ツ井朋子　2006 「城の山古墳」『市内遺跡Ⅰ』胎内市埋蔵文化財調査報告書 第1集　胎内市教育委員会
水澤幸一・吉村光彦　1999 『船戸桜田遺跡2次』中条町埋蔵文化財調査報告 第22集　中条町教育委員会
水澤幸一・吉村光彦　2004 『屋敷遺跡2次』中条町埋蔵文化財調査報告 第31集　中条町教育委員会
宮本長二郎　2007 「出土建築部材が解く古代建築」『日本の美術』第490号　至文堂
望月精司　2002 『二ツ梨一貫山窯跡』小松市教育委員会
山田昌久編　2003 『考古資料大観8　弥生・古墳時代　木・繊維製品』 小学館
吉村睦志　2001 「初期須恵器釉の施釉技法」『韓式土器研究』Ⅶ　韓式土器研究会
渡邊美穂子ほか　2001 『坂ノ沢C遺跡Ⅱ（平安時代編）』新発田市埋蔵文化財調査報告 第23-2　新発田市教育委員会

要約

1．蚤取橋遺跡は新潟県新発田市竹ヶ花字菱川谷451・452番地ほか，神明裏遺跡は新潟県新発田市竹ヶ花字菱川谷400・450・451番地ほかに所在する。遺跡は新発田市南部を流れる佐々木川支流の北江と西江のほぼ中間にあたり，標高は8.5～8.7mである。

2．発掘調査は県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）に伴って，新発田市教育委員会が主体となり，現地調査・整理作業を加藤建設㈱新潟支店に委託して実施した。現地調査は平成18年8月3日から同年12月23日，終了後基礎整理作業を平成19年3月15日まで実施し，本格的な整理作業は平成19年6月6日から10月18日まで実施し，報告書を作成した。

3．今回の調査区は，ほぼ全体が削平されていたが，蚤取橋遺跡では川跡4条，溝3条，井戸跡1基，土坑8基，ピット2基。神明裏遺跡では掘立柱建物跡1棟，川跡5条，土坑13基，埋設遺構1基，ピット5基を検出した。

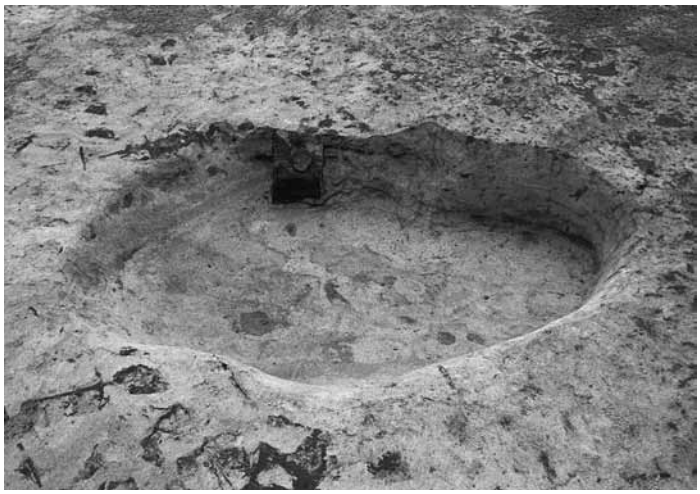
4．川跡からは古墳時代の遺物が多量に出土した。大半は土師器であるが，手捏土器も出土している。なかでも古式須恵器がまとまって出土しており注目される。

5．川跡1～3の覆土中からは，古代の土器に混じって，中世の遺物も出土しており，中世まで川跡が残っていたと考えられる。

6．川跡5からは斎串・剣形木製品などの祭祀に用いた木製品が出土しており，周辺で祭祀が行われたと考えられる。

7．川跡5からは，ほぼ完形の刻み梯子が出土した。

8．神明裏遺跡の土坑8からは，古墳時代の須恵器と土師器が廃棄された状態で出土した。



土坑９完掘状態（東から）

土坑10土層断面（南から）

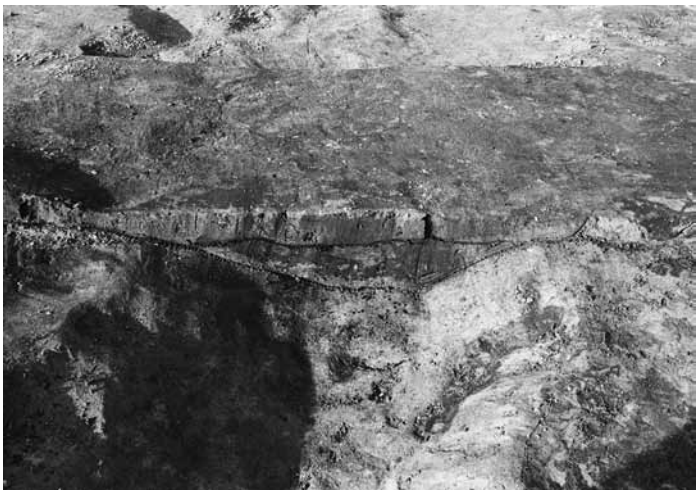
南地区 川跡１～３完掘状態全景（南から）

南地区 北側トレンチ掘削状態（南西から）

南地区 川跡１b–b'土層断面（南から）

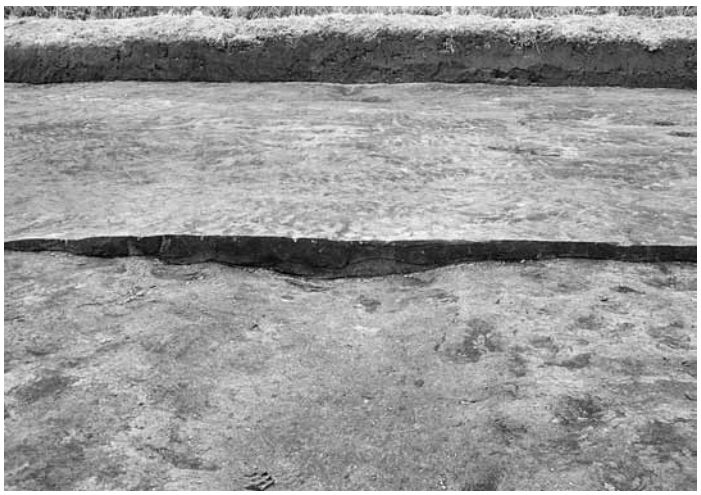
図版2　蚕取橋遺跡の発掘調査 (2)

南地区 川跡２a–a'土層断面（南から）



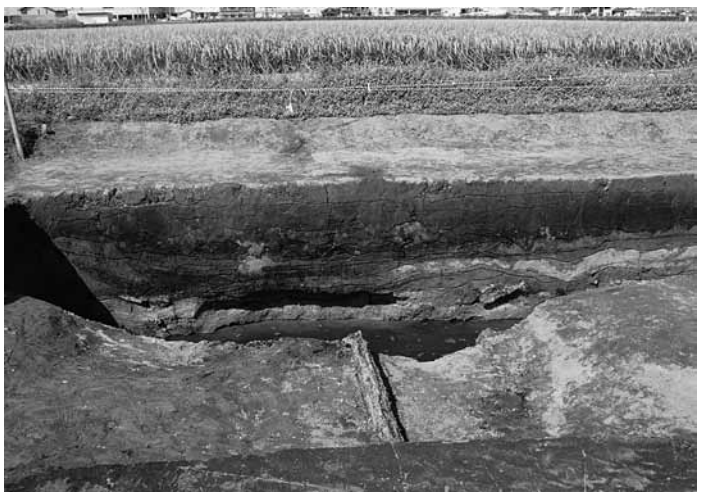
南地区 川跡３土層断面（南から）

北地区 川跡１～３完掘状態全景（東から）



北地区 川跡３土層断面（東から）

溝４掘削状態（北から）



南地区 川跡５c–c'土層断面西側（南から）

南地区 川跡５c–c'土層断面中央部（南から）

南地区 川跡５c－c'土層断面東側（南から）

南地区 川跡５e－e'土層断面（北から）

南地区 川跡５e－e'土層断面東側立ち上がり部分（北から）

南地区 川跡５第２面掘削時d－d'土層断面（南から）

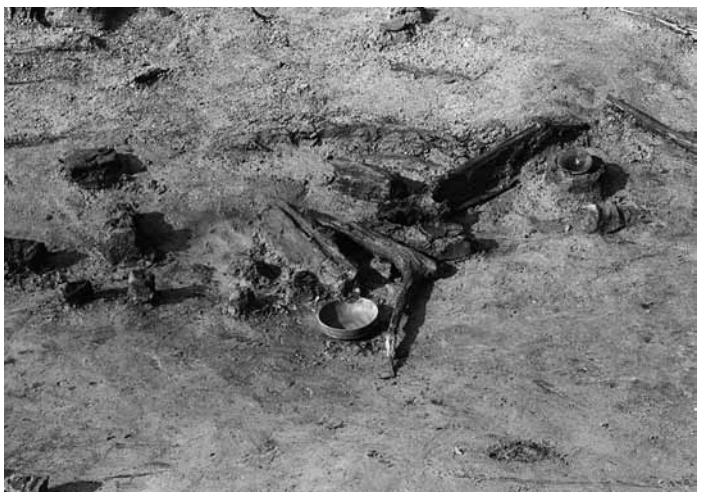
南地区 川跡５第５面完掘状態全景（南から）

図版4　蚤取橋遺跡の発掘調査 (4)

南地区 川跡５第２面北側掘削状態（南から）

南地区 川跡５第２面南側砂層確認状態全景（南から）

南地区 川跡５南側砂層堆積部f－f'土層断面中央部（南から）

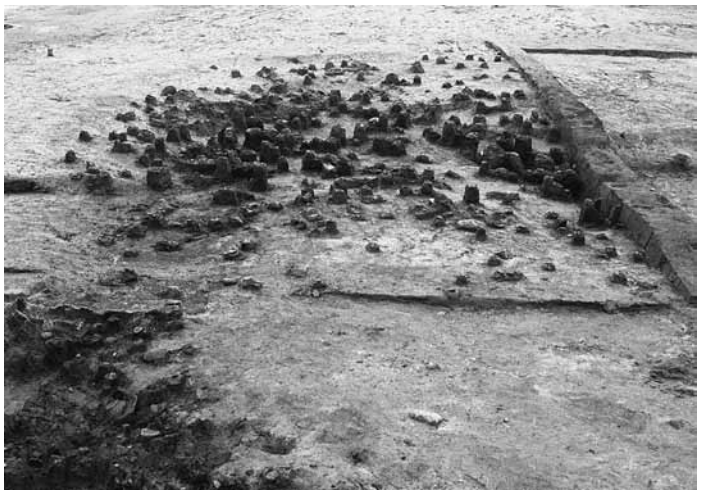


南地区 川跡５第２層群須恵器蓋 (22) 出土状態（東から）

南地区 川跡５第２層群土師器手捏土器 (29) 出土状態（西から）

南地区 川跡５第２層群須恵器坏（25）出土状態（南西から）

南地区 川跡５第２層群「東側張り出し」土師器坏（75）出土状態（南西から）



南地区 川跡５第２層群「東側張り出し」遺物出土状態（北から）

南地区 川跡５第３層群砂層土師器手捏土器（95）出土状態（南から）

南地区 川跡５第３層群土師器壺（109）出土状態（南から）

南地区 川跡５Ｄｎ区第３層群遺物出土状態（東から）

南地区 川跡５Ｄｎ区第３層群遺物出土状態第近接（東から）

南地区 川跡５第４層群土師器甕（168）出土状態（南から）

図版6　蚤取橋遺跡の発掘調査 (6)

南地区 川跡５第４層群南側木製品・自然木出土状態 (南から)

南地区 川跡５第４層群「落ち込み2」完掘状態 (南から)

南地区 川跡５「落ち込み2」d－d' 土層断面 (南から)

南地区 川跡５第４層群「落ち込み2」東端部完掘状態 (南西から)

南地区 川跡５第４層群「落ち込み2」東側完掘状態 (北から)

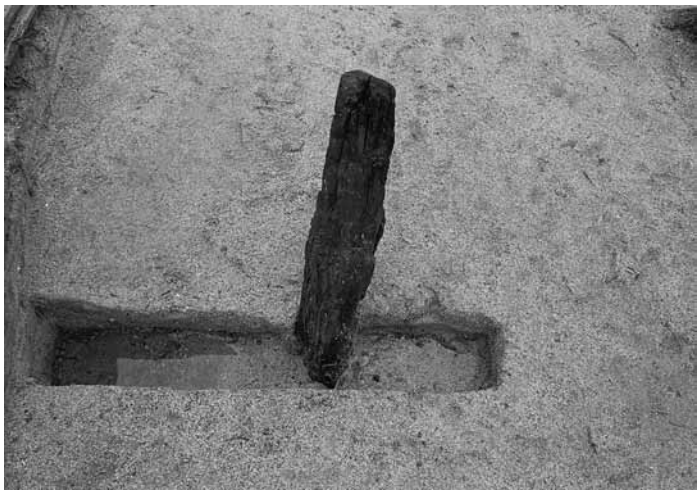
南地区 川跡５第４層群剣形木製品 (175) 出土状態 (西から)

南地区 川跡５第４層群「落ち込み2」東端部槽 (208) 出土状態 (北から)

南地区 川跡５「落ち込み2」東端部梯子 (211) 確認状態 (北西から)

南地区 川跡５杭１～４出土状態（西から）

南地区 川跡５杭１（西）・２（東）出土状態（南から）



南地区 川跡５杭３出土状態（南から）

南地区 川跡５杭４出土状態（南から）

北地区 川跡５第１層群遺物出土状態（北東から）

北地区 川跡５底面遺物出土状態（南東から）

北地区 川跡５第２層群土師器坏（269）出土状態（西から）

北地区 川跡５第３層群土師器坏（301）出土状態（北東から）

図版8　蚤取橋遺跡の発掘調査 (8)

北地区 川跡５第３層群土師器壺 (313) 出土状態 (南東から)

溝８確認状態 (南東から)

溝11完掘状態 (東から)

井戸13完掘状態 (南から)

井戸13確認状態 (南から)

井戸13土層断面 (南から)

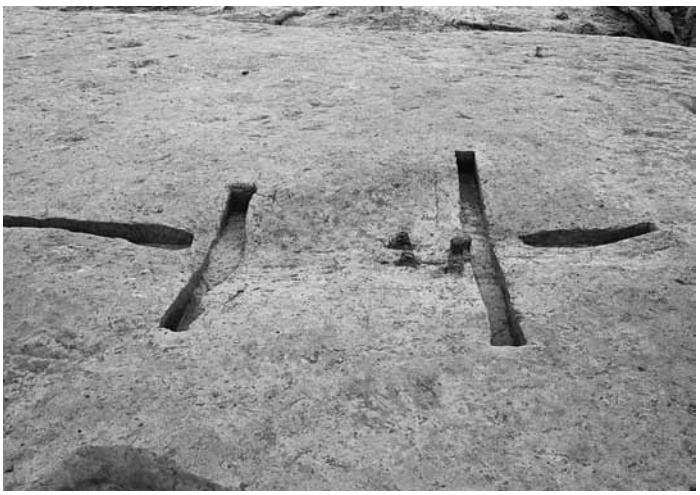
土坑６遺物出土状態 (北東から)

土坑６完掘状態 (北西から)

土坑７土層断面（南から）

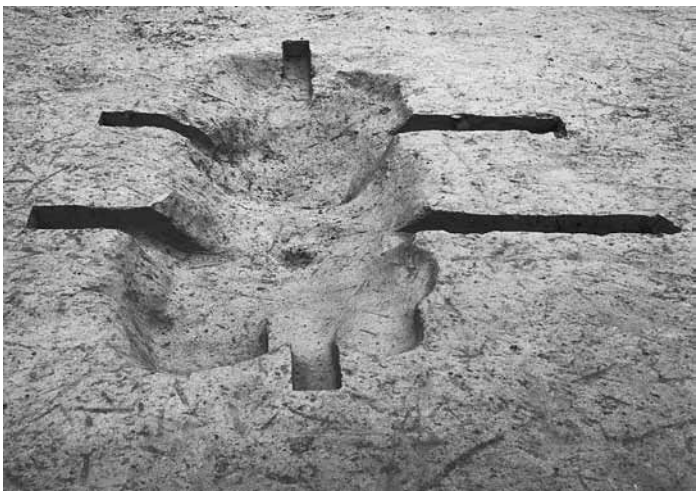
土坑12完掘状態（西から）

土坑14完掘状態（西から）



土坑15完掘状態（東から）

土坑16遺物出土状態（南西から）

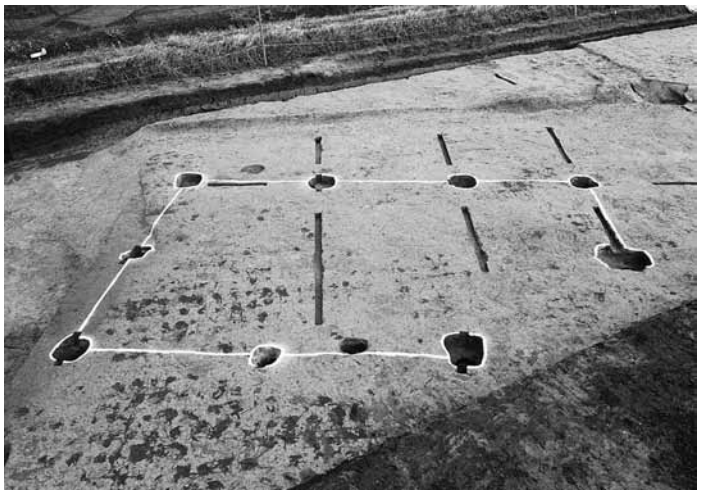


土坑16完掘状態（北東から）

ピット１土層断面（北から）

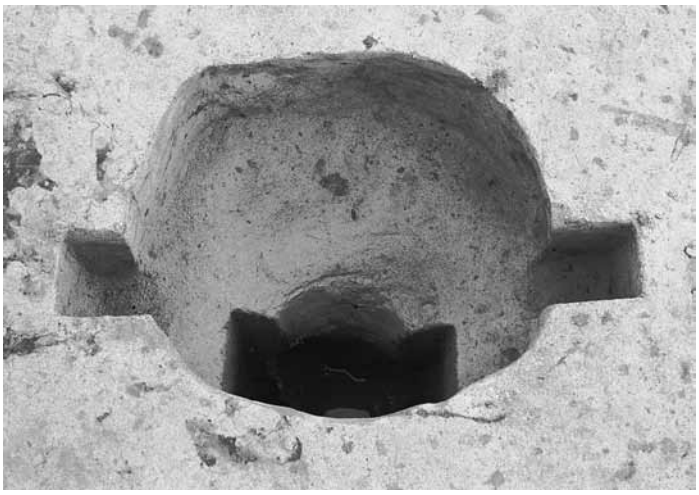
ピット２完掘状態（北から）

図版10　神明裏遺跡の発掘調査（1）


掘立柱建物跡16完掘状態全景（南から）

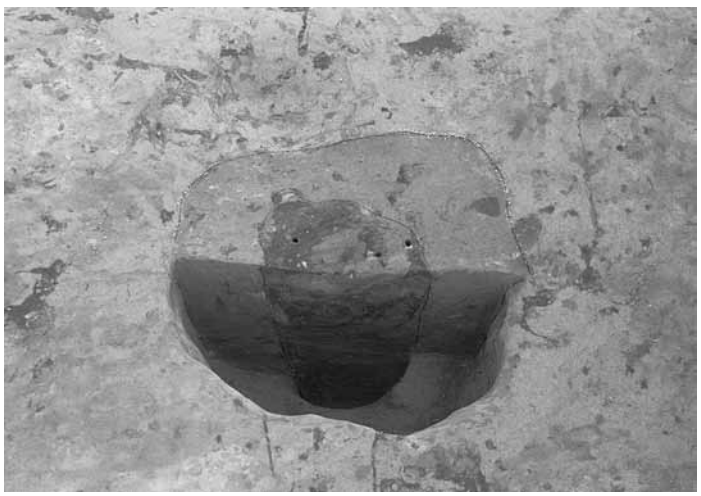
掘立柱建物跡16柱穴1－1土層断面（西から）

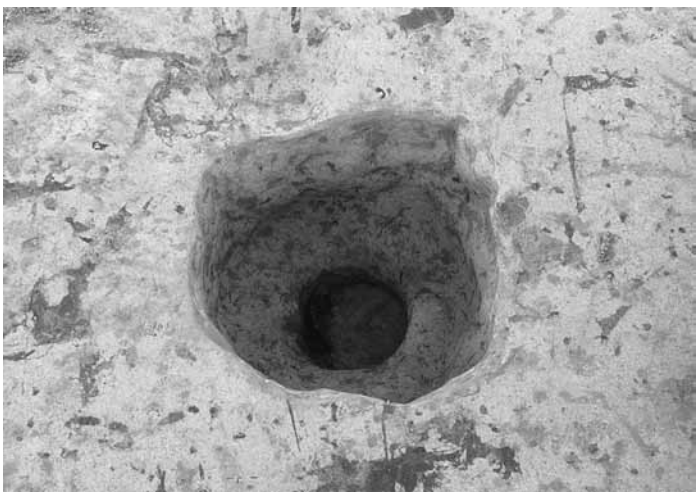
掘立柱建物跡16柱穴1－1遺物出土状態（西から）

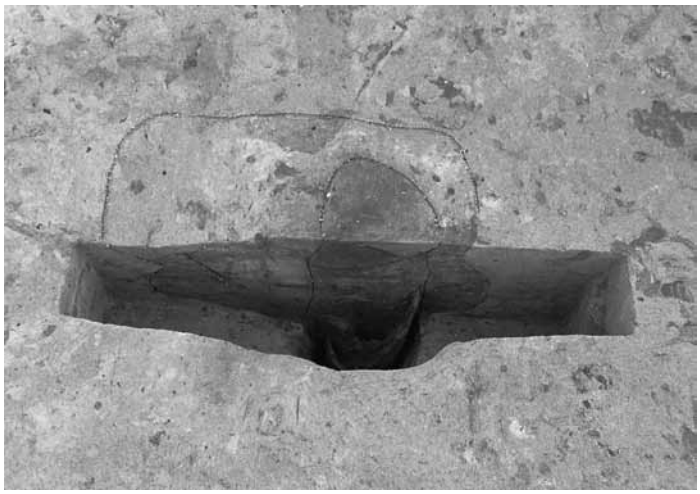

掘立柱建物跡16柱穴1－2完掘断ち割り状態（西から）

掘立柱建物跡16柱穴1－3土層断面（西から）

掘立柱建物跡16柱穴1－3完掘状態（西から）


掘立柱建物跡16柱穴1－4土層断面（西から）


掘立柱建物跡16柱穴1－4完掘状態全景（西から）



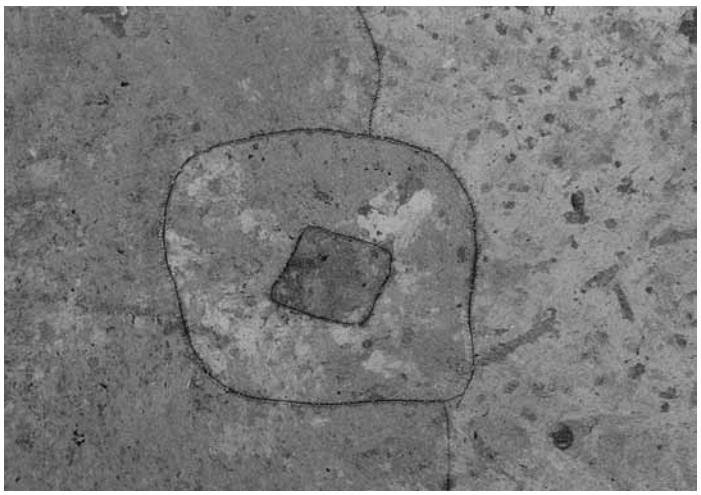
掘立柱建物跡16柱穴2－1土層断面（西から）

掘立柱建物跡16柱穴2－4完掘状態（西から）

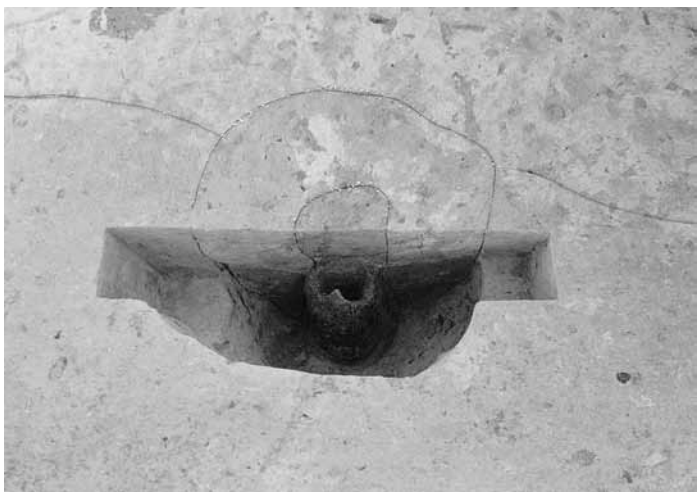
掘立柱建物跡16柱穴2－4土層断面完掘状態（西から）

掘立柱建物跡16柱穴2－4完掘状態（西から）

掘立柱建物跡16柱穴2－4完掘状態（西から）



掘立柱建物跡16柱穴3－1確認状態（南から）



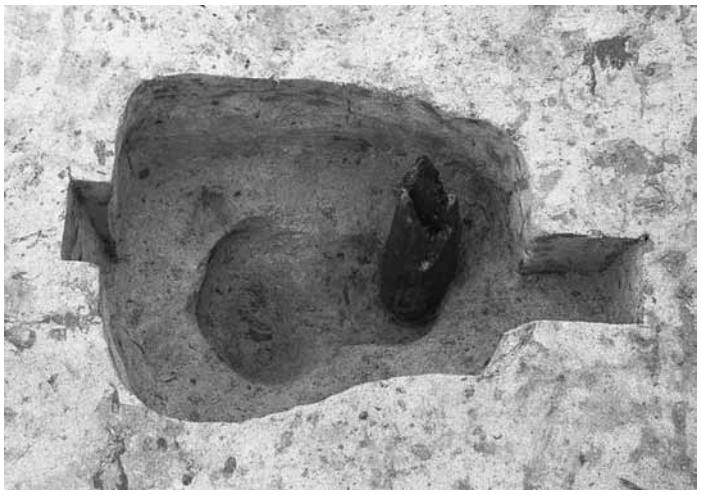
掘立柱建物跡16柱穴3－1土層断面（西から）

掘立柱建物跡16柱穴3－1柱根確認状態（西から）

図版12　神明裏遺跡の発掘調査（3）

掘立柱建物跡16柱穴3－2土層断面（西から）

掘立柱建物跡16柱穴3－2完掘状態（西から）


掘立柱建物跡16柱穴3－3完掘状態（西から）

川跡1～3完掘状態（南から）

川跡2北側遺物出土状態（南から）

土坑9遺物出土状態（南から）

土坑10完掘状態（西から）

川跡5完掘状態（南から）

川跡５土層断面（北から）

川跡５第３層群須恵器坏（36）出土状態（南から）

川跡５第３層群須恵器坏（36）出土状態近接（南から）

川跡13土層断面（南西から）

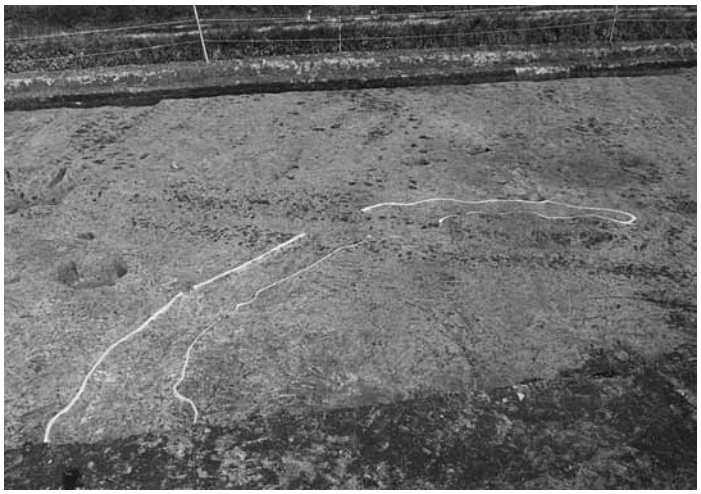
川跡13北側第２層群遺物出土状態（南から）

川跡13北側第２層群手捏土器（49）他出土状態（西から）

川跡13北側第３層群須恵器蓋（60）出土状態（南東から）

川跡13北側第３層群土師器坏（61）・壺（63）出土状態（南東から）

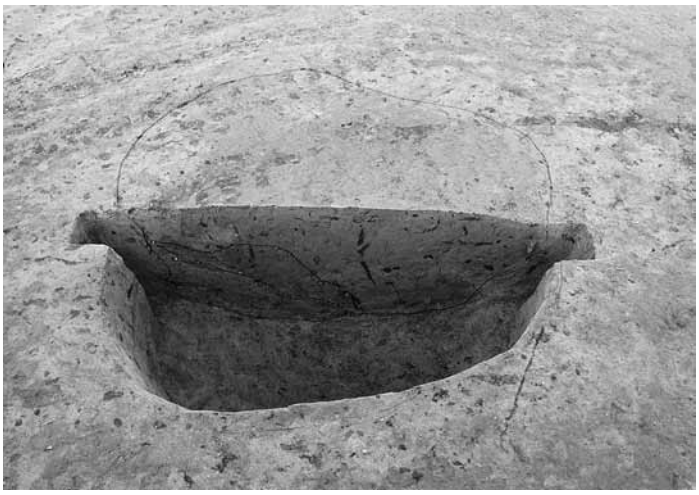
図版14　神明裏遺跡の発掘調査（5）



溝12完掘状態（南西から）

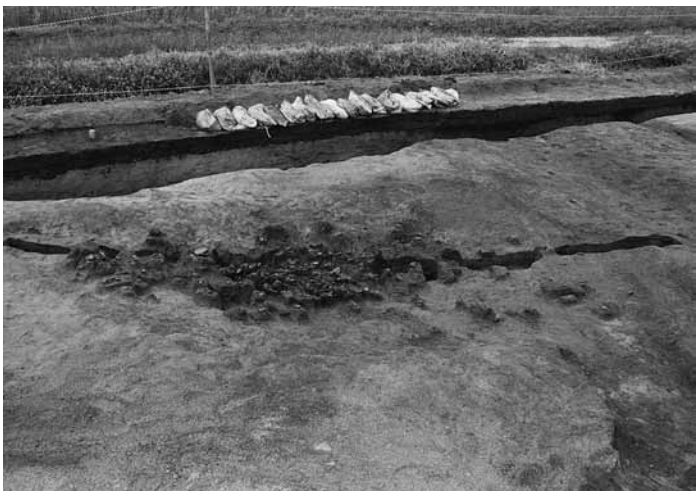
土坑４完掘状態（南から）

土坑６完掘状態（北西から）



土坑７土層断面（南西から）

土坑７完掘状態（南西から）

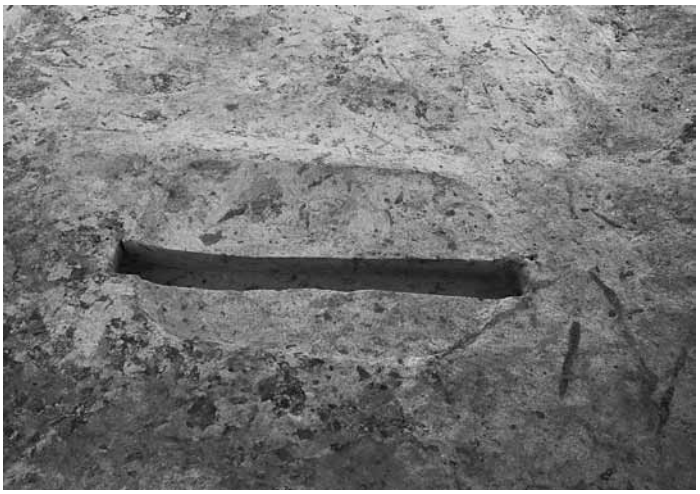


土坑８　２層遺物出土状態全景（南から）

土坑８　２層遺物出土状態（南から）

土坑８　２層遺物出土状態近接（南から）

土坑８　２層遺物出土状態近接（南から）

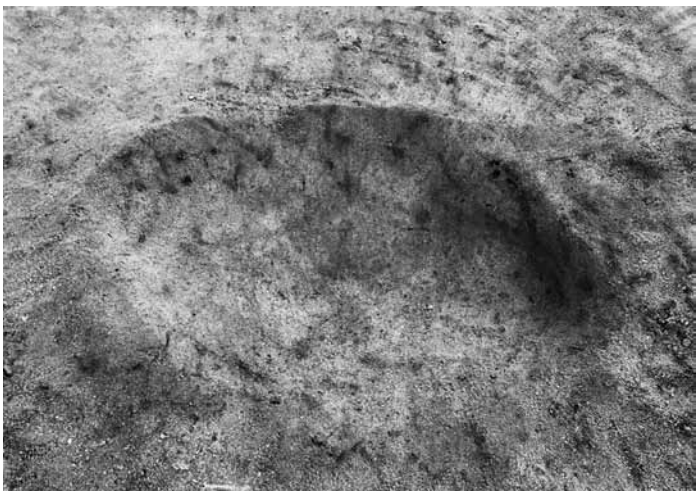


土坑11完掘状態（西から）

土坑14土層断面（南から）

土坑15完掘状態（南から）

土坑17完掘状態（西から）

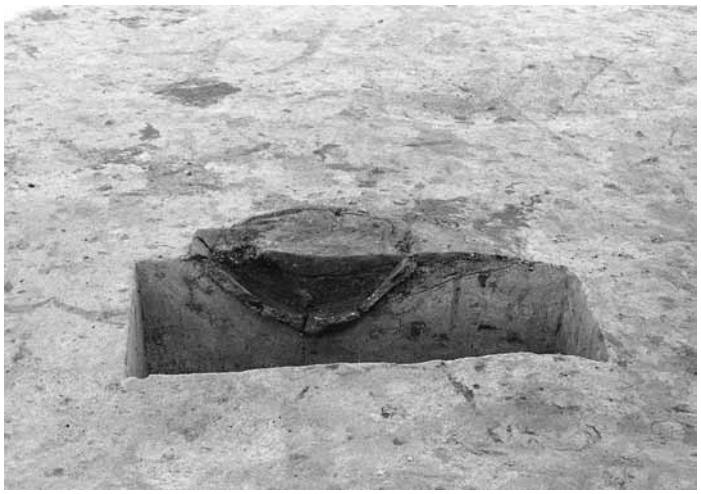


土坑18完掘状態（西から）

土坑19・20完掘状態（南から）

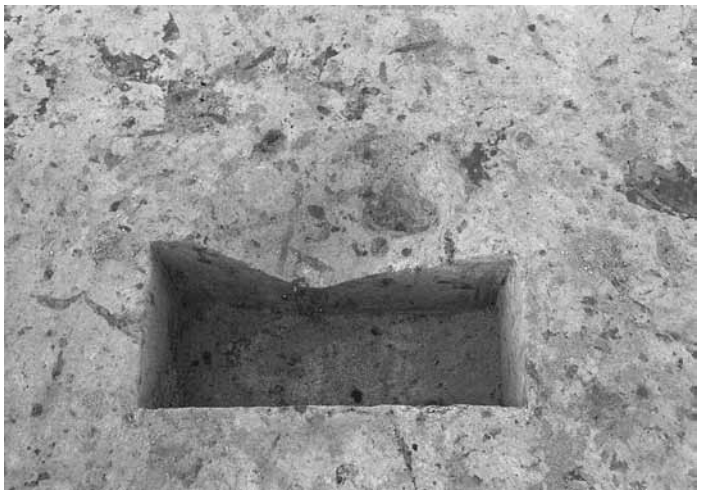
土坑19土層断面（南から）

図版16　神明裏遺跡の発掘調査（7）



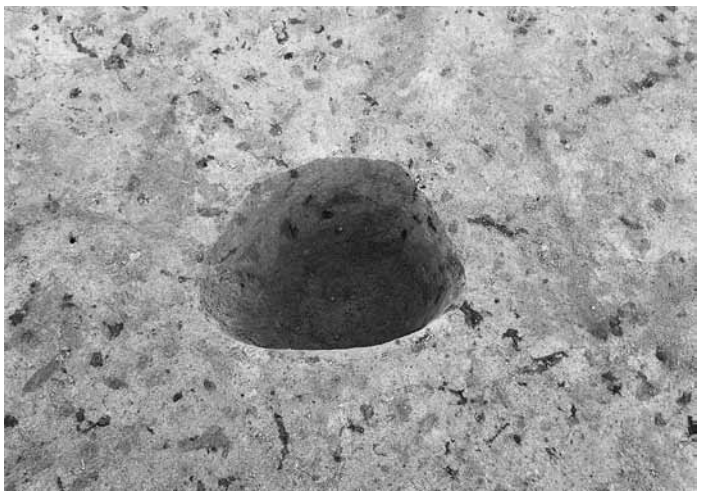
埋設遺構７断ち割り土層断面（南から）

埋設遺構７土師器甕（94）出土状態（南から）



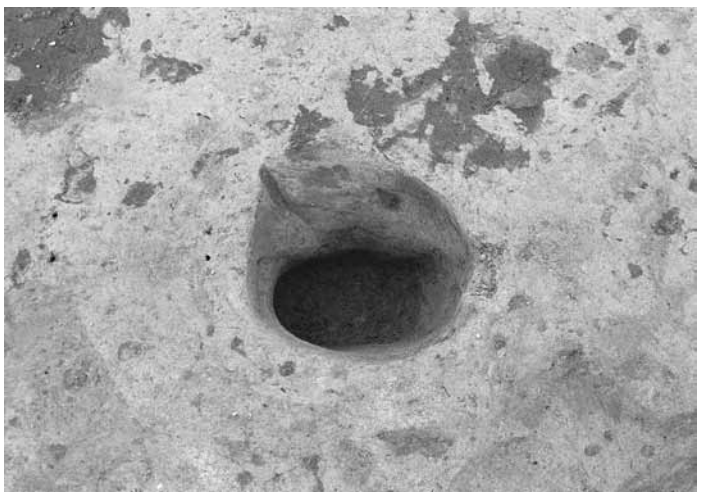
埋設遺構７断ち割り状態（南から）

ピット１断ち割り状態（南から）

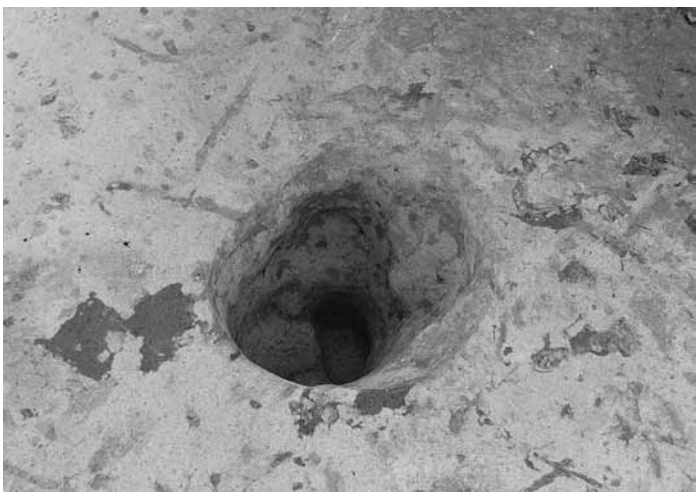


ピット４完掘状態（南から）

ピット５完掘状態（南から）



ピット６完掘状態（南から）



ピット８完掘状態（南から）

図版17　蚤取橋遺跡の出土遺物（1）

9

15

18

19

21

22

23

24

25

26

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

図版18　蚤取橋遺跡の出土遺物（2）

43

44

45

46

48

49

50

50

52

53

55

56

54

64

66

図版19　蚤取橋遺跡の出土遺物（3）

67

68

69

70

71

72

73

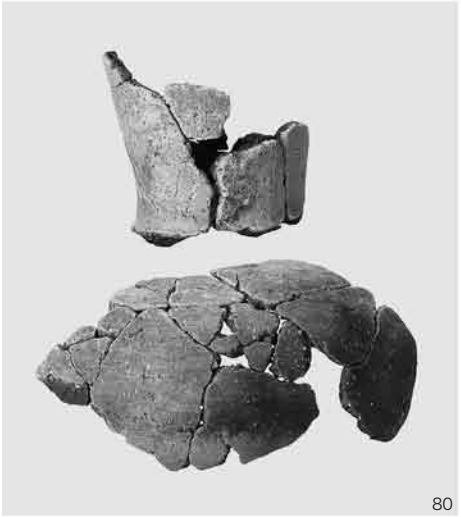
74

75

77

78

81


80

82

83

84

85

87

図版20　蚤取橋遺跡の出土遺物（4）

88

89

91

92

93

95

96

97

98

101

102

103

106

108

109

111

112

113

116

117

121

123

124

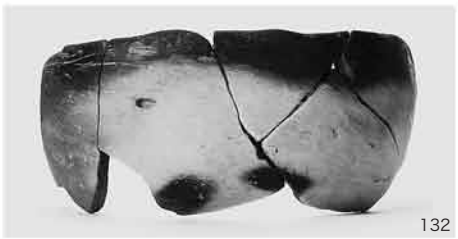
126

127

128

129

131


132

133

136

137

138

140

141

142

143

144

145

図版22　蚤取橋遺跡の出土遺物（6）

147

149

150

153

153

154

155

158

158

157

159

161

164

165

166

168

169

171

172

172

265

270

272

273

276

281

283

284

296

299

301

304

307

309

312

313

314

315

図版24　蚤取橋遺跡の出土遺物 (8)

318

326

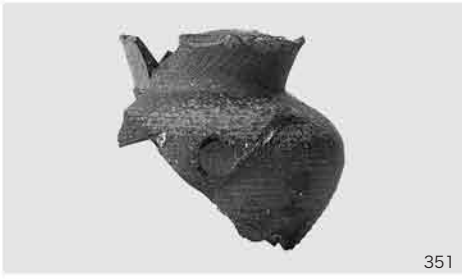
328

338

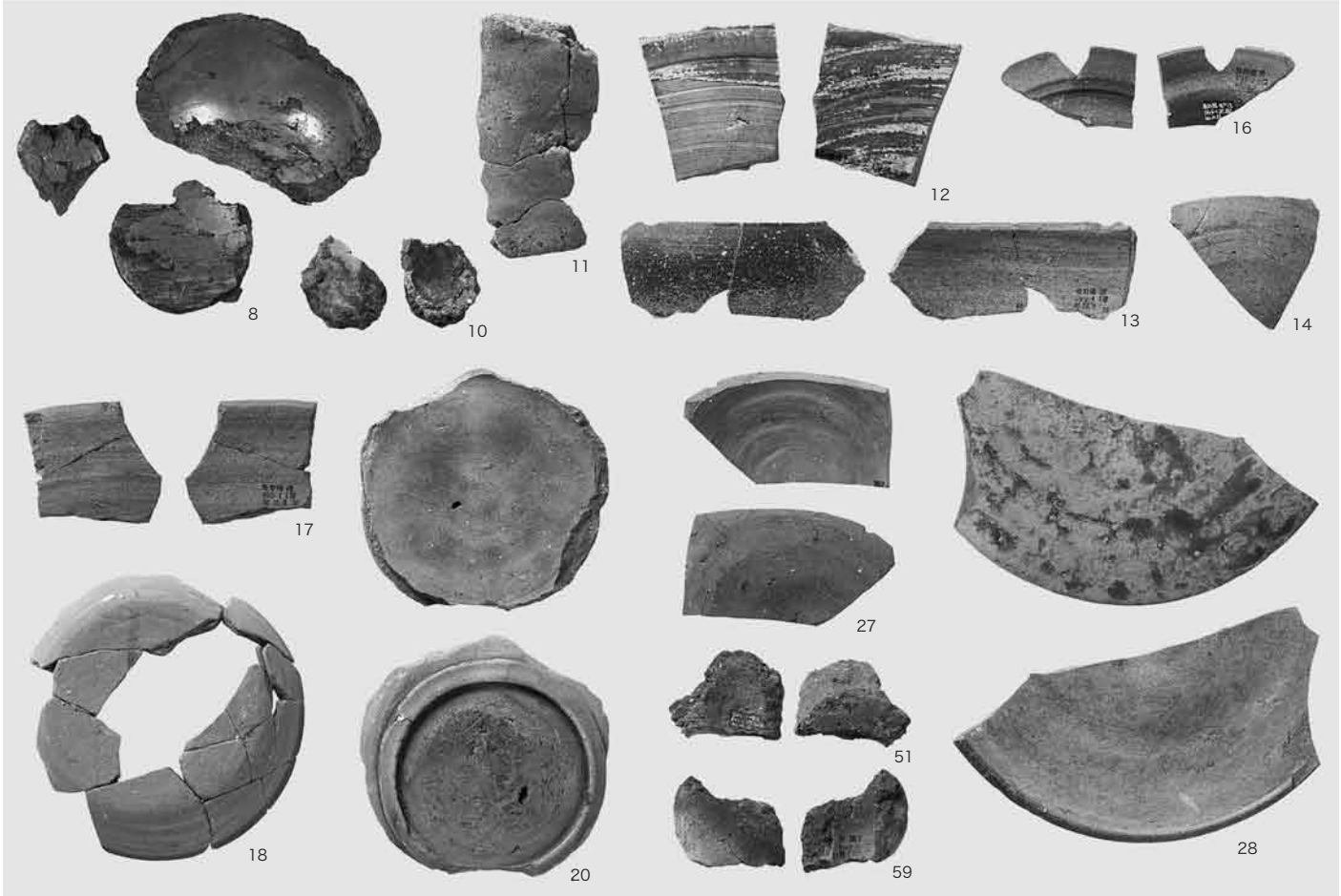
339

340

346


351

351



58

62

63

65

60

61

94

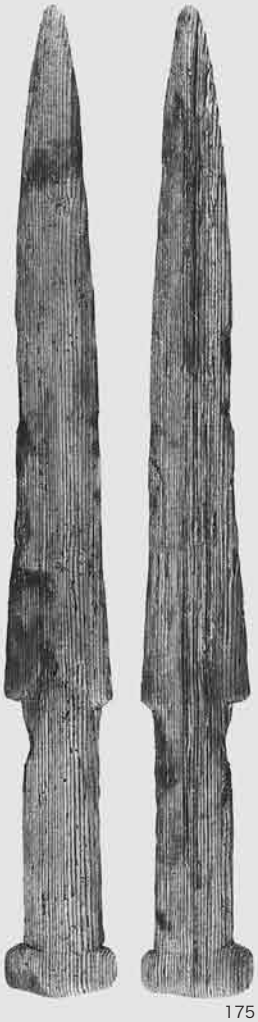
107

119

120

122

151

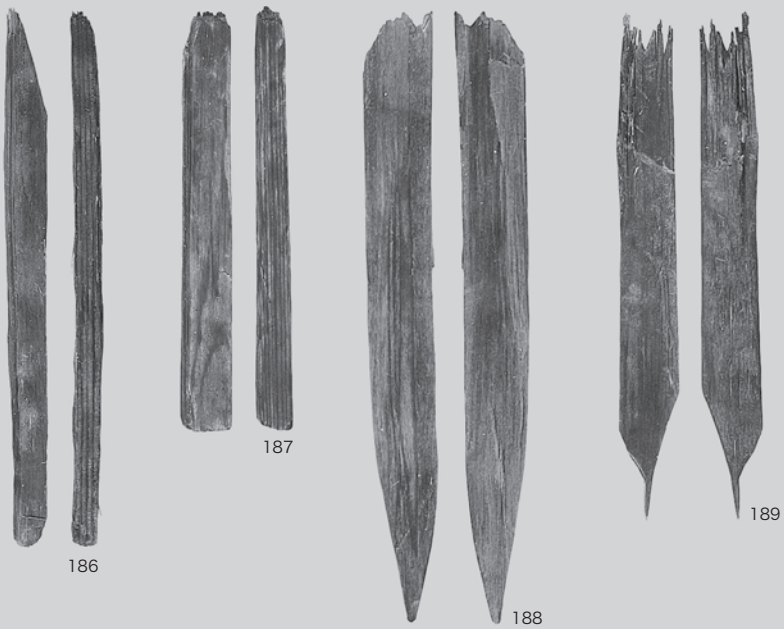

175

176

178

177

図版26　蚤取橋遺跡の出土遺物（10）



191

192

193

196

200

201

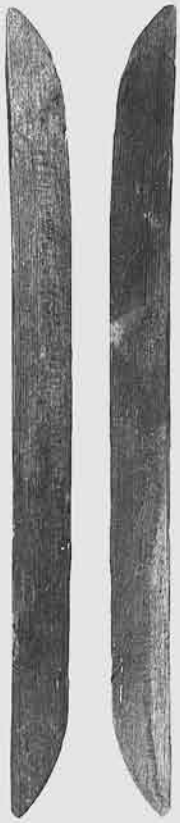
194

195

197

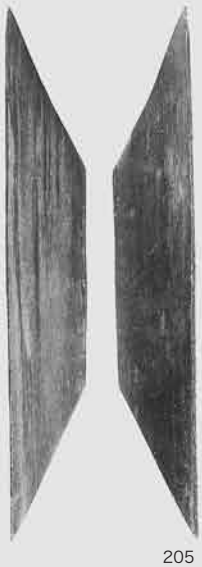
198

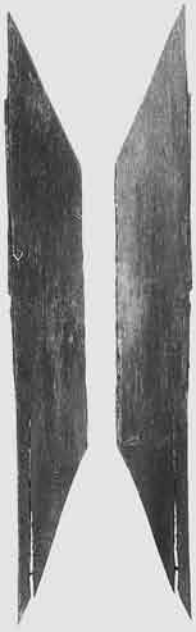
199

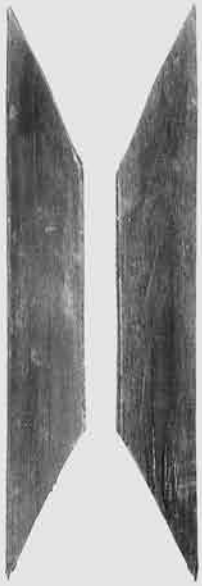

202

203

204


205


206


207

図版28　蚤取橋遺跡の出土遺物（12）

208

209

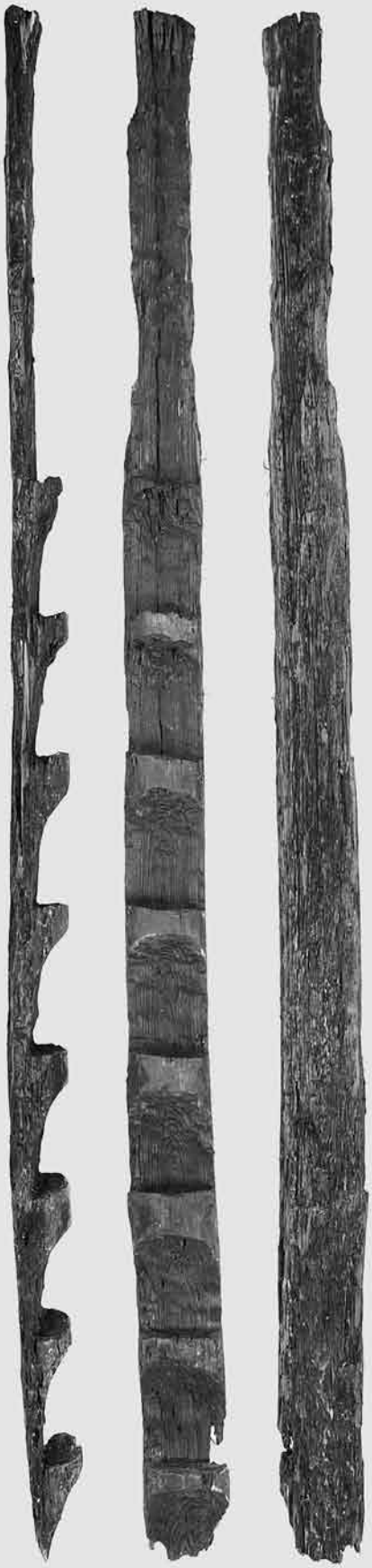
210

212

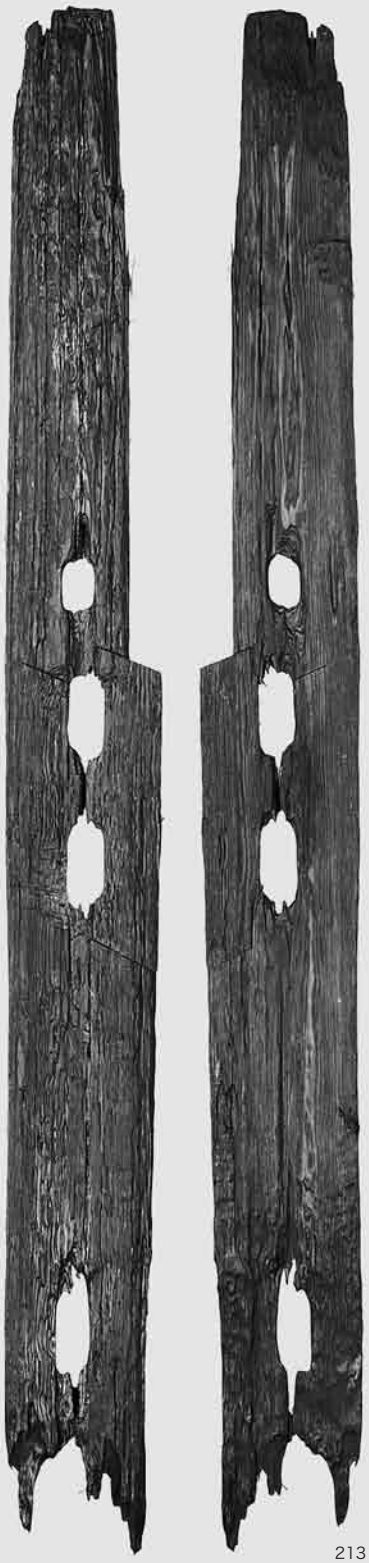
215

217

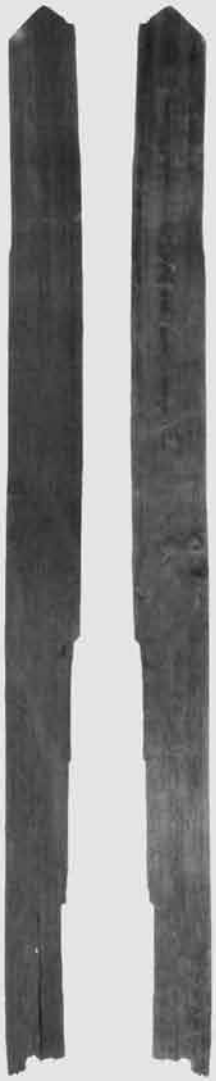
218



211



213



214

219

220

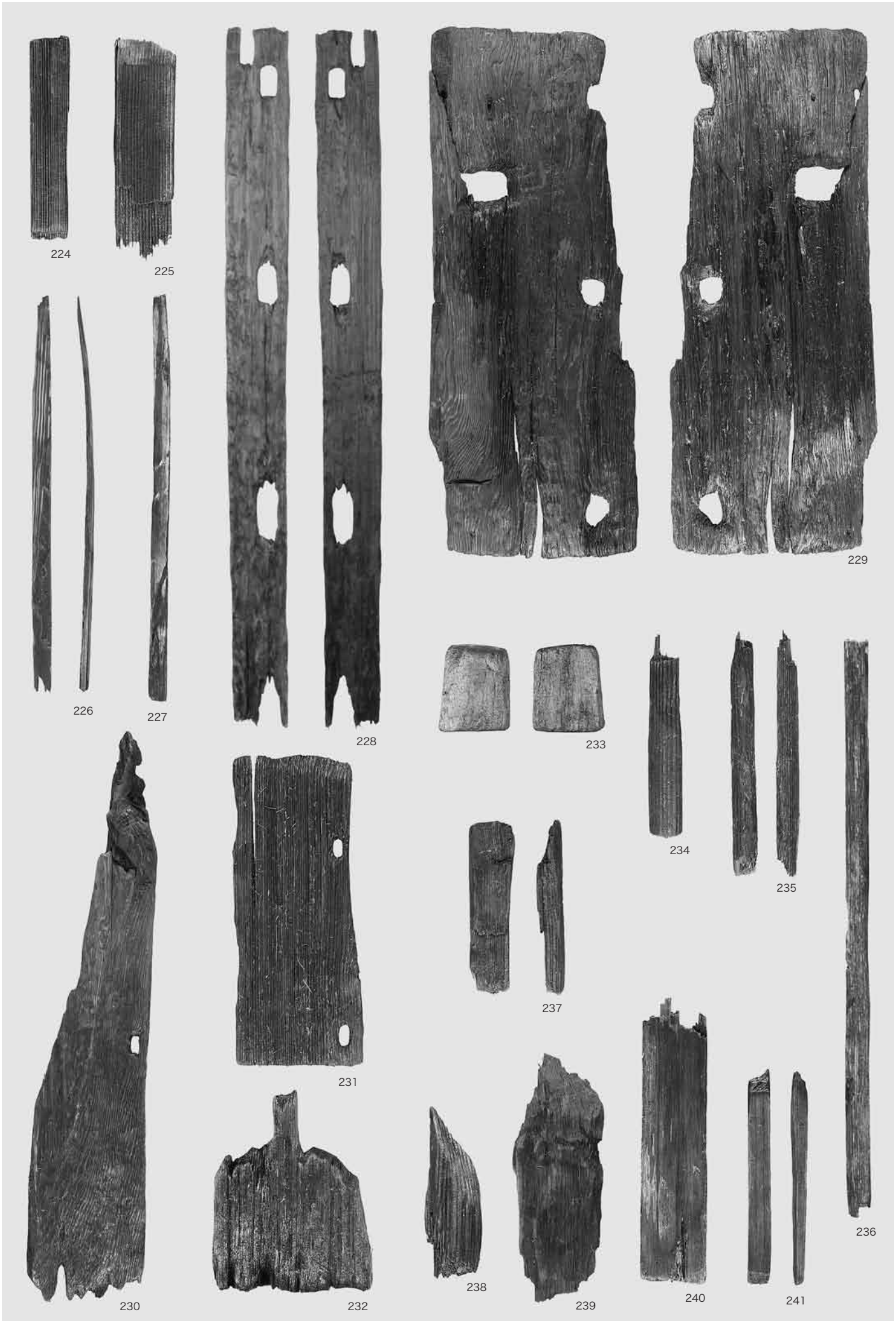
221

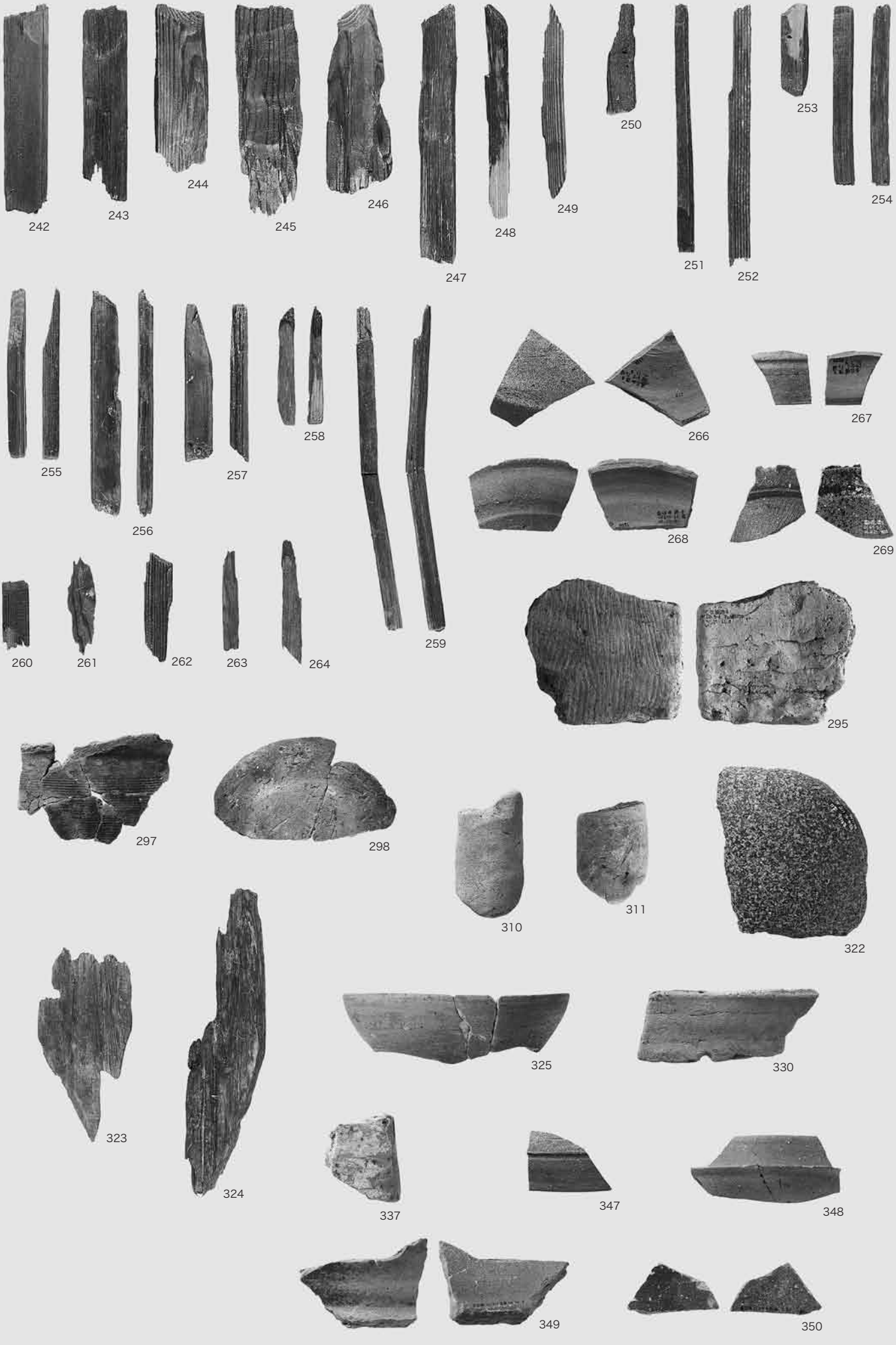
216

222

223

図版30　蚤取橋遺跡の出土遺物（14）




242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
266
267
268
269
295
297
298
310
311
322
323
324
325
330
337
347
348
349
350

図版32　神明裏遺跡の出土遺物（1）

4

6

7

20

21

22

23

25

28

30

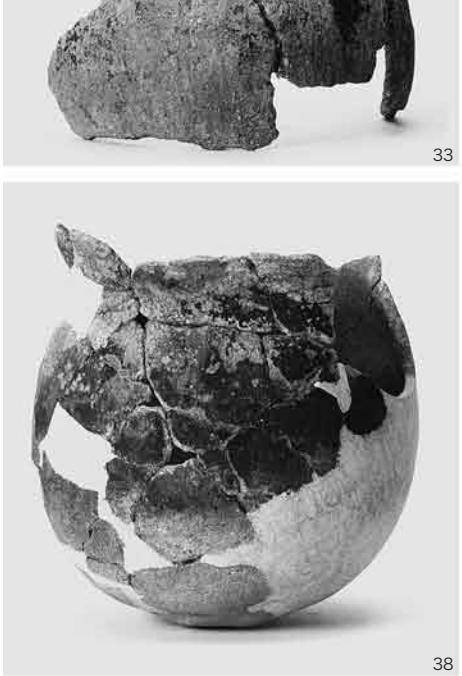
31

32

33

36

37


38

43

44

46

47

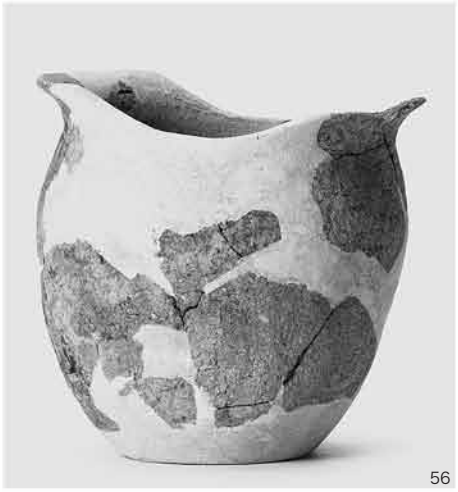
49

50

52

54

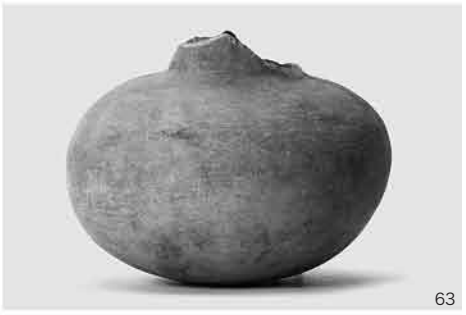
55


56

60

61

62


63

66

67

68

69

70

71

72

73

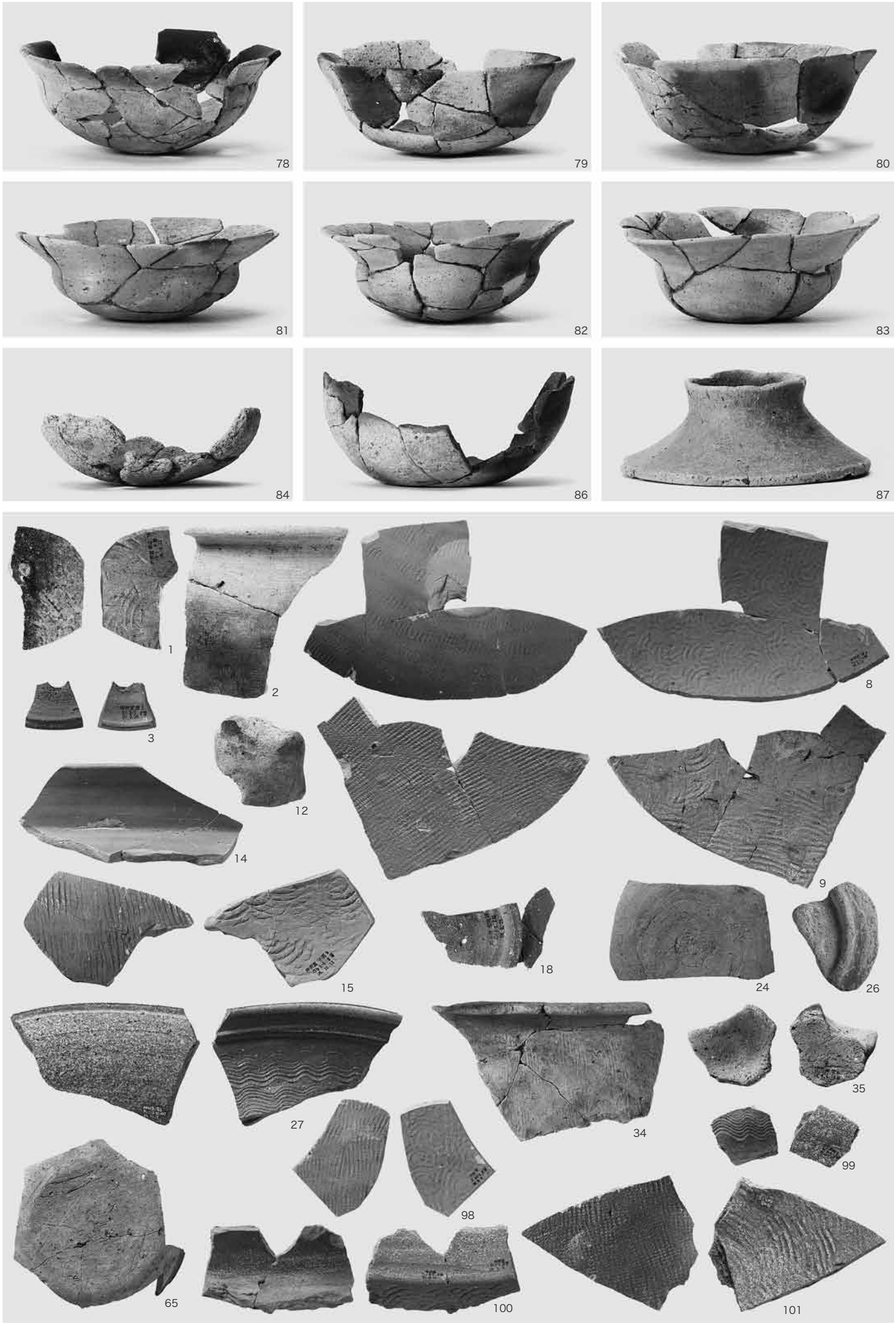
74

75

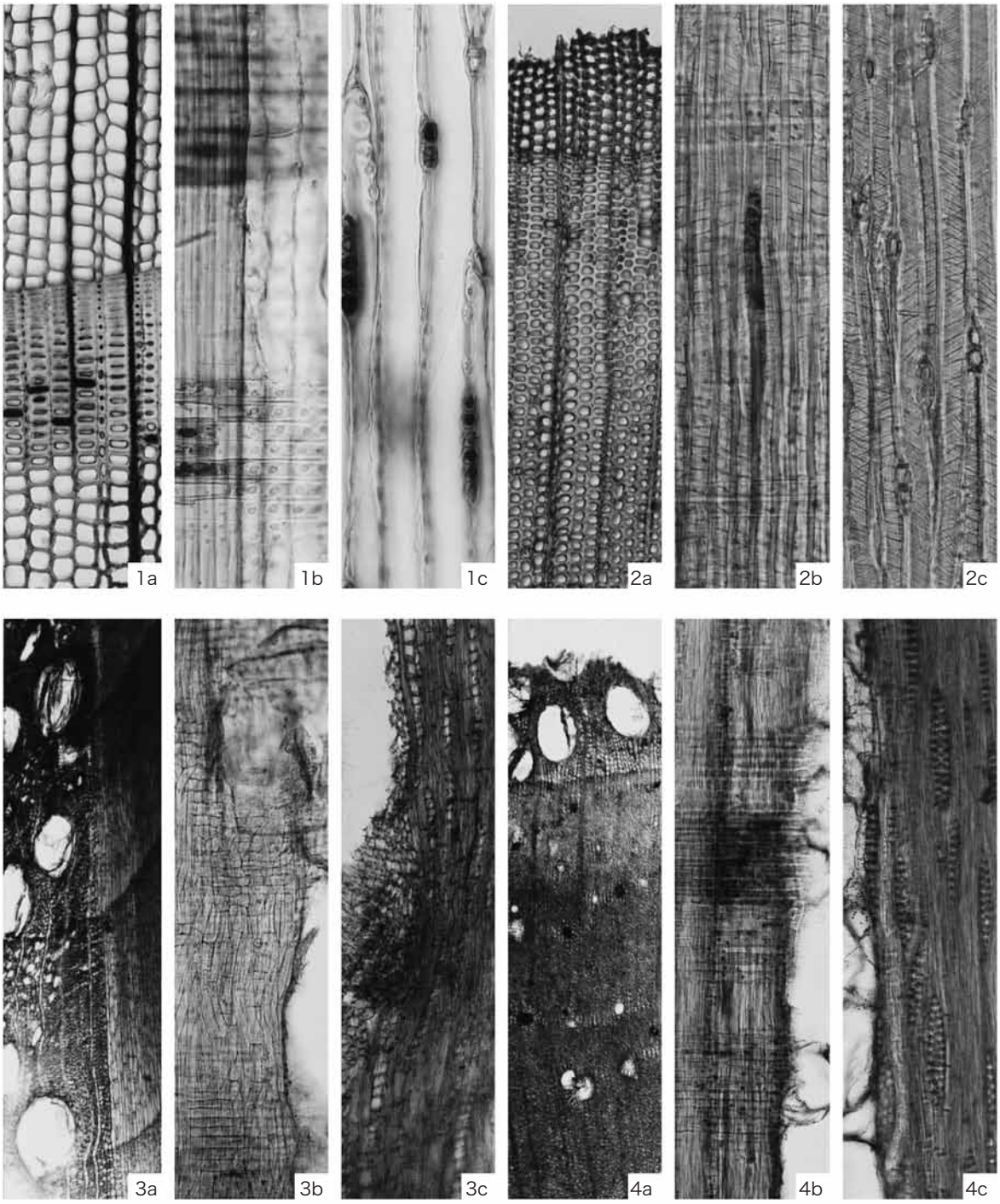
76

77

図版34　神明裏遺跡の出土遺物 (3)



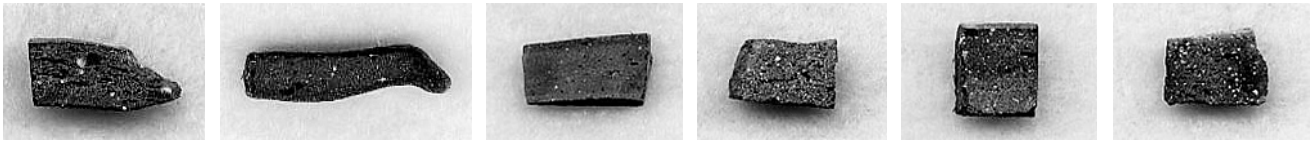
木材



1．スギ（蚕取橋遺跡；214）
2．イヌガヤ（蚕取橋遺跡；192）
3．コナラ属コナラ亜属コナラ節（蚕取橋遺跡；176）
4．トネリコ属（神明裏遺跡；柱根）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200 μm：2−4a
200 μm：1a・2−4b,c
100 μm：1b,c

胎土分析試料



蚕取橋遺跡 −24　神明裏遺跡 −30　神明裏遺跡 −68　神明裏遺跡 −69　神明裏遺跡 −70　神明裏遺跡 −72

報 告 書 抄 録

ふ り が な	のみとりばしいせき・しんめいうらいせき はっくつちょうさほうこくしょ
書　　名	蚤取橋遺跡・神明裏遺跡 発掘調査報告書
副 書 名	県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	新発田市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第35
編 著 者 名	鶴巻康志・吉田好孝・内田　仁・佐々木正治・井上　巖・辻本崇夫
編 集 機 関	新発田市教育委員会・加藤建設株式会社新潟支店
所 在 地	新発田市乙次281番地2・燕市吉田本所83番地1
発行年月日	平成20（2008）年2月22日

所収遺跡名	所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
蚤取橋遺跡	新潟県新発田市竹ヶ花字菱川谷地451・452番地ほか	15206	206	37° 56′ 17″	139° 18′ 28″	20060802〜20061221	1,540m²	県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）
神明裏遺跡	新潟県新発田市竹ヶ花字菱川谷地400・450・451番地ほか	15206	350	37° 56′ 19″	139° 18′ 31″	20060802〜20061221	584m²	県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蚤取橋遺跡	包含地	古墳時代後期 奈良・平安時代 中世	川跡4条 溝跡3条 井戸跡1基 土坑8基 ピット2基	土師器，手捏土器，須恵器，羽口，砥石，木製品（斎串，剣形，梯子など）	古墳時代の川跡から手捏土器・木製品・須恵器を含む多量の遺物が出土した，木製品では斎串および，ほぼ完形の梯子を含む建築部材が出土した。
神明裏遺跡	包含地	古墳時代後期 奈良・平安時代 中世	掘立柱建物1棟 川跡5条 土坑13基 埋設遺構1基 ピット5基	土師器，手捏土器，須恵器，羽口，木製品	２本の川に挟まれた平坦地で，古墳時代の川跡から須恵器を含む多量の遺物が出土した，また古代以降では掘立柱建物が，川のほとりに建てられていた。

蚤取橋遺跡・神明裏遺跡 発掘調査報告書

県営ほ場整備事業（三悠乙見江地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　　平成20（2008）年2月22日
新発田市教育委員会
新潟県新発田市乙次281番地2
電話　0254－22－9534
印　刷　　株式会社　福島印刷